

# 紀 北

— 紀 要 第 1 5 集 —

和歌山県立紀北支援学校

## はじめに

本校は創立42年を迎えますが、開校以来、障害のある子どもたちと向き合い、子どもたちから学び、授業実践を積み上げてきました。近年では平成22年から2年間、和歌山県教育委員会の研究指定を受け、「自立活動の時間の指導について」というテーマで授業改善について研究し、24年からは学校独自で研究を継続、さらに26年からはその研究成果をその他の授業に発展させ取り組んできました。

そして今回、和歌山県教育委員会から新たに指定を受け、「人権が尊重される学校づくり」というテーマで新たな視点で授業改善を中心に取り組みました。「子ども一人一人の人権が尊重される授業づくりをすることで、子どもが主体的に活動できる授業を展開することができる」という研究仮説を立て、教職員を20の研究グループに細分化しそれぞれでビデオ撮りした授業をもとに協議し改善を進めました。また、2種類のチェックリストを活用し教職員全員の意識の推移調査や、児童生徒の中の気になる子には心理検査を活用し成果確認を行うなど、教職員が一丸となった取組ができたと自負しております。

折しも、平成28年4月から「障害者差別解消法」が施行されますが、この法には障害を障害者本人の問題ととらえる発想ではなく、社会の障壁が生み出しているという考え方が根底にあります。校内では基礎的環境整備や合理的配慮の検討も進めておりますが、今回の研究により、校内の障壁を取り払い子どもたちの人権を守るだけでなく、尊重することによってより効果的な授業実践ができ、今後も行っていこうという方向性が確認できたと考えております。

人権については知識理解が当然大切ですが、知識理解に立脚した意識や気づきを日々ブラッシュアップし、継続していくことがさらに重要です。今回の研究成果を本校教職員の意識文化の財産として、高めていくとともに大切に継承していきたいと考えています。

本報告書をご一読いただき、皆さまから忌憚のないご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

最後に、本研究の機会を与えてくださいました和歌山県教育委員会、並びに研究を進めるにあたりご助言ご指導をいただきました和歌山大学教育学部教授 武田鉄郎 様、ご講演いただきました昭和大学大学院准教授 副島賢和 様に心からお礼を申し上げ、巻頭の挨拶とさせていただきます。

平成28年2月

学校長 武内 正 晴

# 目 次

はじめに

|                       |   |
|-----------------------|---|
| I 本校の教育目標と大切にしている4つの柱 | 4 |
|-----------------------|---|

## II 「人権が尊重される学校づくり」

～子どもの人権が尊重される授業づくりと教職員の人権意識の向上～

|       |   |
|-------|---|
| 研究の概要 | 6 |
|-------|---|

### 授業実践

#### 自立活動の授業改善

|                   |    |
|-------------------|----|
| ～一人一人を大切にする授業づくり～ | 13 |
|-------------------|----|

|                   |    |
|-------------------|----|
| 教科や各教科等を合わせた指導の実践 | 54 |
|-------------------|----|

|     |    |
|-----|----|
| 小学部 | 55 |
|-----|----|

|     |    |
|-----|----|
| 中学部 | 81 |
|-----|----|

|     |     |
|-----|-----|
| 高等部 | 112 |
|-----|-----|

|       |     |
|-------|-----|
| 愛徳分教室 | 130 |
|-------|-----|

## III 寄宿舎 「寄宿舎の生活教育について」

|                 |     |
|-----------------|-----|
| ～生活をとおして自立を考える～ | 145 |
|-----------------|-----|

おわりに

# I 本校の教育

## 1. 学校教育方針

一人ひとりの障害・発達・生活の実態を正しくとらえ、すべての子どものもつ発達の可能性を最大限追求し、子どもを中心とした教育を創造する。よって、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服し、社会の一員としての自立をめざし、明るくたくましく生きる力を育む。

## 2. 学校教育目標

- 『健康でたくましく、主体的に生活を送る力をつける』(生活・からだ)
- 『生きる力としての学力・コミュニケーションの力を高める』(学力・人との関わり)
- 『働く力や生涯をとおして学んでいく力を高め、よりよい社会参加をめざす』(生涯学習・進路)

## 3. 学部教育目標 (教育目標系統表)

|            | 就学前 | 小学部の教育目標  | 中学部の教育目標  | 高等部の教育目標   | 卒業後   |
|------------|-----|---|---|--|---|
| 前文         |     | 小学部段階は、外界とのかかわりを拡大し、内なる世界を飛躍的にひろげ自我を確立していく時期である。この時期に、豊かな経験や学習活動をとおして、個々の要求や表現方法を広げ、わかる力やできる力を高める。また、基本的生活習慣の定着をめざすとともに、他者との信頼関係を築きながら、楽しく主体的に学校生活を送る力をつける。 | 中学生は、からだは急速に成長変化する思春期を迎え、心と体の調和を図ることが最も大切な時期である。この時期に、健康なからだづくりをすすめるとともに、集団との関係を大切にしながら自己の形成を助け、生活を組み立てていく力をつける。また、中学生としての自覚を促すとともに、主体的に活動できる人格を育む。 | 高等部の生徒にとって、青年期は、健康でたくましい体を育て、心を豊かにすることが大切な時期である。この時期に小・中学部(小・中学校)で獲得してきた力を高め、仲間と共に育ち合いながら、自らの生活を切り拓き、さらに人格の形成をめざす。 |   |
| 柱①「生活」     |     | 【生活】<br>・基本的生活習慣を身に付け、主体的に学校生活を送る力をつける。   | 【生活】<br>・基本的生活習慣を確立し、主体的に生きる力を養う。   | 【生活】<br>・自立心を養い、社会生活に参加し適応できる力をつける。  |   |
| 柱②「からだ」    |     | 【からだ】<br>・生理的基盤を整え、自らのからだをコントロールする力をつける。  | 【からだ】<br>・運動機能を高め、体力をつけ、様々な生活場面に生かす。<br>・性に関する理解を深め、思春期の心と体を正しく認識する。  | 【からだ】<br>・思春期から青年期を迎えるからだの変化を受け止め、健康なからだの育成をめざす。<br>・生命の大切さを知り、自分や相手の命を大切にすることを育む。                                 |   |
| 柱③「学力」     |     | 【コミュニケーション】<br>・教師や友だちとの関係を軸に、人やものにかかわる力を広げ、個々に応じたコミュニケーションの力をつける。  | 【学力】<br>・認知・興味・関心を高め、コミュニケーションの力を養う。<br>・基礎学力を高める。  | 【学力】<br>・自ら学ぶ意欲を育て、学んだことを生活に生かせる力をつける。   |   |
| 柱④「人との関わり」 |     |   | 【人との関わり】<br>・集団生活をとおして、仲間と共に協力する力や自主的に活動する力をつける。<br>・身近な地域生活をとおして、社会性を育む。   | 【人との関わり】<br>・自分の気持ちを伝えることや、仲間と共に意見を出し合い問題を解決していく力をつける。<br>・自分や仲間の個性を認め合い、共に助け合う心を育む。                               |   |
|            |     |   |   |  |   |
|            |     | 低学年   | 中学年   | 高学年  |   |
|            |     | 生活  | 学校生活のリズムをつかみ、基本的生活習慣を獲得する。  | 基本的生活習慣の定着を図り、学校生活に見通しをもつ。   | 主体的に学校生活を送る。                                |
|            |     | からだ   | しっかりと身体を動かし、健康なからだをつくる。   | 運動機能を高め、自らのからだをコントロールする力をつける。  | 運動機能を高め、自らのからだをコントロールする力をつけ、様々な場面でその力を発揮する。 |
|            |     | コミュニケーション   | 教師との関係を軸に、人やものにかかわる力を広げ、要求を出せるようになる。  | 教師や友だちとの関係を軸に、人やものにかかわる力を深め、要求を相手に伝える。   | 集団の中で、人やものにかかわる力を発揮し、互いの要求を受け止めあう。          |

**生涯学習・進路**

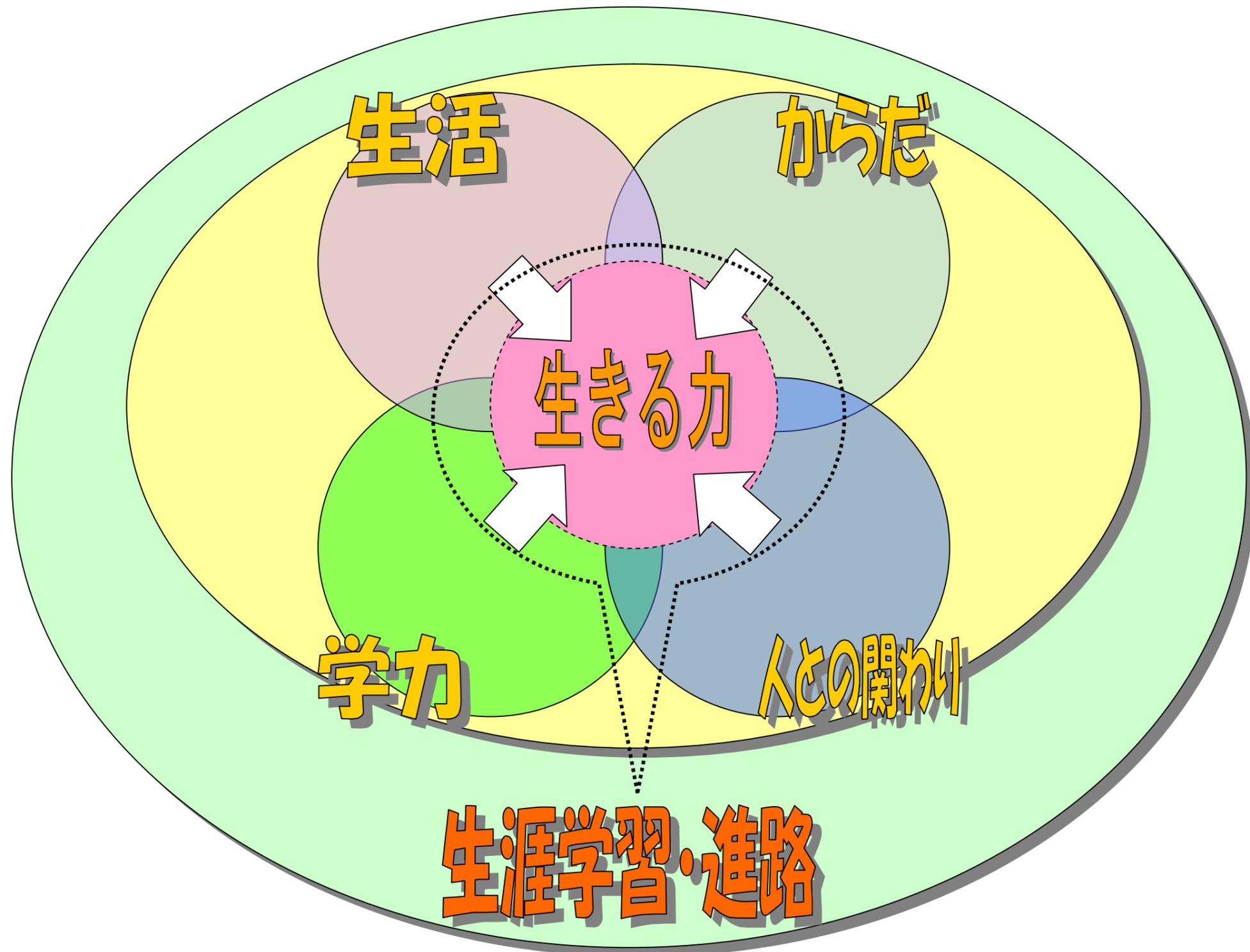
将来について考え、社会の中で自分の生き方を見いだす。

生涯をとおして学んでいこうとする意欲や態度を育む。

「からだ」(ひらがな)・・・「心」と「体」の両側面を広義に捉えた言葉として

#### 4. 学校として大切にしている4つの柱

本校では、下図のように『「生活」「からだ」「学力」「人との関わり」』の4つの柱から子どもの発達課題をとらえ、日々の教育活動を展開しています。すべての子どもたちが、自らの生活の主体者として豊かな人間性を育めるよう支援を行います。



# 研究の概要

## 1. 研究のテーマ

「人権が尊重される学校づくり」

～子どもの人権が尊重される授業づくりと教職員の人権意識の向上～

## 2. 研究テーマの設定

平成22年度から4年間「なぜから始まる自立活動」をテーマに掲げ、自立活動の時間における指導についてPDCAサイクルを活用して授業改善を積み重ね研究を進めてきた。その研究の成果として「実態把握を丁寧に行う」「授業に般化の視点を取り入れる」ことを全職員で確認することができた。この2点については、自立活動の時間だけでなく教科や教科等を合わせた指導においても大切にしなければならないことである。

これまでの研究の成果を踏まえ、平成26年度からは、「実態把握」や「般化の視点」を大切に、自立活動の指導と並行して、教科や教科等を合わせた指導においても実践研究を行っている。授業改善においては、児童生徒一人一人の特性や教育的ニーズを把握し、学習意欲を高め、指導の充実を図っていくことが重要である。そのためには、学級、学校の中で一人一人の存在や思いが大切にされなければならない。それは言い換えれば、子どもの人権を尊重するということであり、全ての教育活動において人権を尊重した指導が重要ということである。このことから「人権が尊重される学校づくり」というテーマを設定した。

## 3. 研究の取組内容

人権教育全体計画（別紙）の見直し、改善、充実を図ると共に、各教科、各教科等を合わせた指導、領域の年間計画作成時に人権教育の目標と関連する部分に下線を付し、（本校における人権教育年間指導計画と位置付けている）様々な教育活動を通して人権教育の指導を行うことが可能となった。

教職員の人権意識の向上を図る取組として、8月に愛徳医療福祉センター言語聴覚士 藤岡孝之先生と作業療法士 安達二美加先生を招聘し、摂食指導研修を実施した。一人一人の実態に応じた摂食指導と摂食動作について研修することで、子ども一人一人の人権が尊重された摂食指導が行われ、給食の時間がより充実したものになると考えた。また、11月に実施した職員人権研修では、昭和大学大学院保健医療学研究科准教授 副島賢和先生による講演『こころの声言葉になる』～院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なこと～を拝聴し、職員一人一人が日々の教育活動を振り返り、人権意識を見直す機会となった。

子どもの人権が尊重される授業づくりの取組では、本校のテーマ設定研修において研究仮説として「子ども一人一人の人権が尊重される授業づくりをすることで、子どもが主体的に活動できる授業を展開することができる」を設定し、「人権が尊重された授業づくりのためのチェックリスト」（以下人権チェックリスト：別紙）を活用した授業改善を行った。自立活動の指導では自立活動指導案、教科や教科等を合わせた指導では単元計画表を作成する中で、子どもの実態や指導

目標、学習活動や支援方法について協議した。指導目標で人権教育の目標に当たるものに下線し、人権教育全体計画の人権教育重点目標のどの項目に当たるかを明記（心身の調和的発達<sup>は</sup>心、自己尊重の感情<sup>は</sup>自、仲間づくり<sup>は</sup>仲、コミュニケーションの力<sup>は</sup>コ、人権の意義・内容<sup>は</sup>人というように項目の最初に文字で表記）して意識すると共に、学習の支援の欄には、人権チェックリストの項目の番号を記入し指導に活かしていくようにした。なお、人権チェックリストは個人でも年間4回つけ、集計結果を毎回報告することで職員の人権意識の向上を図った。さらに、コスモス授業チェックリスト（和歌山県立紀伊コスモス支援学校作成による授業チェックリスト）を使用し、どのように授業が改善したか、また子どもの行動チェックリストを活用して子ども自身がどのように変化したかについても検証した。子どもの行動チェックリストとは、アメリカの心理学者 Achenbach<sup>TM</sup> らによって開発された、子どもの情緒と行動の問題を包括的に評価するチェックリストである。教師用、保護者用、本人用の三種類の用紙があるが、今回は教師用（TRF）のみの記入を実施した。

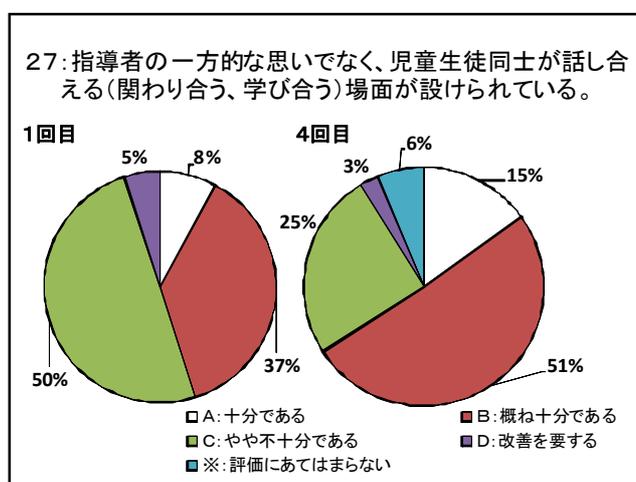
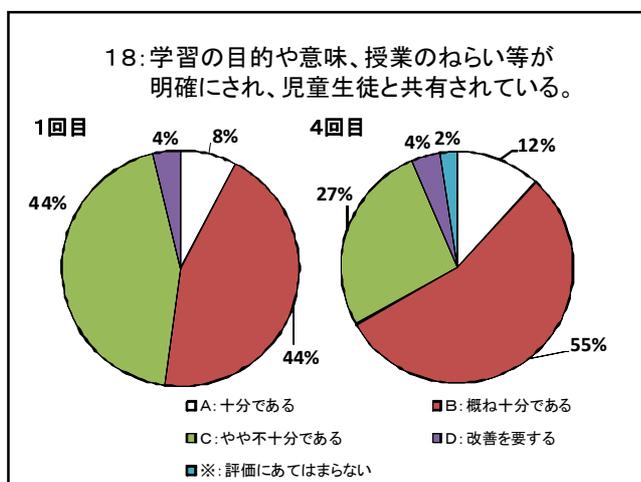
研究に取り組むにあたりスーパーバイザーとして、和歌山大学大学院教育学研究科武田鉄郎教授に人権尊重の視点に立った授業づくりについて「子どもたちがわかる、主体的に活動できる、自尊感情を育てる授業とは」という題で講義や中間報告会では公開授業を見てご講評をいただいた。

#### 4. まとめ

本研究は、人権チェックリストを活用した授業改善を主な取組として進めてきた。テーマ設定研修では、授業を振り返りながら人権チェックリストをつけることで評価の低い項目が明確になり、どのような指導や支援を行うべきかをグループ内で議論し授業づくりに活かすことができた。したがって、その授業グループの教師間では共通理解ができ、子どもの人権を意識し、指導の充実が図られた。また、人権チェックリストの集計の結果も毎回よくなり、C（やや不十分である）の割合が低くなっていった。各学部（小・中・高）、愛徳分教室によって課題となる項目は異なっていたが、全校としては1回目Cの割合が40%以上の項目は18、27、28で30%以上の項目は9、17であった。2回目以降はCの割合が40%以上の項目がなく、30%以上が2、9、18、27であった。そして3回目30%以上の項目としては9のみ、4回目に至っては30%以上の項目がなく、Aの割合も相対的に高くなっていった。これは、全教職員が人権チェックリストを意識し活用しながら授業改善を行うことができたことと捉えることができる。さらにコスモス授業チェックリストを5月と12月につけ、どのように授業改善がなされたかを検証した。まず、3（どちらでもない）という項目の割合が減り、自分自身の指導の評価を明確にチェックできるようになったことが大きな変化である。そして、4（どちらかといえばできている）5（できている）の割合が全ての項目で45%以上となっていた。また、4、5の割合が24項目中8項目で70%以上、3項目で80%以上という高い評価になった。このことから、人権チェックリストを活用して授業改善を行うことで授業そのものがよくなったということを証明することができる。さらに子どもの行動チェックリストについては、6月中旬に教師がチェックリスト（TRF）

に児童生徒の行動をチェックし、半年後の12月中旬に再度同じ教師が同じ児童生徒の行動をチェックして行動の変化を比較した。その結果、小学部の児童Aは、友だちと仲よくできる等の項目「社会性の問題尺度」や不注意や落ち着き、衝動性等の項目「注意の問題尺度」の改善が見られ、情緒が安定し、落ち着いて学習に取り組めてきていることがプロフィールの比較から予想することができるようになった。また、高等部の生徒Bは、頭痛、腹痛の訴え「身体的訴えの尺度」や自分は価値がないという考えや心配する等の「不安・抑うつ尺度」に改善がみられ、教師の言うことを聞かない、けんかをする等の「攻撃的行動尺度」も改善が見られた。この生徒は6カ月の間に身体症状が少なくなり自己肯定感が向上し、教師や仲間との人間関係の構築が向上したことが考えられる。

武田教授の講義では、子どもの主体性や自主性を重んじ、自己選択、自己決定できる状態を設定し指導することは全て教育活動の基本であり、子どものできる！わかる！という感覚につながっていくことや子どもの主体的な動きを出すために待つことは大変重要であることなど、人権チェックリストの中で大切な項目について御講義いただいた。また、中間報告会の講評では、「人権チェックリストの項目を教師がいかに意識していくかということが課題である」ことや「すべての項目を大切にしながらも、子どもの実態や指導内容等により、チェックしにくい項目があり、人権チェックリストの内容をすべて網羅することを重視して授業計画を立てると本末転倒になる」という御助言もいただいた。これらのことを踏まえ、単元計画表や指導案の支援の内容が人権チェックリストのどの項目に当たるかどうかを確認し合い、共通理解を図るようにした。また、チェックしにくい項目としては、18、27、28が挙げられた。18、27の項目<集計結果グラフ化>においては全校の集計結果でもCの割合が高い項目である。確かに、これらの項目が実態にあてはまりにくい児童生徒もおり、実態に合っても教師側がかなり意識して取り組まないといよい評価につながりにくい項目である。しかし、学習の意欲や子どもの主体的な学び、子ども同士の関わり合いという点では、大変重要な項目である。そのため、子どもの実態を考慮しながら、積極的に授業の中に取り入れていく必要がある。

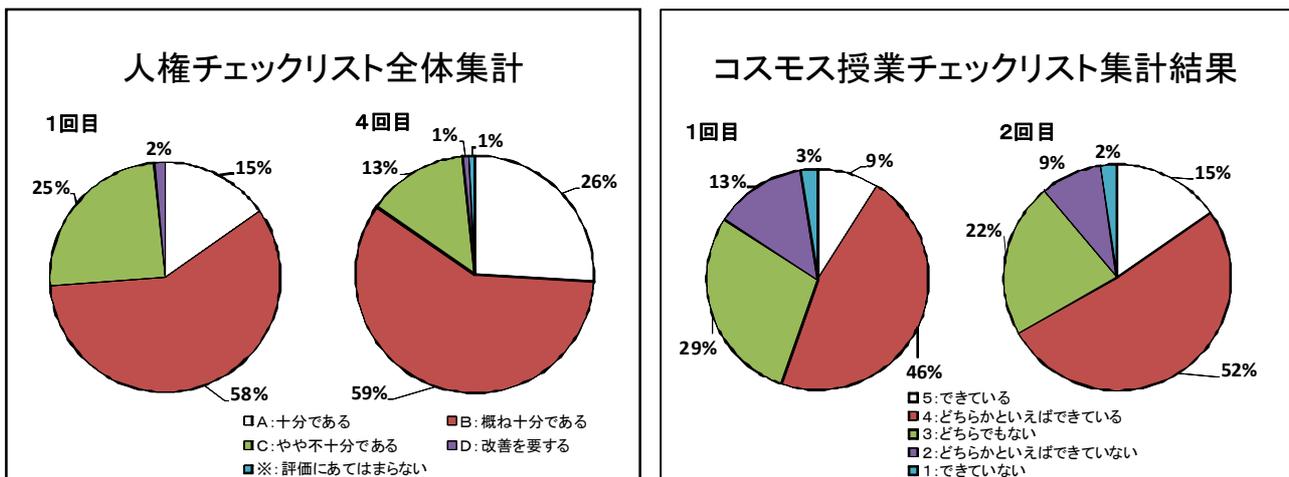


さらに自立活動の指導における人権尊重の視点についても御教授いただき、自立活動の目標及

び指導そのものが人権教育であるということを確認することができた。この視点は重度重複障害の児童生徒を含めた全員を対象とするもので、支援学校の人権教育になくってはならないものであるということを全職員で確認し、人権教育全体計画の人権教育重点目標の欄に『心身の調和的発達』という項目を追加した。

藤岡孝之先生と安達二美加先生による職員摂食指導研修では、児童生徒の事例を通して子ども一人一人の実態を的確に把握し、その子どもに合った食形態や食事のための自助具と支援方法等について御助言いただいた。給食をよりおいしく味わい、充実した食事の時間にするために、子どもたちとのコミュニケーションを大切にしながら、できる限り自分の力を発揮できるように支援することが重要であると再認識することができた。また職員人権研修では、副島先生の常に子どもと真剣に向き合い、一人一人の子どもを大切にしたかわりや指導の姿から多くのことを学び、大きな感動と新たな刺激を受けることができた。これらの研修からも子どもの人権尊重の視点に立った指導について学び、教職員の人権意識の向上を図ることができた。

人権チェックリストに基づいて授業改善を行い、課題となる項目を取り上げて、その改善に努めたことで、実際に A、B の割合が高くなった。＜集計結果グラフ化＞この結果により教師の人権意識が向上し、子ども一人一人の人権が尊重される授業づくりの大切さを意識化することができた。そして、教師が子どもの人権尊重を意識した授業づくりに取り組んだことで、コスモス授業チェックリストの集計結果がよくなった。＜集計結果グラフ化＞このことにより、“子ども一人一人の人権が尊重される授業づくりをすることで、子どもが主体的に活動できる授業を展開することができる”という研究仮説を立証することができたといえる。今後も人権チェックリストを活用し、更なる教職員の人権意識の向上を図り子どもが主体的に活動できる授業を展開していきたい。



今後の課題は、人権チェックリストの項目内容の捉え方に個人差があり、具体的な実践のイメージをより共有する必要があるということである。また、人権教育の重要な部分である児童生徒一人一人を大切にする、子どもの人権を尊重するという教職員の姿勢については、今後も積極的に学部を超えて議論していきたい。

今年度、人権教育研究指定校事業に取り組み、子どもの人権に焦点をあて人権チェックリストを活用しながら授業を振り返ることで、授業だけでなく教育活動全体において子どもの人権尊重を意識するようになった。教師が一人一人の子どもの思いを汲み取り、できる限りそれに応えようと努力することや自分自身の言動を振り返ることで、より人権が尊重される環境づくりに努めることができた。

子ども一人一人を大切にしたい授業、子どもが自己選択、自己決定し、できた！わかった！という主体的な学びにつなげていく指導により、子どもの学習意欲や自尊感情を育むことができた。そのことにより、自分自身が認められ自尊感情が高まり、仲間のことも認められるようになった。そうした子ども一人一人を大切にする教師の存在や互いを認め合える仲間の存在そのものが、安心して過ごせる学校や教室の雰囲気づくりにつながった。こうした教育活動全体を通じて人権尊重の視点に立った学校づくりを本研究で実践することができた。教師が子ども一人一人を大切な存在として受け止め、互いの人権を認め、尊重し合う教師の態度から、子どもたちが様々なことを感じ、自ら学び、互いを認め合うことができるのである。それが紀北支援学校の目指す人権が尊重された学校づくりである。今後もより一層教職員の人権意識の向上を図り、全職員が力を合わせて人権が尊重された学校づくりに取り組んでいきたい。

## 人権が尊重された授業づくりのためのチェックリスト

評価基準（A:十分である、B:概ね十分である、C:やや不十分である、D:改善を要する、※:評価しにくい項目）

＜学部＞ 小 中 高 愛徳

| 視点           | No.                                   | 評価項目  | A | B | C | D | ※ |
|--------------|---------------------------------------|---|---|---|---|---|---|
| 環境等          | 1                                     | 学級や学習集団が、わからないことが「わからない」と言えたり、間違いや失敗が認められる雰囲気である。     |   |   |   |   |   |
|              | 2                                     | 発表者と聞き手のルールとマナーが守られている。                               |   |   |   |   |   |
|              | 3                                     | 仲間の意見（多様な意見）が大切にされている。                                |   |   |   |   |   |
|              | 4                                     | 学習内容や活動に応じた座席の工夫や環境設定、グループ編成等がされている。                  |   |   |   |   |   |
| 計画等          | 5                                     | 児童生徒の実態を把握し、一人一人の学習意欲や習熟度合いに応じた目標設定がされている。            |   |   |   |   |   |
|              | 6                                     | 単元目標や指導目標が達成できる学習内容になっている。                            |   |   |   |   |   |
|              | 7                                     | 児童生徒のつまずきや次の授業に期待していることを把握し、指導計画が立てられている。             |   |   |   |   |   |
|              | 8                                     | わかる・楽しい授業となるような教材研究がなされている。                           |   |   |   |   |   |
|              | 9                                     | 評価の基準や観点、評価方法が明確になっている。                               |   |   |   |   |   |
| 学習の展開等       | 10                                    | 授業の開始と終了の時刻を教師自身が守っている。                               |   |   |   |   |   |
|              | 11                                    | 教師が常に丁寧な言葉づかいや生活年齢を踏まえた言葉づかいをしている。                    |   |   |   |   |   |
|              | 12                                    | 児童生徒の人権に配慮した呼び方をしている。                                 |   |   |   |   |   |
|              | 13                                    | 板書や視覚支援等は、授業内容を構造的でわかりやすく示すものになっている。                  |   |   |   |   |   |
|              | 14                                    | 児童生徒が興味・関心をもてる導入ができています。                              |   |   |   |   |   |
|              | 15                                    | 児童生徒が学習の目標や見通しをもつことができるようにしている。                       |   |   |   |   |   |
|              | 16                                    | 児童生徒にわかりやすい発問や指示がなされている。                              |   |   |   |   |   |
|              | 17                                    | 振り返りの時間を確保し、児童生徒に学習の成果を自覚させている。                       |   |   |   |   |   |
| 18           | 学習の目的や意味、授業のねらい等が明確に示され、児童生徒と共有されている。 |   |   |   |   |   |   |
| 人権教育重点目標の内容等 | 19                                    | 発言が難しい児童生徒に配慮し、適切な支援を行っている。                           |   |   |   |   |   |
|              | 20                                    | 授業中、一人一人が活躍する場や課題を工夫している。                             |   |   |   |   |   |
|              | 21                                    | 児童生徒一人一人の言葉を傾聴し、出された意見や活動に対し適切な評価（承認・賞讃・励まし等）がなされている。 |   |   |   |   |   |
|              | 22                                    | 児童生徒一人一人の学習状況や理解度に応じた指導・支援の工夫がなされている。                 |   |   |   |   |   |
|              | 23                                    | 授業内容がわからない児童生徒をそのままにせず、適切な指導・支援がなされている。               |   |   |   |   |   |
|              | 24                                    | 児童生徒に「わかった」「できた」という達成感をもたせるように工夫している。                 |   |   |   |   |   |
|              | 25                                    | 児童生徒が自己選択、自己決定するなど、主体的に活動できる場面が設けられている。               |   |   |   |   |   |
|              | 26                                    | 児童生徒に考えたり、表現したりする時間が保障されている。                          |   |   |   |   |   |
|              | 27                                    | 指導者の一方的な思いでなく、児童生徒同士が話し合える（関わり合う、学び合う）場面が設けられている。     |   |   |   |   |   |
| 28           | 児童生徒が互いのよさを認め合える場面がある。                |   |   |   |   |   |   |

【※印（評価しにくい項目）にチェックした項目の番号とその理由を記入してください。】

関係法令等

世界人権宣言 日本国憲法  
 人権関係諸条約・法律  
 教育基本法  
 学習指導要領  
 和歌山県人権施策基本方針  
 和歌山県人権教育基本方針  
 和歌山県同和教育基本方針  
 学校教育指導の方針と重点  
 子どもの権利条約  
 障害者差別解消法他

教育方針・目標

一人ひとりの障害・発達・生活の実態を正しくとらえ、すべての子どものもつ発達の可能性を最大限追求し、子どもを中心とした教育を創造する。よって、障害による種々の困難を主体的に改善・克服し、社会の一員としての自立をめざし、明るくたくましく生きる力を育む。

(1) 健康でたくましく、主体的に生活を送る力をつける。  
 (2) 生きる力としての学力・コミュニケーションの力を高める。  
 (3) 働く力や生涯をとおして学んでいく力を高め、よりよい社会参加をめざす。

個別の教育支援計画

児童生徒・保護者・教師の願い

児童生徒の実態

・小学部・中学部・高等部があり、肢体不自由学級と知的障害学級を設置している。また愛徳分教室（小学部・中学部）には、肢体不自由学級がある。

・児童生徒の障害が多様化しており、障害の程度が軽度な児童生徒や精神障害者手帳を有する生徒が増加傾向にある。

・児童生徒の居住地は、和歌山市内南部、海南市、紀美野町である。

・寄宿舎が設置されており、生活の基盤を寄宿舎におく生徒もいる。

各学部の教育目標(学校として大切にしている4つの柱)

| 小学部  | 中学部   | 高等部   |
|--|---|---|
| <b>【生活】</b><br>・基本的な生活習慣を身に付け、主体的に学校生活を送る力をつける。<br><b>【からだ】</b><br>・生理的基盤を整え、自らのからだをコントロールする力をつける。<br><b>【コミュニケーション】</b><br>・教師や友だちとの関係を軸に、人や物にかかわる力を広げ、個々に応じたコミュニケーションの力をつける。 | <b>【生活】</b><br>・基本的な生活習慣を確立し、主体的に生きる力を養う。<br><b>【からだ】</b><br>・運動機能を高め、体力をつけ、様々な生活場面に生かす。<br>・性に関する理解を深め、思春期の心と体を正しく認識する。<br><b>【学力】</b><br>・認知・興味・関心を高め、コミュニケーションの力を養う。<br>・基礎学力を高める。<br><b>【人との関わり】</b><br>・集団生活をとおして、仲間と共に協力する力や自主的に活動する力をつける。<br>・身近な地域生活をとおして、社会性を育む。 | <b>【生活】</b><br>・自立心を養い、社会生活に参加し適応できる力をつける。<br><b>【からだ】</b><br>・思春期から青年期を迎えるからだの変化を受け止め、健康なからだの育成をめざす。<br>・生命の大切さを知り、自分や相手の命を大切にする思いを育む。<br><b>【学力】</b><br>・自ら学ぶ意欲を育て、学んだことを生活に生かせる力をつける。<br><b>【人との関わり】</b><br>・自分の気持ちを伝えることや、仲間と共に意見を出し合い問題を解決していく力をつける。<br>・自分や仲間の個性を認め合い、共に助け合う心を育む。 |

人権教育方針

- ①自分の人権の大切さに気づき、あわせて他の人々の人権を大切にする心を育てる。
- ②生活の中にある人権問題に気づき、問題解決のための実践力をつける。

人権教育重点目標

- 心身の調和的発達
  - ・外界とのかかわりを通して、よりよく生きていこうとする力を育む。
- 自己尊重の感情
  - ・自分を価値ある存在だと思う感情を育む。
- 仲間づくり
  - ・仲間と共に行動しようとする。
- コミュニケーションの力
  - ・自分の思いを伝え、相手の思いを聞く力を育む。
- 人権の意義・内容(きまりや約束を守る)
  - ・誰もが自分らしく生き生きと生活するためにきまりがあることを知る。
  - ・きまりや約束を守り、自分の役割を果たそうとする。

個別の指導計画

各教科・領域等の指導

- ・生徒指導
- ・進路指導
- ・寄宿舎による生活自立指導
- ・教育相談
- ・交流及び共同学習

家庭・地域との連携

関係機関・学校間との連携

教職員の研修

# 授業実践

## 自立活動の授業改善

～一人一人を大切に作る授業づくり～

### 1. はじめに

本校では、前述のように平成22年度、23年度の2年間は和歌山県特別支援教育専門性向上事業「特別支援学校研究指定」を受け、自立活動の指導の在り方について、特に「時間における指導」を中心として実践研究を行った。その後の2年間も自立活動の研究を継続し、意見を活発に交わすことができる授業協議の場を作りだすことをサブテーマとして授業改善の方法を模索し研究を重ね、平成25年度の研究発表会で『自立活動の時間における指導について－PDCAサイクルを活用した授業改善を重ねて－』というテーマのもと、4年間行ってきた研究の成果を発表した。

平成26年度からは、個別の指導計画に焦点を当て、「日常の生活場面で生きてくる個別の指導計画に基づいた自立活動の指導を行う」ことをキーワードに、より実践に即した個別の指導計画を書くことを目的として研修を行った。そして今年度は、「人権が尊重される学校づくり」～子どもの人権が尊重される授業づくりと教職員の人権意識の向上～という研究テーマのもと、「自立活動の授業は、子ども一人一人の実態把握から開始するものであり、自立活動の授業の改善をしていくことは、一人一人を大切にすることに繋がり、ひいては人権が尊重された授業に繋がる」という研究仮説を立て、自立活動の授業改善に取り組んだ。

この紀要は、昨年度と今年度に取り組んだ自立活動の研究・研修について、特に今年度取り組んだ授業改善の内容とその成果、そして「自立活動の授業を改善していくことは、人権が尊重された授業に繋がる」という研究仮説の検証を中心にまとめたものである。

### 2. 研究・研修の進め方

#### (1) 1年目（平成26年度）

##### ① グループ構成

平成26年度の本校の研究・研修のテーマは、「自立活動の研究・研修」と「教科や合わせた指導における実践研究」とし、教員はどちらかを選択して研究・研修を行っていくこととした。しかし本校に新しく着任した教員については、「自立活動の研究・研修」を行うこととした。その結果、「自立活動の研究・研修」は76名で進めていくこととなった。

次に、学部所属や担任している障害種別とは関係なく、各自が選んだ個別の指導計画の「目標」、「内容」、「選定項目」等から、主な課題が自立活動の6区分26項目のどこに含まれるかで、グループ分けを行い、16グループを構成した。

## ② 具体的な進め方

各グループにて、各自が記載した個別の指導計画について、

ア 実態把握を的確に行うことができるか

イ 「実態把握→指導目標→選定項目→具体的な指導内容」の流れに妥当性・整合性はあるかを協議し、協議した内容を踏まえて、個別の指導計画を書き直していく。

## ③ 報告

年度末に、各グループで話し合ったことをまとめ、報告することで、全員が共有できるものとした。

## (2) 2年目（平成27年度）

### ① グループ構成

前年度同様「自立活動の研究・研修」と「教科や合わせた指導における実践研究」の内、「自立活動の研究・研修」を希望した教員67名の中で、今回授業改善を行っていく授業の対象とする児童生徒の主な自立活動の課題を6区分26項目から選択することでグループ分けを行い、8グループを構成した。

### ② 授業改善の進め方

ア 自立活動の学習指導案の一部改訂

自立活動の学習指導案に「イメージする姿(1年後)」という記入欄を新たに設け、「この自立活動の授業を通して、1年後このような姿になってもらいたい」というイメージ像を記入することとした。そのことで、日常生活に般化するために、今この自立活動の授業を行っているという意識を強く持ってもらいたいと考えた。

イ グループでの協議

- ・個別の指導計画を持ち寄り、各自が説明した上で、授業と授業者を決定した。
- ・授業者が書いた対象児童生徒の個別の指導計画の中での整合性と指導案との関連性等について協議し、グループのメンバー全員が対象児童生徒と授業のイメージをしっかりと持つことができるようにした。
- ・授業の様子を動画に撮り、その動画を見ながら、指導案と個別の指導計画を照らし合わせて協議し、授業改善を3回行った。

### ③ 人権研修の進め方

毎授業改善時、各グループで授業の動画を見て「人権チェックリスト」を行った。また、3回の授業改善が終了してから、各グループで3つの学習指導案の支援の方法について、「人権チェックリスト」のどの項目に当たるかを確認した。

### ④ 報告

最終的に4つのグループが1月26日に開催される研究発表会で公開授業を行うとともに、研究紀要において取り組んできた授業改善の経過をまとめた。また、残りの4つのグループ

は、行った授業改善のまとめを作成するとともに、校内研究発表会で報告する機会を持った。

### 3. 授業改善について（4グループの報告）

メガボールでリラックス！

～自分で筋緊張を緩めることができた訪問教育の取組～

#### 1. 訪問教育での自立活動について

本校の訪問学級には、小学部・中学部・高等部合わせて6名の児童生徒が在籍している（平成28年1月1日現在）。6名全員が気管切開をしているが、カニューレを装着している子ども、していない子ども、酸素吸入を行っている子ども、人工呼吸器を装着している子どもとその実態は様々である。活動においても、コンスタントにスクーリングを実施している子どもや気候の良い時期や行事等にスクーリングしている子どももいれば、体調面の理由からほとんどスクーリングは実施せず、家庭での学習が中心の子どももいる。担任が家庭に訪問しての学習場面も、ベッドであったり布団であったり、座位保持装置に座っていたりと様々であり、授業を行う環境も家庭によって異なっている。また、子どもたちの体調も一様でなく、体調に応じて取組を変化させる必要がある。

今回、訪問教育の子どもにスポットを当てたのは、通学生であれば複数の教師の目でその子どもの実態把握が可能であり、教材や環境面でも様々な活動内容を実施できるが、訪問教育では担任ひとりの見解が大きく影響し、複数の目で見たり相談したりしながら授業を作り上げていくことが難しいため、この機会を利用して複数の目で実態把握をし、授業改善を図りたいと考えたからである。

#### 2. 授業改善

本グループのメンバーは、高等部の教員4名（1ブロック担任2名、2ブロック担任1名、訪問担任1名）と自立活動担当教員1名であり、前述の様に3回の授業改善に取り組んだ。

##### （1）授業改善1回目

##### ① 学習指導案

| 日 時       | 平成27年7月13日（月） 14:00～ 14:45  |     |         |
|-----------|---|-----|---------|
| 対 象       | 訪問学級生 男子  | 場 所 | 訪問学級生自宅 |
| 児童（生徒）の実態 | 脳性まひ。てんかん発作あり。気管切開をしているが、切開部にカニューレは装着していない。生活全般全介助。食事は胃ろう部から半固形栄養を摂取。発語はないが表情が豊かで自分の気持ちを伝えることができる。嫌なことがあると右手を振り回し人を叩くこともある。3年前に、腸閉そくになり、大腸を75cm切除する手術を受けた。その後から体調が安定せず、嘔吐を繰り返して入院が続いた。昨年度より少し安定しつつあり入院も年2回程度に落ち着いてきている。以前は自力排便できていたが、昨年度から気管切開部まで痰をあげてくるものの咳きれず、吸引を行ってもらうことが増えてきた。左凸脊柱側弯症があり右腰部が短縮している。仙骨部の痛みがストレスになっており過緊張で下肢が交差することが多い。筋緊張を緩めると関節の可動域も広がり姿勢も安定する。 |     |         |

|                  |  |   |                                |
|------------------|--|---|--------------------------------|
| イメージする姿（1年後）     | 日常的にリラックスして足台に足を乗せておける。緊張がきつなくてもROM-E x. に取り組むことで緊張が緩み、よりよい姿勢で過ごせる。  |   |                                |
| 指導目標             | ファシリテーションボール（FB）を使用することでリラックスして自ら筋緊張を緩めることができる。ROM-E x. にも取り組み、関節可動域を確保し、変形の進行を防止する。   |   |                                |
| 活動（単元）内容の設定理由    | 昨年度までは布団上で仰臥位のまま全身のROM-E x. に取り組んでいたが下肢の筋緊張が緩みにくかった。しかし、腰を持ち上げると仙骨部の痛みが軽減されるため筋緊張が緩むことがあった。中学部の時にFBを使用したことがあり、筋緊張を緩めるために効果的だったことを聞いてFBを使用したところ、痛みが軽減されるためか自ら下肢の筋緊張を緩めることができた。FBを使用することで痛みストレスを減らし、自ら筋緊張を緩めよりよい姿勢を取ることが出来ることを体感するために本活動を設定した。 |   |                                |
| 今までの評価と反省        | 前時（6/24）の評価と反省   | FBに乗って下肢のROM-E x. に取り組むとすぐ緊張が緩んだ。しかしボールサイズが直径95cmと小さいため頭部がFBから落ちそうになり不安定になることがあった。もうひとまわり大きいサイズのFBを使用してみたい。 |                                |
| の日常生活や各教科等の中での評価 | 授業開始時には筋緊張が強いことも多いがマッサージバー（マッサージオイルのようなもの）を使用した手のマッサージで笑顔になることが多かった。笑顔になると緊張も若干だが緩む。   |   |                                |
| 本時の目標            | FBのホールド感に心地よさを感じ取り、リラックスして自ら筋緊張を緩める。   |   |                                |
| 時間               | 活動内容   | 留意点及び支援の方法  | 評価の視点                          |
| 14:00            | <導入><br>①マッサージバーによる手のマッサージから上肢のROM-E x.（布団）  | 言葉かけをしながら手のマッサージを行う。笑顔を引き出す。<br>右手→右肩→左手→左肩<br>表情を見ながら無理せず行う。<br>〔人権チェックリストとの対応〕<br>⑭ ⑰ ⑳ ㉓ ㉔               | 心地よさを感じていたか。<br>（笑顔など）         |
| 14:15            | <展開><br>②腰を持ち上げ側弯部分のストレッチ（布団）  | 手を腰の下に入れ腰を浮かせた状態でゆっくり、表情を見ながら無理せずストレッチを行う。  | 腰を持ちあげた時にリラックスできたか。            |
| 14:25            | ③下肢のROM-E x.（FB）   | FBに乗り揺れやホールド感を感じるようにゆっくり揺らす。<br>慣れたところでROM-E x. に取り組む。頭部の位置に留意する。<br>〔人権チェックリストとの対応〕<br>⑤ ⑥ ⑧ ⑨ ㉒           | FBの揺れに身を預け緊張が緩んだか。<br>（表情・筋緊張） |
| 14:40            | <まとめ><br>④リラックスして足台に足を乗せる。   | 足台に足を乗せることでよりよい姿勢になる。<br>〔人権チェックリストとの対応〕<br>⑰ ㉔   | 自然な姿勢で足台に乗せられたか                |

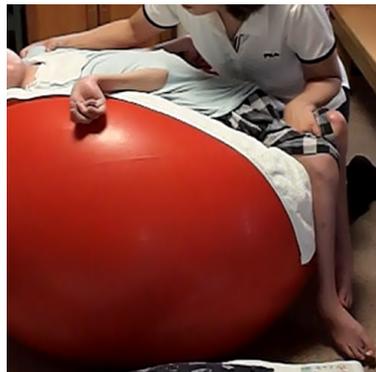
|     |                          |
|-----|--------------------------|
| 準備物 | マッサージバー（２種類）、FB（直径120cm） |
|-----|--------------------------|

② 授業改善1回目の協議内容

- ア FB上でのROM-Ex. の設定は体勢を安定した状態にすることが難しく、FBで折角緩んだ筋緊張がROM-Ex. に取り組むことで高まるのは改善の余地がある。
- イ FBが小さいので、筋緊張が緩んで下肢が伸展していくと足先が床についてしまい、そのことが刺激となりまた筋緊張が高まってしまっているのではないか。もっと大きいボールがあれば、それを使用する方が安定感が出るのではないか。



FB実施前：  
左足が屈曲している



FB実施時：  
足先が床に着いている



FB実施後：  
左足が伸びている

③ 改善点および次の授業に向けて

- ア FBを行う前にマッサージバーでのマッサージとROM-Ex. を行い、FBの後には行わないようにし、FB上で体幹(右腰部)のストレッチを取り入れる。
- イ 現行のサイズより大きいボール（直径180cm）を他校から借りて試す。

(2) 授業改善2回目

① 学習指導案

|               |                             |   |         |
|---------------|-----------------------------|---|---------|
| 日時            | 平成27年10月 2日(金) 11:15~ 12:00 |   |         |
| 対象            | 訪問学級生 男子                    | 場所  | 訪問学級生自宅 |
| 児童(生徒)の実態     | 授業①の指導案と同じため割愛              |   |         |
| イメージする姿(1年後)  | 授業①の指導案と同じため割愛              |   |         |
| 指導目標          | 授業①の指導案と同じため割愛              |   |         |
| 活動(単元)内容の設定理由 | 授業①の指導案と同じため割愛              |   |         |
| 今<br>ま        | 前時(9/4)の評価                  | 布団上でROM-Ex. に取り組んだあと、直径180cmのメガボールでのFBを実施した。身体全体がホールドされ非常にリラックスした表情を見せ、除々に下 |         |

|       |   |   |                                    |  |
|-------|---|---|------------------------------------|--|
| での評価  | と反省   | 肢の筋緊張も緩んだ。ボールサイズが大きいため担任と母だけでは実施は難しかった。今後は3人態勢が取れる時だけメガボールで実施する。  |                                    |  |
|       | 日常生活や各教科等の中での評価   | 自立活動でFBを使用しよい姿勢になった後の授業では、表情も穏やかで関節可動域も広がっているため無理なく協力動作ができています。   |                                    |  |
| 本時の目標 |   | FBのホールド感に心地よさを感じ取り、リラックスして自ら筋緊張を緩めることができる。  |                                    |  |
| 時間    | 活動内容  | 留意点及び支援の方法  | 評価の視点                              |  |
| 11:15 | <導入><br>①布団上でマッサージバーによる手のマッサージから手首・腕・肩のROM-E x. 足のマッサージで左足部が内に入る緊張をやわらげる。 | 言葉かけをしながら手のマッサージを行う。笑顔を引き出す。<br>右手→右腕→右肩→左手→左腕→左肩<br>表情を見ながら無理せず行う。<br>〔人権チェックリストとの対応〕<br>⑭ ⑰ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒       | 心地よさを感じていたか。<br>(笑顔など)             |  |
| 11:35 | <展開><br>②FB (メガボール) 上で体幹(右短縮部分)のストレッチを行う。                                 | FBに乗り揺れやホールド感を感じるようにゆっくり揺らす。ゆっくり、表情を見ながら無理のない範囲で体幹のストレッチを行う。頭部の位置、分泌物に留意する。<br>〔人権チェックリストとの対応〕<br>⑤ ⑥ ⑧ ⑨ ⑳ | FBに身を預け緊張が緩んだか。(表情・筋緊張)<br>足が伸びたか。 |  |
| 11:50 | <まとめ><br>③布団上で姿勢を整える。   | 布団に戻り、足台に足を乗せることで無理なくよい姿勢になる。<br>〔人権チェックリストとの対応〕<br>⑰ ㉔   | 自然な姿勢で足台に寄せられたか。                   |  |
| 準備物   | マッサージバー (2種類)、メガボール (直径180cm)   |   |                                    |  |

## ② 授業改善2回目の協議内容

ア 「寝ていた生徒が授業によって覚醒する」「身体が柔らかくなる」「排痰できる」といったことは「人権が尊重されている」授業である(和歌山大学大学院教育学研究科教授 武田鉄郎先生の講評より)。

イ ボールサイズが大きく(直径180cm)なったことで身体全体がボールに乗り、安定しリラックスして身体の筋緊張が緩んだ。

ウ 流れがスムーズになり、マッサージでリラックスした後、上肢のROM-E x. を実施、FBで下肢の筋緊張が緩むと同時に体幹のストレッチ(右短縮部分)に取り組むと身体が

伸びた。

エ 意識して設定していないようだが、自己選択の場面はあるので、意識的に言葉かけを行って行く方が良い。子どもが出す仕草や声等に応えることも大切ではないか。



F B 実施前：  
体幹右が短縮している



F B 実施時：  
足が浮いており、筋緊張も緩んでいる



F B 実施後：  
体幹右が伸びている

### ③ 支援の改善点および次の授業に向けて

ア マッサージバーの選択場面やF Bを「やめる」「もっとする」を選択する場面で意識的に言葉かけを行っていく。そして、生徒が出す仕草や声等に応えることももっと意識して行っていく。

イ ボールサイズにより、電動ポンプを使用する等の改善が必要である。

### (3) 授業改善3回目

#### ① 学習指導案

|               |  |   |         |
|---------------|--|---|---------|
| 日 時           | 平成27年11月11日(水) 11:15～12:00   |   |         |
| 対 象           | 訪問学級生 男子   | 場 所   | 訪問学級生自宅 |
| 児童(生徒)の実態     | 授業①の指導案と同じため割愛   |   |         |
| イメージする姿(1年後)  | 授業①の指導案と同じため割愛   |   |         |
| 指導目標          | 授業①の指導案と同じため割愛   |   |         |
| 活動(単元)内容の設定理由 | 授業①の指導案と同じため割愛   |   |         |
| 今までの評価の価値     | 前時(10/7)の評価と反省   | 前時は開始時覚醒レベルが低かったが、マッサージをすすめていくうち覚醒し、F Bでは笑顔が見られるほどであった。F B上での揺れは小刻みなものより、ゆっくりダイナミックな方が筋緊張は緩みやすそうであった。 |         |
|               | 日常生活や各教科等の中での評価  | 授業②の指導案と同じため割愛  |         |
| 本時の目標         | F Bのホールド感に心地よさを感じ取り、リラックスして自ら筋緊張を緩めることができる。布団に戻ってもリラックスしてまっすぐな姿勢を保つことができる。 |   |         |

| 時間    | 活動内容  | 留意点及び支援の方法  | 評価の視点   |
|-------|---|---|---|
| 11:15 | <導入><br>①布団上でマッサージバーによる手のマッサージから手首・腕・肩のROM-Ex. 足のストレッチで左足部が内に入る緊張をやらせる。 | 2種類のマッサージバーから好きな香りを選ぶ。<br>言葉かけをしながら手のマッサージを行う。笑顔を引き出す。表情を見ながら無理せず行う。<br>〔人権チェックリストとの対応〕<br>⑭ ⑰ ⑱ ㉕ ㉖  | 表情で意思が伝わったか。<br>心地よさを感じていたか。<br>(笑顔など)                      |
| 11:35 | <展開><br>②FB上で体幹(右短縮部分)のストレッチ  | FBに乗り揺れやホールド感を感じるようにゆっくり揺らす。ゆっくり、表情を見ながら無理のない範囲で体幹のストレッチを行う。頭部の位置、分泌物に留意する。<br>10分経過後本人が「やめる」か「もっとする」かのどちらかを選択する。<br>〔人権チェックリストとの対応〕<br>⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑮ ⑳ ㉕ ㉖ | FBに身を預け緊張が緩んだか。<br>(表情・筋緊張)<br>足が伸びたか。<br><br>自分の意思を伝えられたか。 |
| 11:50 | <まとめ><br>③布団上で姿勢を整える。   | 布団に戻り、足台に足を乗せることで無理なくよい姿勢になる。<br>〔人権チェックリストとの対応〕<br>⑰ ㉔   | 自然な姿勢で足台に乗せられたか。  |
| 準備物   | マッサージバー(2種類)、メガボール(直径180cm)   |   |   |

## ② 授業改善3回目の協議内容

ア 前時まで体調不良および静養のため欠席していた。静養明けでは覚醒レベルが低いことが多く、普段は覚醒し続けることが難しいが、この時は訪問時には覚醒して機嫌も良く、特にボールに空気を入れ始めると視線をボールに向け、じっと見ており、笑顔が多かった。このような様子は、授業に対する期待感のためではないか。

イ メガボール上での姿勢が不安定であったが、怒らずにリラックスできていたのは、メガボールに対する期待感やホールド感があったからではないか。

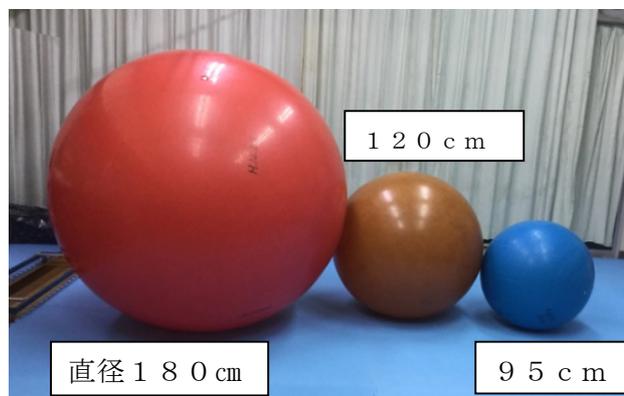
ウ 前回の授業では自然と行っていた、マッサージバーの種類やメガボール実施時の「やめる」「もっとする」を選択する機会が、今回は時間の都合で行われていなかった。これは主体的に授業に参加するという視点や人権の視点でもきっちりと行っていくべき。

## ③ 支援の改善点および次の授業に向けて

ア マッサージバーの種類とメガボール実施時の「やめる」「もつとする」の場面で、本人が選択する機会をきっちり設定し、継続することで「返事すればその意見を尊重してもらえる」ことを経験する。



マッサージバー：2種類の香りより選択する



F Bサイズ比較

### 3. 結果とまとめ

#### (1) 授業改善について

今回、自立活動の研究・研修で訪問学級の子どもの授業改善について取り組んだ。訪問教育は個別学習になりがちであるが、今回研修のたびに複数の目で実態把握をし、授業の改善を重ねる機会を持つことができ、改めて複数の目で子どもを見ていくことの重要性を実感した。特に今回のメガボールの取組は、重度の障害からくる筋緊張を緩和することに非常に有効であり、「自分で筋緊張を緩める」ことを体感できたことは本人にとっても大きな収穫であった。しかし、この取組は担任だけでは考えつかないものであり、授業で担任が見落としていた子どもの様子や応答にもアドバイスをもらうことができたことで、実践を深めることができた。

#### (2) 人権の視点から

3つの学習指導案の支援の方法について、最後に「人権チェックリスト」を使用し確認する機会をもったことで、行ってきたいいくつかの支援方法が、人権を尊重していることにつながることを確認することができた。特に子どもが「自己選択・自己決定」する機会を保障することは、非常に重要であるということが確認できたので、今後は「マッサージバーの香りを選ぶ」やメガボール実施時に「やめる」「もつとする」といった「自己選択・自己決定」の機会をきっちりと設定していきたいと考えている。そしてその取組を継続することで、本人の意思が尊重される体験を積み重ねていきたい。

また、和歌山大学大学院教育学研究科教授 武田鉄郎先生から、『「覚醒」「リラックス」する場面を保障することが、子どもの人権を尊重することになる』というお話をいただいたことで、最初はイメージしづらかった「重度の子どもたちの人権を尊重した授業」というものが、今まで自分たちが行ってきた子どもを中心に置いてその授業をより良くしていくということで間違いはな

かったという確認ができた。

今後はこの実践を生かし、なかなかスクーリングの機会をもてない訪問教育の子どもたちであっても、複数訪問や動画を利用して、通学生と同じように複数の目で実態把握をしたり授業へのアドバイスをもらったりしながら、引き続き授業改善に取り組んでいきたい。

## 身体の動きがぎこちない児童の自立活動について

～「みんなと一緒に遊びたい」その気持ちに応える～

### 1. はじめに

本校の小学部には、知的障害学級（以下、1ブロック）と肢体不自由学級（以下、2ブロック）があるが、肢体不自由を有していても、歩行が可能であれば1ブロックに入学することが多い。

今回の対象児も肢体不自由を有してはいるが歩行や走行が可能のため、平成27年度に小学部1ブロックへ入学してきた児童である。学校、友達が好きで、集団の中で色々な刺激を受けながら学習することにより、人間関係の形成やコミュニケーション能力の成長が期待できると考え、本児の学習集団としては1ブロックが適切であると考えたのである。

しかし、肢体不自由を有していることから、入学当時の本児は、友達と一緒に遊びたくて走って追いかけて転倒する。頑張って給食を食べようとするが、折角スプーンですくった食べ物を口に運ぶまでの間にこぼしてしまう。など、日常生活の中で困難であろうと感じられる場面をよく見かけた。その困難さを改善するための取組が重要ではあるが、1ブロックに在籍しているため、教育課程上、自立活動（時間の指導）の授業時数は少ない。そのためいかに効率的にかつ

有効な取組を重ねていくかが課題となる。そういった背景の中、今回の研究・研修の場を利用して、授業改善を行っていききたいと考えた。

### 2. 授業改善

#### （1）授業改善1回目

##### ① 学習指導演



写真①：登校風景 左が対象児

|               |  |  |   |
|---------------|--|--|---|
| 日 時           | 平成27年5月13日(水) 9:50~10:35 第2限目  |  |   |
| 対 象           | 小学部知的障害学級1年生男子   | 場 所  | 小学部知的障害学級1年生教室  |
| 児童(生徒)の実態     | <p>・歩行時、股関節内転・内旋及び尖足となっている。走行するとより顕著になり、ミドルガードが出て、つま先が引っかけたて転倒することが多い。体幹の筋力が不十分で、体幹を抗重力位に支えるのにかなりの努力を要しているため、背筋群とともに、臀筋及びハムストリングス群を伸展方向に緊張させていることが原因であると考えられる。</p>   |  |   |
| イメージする姿(1年後)  | <p>・足底をしっかりと着けて安定して立つことができる。</p>   |  |   |
| 指導目標          | <p>・足底をしっかりと着けて立位、歩行をする。</p>   |  |   |
| 活動(単元)内容の設定理由 | <p>・現在、小学部1年生の段階では、足関節、股関節に拘縮は見られず、可動域に問題は無い。しかし、歩行・走行時によく転倒し危険であること、異常な筋緊張を継続的に行うことにより、将来拘縮や疼痛を引き起こす可能性があることなどを鑑み、</p> <p>①日々の自立活動の授業において、関節拘縮の実態を確認し、現在の可動域を維持する。</p> <p>②下肢の筋力強化及び足底をしっかりと着けて「立つ」「歩く」経験を通して立位姿勢や歩容を改善する。</p> <p>③体幹、臀部の筋力をつけると共に、立ち直り反応を成熟させる。ことが必要であると考えた。</p> |  |   |
| 今までの評価        | 前時(5/11)の評価と反省   | <p>・自立活動で指導した内容を理解し、教師の期待にこたえようと自分で身体を動かそうとする。</p>   |   |
|               | 日常生活や各教科等の中での評価  | <p>・リトミックでは、交互交差を用いた四つ這い移動ができるようになった。</p>  |   |
| 本時の目標         | <p>・踵を着けて「立つ」「歩く」運動を体験する。</p> <p>・体幹の筋力をつける</p>  |  |   |
| 時 間           | 活 動 内 容  | 留意点及び支援の方法   | 評価の視点   |
| 9:50          | <p>①はじまりのあいさつ</p> <p>②体幹の回旋</p> <p>③股関節のROM-Ex.</p> <p>④足関節のROM-Ex.</p>  | <p>③股関節の可動域を確認する。</p> <p>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>⑤⑥⑨</p> <p>・痛みを与えないように行う。</p> <p>④初めは膝関節屈曲位で行い、次いで伸展位で行う。</p> <p>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>⑤⑥⑨⑫</p> | <p>②リラックスして体幹を回旋した姿勢を保持する。</p> <p>③可動域に変化がないか確認する。</p> <p>④可動域が広がっているか確認する。</p> |

|                       |   |  |   |
|-----------------------|---|--|---|
| <p>10:15<br/>(終了)</p> | <p>⑤腹筋運動（上体起こし）<br/>⑥背筋運動（お尻挙げ）<br/>⑦立ち上がり練習<br/>～立位保持<br/><br/>⑧四つ這い移動の練習<br/><br/>⑨歩行練習</p> | <p>⑦立ち上がりの際、股関節が内転・内旋しないようにする。<br/>【人権チェックリストとの対応】<br/>⑤⑥⑨②②<br/>・足底をしっかりと着けて行う。<br/>⑧交互交差の運動ができるよう、介助し誘導する。<br/>【人権チェックリストとの対応】<br/>⑤⑥⑨②②④<br/>⑨踵をしっかりと着けて歩けるよう支援する。<br/>【人権チェックリストとの対応】<br/>⑤⑥②②</p> | <p>⑦立ち上がりの際、股関節内転・内旋していない。<br/>・立位時、足底を着ける。<br/>・股関節内転内旋しない。<br/>⑧交互交差を行っている。</p> |
| <p>準備物</p>            | <p>セラピーマット、パーテーション、いす×2</p>   |  |   |

② 授業改善1回目の協議内容

- ア 上肢、下肢とも問題を抱えている児童であることは認識していたが、生活上の安全、将来の懸念（拘縮・疼痛）から、下肢機能の維持・改善を優先していた。また、1ブロックに所属する本児の身体の動きの課題に対して、取組を進めていくためには個別で行うことが有効と考えた。
- イ 立ち上がり練習の際、股関節を内転・内旋させて立ち上がろうとするので介助が必要である。
- ウ 歩行練習では、振り出す脚の誘導と支える脚を固定する教師の介助を受け入れ、がんばろうとする姿が見受けられた。
- エ 立位・歩行が不安定な要因として、下肢の使い方に加え、立ち直り反応の未成熟さも有ると考えられる。

③ 改善点および次の授業に向けて

- ア 他の新入生も学校に慣れクラスが落ち着いてきたので、個別で取り組む体制を取る事ができるようになり、上肢に対しても取り組むこととした。
- イ 立ち上がり練習での介助方法を、立ち上がる際、いったん重心を前方に運ぶよう指導することとした。
- ウ 肩、上肢の支持性を高めるため、「オン・ハンドによる姿勢保持」を行う事にした。
- エ 立位保持練習では、腰の位置を揺さぶることにより、立ち直り反応を誘発させる場面を作るようにした。

(2) 授業改善2回目

① 学習指導案

|               |  |  |               |
|---------------|--|--|---------------|
| 日時            | 平成27年10月19日(月) 9:50~10:35 第2限目   |  |               |
| 対象            | 小学部知的障害学級1年生男子   | 場所   | 小学部知的障害学級1年教室 |
| 児童(生徒)の実態     | <p>・歩行時、股関節内転・内旋及び尖足となっている。走行するとより顕著になり、ミドルガードが出、つま先が引っかかって転倒することが多い。体幹の筋力が不十分で、抗重力位に支えるのにかなりの努力を要しているため、背筋群とともに、臀筋及びハムストリングス群を伸展方向に緊張させていることと立ち直り反応が未成熟であることが原因であると考えられる。</p> <p>・手指を使う際には、手首、指の動きが未熟なため、肩、肘で代償している。また、指先の動揺も多い。胸から肩にかけての筋力を強化し安定した肩、上腕の動きの獲得と手指の巧緻性及び手首と前腕の連動した動きの獲得が課題となる。</p>  |  |               |
| イメージする姿(1年後)  | <p>・足底をしっかりと着けて安定して立つことができる。</p> <p>・両腕のガードを下げて「歩く」「走る」機会が増える。</p> <p>・体幹を起こして食事をする時間が増える。</p>   |  |               |
| 指導目標          | <p>・足底をしっかりと着けて立位、歩行をする。</p> <p>・上肢の安定を図り、手指の巧緻性を向上する。</p>   |  |               |
| 活動(単元)内容の設定理由 | <p>・現在、小学部1年生の段階では、足関節、股関節に拘縮は見られず、可動域に問題は無い。しかし、歩行・走行時によく転倒し危険であること、異常な筋緊張を継続的に行うことにより、将来拘縮や疼痛を引き起こす可能性があることなどを鑑み、</p> <p>①日々の自立活動の授業において、関節拘縮の実態を確認し、現在の可動域を維持する。</p> <p>②下肢の筋力強化及び足底をしっかりと着けて「立つ」「歩く」経験を通して立位姿勢や歩容を改善する。</p> <p>③体幹、臀部の筋力をつけると共に、立ち直り反応を成熟させる。</p> <p>ことが必要であると考え。</p> <p>・食事では、スプーンを使って食べる事はできるが、上肢に動揺が見られ、食べ物をすくいくかたり、口に運ぶ際にこぼしたりすることが多い。何事も自分でしようとする意欲は見られるが、そのために大変な努力をしている。それらを改善するためには、</p> <p>①肩、肩甲帯、胸の筋力を強化し、上肢の安定を図る。</p> <p>②つまみ動作や手首の動きを成熟させる。</p> <p>ことが必要であると考え。</p> |  |               |
| 今までの評価        | 前時(10/7)の評価と反省   | <p>・シルバーウィーク中、学校、訓練機関が休業していたため、足関節が少し硬くなっていたが、戻ってきた。日々のケアが大事であることを改めて実感した。</p>   |               |
|               | 日常生活や各教科等の中での評価  | <p>・ぞうきんがけの際、足を交互に出して前に進むことができるようになった。</p> <p>・リトミックでは「めだか」(両手を身体の前で合わせて走る)の模倣ができるようになってきている。</p> <p>・食事の際、上肢の動揺が少なくなってきていて、指先を使ってスプーンを持つことができるようになってきている。</p> |               |
| 本時の目標         | <p>・足底を着けて「立つ」、踵を着けて「歩く」運動を体験する。</p>   |  |               |

|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体幹の筋力をつける</li> <li>・肩、肩甲帯、胸の筋力を強化する。</li> <li>・肩甲帯をリラックスさせ、手指を操作することを体験する。</li> </ul>   |  |  |
|-----------|---|--|--|
| 時 間       | 活 動 内 容   | 留意点及び支援の方法   | 評価の視点  |
| 9 : 5 0   | ①はじまりのあいさつ<br>②体幹の回旋<br><br>③股関節のROM-Ex.<br><br>④足関節のROM-Ex.<br><br>⑤オン・ハンドによる姿勢保持<br><br>⑥背筋運動（お尻挙げ）<br>⑦腹筋運動（上体起こし）<br>⑧立ち上がり練習<br>～立位保持<br><br>⑨四つ這い移動の練習<br><br>⑩歩行練習 | ③股関節の可動域を確認する。<br><b>〔人権チェックリストとの対応〕</b><br>⑤ ⑥ ⑨<br>・痛みを与えないように行う。<br>④初めは膝関節屈曲位で行い、次いで伸展位で行う。<br><b>〔人権チェックリストとの対応〕</b><br>⑤ ⑥ ⑨ ⑳<br><br>⑤オン・ハンドが難しいときはオン・エルボーで行う。<br><b>〔人権チェックリストとの対応〕</b><br>⑤ ⑥ ⑨ ㉒<br><br>⑧立ち上がりの際、股関節が内転・内旋しないようにする。<br>・足底をしっかり着けて行う。<br>・重心を前方に運べるよう、介助者の膝に手を置いて立ち上がるよう指導する。<br><b>〔人権チェックリストとの対応〕</b><br>⑤ ⑥ ⑨ ㉒<br><br>⑩踵をしっかりと着けて歩けるよう支援する。<br>・転倒に気を付ける。<br><b>〔人権チェックリストとの対応〕</b><br>⑤ ⑥ ㉒ | ②リラックスして体幹を回旋した姿勢を保持する。<br>③可動域に変化がないか確認する。<br><br>④可動域が広がっているか確認する。<br><br>⑧立ち上がりの際、股関節内転・内旋していない。<br>・立位時、足底を着ける。股関節内転内旋しない。<br><br>⑨交互交差を行っている。 |
| 1 0 : 1 5 | ⑪ペグボード差し  | ⑪肩、肘を介助し、上肢を安定させる。   | ⑪拇指と他の指が対立している。  |

|       |                         |  |             |
|-------|-------------------------|--|-------------|
|       |                         | ・回外位でペグを差すよう指導する。<br>〔人権チェックリストとの対応〕<br>⑤⑥⑨⑳ | ・回外位でペグを差す。 |
| 10:35 | ⑫おわりのあいさつ               |  |             |
| 準備物   | ・セラピーマット、いす、パーテーション、予定表 |  |             |

## ② 授業改善2回目の協議内容

- ア 左股関節は少し硬くなってきているが、足関節については従来の可動域を維持できている様に、一定の成果が見られるようになってきた。
- イ オン・ハンドなどの姿勢保持練習では持続することが困難だった。見通しが持ちにくいためかも。
- ウ 体育発表会も終わり、マラソン大会に向けてペースランニング（10分間走）が始まった。本児は懸命に走っており普段とは異なる筋肉の使い方をしていることから、変形や拘縮を押し進めないかという心配がでてきた。また、寒くなり、身体が硬くなることも心配である。
- エ 歩行・走行時、背筋をととても緊張させているので、背筋運動をしなくても良いのでは。
- オ 交互交差による四つ這い移動を獲得した。

## ③ 改善点および次の授業に向けて

- ア オン・ハンドなど姿勢保持練習では、見通しを持ちやすくするため、タイマーなどを利用する。
- イ 身体のケアを行うストレッチ中心に切替えた。
- ウ 腹筋・背筋運動を取りやめる。
- エ 四つ這い移動の練習をやめる。

## (3) 授業改善3回目

### ① 学習指導案

|               |                                |    |               |
|---------------|--------------------------------|----|---------------|
| 日時            | 平成27年10月21日(水) 9:50~10:35 第2限目 |    |               |
| 対象            | 小学部知的障害学級1年生男子                 | 場所 | 小学部知的障害学級1年教室 |
| 児童(生徒)の実態     | 授業②の指導案と同じため割愛                 |    |               |
| イメージする姿(1年後)  | 授業②の指導案と同じため割愛                 |    |               |
| 指導目標          | 授業②の指導案と同じため割愛                 |    |               |
| 活動(単元)内容の設定理由 | 授業②の指導案と同じため割愛                 |    |               |

|        |  |  |  |  |
|--------|--|--|--|--|
| 今までの評価 | 前時<br>(10/19)の評価と反省  | ・左股関節が硬くなってきているので、ROM-Ex. に時間をかけるようにする。  |  |  |
|        | 日常生活や各教科等の中での評価  | ・朝の会で股関節が内転・内旋せず、踵を付けて立ち、静止して立ち、挨拶できた。   |  |  |
| 本時の目標  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・足底を着けて「立つ」、踵を着けて「歩く」運動を体験する。</li> <li>・肩、肩甲帯、胸の筋力を強化する。</li> <li>・肩甲帯をリラックスさせ、手指を操作することを体験する。</li> </ul>   |  |  |
| 時間     | 活動内容   | 留意点及び支援の方法   | 評価の視点  |  |
| 9:50   | ①はじまりのあいさつ<br>②体幹の回旋<br><br>③股関節のROM-Ex.<br><br>④足関節のROM-Ex.<br><br>⑤オン・ハンドによる姿勢保持<br><br>⑥背筋の緊張を緩め、骨盤を矯正する<br><br>⑦立ち上がり練習～立位保持 | ③股関節の可動域を確認する。<br><b>〔人権チェックリストとの対応〕</b><br>⑤⑥⑨<br>・痛みを与えないように行う。<br>④初めは膝関節屈曲位で行い、次いで伸展位で行う。<br><b>〔人権チェックリストとの対応〕</b><br>⑤⑥⑨⑳<br>⑤タイマーを用意して見通しを持たせる。<br><b>〔人権チェックリストとの対応〕</b><br>⑤⑥㉒<br>⑥脊柱起立筋を指で圧迫して伸ばす。<br><b>〔人権チェックリストとの対応〕</b><br>⑤⑥㉒<br>⑦立ち上がりの際、股関節が内転・内旋しないようにする。<br>・足底をしっかり着けて行う。<br>・重心を前方に運べるよう、介助者の膝に手を置いて立ち上がるよう指導する。<br>・タイマーを用意して見通しを持たせる。(立位保持)<br><b>〔人権チェックリストとの対応〕</b><br>⑤⑥⑨㉒㉔ | ②リラックスして体幹を回旋した姿勢を保持する。<br>③可動域に変化がないか確認する。<br><br>④可動域が広がっているか確認する。<br><br>⑦立ち上がりの際、股関節内転・内旋していない。<br>・立位時、足底を着ける。股関節内転内旋しない。 |  |

|       |                                    |   |                                |
|-------|------------------------------------|---|--------------------------------|
|       | ⑧歩行練習                              | ⑧踵をしっかりと着けて歩けるよう支援する。<br>・転倒に気を付ける。<br>(人権チェックリストとの対応)<br>⑤⑥②②      |                                |
| 10:15 | ⑨ペグボード差し                           | ⑨肩、肘を介助し、上肢を安定させる。<br>・回外位でペグを差すよう指導する。<br>(人権チェックリストとの対応)<br>⑤⑥⑨②② | ⑨拇指と他の指が対立している。<br>・回外位でペグを差す。 |
| 10:35 | ⑩おわりのあいさつ                          |   |                                |
| 準備物   | ・セラピーマット、いす、パーテーション、予定表、タイマー、ペグボード |   |                                |

## ② 授業改善3回目の協議内容

- ア 背筋の緊張を緩めるストレッチは気持ち良さそうに受ける事ができたが、時々顔を上げて来て、ずっとリラックスしてられない。
- イ ストレッチを行っている途中に、筋力トレーニングが入っているので、順番を変えた方がよい。
- ウ 寒くなってきたため、裸足での歩行練習を中止した方が良いのでは。
- エ 体幹の筋力を付けるため、腹筋運動はやはり必要。ただし、上体起こしの様に瞬間的に筋力を使うのではなく、持続的に腹筋を緊張させる様な運動が良いのでは。

## ③ 改善点および次の授業に向けて

- ア ストレッチと筋力トレーニングの順番を入れ替える。
- イ 歩行練習を取りやめ、その分の時間をストレッチやROM-Ex. に当てる。
- ウ 腹筋運動は、持続的に腹筋を緊張させる様な課題に変える。

## 3. 結果とまとめ

1ブロックに在籍する肢体不自由を有する児童に対し、いかに効率的にかつ有効な取組を重ねていくかが課題として1年間授業改善に取り組んだ。グループのメンバーから色々と意見をいただき授業改善を行っていった結果、下肢については、足関節の可動域を維持することができた。左股関節は少し硬くなってきているが、生活面に影響がでる程度ではない。歩行時に踵が着くことが多くなり、つま先が引っかけたり転倒することはほぼなくなった。しかし走行時にはまだ、時々転

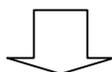


写真②：立位姿勢

倒する場面が見られるので、今後の課題であると考えている。立位姿勢では、踵をつけて立ち、静止できる時間が長くなった（写真②）。上肢については、肩甲帯を緊張させることなく、少しずつ手指を遠い位置で使うことができるようになってきている。また、スプーンも指先を使って持ち、手首の運動も用いて使えるようになってきた（写真③④）。



写真③：入学当初のスプーンの使い方



写真④：2学期末頃のスプーンの使い方

また、人権の視点からいうと、自立活動の目標は「障害による生活上、学習上の困難を克服する」である。仮に、障害により、生活や学習をする上で困難が生じるのであれば、それは十分その人の人権が侵害されていることになる。その困難を克服することが自立活動の目標であるから、「自立活動」という領域は子どもの人権を回復する領域であると考えられる。今回の取組は、上肢、下肢の身体の機能を改善することを目標にしているが、「(転倒の危険性を減じ)友達と一緒に遊びたい。」「楽しく、おいしく給食を食べたい。」そんな子どもの願いの実現を目指した。

自立活動は各教科、領域と関連させながら、子どもの現在の障害の状態と将来起こりうるであろう「生活上、学習上の困難」を予測し、克服するための中心的、根本的課題に取り組む領域であり、子どもが豊かな生活、言い換えれば、人権が保障された生活を送ることができるようにする取組であると考えている。

「もっとやりたい！」

～指で伝える私の思い～

## 1. はじめに

愛徳分教室は、愛徳医療福祉センター(以下、センター)内にある紀北支援学校の分教室である。小学部、中学部があり、現在小学部には8名、中学部には5名の児童生徒が在籍している(平成28年1月1日現在)。また、それぞれの学部には、肢体不自由普通学級と肢体不自由重複学級が設けられている。

今回、授業改善の対象児童は、小学部肢体不自由重複学級に在籍している5年生の女子児童である。本児は、気管切開を行っており、常時パルスオキシメーターを使用し、SpO<sub>2</sub>の数値が低くなったり分泌物が溜まったりした際にはセンターに戻って吸引してもらうなど、センターと連携しながら学校生活を送っている(詳しい実態については指導案参照)。健康状態が安定している時には、友達が取り組んでいる活動に「私もやりたい」という表情で教師と視線を合わせたり、好きな活動に満面の笑みを浮かべながら楽しんだりしている。昨年度の半ばから、朝の挨拶で、自分から手を動かして教師の指に触れようとする姿が見られるようになったこともあり、この指の動きで、自分の思いを伝えられないだろうか、伝えられることで意欲や活動の幅も広がるのではないかと考え、自立活動で取り組むことにした。

## 2. 授業改善

### (1) 授業改善1回目

#### ① 学習指導案1

| 日 時          | 平成27年7月28日(火) 13:30~14:10 第5限目  |     |           |
|--------------|---|-----|-----------|
| 対 象          | 愛徳分教室小学部重複学級5年女子  | 場 所 | 愛徳分教室小B教室 |
| 児童(生徒)の実態    | 両上肢機能・両下肢機能障害、肘の屈曲拘縮、手指の欠損がある。排泄(オムツ使用)、更衣、移動(座位保持装置使用)、生活全般において全介助を要する。気管切開をしており、パルスオキシメーターを常時使用している。分泌物が溜まっている音がしたり人工鼻に痰が溜まったりした時には、センターの看護師に吸引や人工鼻の交換をしてもらっている。食事、水分は胃ろう注入である。身体面では、仰臥位で足を使って方向転換したり、側臥位になったりすることができる。調子のいいときは、親指と人差し指に筆や写真を持ち、描いたり、左右に動かしたりする。コミュニケーション面では、快・不快を表情で表し、暑さを感じたときや痰が溜まったとき、また自分の思いと違うときなどは、怒って手足を激しく動かしたり、涙を流してしんどさを伝えたりする。教師の「～したい?」という誘いかけの言葉に、視線を合わせたり腕を動かしたりして「やりたい」という思いを伝えている。昨年度11月頃から、朝の会の挨拶の中で、教師の「おはよう」の言葉とともに本児の手に触れると、本児も腕や指を動かして教師の手に触れる姿が見られるようになった。今年4月末に眼鏡を作り、朝の会や読み聞かせ、映像を視聴する場面で装着している。裸眼時でも興味あるものを注視、追視するが、眼鏡を装着することで、見ようとする場面が増している。 |     |           |
| イメージする姿(1年後) | 大人からの誘いかけに対し、相手の手(指)に触れることで自分の「～したい」気持ちを持ちを伝えられる。   |     |           |

|  |  |  |                     |
|--|--|--|---------------------|
| 指導目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な活動を体験するなかで、興味・関心を広げ、人や物をしっかり見たりかかわろうとしたりする。</li> <li>・楽しい経験を積み、「もっと～したい」という気持ちを膨らませ、その思いを表情や身体の動きで伝える。</li> <li>・身体を動かして、自分の力で排痰する。</li> </ul>  |  |                     |
| 活動（単元）内容の設定理由  | <p>学校生活の様々な場面で、人や物を注視・追視する姿が見られるようになり、友達が楽しそうに活動する姿に、「自分もしたい」「次は自分」と期待の表情で見つめていることも多い。活動に取り組んだ後には、「もう1回する？」という誘いかけに視線を合わせたり腕を動かしたりして「もう1回」を伝えている。その際、教師が手を差し出し、この手に触れることで気持ちを伝えられるように取り組んでいるが、本児から主体的に手が出ることは少なく、教師が本児の腕や指に手を添えて、「もう1回（やって）」を伝えている。本児の興味・関心のある教材教具を準備し、楽しさを実感するなかで「～したい」気持ちを引き出し、相手と手を触れ合わせることでその思いを伝える、というコミュニケーション手段の獲得につなげたいと考えた。</p> |  |                     |
| 今までの評価   | 前時（6/30）の評価と反省   | <p>セラピーボールでの活動では、笑顔いっぱい揺れを楽しむことができ、途中で活動を止めたときには、激しく腕を振って「楽しかった」「もう1回したい」という思いを身体全体で伝えていた。教師の「もう1回する？」の誘いかけとともに差し出した指に、自分から触れにくる姿も見られた。本児から発信された動きをその都度評価し、伝わる喜びを味わい、＜教師の指に触れる＝「もう1回」＞と意識し、伝えられるよう取り組んでいきたい。</p>   |                     |
|  | 日常生活や各教科等の中での評価  | <p>自分がしたい活動には、教師の顔をじっと見て「やりたい」という気持ちを伝えている。教師が手を差し出して「やってみる？」と誘いかけると期待の表情を表すが、すぐに自分から教師の手に触れることは少ない。その際、本児の手を前または後方から介助し、「やりたい」の言葉を言いながら指に触れると、教師の支援に続いて自ら教師の手に触れることが増えた。</p>  |                     |
| 本時の目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいあそびや揺れあそび、楽器あそびなどを体験するなかで、興味・関心を広げ、人や物をしっかり見たりかかわろうとしたりする。</li> <li>・セラピーボールでの活動で、「もう1回する？」と聞かれた時に教師の指にタッチすることができる。</li> </ul>   |  |                     |
| 時間   | 活動内容   | 留意点及び支援の方法   | 評価の視点               |
| 13:30  | <p>はじまりのあいさつをする</p> <p><b>活動①</b></p> <p>ふれあいあそび</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラッシング体操をする ※1</li> <li>・もみもみマッサージをする ※2</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視線を合わせ、始まりを意識できるように言う。</li> <li>・歌に合わせてながら楽しい雰囲気的活動できるようにする。</li> </ul> <p>〔 人権チェックリストとの対応 〕<br/>⑧ ⑭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・触れる部位を伝えたり意識しやすいようにタッピングしたりする。</li> </ul> <p>〔 人権チェックリストとの対応 〕<br/>⑮ ⑯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体操やマッサージでしっかりかかわりリラックスできるようにする。</li> </ul> | <p>身体や表情で楽しさを表す</p> |
| <p>※1「ブラッシング体操：西村圭也氏・大前洋介氏作詞作曲<br/>※2「もみもみマッサージ」：新沢としひこ氏作詞作曲教材参考</p> |  |  |                     |

|                |   |  |  |
|----------------|---|--|--|
| <p>14 : 10</p> | <p><b>活動②</b><br/>セラピーボールで揺れあそびをする<br/>*活動の途中で「もう1回、する？」の誘いかけをする<br/>教師の指に触れて活動したい気持ちを伝える</p> <p><b>活動③</b><br/>絵本、鈴、タッチベル、太鼓の中から好きなものを選び、活動する</p> <p>終わりのあいさつをする</p> | <p>〔 人権チェックリストとの対応 〕<br/>⑭ ⑯</p> <p>・セラピーボールで変化のある揺れを感じられるようにする。</p> <p>〔 人権チェックリストとの対応 〕<br/>⑭</p> <p>・〈教師の指に触れる〉＝「もう1回」の理解を促す。</p> <p>〔 人権チェックリストとの対応 〕<br/>⑱ ㉑ ㉒</p> <p>・手で操作しやすいように起立台に立つ。</p> <p>〔 人権チェックリストとの対応 〕<br/>④</p> <p>・絵本や楽器など手元で操作できるものを準備する。</p> <p>〔 人権チェックリストとの対応 〕<br/>⑳</p> <p>・表情や呼吸音に留意し、しんどそうにしているときは、呼吸に合わせて胸部に触れる。</p> <p>〔 人権チェックリストとの対応 〕<br/>㉒</p> <p>・視線を合わせ、終わりを意識できるように言う。</p> | <p>教師の誘いかけに対し</p> <p>〔 ・視線を合わせる<br/>・指に触れる</p> <p>視線や手の動きで遊びたいものを選ぶ</p> <p>見たり操作したりできる</p> |
| <p>準備物</p>     | <p>マット、CD『ブラッシング体操』『もみもみマッサージ』、デッキ、ブラシ、セラピーボール、長下肢装具、起立台、絵本、鈴、タッチベル、太鼓</p>  |  |  |

## ② 授業改善1回目の協議内容

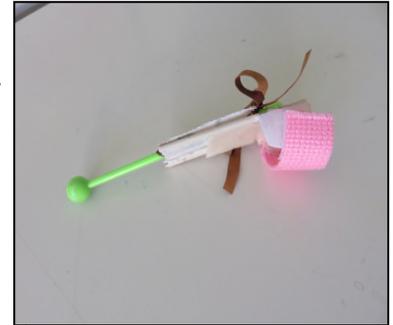
### ア 本時の目標について

- ・活動①の体操等では、身体を大きく動かして楽しさを表したり、教師と視線を合わせたりし、笑顔で取り組むことができた。
- ・活動②では、セラピーボールの大きな揺れに嬉しそうな表情を浮かべていた。活動終了後に「もう1回する？」と誘いかけると、教師の差し出した指に自分から触れる姿も見られた。〈教師の指に触れる〉＝「もう1回」が、より確実なものとなるよう取組を重ねる。
- ・教師の手に触れる場面では、左手だけでなく、右手も動かしていた。

- ・指導目標や本時の目標について、具体的に書いた方が支援の方法、評価の視点等が明確になるのではないか。

イ 指導内容について

- ・「もう1回」と本児が教師の指に触れたら、時間を空けず、すぐにセラピーボールでの活動を始めの方がよい。
- ・立位姿勢をとりながら、手で操作するのは難しかった。次回より座位保持装置で取り組む。
- ・選択肢（絵本、鈴、タッチベル、太鼓）が多い。
- ・視線での「選択」について、具体的にどう見るのか。  
→興味あるものを注視している
- ・太鼓用のバチを差した自助具は、どうしたのか。  
→訓練のOT、PTの先生方が作製
- ・留意点のなかに、「〈教師の指に触れる〉＝「もう1回」の理解を促す」とあるが、具体的な支援の方法を書いた方がいいのではないか。



手の自助具と太鼓用バチ

ウ 評価の視点について

- ・選択場面で、「視線」で選択することについて、どのように見ることなのか、具体的な視点が必要ではないか。



吊り下げ式の鈴

③ 改善点及び次の授業に向けて

- ア 指導目標、本時の目標や評価の視点(活動①の「楽しさ」や活動③の「視線」での選択)については、より具体的に記す。
- イ 活動③は、座位保持装置に座って活動する。選択肢は、2つにし、眼鏡を装着する。
- ・留意点「〈教師の指に触れる〉＝「もう1回」の理解を促す」を変更。  
→〈教師の指に触れる〉＝「もう1回」ができたときには、しっかり評価し、その経験を積み重ねられるようにする。

(2) 授業改善2回目

① 学習指導案2

児童の実態、イメージする姿(1年後)、活動(単元)内容の設定理由については、上記の学習指導案1と同じであるため省略する。

|      |   |    |           |
|------|---|----|-----------|
| 日時   | 平成27年9月25日(火) 13:30~14:10 第5限目  |    |           |
| 対象   | 愛徳分教室小学部重複学級5年女子  | 場所 | 愛徳分教室小B教室 |
| 指導目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な活動を体験するなかで、興味・関心を広げ、人と視線を合わせたり、物を注視・追視したりできることを増やし、自分から人や物に手を伸ばしかかわろうとする。</li> </ul> |    |           |

|  |   |  |                     |  |
|--|---|--|---------------------|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「もっと～したい」という気持ちを教師の手(指)に触れて伝える。</li> <li>・身体を動かして、自分の力で排痰する。</li> </ul>   |  |                     |  |
| 今までの評価   | 前時(9/18)の評価と反省  | <p>ふれあいあそびでは、身体を大きく動かして楽しさを表したり、笑顔で教師と視線を合わせたりできた。セラピーボールでの活動も、大きな揺れに嬉しそうな表情を浮かべ、1回目の活動終了後に「もう1回する?」と誘いかけたときには、教師の差し出した指に自分から指で触れ「もう1回したい」という思いを主体的に伝えることができた。2回目、3回目の活動後も「もう1回する?」の誘いかけに、教師の指に触れていた。&lt;教師の指に触れる＝「もう1回」&gt;と意識できつつあるので、伝わる経験を積み重ね、より確かな伝達手段となるよう取り組んでいきたい。</p>  |                     |  |
|  | 日常生活や各教科等での評価   | <p>自分がしたい活動には、教師の顔を注視し「やりたい」という気持ちを伝え、教師が指を差し出して「やってみる?」と誘いかけると期待の表情を表している。すぐに自分から教師の指に触れることはまだ少ないが、教師の支援(本児の手を前または後方から介助)に続いて自ら教師の指に触れることが増えてきた。</p>  |                     |  |
| 本時の目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいあそびや揺れあそび、楽器あそびなどを体験するなかで、人と視線を合わせたり、物を注視・追視したりできることを増やし、自分から人や物に手を伸ばしかかわろうとする。</li> <li>・セラピーボールでの活動で、「もう1回する?」と聞かれた時に教師の指にタッチすることができる。</li> </ul> |  |                     |  |
| 時間   | 活動内容  | 留意点及び支援の方法   | 評価の視点               |  |
| 13:30  | <p>はじまりのあいさつをする</p> <p><b>活動①</b><br/>ふれあいあそび</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラッシング体操をする ※1</li> <li>・もみもみマッサージをする ※2</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視線を合わせ、始まりを意識できるように言う。</li> <li>・歌に合わせてながら楽しい雰囲気の中で活動できるようにする。</li> </ul> <p>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>⑧ ⑭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・触れる部位を伝えたり意識しやすいようにタッピングしたりする。</li> </ul> <p>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>⑮ ⑯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体操やマッサージでしっかりかわりリラックスできるようにする。</li> </ul> <p>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>⑭ ⑳</p> | <p>身体や表情で楽しさを表す</p> |  |
| <p>※1「ブラッシング体操：西村圭也氏・大前洋介氏作詞作曲<br/>※2「もみもみマッサージ」：新沢としひこ氏作詞作曲教材参考</p> | <p><b>活動②</b><br/>セラピーボールで揺れあそびをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*活動の途中で「もう1回、する?」の誘いかけをする</li> <li>教師の指に触れて活動したい気持ちを伝える</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・セラピーボールで変化のある揺れを感じられるようにする。</li> </ul> <p>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>⑭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・&lt;教師の指に触れる&gt;＝「もう1回」の理解を促す。</li> </ul>  |                     | <p>教師の誘いかけに対し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視線を合わせる</li> <li>・指に触れる</li> </ul> |

|  |  |   |   |
|--|--|---|---|
| <p>活動③<br/>鈴・タッチベル、太鼓の中から好きなものを選び、活動する</p> | <p>14:10<br/>おわりのあいさつをする</p>   | <p>〔 人権チェックリストとの対応 〕<br/>⑱ ㉑ ㉒</p> <p>・座位保持装置に座る。<br/>〔 人権チェックリストとの対応 〕<br/>④</p> <p>・眼鏡を装着する。<br/>〔 人権チェックリストとの対応 〕<br/>④</p> <p>・見やすい位置で楽器を提示し、好みの楽器を選べるよう言葉かけをする。<br/>〔 人権チェックリストとの対応 〕<br/>㉓ ㉔</p> <p>・表情や呼吸音に留意し、しんどそうにしているときは、呼吸に合わせて胸部に触れる。<br/>〔 人権チェックリストとの対応 〕<br/>㉕</p> <p>・視線を合わせ、終わりを意識できるように言う。</p> | <p>視線や手の動きで遊びたいものを選ぶ</p> <p>見たり操作したりできる</p> |
| <p>準備物</p>                                 | <p>マット、CD『ブラッシング体操』『もみもみマッサージ』、デッキ、ブラシ、セラピーボール、長下肢装具、起立台、絵本、鈴、タッチベル、太鼓</p> |   |   |

② 授業改善2回目（武田先生の講評から）

武田鉄郎先生に授業を見て頂いたあと、講評を頂いた（愛徳分教室は、移動に時間を要するため、1-②のように改善した自立活動を事前に撮影し、ビデオで見て頂いた）。

武田先生からは、笑顔で活動する姿が多く、いろいろな場面で手が出たり腕・脚の動きや視線など本児なりの合図を出したりして要求を伝えようとしていることや選択する場面で、注視して「選択、決定ができていた」などの講評を頂いた。また、武田鉄郎先生の『子どもたちがわかる、主体的に活動できる、自尊感情を育てる授業とは』の講演のなかで、「自己選択・自己決定は全ての基本」であり、今回の学習のなかで本児は「選択、決定ができていた」という助言を頂き、これまで大切に取り組んできた活動設定、支援などを再確認することができた。

今後も、身体的な制限がある本児から発信される様々なサインを見逃さないようにし、本児の思いを受け止められるよう心がけたい。

(3) 授業改善3回目

① 学習指導案3

児童の実態、イメージする姿(1年後)、活動(単元)内容の設定理由、指導目標については、上記の学習指導案2と同じであるため省略する。

| 日時     | 平成27年11月6日(金) 13:30~14:10 第5限目  |  |                                  |
|--------|---|--|----------------------------------|
| 対象     | 愛徳分教室小学部重複学級5年女子  | 場所   | 愛徳分教室小B教室                        |
| 今までの評価 | 前時(10/31)の評価と反省   | <ul style="list-style-type: none"> <li>もみもみマッサージでは、特に笑顔が多く、身体も大きく動かして楽しさを伝えていた。教師と視線を合わせることも多かった。</li> <li>セラピーボールでの活動では、大きな揺れに嬉しそうな表情を浮かべ、活動終了後に「もう1回する?」と誘いかけたときには、教師の差し出した手に自ら指で触れ、「もう1回したい」という思いを主体的に伝えることができた(1回目、2回目)。3度目は、本児からの主体的なかかわりは無く、また教師が手を添えるなどの介助をするなどして、意思表示を待ったが、出なかった。このとき、本児が「セラピーボールでの活動をしたい」という教師側の考えがあり、教師が本児の手を介助して「もう1回」の言葉かけをし、3度目も行った。しかし、本児の〈やらない・終わり〉という思いも考えられるので、指の動きが出ないときには、視線や表情をよく見て気持ちに寄り添えるような言葉かけを行い、揺れあそびを終えるのもひとつの方法であると考えた。抱っこ姿勢について、本児の右手も動かしやすいよう抱き方に留意する。</li> <li>楽器あそびでは、注視して好みの楽器(鈴)を選び、振って鳴らしたり、時おり手元に視線を向けたりしながら操作していた。後半、眠そうな表情になっていたので、覚醒して取り組めるよう、ふれあいあそびを終えてから楽器あそびを行うようにする。</li> </ul> |                                  |
|        | 日常生活や各教科等の中での評価   | 朝の会の挨拶では、両腕を大きく動かして教師の手に触れる姿も見られるようになった。表現活動(おはなし)の見立て活動では、「やりたい人?」の誘いかけとともに教師が手を差し出すと、本児自ら腕や指を動かして「やりたい」ことを伝えることが増えた。伝達手段として、手を動かす場面が増えたとともに、机上に置いたスイッチを押したり、自助具に付けた絵の具筆で線を描いたりなど、自主的に手や指で操作することも多くなってきた。   |                                  |
| 本時の目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあいあそびや揺れあそび、楽器あそびなどを体験するなかで、人と視線を合わせたり、物を注視・追視したりできることを増やし、自分から人や物に手を伸ばしかかろうとする。</li> <li>セラピーボールでの活動で、「もう1回する?」と聞かれた時に教師の指にタッチして「やりたい」気持ちを伝えることができる。</li> </ul> |  |                                  |
| 時間     | 活動内容  | 留意点及び支援の方法   | 評価の視点                            |
| 13:30  | はじまりのあいさつをする<br>活動①<br>ふれあいあそび<br>・ブラッシング体操をする ※1<br>・もみもみマッサージをする ※2   | <ul style="list-style-type: none"> <li>視線を合わせ、始まりを意識できるように言う。</li> <li>歌に合わせてながら楽しい雰囲気の中で活動できるようにする。</li> <li>【人権チェックリストとの対応】<br/>⑧ ⑭</li> <li>体操やマッサージでしっかりかかわりリラックスできるようにする。</li> </ul>  | 教師と視線を合わせる<br><br>手足を動かしたり嬉しそうな表 |

※1「ブラッシング体操」：西村圭也氏・大前洋介氏作詞作曲  
 ※2「もみもみマッサージ」：新沢としひこ氏作詞作曲教材参考

活動②

鈴・タッチベル、太鼓の中から好きなものを選び、活動する

〔 人権チェックリストとの対応 〕  
 ⑭ ⑳

・触れる部位を伝えたり意識しやすいようにタッピングしたりする。

〔 人権チェックリストとの対応 〕  
 ⑮ ⑰

・座位保持装置に座る。

〔 人権チェックリストとの対応 〕  
 ④

・眼鏡を装着する。

〔 人権チェックリストとの対応 〕  
 ④

・見やすい位置で楽器を提示し、好みの楽器を選べるよう言葉かけをする。

〔 人権チェックリストとの対応 〕  
 ㉕ ㉖

・パチがつかみにくい場合は自助具を使用する。

〔 人権チェックリストとの対応 〕  
 ㉒

・表情や呼吸音に留意し、つらそうにしているときは、呼吸に合わせて胸部に触れる。

〔 人権チェックリストとの対応 〕  
 ㉒

活動③

セラピーボールで揺れあそびをする

\*活動の途中で「もう1回、する？」の誘いかけをする

教師の指に触れて活動したい気持ちを伝える

・セラピーボールで変化のある揺れを感じられるようにする。

〔 人権チェックリストとの対応 〕  
 ⑭

・本児の手の位置に合わせて、教師の手を差し出す。

〔 人権チェックリストとの対応 〕  
 ⑰ ㉒ ㉖

・本児から手が出たときには、すぐに揺れあそびを始める。

〔 人権チェックリストとの対応 〕  
 ㉔

・〈教師の指に触れる〉＝「もう1回」

情を浮かべたりして楽しさを表す

しっかり注視して遊びたいものを選ぶ

手元を注視・追視したり左手で楽器を鳴らしたりできる

教師の言葉かけに視線を合わせる

教師の手に左指で触れて「もう1回」を伝える

|       |   |   |  |
|-------|---|---|--|
| 14:10 | おわりのあいさつをする   | <p>ができたときには、しっかり評価し、その経験を積み重ねられるようにする。</p> <p>〔 人権チェックリストとの対応 〕<br/> ⑱ ㉑ ㉔</p> <p>・視線を合わせ、終わりを意識できるように言う。</p> |  |
| 準備物   | マット、CD『ブラッシング体操』『もみもみマッサージ』、デッキ、ブラシ、セラピーボール、眼鏡、鈴、タッチベル、太鼓 |   |  |

## ② 授業改善3回目の協議内容

### ア 本時の目標について

- ・活動②では、注視して太鼓、または鈴を選び、自助具も使用しながら楽器を鳴らすことができた。
- ・選択では、今回は右の方ばかりを選んでいった。(注視)
- ・活動③では、セラピーボールでの揺れあそびで、「もう1回する？」の誘いかけに、教師の指に触れて「もう1回」を伝えることができた。
- ・「もう1回したい」と「指に触れる」が、繋がってきている。他の授業でも活かしている。
- ・表情や身体の動きもたくさん出すようになってきた。
- ・教師の顔をよく見るようになった。
- ・本時の目標は、達成できていた。

### イ 指導内容について

- ・活動内容の順番を入れ替えたことで、しっかり目覚めたなかで、自己選択、自己決定できた。(活動②)
- ・教師が、次の活動の準備をしている様子もよく見ていた。教師の姿を注視することで見通しも持っていたのでは。
- ・重度の児童には、覚醒できる内容を考えることも重要である。

## ③ 改善点及び次の授業に向けて

### ア 活動②で、視線で選択したときに、対象物を指で触れてみる。

選択肢は、鈴とビー玉転がし絵を設定する。

視線に留意しながら、左右交互に選択肢を提示する。

### イ 活動内容は、動→静→動で組み立てる。

#### 4. まとめ

授業改善を進めるにあたって、まず本児の実態について説明し、グループ内で共通理解を図ったあと、ビデオで授業を振り返りながら研修を深めていった。3回の授業改善のなかで、指導目標の具体化、選択場面や提示する教材の精選・提示の仕方、児童同士がかかわり合えるような教師の言葉かけ、身体面に合わせた授業内容など、実態や支援方法、学習環境など照らし合わせたり見直したりして自立活動で取り組んでいった。このような取組を重ねるなかで、セラピーボールでの活動後の誘いかけに「もう1回」とすぐに教師の指に触れることも増え、時には言葉かけの途中で指に触れて自分の思いを伝えようとするなど、指導目標が達成できてきた。そして自立活動の時間だけでなく学校生活の様々な活動において、注視・追視することがさらに増え、揺れあそびなどで「もっと～したい」思いを教師の手に触れて伝えることが多くなり、手や腕を大きく動かす姿も見られるようになった。

人権研究については、授業後に〈人権が尊重された授業づくりのためのチェックリスト〉で振り返ると、評価の基準や観点・評価方法、活動に応じた環境設定、授業内容のわかりやすさの項目などでも改善できている結果となっていた。今回、あえて〈人権が尊重された授業づくりのためのチェックリスト〉を意識せずに、自立活動の授業をいかに改善するかに取り組んだが、この結果から、児童の実態や取り組む姿から活動内容、留意事項・支援点など改善しながら授業を進めていくことは、人権も尊重された授業となっていることも確認することができたと考える。

今後も、子どもの実態把握を的確に行い、培いたい力を見極め、「もっと～したい」という意欲や「わかった」「できた」という達成感を感じ、学んでいけるような授業づくりに取り組んでいきたい。

#### 「コミュニケーションの力を高めるために」

##### ～話し方、関わり方、言葉を意識していく指導～

#### 1. はじめに

本校中学部の生徒は、人との関わりに課題のある生徒が多く、自立活動の区分の中でもコミュニケーションや人間関係の形成の項目を扱っている割合が高い。その中でも、言葉で伝える力はあるが、相手の状況に応じて伝えることが難しい生徒や伝える内容をうまく整理できていないために、自分の思いを十分に伝えきれない生徒もおり、もどかしさを感じている生徒もいる。

今回対象とした生徒は、本校に中学部から入学した生徒で、日常生活では簡単な会話ができ、会話を楽しむことができるが、コミュニケーションの区分では、③言語の形成と活用に関するこ

と、⑤状況に応じたコミュニケーションに関すること、そして人間関係の形成の区分では、②他者の意図や感情の理解に関すること、③自己の理解と行動の調整に関することの項目に課題があると考える。これらの課題は、他の中学部の生徒にも共通性の高い課題でもあり、この研究を通して、他のコミュニケーションにおける教育的ニーズのある生徒に対しても、指導・支援の在り方をひろげていくことができるのではないかと考え、本生徒を対象とした。

## 2. 授業改善

### (1) 授業改善1回目

#### ① 第1回目学習指導案

|                       |  |  |           |
|-----------------------|--|--|-----------|
| 日 時                   | 平成27年6月25日(木) 9:50~10:25 第2限目  |  |           |
| 対 象                   | 中学部知的障害学級2年生男子   | 場 所  | 中学部2年3組教室 |
| 生徒の実態                 | <p>本生徒は、人なつこく、普段は友達と仲良く遊ぶことができ、相手が嫌がることをすることもトラブルを起こすこともほとんどない。基本的な日常会話はでき、冗談を言い合ったり、会話を楽しんだりできる。しかし、自分より障害の重い友達に対しては、あたかも教師が指導しているかのような言動が見られる。また、何かを説明する時には思いつくままに話したり、ポイントを絞らずに話したりする傾向がみられ、相手に伝わりづらいことがある。助詞の選択を間違えることもある。</p>   |  |           |
| イメージする姿<br>(1年後)      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの友達にも適切な関わり方ができる。</li> <li>・分かりやすく人に伝えるポイントを意識して話す。</li> </ul>  |  |           |
| 指導目標                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とより適切に関わることができる。</li> <li>・助詞を正しく選択し、使えるようになる。</li> <li>・言葉の選択、話す順序によって、伝わりやすくなることを理解する。</li> </ul>  |  |           |
| 活動(単元)内容<br>の設定理由     | <p>本生徒には悪気がないものの、障害の重い友達に対する態度が他の友達へのものとは違うことがあり、そのことについて友達同士は対等な関係だということをまず理解してもらいたいと考えた。そのために関わり方の良い場合、悪い場合を具体的に考えたり、その時の友達の気持ちを考えたりする機会を作ることとした。この取組を通して、本生徒が無意識に行っている様々な行動を、振り返るきっかけとし、その後は生徒が自分で気づいて改善していけるようにと考えて、この単元を設定した。</p> <p>また、相手に自分の考えや気持ちを少しでもうまく伝えるためには、自分の体験したことや具体物を様々な言葉をうまく使って表現する練習も必要だと感じている。そこで、自分の昨日の夕飯の一品について、メニュー名を言わずに別の言葉で説明をする活動を入れる事で、擬態語、擬音語、名詞等を多く使用しなければならない状況をつくり、自然と様々な言葉を使うことに慣れてほしいと考え、『説明クイズ』の取組も組み合わせることとした。</p> |  |           |
| 今<br>ま<br>で<br>の<br>評 | 前時(6/19)の評<br>価と反省   | <p>クラスの友達と自分自身の良い所、頑張っている所を考えて、書くことができた。自分自身のことについては少し時間がかかっていたが、友達のことはスラスラ書けていて、普段からよく見ていることが分かった。助詞のプリントは10問中1問不正解だった。説明クイズはルールを理解できずにいたので、ルールを紙面等で提示する必要があった。</p> |           |

|           |   |   |   |  |
|-----------|---|---|---|--|
| 価         | 日常生活や各教科等の中での評価   | 特になし  |   |  |
| 本時の目標     |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達との関わり方について良い場合、悪い場合を考える。</li> <li>・文に応じた助詞を書く。</li> <li>・相手に伝わるように説明をする。</li> </ul>   |   |  |
| 時 間       | 活 動 内 容   | 留意点及び支援の方法  | 評価の視点   |  |
| 9 : 5 0   | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. はじまりのあいさつをする。</li> <li>2. 今日の予定を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①学校での過ごし方</li> <li>②話し方</li> </ul> </li> <li>3. 学校での過ごし方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート(図1)を用いて、友達との関わり方で、良い場合、悪い場合を考える。</li> <li>・それぞれの時の友達の気持ちを考える。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習内容を伝えて、見通しをもてるようにする。</li> </ul> <p>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>⑮</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの場合を考えることができたか。</li> <li>・それぞれの気持ちを考えることができたか。</li> </ul> |  |
| 1 0 : 0 5 | <ul style="list-style-type: none"> <li>4. 話し方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・助詞のワークシートをする。</li> <li>・説明クイズについて知る。<br/>*ルール* <ul style="list-style-type: none"> <li>①昨日の夕飯の中の一品について相手に伝える。</li> <li>②その名前を言わずに別の言葉で説明する。</li> </ul> </li> <li>・教師の見本を聞いて、クイズに答える。</li> </ul> </li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちを考えることで、適切な関わり方がどちらなのかをより意識できるように繋げる。</li> </ul> <p>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>⑯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間違ったところは文章の意味を具体的に想像するように促す。</li> <li>・ルールはプリントにまとめて提示することで、理解できるようにする。</li> </ul> <p>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>⑬</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色んなポイントから説明することで、分かりやすく伝わる見本を提示できるようにする。</li> </ul> <p>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>⑳</p> |   |  |

|         |   |   |   |
|---------|---|---|---|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明クイズをする。</li> <li>・感想を書く。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズの始めに、今から何について説明するのかをまずプリントに書くことで意識できるようにする。</li> <li>・説明が少ない場合は、もう少しヒントを出すように伝える。</li> </ul> <p style="text-align: center;">【人権チェックリストとの対応】<br/>②③</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に分かりやすく説明できたか。</li> </ul> |
| 10 : 25 | 5. おわりのあいさつをする。   |   |   |
| 準備物     | ワークシート2枚（学校での過ごし方②、助詞）、説明クイズのルール等   |   |   |

## ② 本時の評価

関わり方の良い場合を『話し合いや友達と遊ぶ』と書き、その時の気持ちは「嬉しい、楽しい」と考えた。関わり方の悪い場合を『友達と遊ばん、約束やぶる、いじめる』と書き、その時の気持ちは「いや、悲しい」と考えていて、一般的な善悪については理解していることがわかった。説明クイズは、説明のポイントのヒントを参考にしながら自分の食べたものを説明していた。しかしどのように説明してよいのか悩む様子が多く見られた。

## ③ 協議の内容と支援の改善点

ア 指導目標の『どの友達にも適切な関わり方ができる。』の部分で、どのような関わりを適切と捉えるのかを考えておく必要があるのではないかと。また具体的な場面を絞って関わり方を考えていってはどうか。

⇒生徒の実態が変化してきて、課題と捉えていた教師のような言動が減ってきているので、自立活動で取り上げる必要がないと判断した。これ以外の人との関わり部分で『人と関わる際に距離が近い』という実態があるので、この部分を学習していけるように、単元を計画していく。その学習を始める前に本人の考えを聞くことで、学習前の実態を把握できたり、人との距離に意識を向けることで学習が効果的に進められたりするのではないかと確認した。

イ 助詞のプリントについては、日常生活の中で生徒が間違っていた使い方の文を問題に取り入れてみてはどうか。

⇒自立活動の授業として取り上げる内容が多いため、助詞については課題別学習の国語の授業を中心に学習をすすめることにした。

ウ 説明クイズについては、楽しい雰囲気を取り組んでいたが、もう少しポイントを絞って

提示したり、ワークシート等を活用して具体的に整理して書き出したりするのはどうか。  
 ⇒悩んでいた様子も見られたので、分かりやすく伝えるためのポイントを意識するために  
 ワークシートを活用し、文章に書いてまとめることを取り入れるようにする。

(2) 授業改善 2 回目

① 第 2 回目学習指導案

|                    |  |     |               |
|--------------------|--|-----|---------------|
| 日 時                | 平成 27 年 10 月 19 日 (月) 9 : 50 ~ 10 : 25 第 2 限目  |     |               |
| 対 象                | 中学部知的障害学級 2 年生男子   | 場 所 | 中学部 2 年 3 組教室 |
| 生徒の実態              | <p>基本的な日常会話はできる。分からないこと等があると自分から質問出来たり、冗談や日常会話を楽しんだりできる。しかし授業等で前に出て発表する時に、じっと立ち止まって話さず、話をし始めるとフラフラと身体を動かしながら話すことが多い。人に何かを説明する時、思いつくままに話したり、ポイントを絞らず話したり、言葉が少なかったりすることがあり、相手に伝わりづらいことがある。また考えながら話すことで視線が上の方を向くことが多い。相手が大勢になると、その人たちを見て話す意識はまだない。一対一で向き合っている時は、相手の顔を見て話せることもある。話す時は人との距離感が近く、母親や担任 (男女問わず)、友達 (男子) 等の親しい人と接する際に距離や自分の年齢を気にせず肩を組んだり、膝に乗ろうとしたりして甘える行動が多い。</p>  |     |               |
| イメージする姿<br>(1 年後)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と話す時の距離を意識して話す。</li> <li>・分かりやすく人に伝えるポイントを意識して話す。</li> </ul>  |     |               |
| 指導目標               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と話す時の適切な声の大きさ・立ち方・視線の向き・距離を知り、意識して話すことができる。</li> <li>・言葉の選択の違いで、相手に伝わりやすくなることを理解する。</li> </ul>  |     |               |
| 活動 (単元)<br>内容の設定理由 | <p>生徒の実態から、基本的な日常会話はできるが、人とコミュニケーションをとる上で大切になるポイント (声の大きさ・立ち方・視線の向き・距離) への意識が低い。そのことを少しでも意識できるように『かつこいい話し方・接し方』の単元を設定した。まず学習前に本人の思う『かつこいい話し方・接し方』を考える機会をもつことで、今後の学習への意識をもてたり、学習前の考えを把握できたりすると考えた。学習をすすめる際は、動画でそれぞれのポイントの適切な場合また不適切な場合を見比べながら行うことで、より実感できるようにする。全て学習した後は、客観的に自分の行動を見る機会として、自分の話している動画を見て振り返り、改善点に自分で気付くことで、より般化に繋げられるようにしたいと考えた。</p> <p>また様々な言葉を多く使って、自分の体験したことや意思を明確に相手に伝えることができるようになってほしいという思いから、『説明クイズ』の単元を設定した。頭の中で考えるだけでなく、どのような言葉を使用すれば相手に伝わりやすいかをしっかりと意識できるように、まずはワークシートに記入しながら考えるようにする。徐々にワークシートに記入しなくても相手に説明できるようにしていきたい。</p> <p>またクイズの内容を夕飯の内容からお店や場所等に変更していくことで、様々な内容を分かりやすく伝えることができるようにしたいと考えた。日常生活の中でも詳しく説明することを教師が意識して生徒に求めることで、多くの言葉を使用していけるようにしていきたい。</p> |     |               |

|        |  |  |   |  |
|--------|--|--|---|--|
| 今までの評価 | 前時(10/13)の評価と反省  | 視線について2つの動画を比較し、「上や横を見ながら話していると、何を言っているかわかりにくい」と気付くことができていた。説明クイズについては考えていくことに慣れてきた。しかしまだ相手に伝わらないであろう文章量で終わろうとしてしまうことがあり、教師の言葉かけで続きを考えていた。説明の内容は多くの言葉を用いて伝わりやすいものを考えられるようになってきた。   |   |  |
|        | 日常生活や各教科等の中での評価  | 声の大きさ、立ち方、視線について学習した直後は、クラスの朝の会で休日の出来事を発表する際に、意識して話すことができていた。また課題別学習の中で具体的に文章表現できたり、少し長めの文で書けたりできたこともあった。  |   |  |
| 本時の目標  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>人と話す際の距離について考える。</li> <li>相手に伝わるような説明文を考える。</li> </ul>  |   |  |
| 時間     | 活動内容   | 留意点及び支援の方法   | 評価の視点   |  |
| 9:50   | <ol style="list-style-type: none"> <li>はじまりのあいさつをする。</li> <li>今日の予定を知る。<br/>①かっこいい話し方・接し方<br/>②説明クイズ</li> <li>かっこいい話し方・接し方<br/>・今日は『人との距離』について学習することを知らせる。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>動画を見る。<br/>①近い距離で話す二人<br/>②適切な距離で話す二人</li> <li>各動画を見て、距離はどうか、見ていてどう思うかを考える。</li> <li>7cmの距離で教師と話をしてみ、どう感じるかを考える。</li> <li>人と話す時の距離について考える。(【近い】【少し離れる】の二択から選択する)</li> <li>次回は『なぜ距離が大切な</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>今日の学習内容を伝えて、見通しをもてるようにする。</li> </ul> <p>【人権チェックリストとの対応】<br/>⑮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前回までの内容(声の大きさ、立ち方、視線)を確認する。</li> </ul> <p>【人権チェックリストとの対応】<br/>⑰</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>違いの分かりやすい動画を準備する。</li> </ul> <p>【人権チェックリストとの対応】<br/>⑬ ⑭ ⑱</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート(図2)に記入することで、感じたことを比較しやすくする。</li> <li>生徒が以前考えた距離を実際に試してみることで、距離をより意識できるようにする。</li> </ul> <p>【人権チェックリストとの対応】<br/>⑦ ⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>距離の具体的な長さ等には触れず、今日の学習を終えて自分の感じたことを選択するように促す。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>人との距離が近いと不快だと感じる人もいることを理解できたか。</li> <li>人と話す時に少しでも離れる方がよい</li> </ul> |  |

|       |   |   |  |
|-------|---|---|--|
| 10:05 | <p>か』等を考えてみることを知る。</p> <p>4. 説明クイズをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルール（メニュー名を言わずに別の言葉で相手に伝わりやすいように説明する）を確認する。</li> <li>・昨日の夕飯の内容について、説明する文章を考え、ワークシート（図3）に記入する。（休憩時間に自分で好きな教師にこのクイズを出す。）</li> </ul> | <p>・生徒自身で考えていけるように見守る。</p> <p>・説明が短い場合は再度読み直し、伝わるかどうかを考え直すように促す。</p> <p>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>⑳</p> <p>・上手に説明する言葉を考えられた場合はすぐに評価し、自信に繋げる。</p> <p>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>㉑ ㉒</p> | <p>と考えることができたか。</p> <p>・相手に伝わりやすいような表現を考えられたか。</p> |
| 10:25 | 5. おわりのあいさつをする。   |   |  |
| 準備物   | ワークシート2枚（人との距離について、説明クイズ）、iPad  |   |  |

## ② 本時の評価

本人が以前、人との適切な距離として『7cm』と考えていたことについて実際に確認したことで、近いことを実感できていた。「座った状態では近いが、立った状態では7cmでも大丈夫なのでは？」という本人の素直な意見についても、実際に試すことができたのでよかった。自分で実感したことで、人と話す時は少し離れる方がよいと理解できていたようだ。説明クイズは『ハヤシライス』という本人にとっても説明しやすい内容だったので、自分で伝わりやすいポイントを意識して説明していくことができていたが、ハヤシライスの形についてどのように表現するか少し悩んでいるようだった。

## ③ 協議内容と支援の改善点

ア 実際に生徒が考えていた距離について確認することで、自分で気づくことができていたのがよかった。

イ 7cmの距離について、本人の感想と教師の感想をワークシートに記入したことで、色々な感じ方の人がいるということが理解できたのではないかと。

⇒色々な感じ方があることを知ることは大切なので、次回以降も多くの人の意見、考えを提示していくようにする。

(3) 授業改善3回目

① 第3回目学習指導案

|                   |  |   |   |
|-------------------|--|---|---|
| 日時                | 平成27年11月26日(木) 9:50~10:25 第2限目   |   |   |
| 対象                | 中学部知的障害学級2年生男子   | 場所  | 中学部2年3組教室   |
| 生徒の実態<br>(変化した部分) | 授業等で前に出て発表する時に、フラフラと身体を動かすことが少なくなり、止まって話すことが増えてきた。話す時に視線が上の方を向いてばかりではなく、人の顔の方を見たり、身体の方を見たりすることが見られてきた。   |   |   |
| イメージする姿<br>(1年後)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>人と話す時の距離を意識して話す。</li> <li>分かりやすく人に伝えるポイントを意識して話す。</li> </ul>  |   |   |
| 指導目標              | <ul style="list-style-type: none"> <li>人と話す時の適切な声の大きさ・立ち方・視線の向き・距離を知り、意識して話すことができる。</li> <li>言葉の選択の違いで、相手に伝わりやすくなることを理解する。</li> </ul>  |   |   |
| 活動(単元)<br>内容の設定理由 | 前回と同じ  |   |   |
| 今までの<br>評価        | 前時(11/5)の評価と反省   | <p>人との距離はどれくらい離れた方がいいのかを定規を使用し、具体的に考えた。本人が思うパーソナルスペースと担任や他の教師に違いがあることを知って、少し驚いていた。距離感の目安の数値についてはその後時間が経っても覚えていた。説明クイズは、よせ鍋について『冬に食べたら体があたたまる食べ物』というような、相手により伝わりやすい説明を自分で考えることができていた。</p>  |   |
|                   | 日常生活や各教科等の中での評価  | <p>学級の時間で前に立って意見を言う時、立ち方をとても意識できるようになり、フラフラ身体を動かすことなく、まっすぐ立って話ができるようになってきた。</p>   |   |
| 本時の目標             | <ul style="list-style-type: none"> <li>大人になるにつれて、人との関わり方が変化してくることを知る。</li> <li>小さい時は距離が近くてもよいことを知る。</li> <li>相手に伝わるような説明文を考える。</li> </ul>  |   |   |
| 時間                | 活動内容   | 留意点及び支援の方法  | 評価の視点   |
| 9:50              | <p>1. はじまりのあいさつをする。</p> <p>2. 今日の予定を知る。<br/>①かっこいい話し方・接し方<br/>②説明クイズ</p> <p>3. かっこいい話し方・接し方<br/>・今日は『人との距離は小さい時から変わらないのかな?』について学習することを知る。</p> <p>・それぞれの年代で親や友達との関わり方を考える。<br/>*赤ちゃん *幼児<br/>*小学生 *中学、高校生<br/>*大人</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>今日の学習内容を伝えて、見通しをもてるようにする<br/>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>⑮</li> <li>前回の内容(人との距離は80cm離れた方がよいこと)を確認する。<br/>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>⑰</li> <li>本人と話をしながらすすめるようにする。</li> <li>ワークシート(図4)に記入することで、比較しやすくする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの年代で関わり方が変化していること</li> </ul> |

|       |  |  |  |
|-------|--|--|--|
|       | <p>・関わり方が変化してきているのは『安心する方法』が変わってくるからだを知る。<br/>⇒小さい頃は話ができないから抱っこ等で安心するが、徐々に話ができるようになると自分の思いが伝えられることで安心できるようになる。</p> <p>・まとめの文の穴埋め問題を考える。</p> <p>4. 説明クイズをする。</p> <p>・ルール（メニュー名を言わずに別の言葉で相手に伝わりやすいように説明する）を確認する。</p> <p>・昨日の夕飯の内容について、説明する文章を考え、ワークシート（図5）に記入する。（休憩時間に自分で好きな教師にこのクイズを出す。）</p> <p>5. おわりのあいさつをする。</p> | <p>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>⑬</p> <p>・具体的な話をしながらイメージできるようにする。</p> <p>・考えにくい場合は補足説明をして、本人が考えやすいようにする。</p> <p>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>⑳</p> <p>・生徒自身で考えていけるように見守る。</p> <p>・説明が短い場合は再度読み直し、伝わるかどうかを考え直すように促す。</p> <p>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>㉓</p> <p>・上手に説明する言葉を考えられた場合はすぐに評価し、自信に繋げる。</p> <p>〔人権チェックリストとの対応〕<br/>⑰ ㉑</p> | <p>が分かったか。</p> <p>・小さい頃は人との距離が近くてもよいことが分かったか。</p> <p>・相手に伝わりやすいような表現を考えられたか。</p> |
| 10:10 |  |  |  |
| 準備物   | ワークシート2枚（人との関わりの変化について、説明クイズ）  |  |  |

② 本時の評価

それぞれの年代で、親や友達とどのように関わっているのかを教師と話をすすめながら想像できているようだった。自分の過去を振り返ったり、今の生活を考えたりする機会にもなっていた。小さい頃は話すことができないので抱っこしてもらうことで安心するという話の

中で「だから小さい時は人との距離が近くてもいい」という具体的な言葉を教師が言わなかったからか、まとめの穴埋め問題では正解をすぐに答えることができなかった。説明クイズでは、自分で考えていくことにも慣れていて、相手に伝わるようにポイントを意識して説明文を考えられていた。

### ③ 協議の内容と支援の改善点

ア それぞれの年代の関わり方のところで具体的な写真や映像等を準備していれば、生徒からの気づきがより多く出たのではないか。また、場面を絞っての関わり方を聞いた方が生徒も考えやすかったのではないか。しかし大人になるにつれての変化を確認できる良い機会になっていた。

イ 人との距離について、一般的な知識を学習することができたので、これをどう般化させていくかが今後の重要なポイントになる。

⇒自分自身の行動を振り返る機会を設定し、毎日の生活で具体的に意識していけるような学習を考える必要がある。

## 3. 考察

本研究において、以下の3つの観点から考察を行った。

### (1) 授業を通した生徒の変化及び今後の指導について

この授業では、自立活動のコミュニケーションの区分に重きを置いて指導してきたが、併せて人間関係の形成にも関連づけて指導を行ってきた。これらを通して、本生徒は人とコミュニケーションをとる上で大切になるポイント（声の大きさ・立ち方・視線の向き・距離）を、日常生活の中でも意識できることが増えてきた。しかし、人との距離感については、まだ自分自身への課題意識が薄く、生徒の実態（行動）が変化するところまでには至っていない。3回目の協議で話し合ったように、今後学習した内容を、より自分に置き換えて意識し、般化させていくための取組が重要になると考える。説明クイズについては、回数を重ねると、相手に伝わるにはどのような表現をしたほうがよいかを自分なりに考えることができるようになってきた。今後は、説明する内容を夕飯の内容から店や場所に変化させていくことでコミュニケーション力を伸ばしていきたい。

### (2) 授業改善を通して授業における大切なポイントについて

本研究では、授業改善のために3回の検討を行った。1回目では、生徒の変化に合わせて、指導内容や目標自体を修正する必要が出てきた。本単元における指導内容の精選を行い、一部は自立活動の時間以外の授業で取り組むことにした。また、頭の中で考えるだけでなく、記入しながら自分の思考を整理し、記録として残せるワークシートの活用を考えた。2回目では、本人の意見だけでなく教師の意見も伝えたことで、様々な感じ方の人がいることを実感できて

いたので、今後も多くの人の意見を提示していくことを確認した。3回目では、より生徒からの考えを引き出すために写真や映像を用いるべきだったという教材の工夫の重要性を確認した。また、学習した内容を般化させるために自分の生活を意識できるような取組をしていくことを確認した。

これらの授業改善を通して、①生徒の変化に合わせた指導目標や指導内容の変更、②取組内容の精選、③生徒にわかりやすい授業にするための教材の活用（ワークシート、視覚的にわかりやすい教材等）、④体験を通じた学習が、よりわかりやすい授業を行うために大切であることを再確認することができた。

### (3) 人権的な視点から見た授業について

授業の中で、生徒の意見に共感したり、意見をじっくり待ったり、即時に褒めたりすることは、生徒が話しやすい雰囲気をつくり、率直な意見を引き出すのに役立った。このように、生徒の気持ちに寄り添った進め方をし、自己肯定感を高めることや、生徒の実態の変化に合わせて目標や内容を変更したり、生徒にわかりやすい授業をしたりすることは、対象生徒の学習における人権を大切にすることであると考える。さらに、自分が大切にされていると感じ、心が満たされた生徒は、次には他者も大切にしようとする気持ちが育つと考える。このような授業によって、生徒が他者との関わりを改善していくことは、本人だけでなく、ひいては本人が関わる他者の人権をも尊重することに繋がるのではないかと思われる。

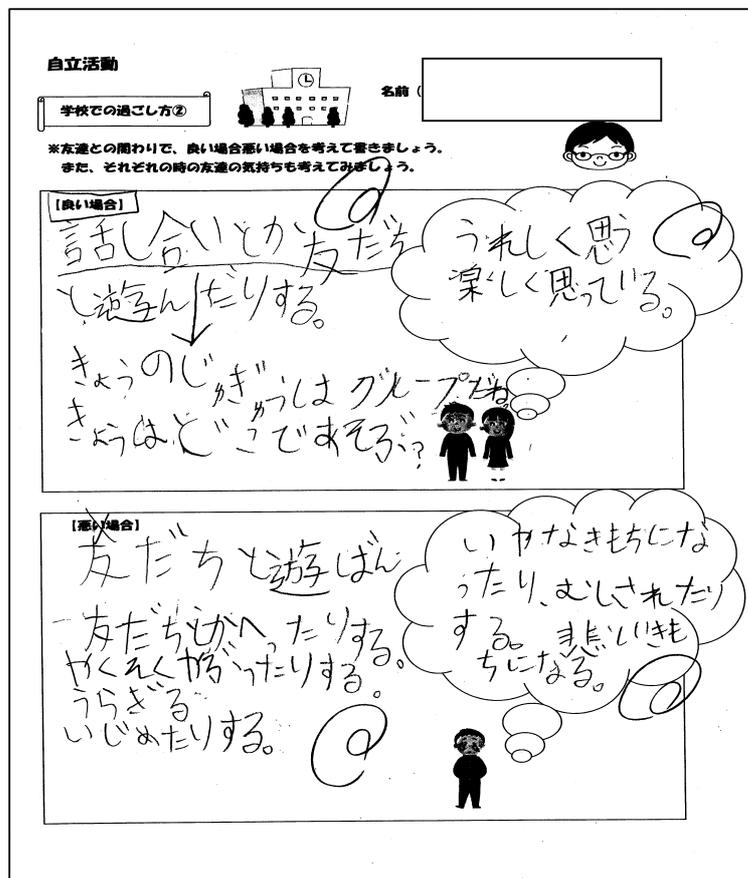


図 1

**自立活動**

名前 ( )

かっこいい話し方・押し方

<人との距離は、どうしたらいいかな?>

◎動画を見て、人との距離を比べましょう。

①距離 遠すぎ ・ 遠い ・ ちょうどよい ・ 近い ・ 近すぎ

これを聞いてみて、どうですか?

近すぎて声は聞こえるけど  
やめたいほうがいいよ。

②距離 遠すぎ ・ 遠い ・ ちょうどよい ・ 近い ・ 近すぎ

これを聞いてみて、どうですか?

もうちょっと近づいて話すよ!

★今から7cmの距離で話してみよう。  
どうですか?

だいたい近くで言葉が出にくい  
近いから、話しにくい。近すぎて、さんちょうする。7cmはいち。

つまり、人との距離は・・・

近い ・ 少し離れる ・ 方がいいと思う。

図 2

**自立活動**

名前 ( )

説明クイズ

ハヤシライス について、説明しましょう。

☆ポイント☆

- 短い文で!
- 相手に分かりやすい言葉で!

どんな言葉で説明したら、相手に伝わるかな?考えてみよう!

色は 茶色と白です

形は お皿が 大きくなってからいじめる

作る時に使う道具は フライパンとおたまです

材料は トマトとルーと 玉ねぎと肉です

味は カレーとしてマからくはないです

食べる時に使う道具は スプーン

です。 さあ 答えはなにでしょうか

あてられるかな～

図 3

**自立活動**

名前 ( )

かっこいい話し方・持ち方

<人の距離は、小さい時から変わらぬのかな?>

◎人と話す時は、どれくらい離れる方がよかったかな? 覚えているかな?  
 だいたい (80)cm 離れた方がいい!  
 (80)cmは片方の(うで)上、あとちょっとくらい!

◎赤ちゃんや小学生・大人は、親や友達とどんな風にかかわるのかな!?

|         |           |
|---------|-----------|
| 赤ちゃんは   | ①だっこしてもらう |
| 保育園の子は  | ②手をつかぶ    |
| 小学生は    | ③話をなにする   |
| 中学・高校生は | ④話をあそぶ    |
| 大人は     | ⑤話をなにする   |

安心する方法  
 が、かわってくる  
 ※話ができるようになってくる  
 と、相手に「見しい」が  
 伝えられるよね!

つまり! 小さい時は、人の距離が近くても ⑥よい  
 でも、いろんな「話し方」が、できるようになってきたら、  
 少しずつ距離のことを考えられるようになってきます。

でも・・・しんどい時、泣きたい時、  
 さみしい時、うれしい時、楽しい時、  
 たまに人におもいきりあまえたり、  
 くっついだりしたくなるのは、がまんしなくてもいいからね★  
 そういう時は、だれでもあるからね!

図 4

**自立活動**

名前 ( )

説明クイズ

目玉焼き について、説明しましょう。

☆ポイント☆  
 ・短い文で!  
 ・相手に分かりやすい言葉で!

どんな言葉で説明したら、相手に伝わるかな? 考えてみよう!

卵は目みたくて、  
 作る時に使道具フライパンで  
 さいまして、  
 味つけはしょうゆとしょうゆで、  
 食べるときには使ったぐはか  
 はいで、  
 木米米はタマゴの曲です。  
 さあ〜答えはたんでしょうか  
 ねるかな〜

図 5

## 4. まとめ

### (1) 昨年度(平成26年度)

個別の指導計画に焦点を当て、より実践に即した個別の指導計画を書くことを目的として、日常的に実践を行っている集団ではなく、各自が選んだ個別の指導計画の「目標」、「内容」、「選定項目」等でグループ分けを行い、研修を進めた。その結果、個別の指導計画をより実践に即したものにするためには、まず、各項目にどのようなことを、どの程度まで記入するかといったことも含めた教員間のコンセンサスが必要ではないかと感じている教員が多いことがわかった。そして、今回のグループ内で話し合いから、より多くの教員がそれぞれの児童生徒の実態を知る機会となり、多面的に児童生徒を捉えることができた。そして、当該学部だけでなく、本校全体として「つけたい力」について様々な視点から丁寧に話し合うことができ、有意義であった。

### (2) 今年度(平成27年度)

「人権が尊重される学校づくり」～子どもの人権が尊重される授業づくりと教職員の人権意識の向上～という研究テーマのもと、自立活動の研究では、「自立活動の授業は、子ども一人一人の実態把握から開始するものであり、自立活動の授業の改善をしていくことは、一人一人を大切にすることに繋がり、ひいては人権が尊重された授業に繋がる」という研究仮説を基に、各グループで授業を選び、授業改善について繰り返し協議を行ってきた。どのグループも、3回の授業改善に取り組み、毎授業後「人権チェックリスト」を行った。最後に学習指導案の支援の方法について「人権チェックリスト」と対応させ、確認した。

授業改善については、各グループのまとめからもわかるように、グループのメンバーと協議を重ねることにより授業が改善され、そして児童生徒それぞれに変化や成長が確認された。

人権の視点からは、人権の視点を授業に組み込もうと特別に意識することがなくても、児童生徒の細やかな実態把握から始まる自立活動の授業にすることで、教師が一人一人の児童生徒を理解し、成長を見据えながら授業改善していくことが「一人一人を大切に作る授業づくり」となることが確認できた。そして、このプロセスによって「人権が尊重された授業につながる」ことが実証できた。

## 教科や各教科等を合わせた指導の実践

平成 22 年度から 4 年間の全校あげて自立活動の時間の指導の研究に取り組んだ。自立活動の研究の成果から、授業づくりのポイントとして「実態把握をしっかりとすること」「般化を考えること」を大切にしてきた。また、自立活動の研究を始めて以来 P D C A サイクルで授業改善を行うことを基本として取り組んできた。そして、その成果を他の教科や教科等を合わせた指導（以下、「他の教科等」とする）の授業づくりに波及させることが課題であった。そこで平成 25, 26 年度の年間については、教職員が自立活動か他の教科等の授業かのどちらかを選択し、グループに分かれて授業研究を行うこととした。他の教科等の授業研究においては、平成 25 年度には自立活動で得た成果を押さえながら、一つ一つの授業改善を重ね、より良い授業を作っていこうという研究に取り組んだ。しかしながら、ひとつの単元から次の単元への改善（A c t i o n）や次年度につなげていく大きい改善が課題であるとわかった。そこで、今年度からは、まず単元を意識するために、単元計画表を用いて単元での目標達成の是非、評価、反省を行うこととした。単元の妥当性や信頼性を検討することで教材の選択や、活動についても詳細に振り返り、次につながる反省ができた。

今年度は、特に「人権が尊重される学校づくり」の研究から人権教育の視点を単元計画表にも盛り込むこととした。具体的には、各授業の年間目標で人権の年間目標にあたる部分に下線を引き、人権のどの目標になるのかを記入した。また、人権チェックリストを授業づくりに活用したことから、人権を意識した支援については人権チェックリストの項目番号を記入した。

今後は、単元計画表で P D C A を活発化させながら、より良い授業実践につなげていきたい。

|  |  |   |                  |     |  |              |                |
|--|--|---|------------------|-----|--|--------------|----------------|
| 学部   | 小学部  | 集団構成  | 知的障害学級<br>1年2組5名 | 授業名 | 生活<br>(そうじ)  | 指導形態         | 教(生活)<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>健康や清潔に意識を向ける。</li> <li>教室を部分的に掃除することができる。(人)</li> <li>掃除道具の名称/扱い方を知る。</li> </ul> |                  |     |  |              |                |
| 単元名・題材名  |  | そうじをしよう   |                  |     |  |              |                |
| 児童・生徒の実態   | <p>男子3名、女子2名計5名のクラスである。児童は、自閉症、コミュニケーション障害、精神発達遅滞、広汎性発達障害、ウイリアムス症候群など様々な障害を抱えている。</p> <p>教師や友だちのことを意識できる児童が多く、話をしたり、一緒に台車に乗ったり等、関わりを持って遊びを楽しむことができる児童たちである。簡単な言葉で、自分の思いや要求を伝えられたり、平仮名や数字を読めたりする子がいる。一方、耳から情報が入りやすく注意が向きにくい、順番へのこだわりで気持ちが不安定になる等、実態は多様である。授業では、写真やイラスト、文字を使ったスケジュール表や手順表等の視覚的な支援等を通して、活動への興味関心や見通しが持ちやすくなり、主体的に取り組むことができる。</p> <p>日常生活に関しては、手洗いや排泄、歯磨き、片付け等ある程度身の回りのことを自分ですることができる。歯磨きや手洗い、片付けの方法を視覚的に提示することでよりスムーズに取りかかれたい、自分で確認しながらできたりすることが多い。しかし、手先の不器用さや運動動作にぎこちなさが見られる子がほとんどであるため、教師の支援が必要である。</p> <p>これらのことから、教師の支援を受けながらも、日常生活を送る上で、基本的な習慣を身につけ、自分でできることを増やし、自信をつけると同時に手先の巧緻性や運動動作を高めていきたい。</p> |   |                  |     |  | 学習指導要領での位置づけ |                |
|  |  |   |                  |     |  | 教科           | 内容             |
|  |  |   |                  |     |  | 生活           | 2段階(6)         |
| 単元の設定理由  | <p>本単元「そうじをしよう」では、日常生活の基本的な生活習慣を身につけ、健康や清潔を意識するとともに、児童たちの学校生活での基盤となる教室を美しく整える活動として「そうじ」を取り上げた。児童には①掃除をする意味を知る、②掃除道具の名称を知る、③掃除道具を扱うことにより手指や体の動かし方を身につける、以上の3点を中心に、生活するうえで基本的な技術や態度の獲得を目指し設定した。またこれらの活動を通して身の回りを整えることの気持ちよさを体感させたい。</p>  |   |                  |     |  |              |                |
| 単元目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>掃除をする意味を知る。</li> <li>掃除道具の名称、扱い方を知る。</li> <li>両手を開いて雑巾を押さえ、高這い姿勢で雑巾がけをすることができる。</li> </ul>  |   |                  |     |  |              |                |
| 評価の基準  |  |   |                  |     | 支援・手立て   |              |                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>掃除をする意味を知る。</li> <li>雑巾がけができる。</li> </ul> <p>【第1段階】(児童C、D)<br/>膝をついて雑巾がけをすることができる。</p> <p>【第2段階】(児童A、B、E)<br/>膝をつかずに雑巾がけをすることができる。</p> <p>【第3段階】<br/>高這い姿勢で、足を交互に出して雑巾がけをすることができる。</p> <p>※第3段階まで指導する</p> |  |   |                  |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>健康や清潔に意識を向けられるような話をする。(14, 18)</li> <li>教師が見本を見せる。(15, 22)</li> <li>雑巾に手を置く位置を示す。(13)</li> <li>教師が体を支える。(22, 23)</li> <li>個々に応じて距離を変える。(4, 22)</li> <li>言葉かけで促す。(23)</li> </ul> |              |                |

| 日時 | 学習活動  | 支援   |
|----|---|--|
|    | <p>はじまりのあいさつをする。</p> <p>①本時の活動内容を知る。</p> <p>②掃除の話を聞く。<br/>「どうしてそうじをするのか」の話を聞く。</p> <p>③掃除道具の名称を確認する。</p> <p>④掃除の手順、がんばりポイントを確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業のスケジュールを提示する。(15)</li> <li>ペーパーサートや写真、仕掛けのある話を用意する。(14, 18)</li> <li>実物と平仮名カードで名称を示す。(13, 15)</li> <li>掃除の手順を写真カードで提示する。(13, 15)</li> <li>掃除の手順の所にごんぱりポイントを示す。(18)</li> </ul> |

|  |  |  |
|--|--|--|
|  | <p>⑤そうじをする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 椅子を廊下に出す。</li> <li>2. ほうきで掃く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほうきの持ち方を確認する。</li> <li>・一人ずつ掃く。</li> <li>・活動の振り返り。</li> </ul> </li> <li>3. 雑巾で拭く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ずつ拭く。</li> <li>・活動の振り返り。</li> </ul> </li> <li>4. 掃いた後、拭いた後を見て、「きれい」を実感する。</li> <li>5. 椅子を教室に入れる。</li> </ol> <p>⑥本時のがんばりを発表する。<br/>終わりのあいさつをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・見本を示す。(椅子、ほうき、雑巾) (16, 22)</li> <li>・ほうきの持ち手二カ所に色分けした目印を付ける。(22)</li> <li>・ごみを分かりやすくするために、濡れた新聞紙を撒いておく。(13)</li> <li>・ほうきの持ち方を教師と一緒に確認する。(23)</li> <li>・順番を決め、顔写真で提示する。(20, 25)</li> <li>・教師と一緒に掃く動作を行う。(22, 23)</li> <li>・花丸シートを用意する。(24, 28)</li> <li>・新しい雑巾を準備し、拭いた後で汚れた部分を確認できるようにする。(13, 24)</li> <li>・手を置く位置を示す。(13)</li> <li>・個々に応じた距離を設定する。(4, 22)</li> <li>・体を支えたり、言葉で促したりする。(22, 23)</li> <li>・順番を決め、顔写真で提示する。(20, 25)</li> <li>・花丸シートを用意する。(24, 28)</li> <li>・掃除前後の写真を見比べて、ごみや汚れがなくなったことを確認できるようにする。(17)</li> <li>・自分の椅子を持っていけるように、教師が児童の机を先に入れる。(13)</li> <li>・選択肢として、ほうきと雑巾のイラストを提示する。(25, 26)</li> </ul> |
|--|--|--|

|            |  |  |
|------------|--|--|
| 妥当性        | <p>単元目標</p>  | <p>高すぎた・<u>適当だった</u>・低すぎた</p> <p>将来のことを見据えて、今の段階から少しずつ「そうじ」の意味や流れを知ること、扱い方等を身に付けられる目標設定にすることで、無理なく段階を追って目標達成できた。</p>   |
|            | <p>単元・題材<br/>(教材)</p>  | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単<br/>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> 適していなかった</p> <p>視覚的に分かりやすい教材、仕掛けやペープサートを使った教材等を活用することで興味関心をもち、意欲的、主体的に取り組めた。</p>   |
|            | <p>学習・活動</p>   | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単<br/>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・適していなかった</p> <p>掃除の「雑巾」、「ほうき」にポイントを置くことで、無理なく活動することができた。「清潔」への意識を持たせるために、掃除の前にペープサート等を使って話を進めたことで、清潔への意識や掃除をする意味を理解させることができた。</p>  |
| 評価         | <p>目標達成度：A 達成した <u>B ほとんど達成した</u> C あまり達成できていない D 全く達成できていない</p>   |  |
|            | <p>理由</p>  | <p>掃除の「雑巾」、「ほうき」にポイントを置くことで、無理なく活動することができた。掃除の前にペープサート等を使って話を進めたことで、清潔への意識や掃除をする意味を理解させることができた。花丸評価シートで評価されることを期待して頑張ることができた。実物提示や見本、イラスト等で説明することで、集中して見聞きすることが多かった。目標の第3段階まで達成できた。</p> <p>回数を重ねるにつれて、雑巾がけをスムーズに取りかかれるようにした。しかし、月1回の頻度だったので、雑巾がけの姿勢が良い時と悪い時のばらつきが目立った。</p> |
| <p>改善策</p> | <p>月1回よりも、確実に身につけるためには、頻度を多く設定した方が良いと考える。その際、どこを重点的に指導したいのかを明確にし、掃除の一部分を取り出すのか、または全体の流れで取り組むのかを教師がしっかりと考える必要がある。</p> |  |

|  |   |  |                |  |    |      |                |
|--|---|--|----------------|--|----|------|----------------|
| 学部   | 小学部   | 集団構成   | 知的障害学級<br>1、2年 | 授業名  | 音楽 | 指導形態 | 教(音楽)<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に興味をもち、音楽の楽しさを知る。</li> <li>・音楽の楽しさを通して、心に触れ、表現する力を育てる。</li> <li>・音楽を通じた遊びに取り組む集団の中で、友達や教師とかがわる力をつける。(仲)</li> </ul> |                |  |    |      |                |
| 単元名・題材名  |   | 聞かせ歌『はずむよはずむよ』 歌唱『でんしゃがでんでん』<br>手遊び歌『パンダうさぎコアラ』 楽器遊び『ことりのうた』   |                |  |    |      |                |
| 児童・生徒の実態   | 音楽は、1・2年生合同の授業で1年生13名、2年生9名、計22名である。児童は、ダウン症、自閉症スペクトラム、発達障害など、様々な障害を抱えている。歌唱に関しての実態は、歌詞を覚えて歌える児童、歌詞を見ながら歌える児童、発声は少ないが体を揺らしたり身振りで表現したりする児童、友達や教師の歌や声を聞いて楽しむ児童、表出が少なく音楽を楽しむことが難しい児童、その場で歌っていないでもよく聴いていて他の場面で歌う姿が見られる児童などである。楽器遊びに関しての実態は、リズムよく楽器を鳴らすことができる児童、楽器を自由に鳴らす児童、教師と一緒に鳴らす児童などである。音楽の授業に参加する態度に関しての実態は、積極的に歌ったり演奏したり発表したりできる児童や、発表しようという気持ちを自分から出しにくい児童などである。どの領域においても実態は幅広い。 |  | 学習指導要領での位置づけ   |  |    |      |                |
|  |   |  | 教科             | 内容   |    |      |                |
|  | 音楽  | 1段階(1)(2)<br>2段階(1)(2)(3)<br>3段階(1)(2)   |                |  |    |      |                |
| 単元の設定理由  | <p>聞かせ歌の『はずむよはずむよ』では、音楽が流れる中でトランポリンを跳び身体を動かすことで音楽の楽しさを感じられ、導入の曲としてふさわしい。</p> <p>歌唱『でんしゃがでんでん』では、「でんでん」という繰り返しの言葉や「ガッタン」や「ポッポー」の擬音語など、歌いやすい部分がある歌ということや、児童が好きな電車遊びの場面でも友達や教師と楽しく歌いながら活動できる曲である。</p> <p>手遊び歌『パンダうさぎコアラ』では、児童の興味のある動物の身体模倣であること、また、手の動きが大きくて取り組みやすいことから設定した。</p> <p>楽器遊び『ことりのうた』では、「ピピピピチチチチ」という言葉と同じリズムで叩ける曲でわかりやすいこと、また、叩く部分と休む部分がわかりやすい曲でもある。</p>                   |  |                |  |    |      |                |
| 単元目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に合わせて楽しく身体を動かす。</li> <li>・歌唱では、一部分を歌う。また、歌に合わせて見立て遊びに意欲的に参加する。</li> <li>・手遊び歌では、音楽に合わせて身体模倣をする。</li> <li>・楽器遊びでは、音楽を聴いてカスタネットを叩く。</li> </ul>  |  |                |  |    |      |                |
| 評価の基準  |   |  |                | 支援・手立て   |    |      |                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に活動できている。</li> <li>・発表への意欲が見られる。</li> <li>・歌唱では、声を出せている。</li> <li>・身体模倣ができる。</li> <li>・音楽を意識してカスタネットを叩く。</li> </ul> |   |  |                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が興味をもてるような活動を用意する。(8)</li> <li>・上手にできている時に褒める。(21)</li> <li>・マイクを向けるなどして、歌うことを促す。(20)</li> <li>・サブの教師が、見本を見せる。(22)</li> <li>・叩く部分、お休みの部分をわかりやすいように手の動きを工夫する。(8)(13)</li> </ul> |    |      |                |

| 日時  | 学習活動   | 支援  |
|-----|--|---|
| 3分  | ①始まりの挨拶をする。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・予定表で活動の確認をする。(15)</li> <li>・トランポリンを跳ぶ時の安全に気をつける。(4)</li> <li>・リズムに合わせて跳びやすいように、教師がしっかり歌う。(4)</li> <li>・一人で電車に乗りにくい児童には、教師と一緒に乗るようにする。(4)</li> <li>・マイクをまわして児童の歌いたい気持ちを引き出す。(20)</li> <li>・児童が興味をもちやすいように、お面を使用する。(14)</li> <li>・模倣しやすいように手遊びの動きをはっきりと示す。(16)</li> <li>・休みの部分はわかりやすいように、手を腰にあてる。(16)</li> <li>・叩く部分がわかりやすいように、大きな身振りでカスタネットを叩く。(16)</li> </ul> |
|     | ②今日の活動を知る。   |   |
| 10分 | ③聞かせ歌『はずむよはずむよ』(4/4)<br>・音楽に合わせてトランポリンを跳ぶ。                                       |   |
| 10分 | ④歌唱『でんしゃがでんでん』(1/4)<br>・歌を1回歌う。<br>・歌に合わせて電車ごっこをする。                              |   |
| 7分  | ⑤手遊び歌『パンダうさぎコアラ』(1/4)<br>・動きの確認をする。<br>・前で発表する。                                  |   |
| 10分 | ⑥楽器遊び『こたりのうた』(3/5)<br>・歌を歌いながら手拍子で確認する。<br>・カスタネットで部分練習をする。<br>・歌に合わせてカスタネットを叩く。 |   |
| 5分  | ⑦評価<br>⑧終わりの挨拶をする。   |   |
| 妥当性 | 単元目標   |   |
|     | 単元・題材(教材)  | (児童生徒にとって) 難しい <u>適当</u> 簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> 適していなかった<br>トランポリンや電車ごっこの活動があり、発声が難しい児童や音楽に参加しづらい児童も活動に参加することができた。楽器遊びでのカスタネットは、叩きやすさと教師と一緒に叩くことができる楽器で適していた。また叩く時のリズムが一定でわかりやすかった。   |
|     | 学習・活動  | (児童生徒にとって) 難しい <u>適当</u> 簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> 適していなかった<br>活動を多めに設定し、簡単な動きで取り組みやすくすることで、意欲的に音楽に参加できている児童が多い。歌唱指導にもう少し意識して取り組むことが必要である。楽器遊びは繰り返し取り組むことで、リズムや叩く・叩かないなどを意識できるようになっている。  |
| 評価  | 目標達成度: <u>A 達成した</u> B ほとんど達成した C あまり達成できていない D 全く達成できていない                       |   |
|     | 理由   | A: 達成した (『はずむよはずむよ』、『こたりのうた』)<br>回数を重ねることで達成できた児童が増えた。<br>B: ほとんど達成した (『でんしゃがでんでん』、『パンダうさぎコアラ』)<br>初めての曲で細かな指導はできなかったが、聞いたことがある、知っている歌だったことで、歌ったり手遊びしたりできた児童がいた。  |
|     | 改善策  | それぞれの歌のがんばりポイントや注意点を伝える。<br>もう少し歌唱指導に取り組む(発声のタイミングや、特に頑張って歌う所などを指導)。発表の仕方を工夫する(できた児童のみにする、サブの教師が評価するなど)。<br>指導案で評価の基準など、みんなで共通理解をする。  |

|   |  |              |  |   |    |      |                |
|---|--|--------------|--|---|----|------|----------------|
| 学部  | 小学部  | 集団構成         | 知的障害学級<br>1、2年                         | 授業名   | 音楽 | 指導形態 | 教(音楽)<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に興味をもち、音楽の楽しさを知る。</li> <li>・音楽の楽しさを通して、心に触れ、表現する力を育てる。</li> <li>・音楽を通じた遊びに取り組む集団の中で、友達や教師とかかわる力をつける。(仲)</li> </ul>   |              |  |   |    |      |                |
| 単元名・題材名   | 聞かせ歌『モーモーフラダンス』 歌唱『でんしゃがでんでん』<br>手遊び歌『パンダうさぎコアラ』 楽器遊び『ことりのうた』  |              |  |   |    |      |                |
| 児童・生徒の実態  | 音楽は、1・2年生合同の授業で1年生13名、2年生9名、計22名である。児童は、ダウン症、自閉症スペクトラム、発達障害など、様々な障害を抱えている。歌唱に関する実態は、歌詞を覚えて歌える児童、歌詞を見ながら歌える児童、発声は少ないが体を揺らしたり身振りで表現したりする児童、友達や教師の歌や声を聞いて楽しむ児童、表出が少なく音楽を楽しむことが難しい児童、その場で歌っていなくてもよく聴いていて家庭で歌う姿が見られる児童などである。楽器遊びに関する実態は、リズムよく楽器を鳴らすことができる児童、楽器を自由に鳴らす児童、教師と一緒に鳴らす児童などである。音楽の授業に参加する態度に関する実態は、積極的に歌ったり演奏したり発表したりできる児童や、発表しようという気持ちを自分から出しにくい児童などである。どの領域においても実態は幅広い。 | 学習指導要領での位置づけ |  |   |    |      |                |
|   |  | 教科           | 内容                                     |   |    |      |                |
|   |  | 音楽           | 1段階(1)(2)<br>2段階(1)(2)(3)<br>3段階(1)(2) |   |    |      |                |
| 単元の設定理由   | 聞かせ歌の『モーモーフラダンス』では、DVD鑑賞を通して、曲のイメージを視覚的にとらえることができるとともに、映像を観ながらリズムに合わせて音楽を楽しむことができ、導入の曲としてふさわしい。<br>歌唱『でんしゃがでんでん』では、「でんでん」という繰り返しの言葉や「ガッタン」や「ポッポー」の擬音語など、歌いやすい部分がある歌ということや、児童が好きな電車遊びの場面でも友達や教師と楽しく歌いながら活動できる曲である。<br>手遊び歌『パンダうさぎコアラ』では、児童が興味のある動物の身体模倣であること、また、手の動きが大きくて取り組みやすいことから設定した。<br>楽器遊び『ことりのうた』では、「ピピピピチチチチチ」という言葉と同じリズムで叩ける曲でわかりやすいこと、また、叩く部分と休む部分がわかりやすい曲でもある。      |              |  |   |    |      |                |
| 単元目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に合わせて楽しく身体を動かす。</li> <li>・歌唱では、児童の実態によって繰り返しの部分を歌うことができたり、音楽に合わせて身振りができたりする。</li> <li>・手遊び歌では、音楽に合わせて身体模倣をする。</li> <li>・楽器遊びでは、音楽を聴いてカスタネットを叩く。</li> </ul>   |              |  |   |    |      |                |
| 評価の基準   |  |              |  | 支援・手立て  |    |      |                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に活動できている。</li> <li>・発表への意欲が見られる。</li> <li>・歌唱             <ul style="list-style-type: none"> <li>①歌詞に合わせて身振りができる。</li> <li>②歌いやすい部分を歌ったり、声を出したりできる。</li> <li>③歌詞を覚えて歌うことができる。</li> </ul> </li> <li>・身体模倣ができる。</li> <li>・楽器遊び             <ul style="list-style-type: none"> <li>①音楽に合わせてカスタネットを叩く。</li> <li>②音楽を聴いてカスタネットを叩く。</li> </ul> </li> </ul> |  |              |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が興味をもてるような活動を用意する。(8)</li> <li>・上手にできている時に褒める。(21)</li> <li>・マイクを向けるなどして、歌うことを促す。(20)</li> <li>・繰り返し歌を聴かせる。(6)</li> <li>・サブの教師が、見本を見せる。(22)</li> <li>・叩く部分、お休みの部分をわかりやすいように手の動きを工夫する。(8)(13)</li> </ul> |    |      |                |

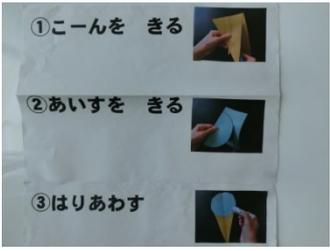
| 日時  | 学習活動  | 支援   |
|-----|---|--|
| 3分  | ①始まりの挨拶をする。   |  |
|     | ②今日の活動を知る。  | ・予定表で活動の確認をする。(15)   |
| 10分 | ③聞かせ歌『モーモーフラダンス』(1/4)<br>・DVD鑑賞。  | ・映像と同じ振り付けで踊りながら楽しい雰囲気を出す。(4)  |
| 10分 | ④歌唱『でんしゃがでんでん』(3/4)<br>・歌唱指導 「でんでん」のところをしっかりと歌う。<br>「ポッポー」のところを身振りをつける。<br>・歌に合わせて電車ごっこをする。<br>・電車ごっこに合わせて歌も歌う。 | ・「でんでん」のところでマイクを向け、児童の声を引き出す。(20)<br>・「ポッポー」の振り付けを大きな動作で見せて模倣しやすくする。(16)<br>・歌いたい気持ちを表現しにくい児童については、サブの教師が推薦する。(19)   |
| 7分  | ⑤手遊び歌『パンダうさぎコアラ』(3/4)<br>・最初はゆっくり手遊びをして、だんだん速くなるのを練習する。<br>・ゆっくりと速くに分けて発表する。                                    | ・模倣しやすいように手遊びの動きをはっきりと示す。(16)<br>・児童の実態によっては、一つでも動きができた時に評価するようにする。(21)<br>・サブの教師は発表を終えた児童の評価をする。(21)  |
| 10分 | ⑥楽器遊び『こたりのうた』(5/5)<br>・全員で演奏する。<br>・クラスごとに発表する。   | ・発表してみんなに見てもらいたいという気持ちを引き出す。(24)<br>・サブの教師は発表を終えた児童の評価をする。(21)   |
| 5分  | ⑦評価   |  |
|     | ⑧終わりの挨拶をする。   |  |
| 妥当性 | 単元目標  | 高すぎた・ <u>適当だった</u> ・低すぎた<br>鑑賞曲が流れると自然とフラダンスの動きを始めたり、手遊び歌では動きを模倣したり、歌に合わせて腕を上げるポーズがとれたりできた。歌唱では、部分的な歌唱練習で歌える(声を出せる)ようになった児童が増えた。楽器遊びでは、ピアノを聴いてリズムに合わせて叩くことができたり、カスタネットの音を楽しんだりする児童が多かった。   |
|     | 単元・題材(教材)   | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>聞かせ歌では、DVDを使用したことで、画面に注目しやすく、しっかり歌を聴くことができた児童が多かった。歌唱では、電車ごっこの活動があり、歌うことが難しい児童も活動を通して歌を楽しむことができた。手遊び歌では、児童の実態に合わせて身体模倣のスピードを変えたり、模倣しやすい部分だけ取り出したりして行うことができる歌で、それぞれの児童の実態に合わせて取り組めた。 |
|     | 学習・活動   | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>積極的に音楽の授業に参加する児童が多い。発表の時などは、歌える児童や発言が多い児童が目立ってしまいがちである。活動が受け身的になりやすい児童もいる。  |
| 評価  | 目標達成度   | A 達成した B <u>ほとんど達成した</u> C あまり達成できていない D 全く達成できていない  |
|     | 理由  | 歌唱指導に重点をおいたことで、歌うことや声を出すことを意識できた児童が多かった。手遊び歌では、一つ一つの動きを丁寧に確認したことや、模倣するスピードを変えたことで、児童の実態に合わせることができた。繰り返し取り組んでいる曲では、歌ったり、楽器演奏したりできる児童が多くなっている。   |
|     | 改善策   | 意欲的に授業に参加することが難しい児童や、発表への意欲が見られない児童に対しては、ポイントを絞って指導する。発表時の聞き手のルールを明確にする(しっかり聞くのか、一緒にやってもいいのか)。発表の仕方を工夫する。(今は児童のやりたい気持ちを尊重しているが、教師の推薦や、今誰が発表できる時かを明確にするなど)。最後の感想を発表する時間では、発言できる児童が発表することが多いので、カードで曲目を選べるようにしたり、サブの教師から誉めてもらったりするなどの方法も検討する。                 |

| 学部   | 小学部  | 集団構成 | 知的障害学級<br>1、2年                         | 授業名  | 音楽 | 指導形態         | ⑧(音楽)<br>合・領・総 |
|--|--|------|--|--|----|--------------|----------------|
| 年間の指導目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に興味をもち、音楽の楽しさを知る。</li> <li>・音楽の楽しさを通して、心に触れ、表現する力を育てる。</li> <li>・音楽を通じた遊びに取り組む集団の中で、友達や教師とかかわる力をつける。(仲)</li> </ul>   |      |  |  |    |              |                |
| 単元名・題材名  | 聞かせ歌『明日へと』 歌唱『どんぐりころころ』<br>手遊び歌『せんたく』 楽器遊び『おもちゃのチャチャチャ』  |      |  |  |    |              |                |
| 児童・生徒の実態   | 音楽は、1・2年生合同の授業で1年生13名、2年生9名、計22名である。児童は、ダウン症、自閉症スペクトラム、発達障害など、様々な障害を抱えている。歌唱に関しての実態は、歌詞を覚えて歌える児童、歌詞を見ながら歌える児童、発声は少ないが体を揺らしたり身振りで表現したりする児童、友達や教師の歌や声を聞いて楽しむ児童、表出が少なく音楽を楽しむことが難しい児童、その場で歌っていないくてもよく聴いていて家庭で歌う姿が見られる児童などである。楽器遊びに関しての実態は、リズムよく楽器を鳴らすことができる児童、楽器を自由に鳴らす児童、教師と一緒に鳴らす児童などである。音楽の授業に参加する態度に関しての実態は、積極的に歌ったり演奏したり発表したりできる児童や、発表しようという気持ちを自分から出しにくい児童などである。どの領域においても実態は幅広い。   |      |  |  |    | 学習指導要領での位置づけ |                |
|  |  |      |  |  |    | 教科           | 内容             |
|  |  | 音楽   | 1段階(1)(2)<br>2段階(1)(2)(3)<br>3段階(1)(2) |  |    |              |                |
| 単元の設定理由  | 聞かせ歌の『明日へと』では、校内行事などでダンスをしたことがあり、身近な曲である。また、ギターとエレクトーンの生演奏に触れる機会として設定した。<br>歌唱『どんぐりころころ』は、秋の歌であり、またどんぐりは散歩や遊びの中で見つけることができる身近で親しみやすい素材である。歌詞にもストーリー性がある親しみやすく、季節の歌としてふさわしい。<br>手遊び歌『せんたく』では、「あらう」「すすぐ」「しぼる」「ほす」など、日常生活で身近な動作を取り入れているので、動きをイメージしやすい。また、友達と向かい合い手をつないで行うことで、人とかかわりも深めることができる。<br>楽器遊び『おもちゃのチャチャチャ』では、「チャチャチャ」という言葉と同じリズムで鳴らしたり、4拍子の音楽に合わせて鳴らしたりとわかりやすい。また、鈴、トライアングル、木琴・鉄琴など、児童の実態に合わせていろいろな楽器を選択して合奏を楽しむことができる曲である。 |      |  |  |    |              |                |
| 単元目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に関心をもち、しっかり見聞きできる。</li> <li>・演奏を聴くことができる。</li> <li>・歌唱では、ペープサートに注目したり、部分歌唱ができたりする。</li> <li>・手遊び歌では、友達や教師とペアになって洗濯の動作を楽しむことができる。</li> <li>・楽器遊びでは、音楽を聴いて鈴、トライアングル、木琴・鉄琴などを鳴らす。</li> </ul>  |      |  |  |    |              |                |
| 評価の基準  |  |      |  | 支援・手立て   |    |              |                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に活動できている。</li> <li>・発表への意欲が見られる。</li> <li>・聞かせ歌               <ul style="list-style-type: none"> <li>①身体を動かして聴いている。</li> <li>②楽器を見るなど、静かに耳を傾けている。</li> </ul> </li> <li>・歌唱               <ul style="list-style-type: none"> <li>①ペープサートに注目できる。</li> <li>②歌いやすい部分を歌ったり、声を出したりできる。</li> <li>③歌詞を覚えて歌うことができる。</li> </ul> </li> <li>・手遊び歌               <ul style="list-style-type: none"> <li>友達や教師とペアになり、手遊び歌を楽しむことができる。</li> </ul> </li> <li>・楽器遊び               <ul style="list-style-type: none"> <li>①音楽に合わせて鈴、トライアングル、木琴・鉄琴を鳴らす。</li> <li>②音楽を聴いて鈴、トライアングル、木琴・鉄琴を鳴らす。</li> </ul> </li> </ul> |  |      |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が興味をもてるような活動を用意する。(8)</li> <li>・上手にできている時に褒める。(21)</li> <li>・音楽に集中できるように静かな雰囲気をつくる。(2)(4)</li> <li>・親しみやすいペープサートを用意する。(8)</li> <li>・マイクを向けるなどして、歌うことを促す。(20)</li> <li>・繰り返し歌を聴かせる。(6)</li> <li>・サブの教師が、かかわりをもちやすい児童同士のペアで組んだり、見本を見せたりする。(22)</li> <li>・鳴らす部分、お休みの部分がわかりやすいよう絵譜を使用する。(8)(13)</li> </ul> |    |              |                |

| 日時  | 学習活動   | 支援  |
|-----|--|---|
| 3分  | ①始まりの挨拶をする。  |   |
| 10分 | ②今日の活動を知る。   | ・予定表で活動の確認をする。(15)  |
| 7分  | ③聞かせ歌『明日へと』(3/3)<br>・演奏を鑑賞する。  | ・演奏に集中できるように静かな環境をつくる。(2)(4)  |
| 10分 | ④歌唱『どんぐりころころ』(1/3)<br>・ペープサートの登場に注目し、歌詞のイメージを膨らませる。<br>・ペープサートに注目しながら歌を歌う。 | ・ペープサートでイメージをもちやすくする。(14)   |
| 10分 | ⑤手遊び歌『せんたく』(4/4)<br>・友達とペアになり手遊び歌に取り組む。<br>・クラスごとに発表する。                    | ・模倣しやすいように手遊びの動きをはっきりと示す。(16)<br>・サブの教師は発表を終えた児童の評価をする。(21)   |
| 10分 | ⑥楽器遊び『おもちゃのチャチャチャ』(5/5)<br>・パートごとの部分練習をする。<br>・全体で演奏する。                    | ・近くで見本を見せたり、合図を送ったりする。(16)<br>・楽器を鳴らす部分がわかりやすいように絵譜を使用する。(13)   |
| 5分  | ⑦評価<br>・感想を発表する。   | ・発表が難しい児童はカードを使用するなどして意思表示できるように支援する。(17)(19)   |
|     | ⑧終わりの挨拶をする。  |   |
| 妥当性 | 単元目標   | 高すぎた・ <u>適当だった</u> ・低すぎた<br>どの目標に対しても、段階的にねらいを設定したことで達成できた児童が多かった。  |
|     | 単元・題材<br>(教材)  | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>聞かせ歌では、普段聞くことがない楽器の演奏を聴くことができた。『どんぐりころころ』では、歌のストーリーに合わせたペープサートで児童の興味をひくことができた。季節を感じたり、友達と触れ合えたりできる曲の設定だった。 |
|     | 学習・活動  | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>聞かせ歌『明日へと』では、いつものピアノとは違い、ギターやエレクトーンの生演奏をよく聴くことができた。『せんたく』では、友達同士でできるペアが多くなり、かかわり合える曲としてよかった。               |
| 評価  | 目標達成度：A達成した <u>Bほとんど達成した</u> Cあまり達成できていない D全く達成できていない                      |   |
|     | 理由   | 児童の実態に合ったねらいを何段階かに分けて設定することで、どの児童もそれぞれのねらいを概ね達成できた。また、授業改善を繰り返すことで、単元目標をはっきりさせることができ、教師もそのねらいを意識しながら指導できるようになってきた。また、児童が見通しをもてるようにすることや、発表の仕方についても、改善できてきた。                       |
|     | 改善策  | 活動に参加することが難しい児童に対しての適切な指導や支援について課題が残る。個々のねらいをもう少し明確にして共有する。合奏では、児童が自分から鳴らしたいと思える楽器を用意するなどの工夫をしていく。  |

|   |  |      |                 |     |  |              |   |
|---|--|------|-----------------|-----|--|--------------|---|
| 学部  | 小学部  | 集団構成 | 知的障害学級<br>3年生9名 | 授業名 | 図画工作   | 指導形態         | 教(図画工作)<br>合・領・総                                      |
| 年間の指導目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな素材に親しみ、描いたり、作ったり、飾ったりすることを楽しむ。</li> <li>・道具などを使うことによって、手指の巧緻性を高める。</li> <li>・イメージしながら作品を作り、作り上げた喜びを味わう。(伸)</li> </ul>   |      |                 |     |  |              |   |
| 単元名・題材名   | <p>カレンダーづくり ～はさみをつかって～</p> <p>【1】アイスクリームをつくろう(7月のカレンダー)</p> <p>【2】きのこをつくろう(10月のカレンダー)</p> <p>【3】みのむしをつくろう(11月のカレンダー)</p>   |      |                 |     |  |              |   |
| 児童・生徒の実態  | <p>知的障害学級の児童9名である。のりや紙で感触あそびをすることが多くなかなか活動に取り組みにくい児童や、手指をコントロールすることが難しい児童もおり、実態は様々である。はさみに関しては、線を見ながら直線を切れるが、適切な持ち方ではなく、自己流の持ち方になっている児童や、だんだんと脇が開いてきてうまく切れない児童もおり、手先の巧緻性に課題がある児童が多い。</p> <p>しかし図画工作の時間には、教師の説明をよく見聞きし、作品づくりに取り組める児童が多い。また、休憩時間には、はさみやのりを使って作品を作ることが好きな児童もいる。</p>   |      |                 |     |  | 学習指導要領での位置づけ |   |
|   | 教科   | 内容   |                 |     |  |              | <p>図画工作</p> <p>1段階(1)</p> <p>2段階(1)</p> <p>2段階(2)</p> |
| 単元の設定理由   | <p>はさみの使い方に課題がある児童が多いため、はさみを使用する機会を多く設定したいと考えた。そのため、毎月行っているカレンダーづくりではさみを使用する活動を継続して取り組んでいくことで、手指の巧緻性を高めることができると考え、本単元を設定した。指導にあたっては、直線切りや曲線切りなど、児童の実態に合わせた課題を設定し、以下の3つのグループに分けて取り組むようにした。</p> <p>Aグループは、手順表を見て見通しをもって活動ができる児童3名である。線に沿って直線を切ることができるが、円など少し複雑な線を切るとはまだ難しい。</p> <p>Bグループは、教師の言葉かけで手順表を見て確認しながら作品を作ることができる児童4名である。線は意識しているが、連続切りになると線からずれることがよくある。</p> <p>Cグループは、教師の支援を受けながら活動に取り組む児童2名である。線は意識しているが、集中が続かなくなったり、感触あそびをしたりと、活動に向かいにくい児童と、手指のコントロールが難しいため、すべての活動を教師と一緒に行う児童である。</p> <p>カレンダーづくりにおいては、自分の作品を仕上げていくという喜びを味わうことを大切に組み込んでいきたい。そのために、児童に親しみがあり興味関心をもてる題材を選択した。また作品づくりの工程がわかりやすく、見通しをもって作品づくりを行えるように手順表を活用することとした。また、手順表を見ながら作品づくりを行う中でも使用する教材(画用紙、色紙、お花紙など)から、好きな色や素材を自己選択できる活動も設定した。</p> |      |                 |     |  |              |   |
| 単元目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・マジックで濃く書かれた直線や半円、円の線を見ながら切ることができる。</li> <li>・作り方がわかり、イメージをもって作品を作ることができる。</li> <li>・手順表を基にがんばったことを発表することができる。</li> </ul>   |      |                 |     |  |              |   |
| 評価の基準   |  |      |                 |     | 支援・手立て   |              |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と一緒にはさみで切ることができる。</li> <li>・はさみで切っているところを注視することができる。</li> <li>・線に沿って直線を切ることができる。</li> <li>・線に沿って半円を切ることができる。</li> <li>・線に沿って円を切ることができる。</li> <li>・線に沿って複雑な形を切ることができる。</li> <li>・教師と一緒に手順表を確認しながら作品を作ることができる。</li> </ul> |  |      |                 |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・マジックで濃い線を書き、切る場所が分かりやすいように示す。(13)</li> <li>・作り方がわかりやすいように、写真で示した手順表を用意する。(13)</li> </ul> |              |   |

|  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と手順表を確認しながら作品を作ることができる。</li> <li>・一人で手順表に沿って作品を作ることができる。</li> <li>・手順表の中からはがんばったことや楽しかったことを一つ選ぶことができる。</li> <li>・手順表の中から選んだ、がんばったことを発表することができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・手順表を用いてがんばったことや楽しかったことを選択できるようにする。<br/>(17)(19)(20)(21)</li> <li>・発表が難しい児童は、教師が代わりにがんばったことを伝える。(19)</li> </ul> |
|--|--|

| 日時 | 学習活動   | 支援   |
|----|--|--|
|    | <p>【1】～7月のカレンダー～</p>  <ol style="list-style-type: none"> <li>①各教室に集まり、はじまりのあいさつをする</li> <li>②7月のカレンダーづくりの活動であることを知る。<br/>アイスクリームの写真を見て、アイスクリームを作ることを知る。</li> <li>③アイスクリームづくりの説明を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーンを切る。</li> <li>・アイスの色を選ぶ。</li> <li>・選んだアイスを切る。</li> <li>・コーンとアイスを貼り合わせる。</li> <li>・トッピングの色を選ぶ。</li> <li>・選んだトッピングを切る。</li> <li>・トッピングをアイスに貼る。</li> <li>・できあがり。</li> </ul> </li> <li>④アイスクリームづくりをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>A グループ・・・コーン(三角)、アイス(円)を切る。</li> <li>B グループ・・・コーン(直線2回)、アイス(半円)を切る。</li> <li>C グループ・・・コーン(直線1回)、アイス(半円)を切る。</li> </ul> </li> <li>⑤できた作品を発表する。<br/>各グループごとに発表する。</li> <li>⑥クラス別の模造紙に貼る。</li> <li>⑦おわりのあいさつをする。</li> </ol> |  <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージをもちやすいようにアイスクリームの写真を提示する。<br/>(14)</li> <li>・手順表に沿って実際に作り、具体的に説明する。(13)(15)</li> <li>・網掛け部分については、児童の実態に合わせて各グループで活動を行う。(4)</li> <li>・がんばったことや楽しかったことを児童が選びやすいように、手順表を用いる。(19)</li> </ul> |

【2】～10月のカレンダー～



①各教室に集まり、はじまりのあいさつをする。

②10月のカレンダーづくりの活動であることを知る。  
きのこの実物を見て、きのこを作ることを知る。

③きのこづくりの説明を聞く。

- ・かさの形を切る。
- ・軸を切る。
- ・模様を切る。
- ・かさと軸を貼り合わせる。糊しろに糊をつける。
- ・かさに模様を貼る。
- ・顔を描く。
- ・できあがり。

④きのこづくりをする。

- A グループ・・・かさ、軸、模様の形を全て切る。
- B グループ・・・かさ、軸、模様（形の半分の曲線）を切る。
- C グループ・・・かさ、軸（形の半分の曲線）、模様（直線）を切る。

⑤できた作品を発表する。  
各グループごとに発表する。

⑥おわりのあいさつをする。



・イメージをもちやすいように、実物（エリンギやえのき）を提示する。

（14）

・手順表に沿って実際に作り、具体的に説明する。（13）（15）

・網掛け部分については、児童の実態に合わせて各グループで活動を行う。（4）

・机上で見られる手順表を置く。

（15）（22）

・児童の実態に応じて両面テープや、置き型ばさみを使用する。

（22）

・発表の前にできた児童から模造紙に貼るようにする。（25）

・発表の前に作り終わった時点でがんばったところを決めておく。

（26）

・がんばったことや楽しかったことを児童が選びやすいように手順表を用いる。（19）（28）

【3】～11月のカレンダー～



- ①各教室に集まり、はじまりのあいさつをする。
- ②11月のカレンダーづくりの活動であることを知る。  
みのむしのイラストや写真を見て、みのむしを作ることを知る
- ③みのむしづくりの説明を聞く。
  - ・みのむしの胴の部分切る。
  - ・みのむしの顔の輪郭を切る。
  - ・葉っぱを切る。
  - ・胴の部分に切った葉っぱを貼る。
  - ・顔と胴を貼り合わせる。
  - ・顔を描く。
  - ・お花紙やシャインテープ、毛糸などを使用して自由に仕上げをする。
  - ・できあがり。
- ④みのむしづくりをする。
  - A グループ・・・顔、胴、葉(小)をすべて切る。
  - B グループ・・・顔、胴、葉(大)を切る。  
(顔、胴、葉の部分は半分に折ったものを切る)
  - C グループ・・・顔、胴、葉(大、長方形)を切る。  
(顔、胴、葉の部分は半分に折ったものを切る)
- ⑤できた作品を発表する。  
各グループごとに発表する。
- ⑥おわりのあいさつをする。

・イメージをもちやすいように、みのむしの写真やイラストを提示する。(14)

・手順表に沿って実際に作り、具体的に説明する。(13)(15)  
・網掛け部分については、児童の実態に合わせて以下のグループの活動を行う。(4)

・机上で見られる手順表を置く。  
(15)(22)



・児童の実態に応じて両面テープや置き型ばさみを使用する。(22)  
・発表の前にできた児童から模造紙に貼っておく。(25)  
・作り終わった時点でがんばったところを決めておく。(26)  
・がんばったことや楽しかったことを児童が選びやすいように、手順表を用いる。(19)

|     |  |   |
|-----|--|---|
| 妥当性 | 単元目標   | 高すぎた・ <u>適当だった</u> ・低すぎた<br><ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の児童の実態に合ったはさみを使う課題設定ができた。</li> <li>実物や見本を提示し、手順を示すことで、イメージをもつことができ、児童が主体的に課題に取り組めた。</li> <li>手順表を基にすることで、発表しやすく、児童同士がお互いの作品のよさに気づくことができた。</li> </ul>   |
|     | 単元・題材<br>(教材)  | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br><ul style="list-style-type: none"> <li>カレンダーづくりの活動に取り組むことで、継続してはさみを使う課題に取り組むことができ、課題設定がしやすかった。</li> <li>アイスクリームやきのこ、みのむしなど、児童にとって馴染みのあるものや実際に見ることのできるものを制作することにより、イメージをもって取り組むことができた。</li> <li>児童が好きな色や素材を自由に選択できる教材を採り入れたことが良かった。</li> </ul>  |
|     | 学習・活動  | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br><ul style="list-style-type: none"> <li>手順表にそって制作することにより、児童が確認しながら自分のペースで活動することができた。より見通しをもって活動することができた。</li> <li>児童の実態によってグループ分けをしたことで、児童それぞれの課題に迫りやすかった。</li> <li>グループで教室を分けたことで、落ち着いた環境で取り組むことができた。</li> <li>児童が好きな色や素材などを自由に選択できる活動内容を採り入れたことにより、児童一人一人が工夫して楽しんで課題に取り組むことができた。</li> <li>手順表を基に活動をふりかえり、がんばったところを自分で選び発表することができた。</li> </ul> |
| 評価  | 目標達成度：A達成した B <u>ほとんど達成した</u> Cあまり達成できていない D全く達成できていない |   |
|     | 理由   | <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の児童の実態に合ったはさみを使う課題を継続して設定したことで、線(直線・曲線)に沿って切ることが上手になってきた。</li> <li>手順表を用いることで、自分で確認しながら自分のペースで活動することができ、より見通しをもって活動することができた。</li> <li>手順表を基に活動をふりかえり、がんばったところを自分で選び、発表することができたり、児童同士がお互いの作品を共有することで、作品のよさに気づいたりすることができた。</li> </ul>  |
|     | 改善策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>取り組んで行く中で、グループ内での上達度の差が出てきたので、それぞれでの課題や教材の工夫が必要になってきたので、より個々の課題に迫っていきたい。</li> <li>より児童が興味のもてる題材や素材の工夫をしていきたい。</li> </ul>   |

|   |   |   |                                       |   |       |              |                |
|---|---|---|---------------------------------------|---|-------|--------------|----------------|
| 学部  | 小学部   | 集団構成  | 知的障害児学級<br>3、4年生6名                    | 授業名   | 課題別学習 | 指導形態         | ⑧(国語)<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通して、しっかりと対象に向かい、人や物にかかわる力を育てる。</li> <li>・身体活動を通して楽しみながら課題に取組、言葉や数に触れたり意識したりできるようになる。(コ)</li> <li>・集団活動の中で簡単なルールを守り、見通しをもって活動に取り組む。(仲)</li> </ul> |                                       |   |       |              |                |
| 単元名・題材名   |   | 『できるかな?』～あたまからつまさきまで～   |                                       |   |       |              |                |
| 児童・生徒の実態  | <p>コミュニケーション面では、自分の思いを言葉で話すことができる児童から、目の動きや表情などの身振りで自分の思いを表現する児童までいる。また、身体面では、手足を自由に動かすことのできる児童から、自分から立つことが難しかったり、手を使ったりすることが難しい児童もいて、実態はさまざまである。情緒面では、授業中椅子に座っていることが難しく、集中して活動することが難しい児童や、その時の気分によって活動に参加できなかつたりする児童もいるが、教材をよく見たり、話をよく聞くことのできる児童もいる。一人ずつ時間をかけることで言葉かけに対してしっかり返す様子や、発表時に頑張っている児童の様子がみられる。</p>   |   |                                       |   |       | 学習指導要領での位置づけ |                |
|   |   |   |                                       |   |       | 教科           | 内容             |
|   |   | 国語  | 1段階 (1) (2)<br>2段階 (1) (2)<br>1段階 (3) |   |       |              |                |
| 単元設定の理由   | <p>このグループの児童は絵本が好きである。前単元では、『どうぶついろいろかくれんぼ』の絵本を使って、登場する動物の名前や動物の鳴き声、複数の動物カードから同じカードを選ぶマッチングの学習を行ってきた。今回も『できるかな?』の絵本を使用し、動物を題材に取り入れることで円滑に学習できると考えた。今単元では、前単元とは異なる動物の名前や、動きの模倣を学習することができる。</p> <p>毎時間始まりの歌を決めて歌うことで、授業の始まりを意識して始めることができる。出席調べでは、一人一人が主役であることを自覚して欲しい。『できるかな?』では、挿入歌が入るので、興味関心も高まる。歌を歌いながら、動物の動きを模倣することで動物のイメージを持てるようにしたい。全身を使いながら言葉と動物のイメージを繋げていきたい。</p> |   |                                       |   |       |              |                |
| 単元目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼名で返事をし、自分の顔写真を選んで白板に貼ることができる。</li> <li>・スライド絵本に登場する動物や挿入歌に集中して見聞きする。</li> <li>・絵本の動物の動きを真似て、みんなと一緒に身体表現をしようとする。</li> </ul>   |   |                                       |   |       |              |                |
| 評価の基準   |   |   |                                       | 支援・手立て  |       |              |                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・始まりの歌が聞こえると、表情が変わり、身体表現ができる。</li> <li>・自分の顔写真が選べる。白板に貼る。返事をする。</li> <li>・一文字ずつ、名前のマッチングができる。(A)</li> <li>・スライドの絵本を見ることができる。</li> <li>・動物カードを注視できる、また動物の名前が言える。</li> <li>・動物のひらがな単語のマッチングができる。(A)</li> <li>・身体の部位が分かり、動物の動きを模倣することができる。</li> </ul> |   |   |                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな表情を見せる。(1 4)</li> <li>・実態に応じて写真カードの数をかえる。(1 6) (2 2)</li> <li>・集中できるように一文字ずつ指で押さえる。(2 2)</li> <li>・挿入歌を入れる。(1 4) (8)</li> <li>・見やすい位置にテレビを置く。(4)</li> <li>・言えない時は、身振りや頭文字を言うなど実態に応じてヒントを出す(2 2)。</li> <li>・注目できるよう机上で取り組む(2 3)</li> <li>・模倣が難しい時は、動きを教師と一緒にする。(2 2) (2 3)</li> </ul> |       |              |                |

| 日時  | 学習活動   | 支援   |
|-----|--|--|
| 5分  | ①始まりのあいさつをする。  |  |
|     | ②今日の予定を知る。   |  |
| 5分  | ③始まりの歌『ニコニコポンポン』（当番で順番にする）<br>・教師や友達の身ぶりをまねて歌う。<br>「いないいないばあ〜」自分で考えた顔（ニコニコ、メソメソ、ポンポン）をする。                    | ・個々の実態に応じて顔写真の枚数を調整する。（22）   |
| 10分 | ④出席を調べる。<br>・名前を呼ばれたら、大きな声で返事をして、自分の顔写真を選び、自分の名前札の上に貼る。  | ・（A）ひらがな文字のマッチングをする。（22）<br>・名前を呼ぶときはひらがなを指差しながら読む。（22）  |
| 5分  | ⑤絵本『できるかな？』のスライドショーを歌と共に見ながら、各自それぞれの動物の動きをする。  |  |
| 15分 | ⑥テレビの画面に映った動物の名前を確認する。<br>・身体の部位を確認する。<br>・動きをみんなで作ってみる。<br>・音楽を流しながら動きを合わせる。<br>（場面に応じて動物の動作をやりたい児童は、前に出る。） | ・動物の名前が出てこない場合、頭文字を言ったり動作をしたりしてヒントを与える。（16）（23）<br>・それぞれの場面で出てくる部位を触れて意識させる。（8）（23）（26）<br>・（A）ひらがな文字単語のマッチングを入れる。（22）                               |
| 5分  | ⑦頑張ったことの発表をする。   |  |
|     | ⑧終わりのあいさつをする。  |  |
| 妥当性 | 単元目標   | 高すぎた・ <u>適当だった</u> ・低すぎた<br>落ち着いて学習に参加し、目標を達成できた。  |
|     | 単元・題材<br>（教材）  | （児童生徒にとって） <u>難しい</u> ・ <u>適当</u> ・ <u>簡単</u><br>（目標を達成するのに） <u>適していた</u> ・ <u>適していなかった</u><br>動物を使うことで興味を引くことができた。動物の名前、鳴き声、動作の模倣など各児童の課題に幅広く対応できた。 |
|     | 学習・活動  | （児童生徒にとって） <u>難しい</u> ・ <u>適当</u> ・ <u>簡単</u><br>（目標を達成するのに） <u>適していた</u> ・ <u>適していなかった</u><br>活動に歌や身体表現を取り入れたことで、積極的に活動できた児童が多かった。                  |
|     | 目標達成度：A達成した・ <u>Bほとんど達成した</u> ・あまり達成できていない・D全く達成できていない   |  |
| 評価  | 理由   | 比較的集中して取り組めた。しかし、「できた・分かった」という達成感を味わったり、友達の活動を見たりする機会が少なかった。   |
|     | 改善策  | 「できた・分かった」ことを評価できるように、マッチングの評価は○カードを使う。発表する時の立ち位置をテープで示す。<br>友達の活動に注目しやすくするために、動作模倣を発表する際にはTVをつけず、主指導の見本のみを示すようにする。                                  |

|  |   |  |                    |   |       |              |                                  |
|--|---|--|--------------------|---|-------|--------------|----------------------------------|
| 学部   | 小学部   | 集団構成   | 知的障害児学級<br>3、4年生6名 | 授業名   | 課題別学習 | 指導形態         | 教(国語)<br>合・領・総                   |
| 年間の指導目標  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通して、しっかりと対象に向かい、人や物にかかわる力を育てる。</li> <li>・身体活動を通して楽しみながら課題に取り組、言葉や数に触れたり意識したりできるようになる。(コ)</li> <li>・集団活動の中で簡単なルールを守り、見通しをもって活動に取り組む。(仲)</li> </ul> |                    |   |       |              |                                  |
| 単元名・題材名  |   | 『げつようびなにたべる』   |                    |   |       |              |                                  |
| 児童・生徒の実態   | <p>コミュニケーションでは、自分の思いを言葉で話すことができる児童から、目の動きや表情などの身振りで自分の思いを表現する児童までいる。また、身体面では、手足を自由に動かすことのできる児童から、自分から立つことが難しかったり、手を使ったりすることが難しい児童もいて、実態はさまざまである。情緒面では、授業中椅子に座っていることが難しく、集中して活動することが難しい児童や、気分によって活動に参加できなかつたりする児童もいるが、教材をよく見たり、話をよく聞くことのできる児童もいる。一人ずつ時間を取ることで言葉かけに対してしっかり返す様子や、発表時に頑張って答えようとする児童の様子がみられる。</p>  |  |                    |   |       | 学習指導要領での位置づけ |                                  |
|  |   |  |                    |   |       | 教科           | 内容                               |
|  |   |  |                    |   |       | 国語           | 1段落(1)(2)<br>2段落(1)(2)<br>1段落(3) |
| 単元設定の理由  | <p>このグループの児童は絵本が好きである。前々単元では、『どうぶついろいろかくれんぼ』の絵本を使って、登場する動物の名前や動物の鳴き声、複数の動物カードから同じカードを選ぶマッチングの学習を行ってきた。前単元では、『できるかな?』の絵本を使って、登場する動物の名前や動物の動作模倣と擬音の発声の学習を行ってきた。今回も『げつようびなにたべる』の絵本を使用し、動物や食べ物と題材に取り入れることで円滑に学習できると考えた。</p> <p>毎時間始まりの歌を決めて歌うことで授業の始まりを意識することができる。出席調べでは、児童一人一人の個々の課題に迫りたい。『げつようびはなにたべる』では、挿入歌が入るので、興味関心も高まる。食べ物の画像やイラストを用い、時には味見をすることで食べ物の名前とイメージを結びつけられるようにしたい。</p> |  |                    |   |       |              |                                  |
| 単元目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼名で返事をし、自分の顔写真を選んで白板に貼ることができる。</li> <li>・絵本に登場する食べ物や挿入歌に集中して見聞きする。</li> <li>・食べ物の名前が言える。また、食べ物カードで同じ種類のマッチングができる。</li> </ul>  |  |                    |   |       |              |                                  |
| 評価の基準  |   |  |                    | 支援・手立て  |       |              |                                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・始まりの歌が聞こえると、表情が変わる、また身体表現ができる。</li> <li>・自分の顔写真が選べる。白板に貼る。返事をする。</li> <li>・一文字ずつ、名前とのマッチングができる。(A)(B)</li> <li>・ホワイトボードに貼った絵本の場面や食べ物カードを見ることができる。</li> <li>・食べ物カードを注視できる、また食べ物の名前が言える。</li> <li>・食べ物のひらがな単語のマッチングができる。(A)</li> </ul> |   |  |                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな表情を見せる。(14)</li> <li>・実態に応じて写真カードの数をかえる。(16,22)</li> <li>・集中できるように一文字ずつ指で押さえる。(22)</li> <li>・挿入歌を入れる。(8,14)</li> <li>・言えない時は、身振りや頭文字を言うなど実態に応じてヒントを出す。(22)</li> <li>・注目できるよう促す。(23)</li> </ul> |       |              |                                  |

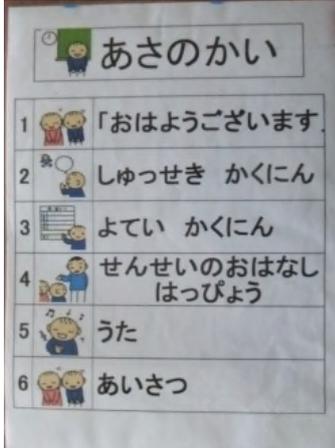
| 日時  | 学習活動   | 支援                           |
|-----|--|------------------------------|
| 5分  | ①始まりのあいさつ  |                              |
| 5分  | ②今日の予定を知る。   | ・イラスト入り予定カードを貼る。<br>(13)(15) |
|     | ③始まりの歌『ニコニコブンブン』<br>・教師や友達の身ぶりをまねて歌う。<br>「いないいないばあ～」で自分で考えた顔をする。 | ※個々の課題に取り組む。                 |
| 10分 | ④出席調べ<br>・自分の写真、平仮名カードを選び貼る。呼名で返事する。                             | (時間を見計らいながらできる範囲<br>です)(22)  |
| 5分  | ⑤絵本『月曜日はなにを食べる?』の歌を見聞きする。  |                              |



|     |   |  |
|-----|---|--|
|     | 歌に合わせて曜日、「何食べる」「お腹ぺこぺこ」「みんなおいで」のマカトンサインも入れる。  |  |
| 18分 | ⑥チキンを見て、名前を答える。食べて味をみる。<br>⑦食べ物カードのマッチングを順に行う。<br>⑧ワークシートをする。<br>(チキン、おさかな、ハンバーグ)<br>振り返りをする。 | ・最初は教師がホワイトボードに「食べ物」のイラストを貼る。<br>(8)(13)<br>・ひらがなのマッチングを行う。注目しやすいように、黒字に白抜き文字にする。(A)(22) |
|     |   |  |
|     |   | ・児童のがんばりを「花まるシート」と言葉で評価する。(17)<br>・絵本を広げて見せることでヒントにする。(19)(23)                           |

|     |  |   |
|-----|--|---|
| 2分  | <p>⑨「げつようびなにたべる？」を歌う、ペープサート（食べ物、曜日）を選び、歌に合わせて上げる。</p> <p>⑩終わりのあいさつをする。</p> |   |
| 妥当性 | <p>単元目標</p>  | <p>高すぎた・<u>適当だった</u>・低すぎた</p> <p>カードで遊びたくて、課題に集中することが難しい児童がいたが、他の児童は落ち着いて各自の課題に取り組んでいた。絵本に関しては、白板をよく見ることができ、マカトンサインや歌を歌うことができていた。食べ物の名前は、一人ずつ丁寧に質問していくことで発声することができていた。マッチングはスムーズにできていた。</p>   |
|     | <p>単元・題材<br/>(教材)</p>  | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当・簡単</u></p> <p>(目標を達成するのに) <u>通していた</u>・<u>通していなかった</u></p> <p>絵本や挿入歌もあり興味関心を引くことができていた。食べ物の写真カードやワークシートの教材も写真が本物で分かりやすく良かった。</p>  |
|     | <p>学習・活動</p>   | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当・簡単</u></p> <p>(目標を達成するのに) <u>通していた</u>・<u>通していなかった</u></p> <p>「食べる」という経験を通して食べ物の名前が言えるようになってきた。食べ物カードで同じカードを選ぶ活動があり、ワークシートでも復習できるようにしたことで、繰り返し取り組めた。ワークシートのプリント学習では、座って落ち着いて取り組んでいた。</p>  |
|     | <p>目標達成度：A達成した B<u>ほとんど達成した</u> Cあまり達成できていない D全く達成できていない</p>               |   |
| 評価  | <p>理由</p>  | <p>出席調べでは、各自の課題に取り組めた。絵本では、歌に合わせて白板に貼る曜日カードや食べ物カードを集中して見ることができた。音楽が流れると、笑顔を見せたり、大きな声で歌ったりすることができていた。また、マカトンサインや身振りを取り入れることで言葉が出やすく、よりイメージが深まった。振り返りのワークシートでは、各自が学んだことを復習できるのは良かった。評価の部分では、課題ができたり、頑張っていたらすぐ評価することで、児童のやる気に繋げることができていた。言葉が少ない児童に対しても、教師が表情や動きなどで受け止め、言語化して児童に返すことができていた。</p> |
|     | <p>改善策</p>   | <p>食べ物カードのマッチングでは、全員が一斉に机上で行うので、課題に向き合う児童と待っている児童に分かれてしまい、活動の流れが児童には分かりにくかった。また、マッチングをしたカードを各自が白板に貼りに行く活動においても、移動があるため集中しづらかった。改善策としては、多少時間がかかっても友達と学び合えるように一人ずつ発表した方が良い。一人ずつ考え白板に貼り、全員で合っているかを確認するほうが全体の評価につながる。移動することで集中しづらいのであれば、持ち運びできる小さな白板を個々に用意し、そこに貼るようにする。</p>                     |

|  |   |   |                        |  |             |      |               |
|--|---|---|------------------------|--|-------------|------|---------------|
| 学部   | 小学部   | 集団構成  | 1ブロック<br>5年生           | 授業名  | 日常生活<br>の指導 | 指導形態 | 教( )<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活の流れをつかみ、見通しを持って行動する。</li> <li>・学校生活の中で基本的な生活習慣を身に付ける。</li> <li>・自分の思いや要求を自分のできる表現で、相手に伝える力をつける。(コ)</li> <li>・友だちと一緒に活動することの楽しさを知り、友だちを意識する。(仲)</li> </ul> |                        |  |             |      |               |
| 単元名・題材名  |   | 朝の会   |                        |  |             |      |               |
| 児童・生徒の<br>実態   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の不明瞭な児童もいるが、全員が簡単なコミュニケーション(言葉でのやりとり)ができる。(単語や返事で答える児童から、文章で答える児童)</li> <li>・全員が文字や絵を見て、日課表を理解している。</li> <li>・日直の細かい進行(日時、時間割等)が難しい児童もいるが、手順表を見たり、教師に少しの支援をしてもらったりすることで、朝の会をスムーズに進めることができる。</li> <li>・朝の会ですること、予定等はよく理解しているが、日直の進め方や、その日の体調・気分等で朝の会への意欲が出ない児童もいる。</li> <li>・それぞれに好みはあるが、全員が音楽を好きである。</li> </ul> | 学習指導要領での位置づけ  |                        |  |             |      |               |
|  |   | 教科  | 内容                     |  |             |      |               |
|  |   | 生活  | 2段階(2)(4)<br>(5)(6)(8) |  |             |      |               |
|  |   | 特別活動  |                        |  |             |      |               |
| 単元の<br>設定理由  | <p>本単元は、クラス全員が参加することで、友達と顔を合わせる機会を設け、一日を過ごす集団を意識できるようにした。また毎日1時間目に行い授業の予定を確認することで、一日のスタートを意識し、見通しをもって活動ができると思った。</p> <p>クラスの仲間意識を育むために、出席及び健康確認や発表場面を設定するとともに、写真カードを渡したり、質疑応答をしたりと児童同士がかかわる機会を設けた。楽しい一日のスタートを感じられるように、児童が興味のある歌やダンスを取り入れた。日直だけでなく、出席確認や予定確認、ダンス等で一人一人が多く活動できる場面を設定した。</p>   |   |                        |  |             |      |               |
| 単元<br>目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの仲間と一緒に楽しく一日をスタートする。</li> <li>・一日の流れを知り、見通しを持つ。</li> </ul>   |   |                        |  |             |      |               |
| 評価の基準  |   |   |                        | 支援・手立て   |             |      |               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・日直からもらった写真カードをホワイトボードに貼る。</li> <li>・健康状態を発表する。</li> <li>・日直の言葉を聞いて、予定カードを貼る。</li> <li>・予定カードを見る。</li> <li>・友達の方を向いて出来事等を話す。</li> <li>・友達の様子を見たり、声等を聞いたりする。</li> <li>・日直の選んだ音楽で歌ったり踊ったりする。</li> </ul> |   |   |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・名前カードを貼って、写真カードを貼るスペースを作っておく。(19)</li> <li>・文字とイラストを使って、カードを作る。(15, 19)</li> <li>・一人一人が順番に貼りに行く。(20, 26)</li> <li>・児童に合わせて、事前に話す内容を確認しておく。(5, 15)</li> <li>・一人一人が活動する機会を多くする。(20)</li> <li>・事前に児童の希望を聞いて、音楽を選ぶ。(3, 25)</li> <li>・選びやすいように、歌にちなんだイラストを作り、選びやすくする。(8, 14)</li> </ul> |             |      |               |

| 日時  | 学習活動   | 支援   |
|-----|--|--|
|     | <p>司会：児童が毎日交替で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ<br/>日にち、天気の確認</li> <li>出席確認<br/>日直が名前を呼んで写真カードを渡し、もらった児童は名前の上にはりに行く。貼った後、健康状態を聞きみんなの前で答える。</li> <li>予定確認<br/>日直が本日の予定カードを1時限ごとに友達に配り、その後1限目から日直が言い、言われたカードを持った児童がホワイトボードにはりに行く。</li> <li>教師からの連絡<br/>時間割の確認、連絡事項、</li> <li>児童の発表<br/>昨日の出来事・昨晚のメニュー・朝食メニュー 等</li> <li>朝の歌<br/>月替わりで変更</li> <li>終わりのあいさつ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>順番表を用意する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の発音が不明瞭な場合には、教師が復唱し、他の児童に伝えるようにする。また、教師が正しい発音のモデルを示す。</li> <li>話がまとまらない児童には、あらかじめ何を伝えるか聞いておき、話したいことを整理したメモを準備する。</li> </ul> |
| 妥当性 | 単元目標   | 高すぎた・ <u>適当</u> だった・低すぎた   |
|     | 単元・題材<br>(教材)  | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適して</u> いた・適していなかった<br>朝の歌を月替わりで替えた。11月は、歌を3つの中から日直が決めて歌うことで、いろいろな歌をうたえるようになった。  |
|     | 学習・活動  | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適して</u> いた・適していなかった<br>予定カードを全員に配り、順番にホワイトボードにはりに行く等活動量を増やした。  |
| 評価  | 目標達成度：A 達成した B <u>ほとんど</u> 達成した C あまり達成できていない D 全く達成できていない   |  |
|     | 理由   | 朝の会は、日直が主に活動しがちなので、みんなが参加できることを大切に取組んだ。日直以外の児童の活動を増やすことで、一人一人が参加する場面が多く見られるようになった。「クラスの仲間と一緒に楽しく一日をスタートする」を目標にしたことで、今まで歌ってきた「朝の会の歌」にこだわらずに、児童が好きな歌を選び、最後に歌うことで楽しく1日のスタートが切れるようになった。  |
| 改善策 | 『児童の発表』で、発表を聞いている児童が反応出来る方法を検討し、発言が難しい児童への支援の方法を工夫する必要がある。<br>注目を促したり、発言した内容の補足をする等教師の役割を確認する必要もある。<br>更に、一人一人が活動できる場面を考えて行く。  |  |

| 学部   | 小学部   | 集団構成   | 肢体不自由重複学級<br>(2～6年)   | 授業名 | 課題別学習<br>かれーからいグループ | 指導形態 | 教( )<br>④・領・総 |                                    |
|--|---|--|---|-----|---------------------|------|---------------|------------------------------------|
| 年間の指導目標  |   | 日常生活に必要な聞く力・話す力を伸ばすと共に、読み・書きに親しむ。(コ)<br>日常生活に必要な数量・図形などの基礎概念を培う。<br>教師や友だちと一緒に様々な活動や公共物の利用を体験し、簡単なきまりやマナーを理解する。(人) |   |     |                     |      |               |                                    |
| 単元名・題材名  |   | どこにあるかな？   |   |     |                     |      |               |                                    |
| 児童・生徒の実態   | 本グループの児童は、ひらがなを読むことができてきた児童から、写真と実物のマッチングや色のマッチングができるが、形の弁別や色の名称等が不確実な児童まで、個々の認知面に偏りがあり、発達段階は様々である。肢体不自由重複学級の児童であるため、手指のコントロールや発語については、全員に共通した課題となっている。また、短期記憶や注意の持続が苦手なために、じっくりと物を見続けることや見比べること等が課題である児童が多い。一度失敗すると意欲と集中力が低下し、課題に取り組みにくくなるが、「できた」という成功体験で達成感を持ち課題に向けて意欲を高めることができている。また、昨年度とメンバーも同じでお互いの学習の様子を意識し、友だちの活動に注目できるようになってきている。そのことにより、友だちが褒められている様子を見たり、自分が注目をされたりすることにより意欲を掻き立てられる場面も頻繁にみられる。 |  |   |     |                     |      | 学習指導要領での位置づけ  |                                    |
|  |   |  |   |     |                     |      | 教科            | 内容                                 |
|  |   |  |   |     |                     |      | 生活            | 1段階 (9) (12)                       |
|  |   |  |   |     |                     |      | 国語            | 1段階 (1) (2) (3) (4)<br>2段階 (1) (3) |
| 算数   | 1段階 (1) (2) (3)<br>2段階 (1)  |  |   |     |                     |      |               |                                    |
| 単元の設定理由  | 本単元では算数の内容を取り上げる。2つの箱を用意し、片方の箱に人形を隠し、入っている箱を言い当てる課題や、複数の箱に人形を並べた手本を呈示し、手本と同じ位置に並べる課題を設定する。課題を成功させるためには、人形と人形を隠したり並べたりする場面に注目し続ける力、位置を記憶する力、箱を見比べる力が必要となる。隠す場面の呈示方法や箱の数により、スモールステップで個々の実態に応じた課題を設定することが容易にできる。細やかな支援とスモールステップにより、成功体験による学習を積み重ねていき、記憶したり見たりする力を高めていきたい。また、児童の好きなキャラクター人形を使用することや課題を成功した時に“はなまるカード”をもらうこと、友だちの前で発表する活動等を取り入れることで学習への意欲や自信も高めていくことができると考えた。                                  |  |   |     |                     |      |               |                                    |
| 単元目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・隠すもの(人形、はなまるカード)や対象を注視・追視する。</li> <li>・位置記憶、位置把握の力を高める。</li> </ul>  |  |   |     |                     |      |               |                                    |
| 評価の基準  |   |  | 支援・手立て  |     |                     |      |               |                                    |
| <b>【ふたのある箱2つ】</b><br>○隠す人形に注目している。<br>○箱に入れる場面に注目している。<br>○人形を入れた箱を見続け、ふたをする場面まで注目している。<br>○人形を入れた箱に視線を向ける。<br>○人形を入れた箱に手を動かしたり、指さしをしたりする。 |   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の前に机を移動させ、見やすい位置と距離で箱を呈示する。(22)</li> <li>・児童の好きな人形(妖怪ウォッチのキャラクター)を使用する。(8、25)</li> <li>・人形に視線が向いたことを確認しながら箱に入れる。(22)</li> <li>・注目できていない時は、言葉がけ等で注意を促す。(23)</li> <li>・成功のために繰り返し支援が必要な場合は、1つ前の段階に戻る。(23、24)</li> </ul> |     |                     |      |               |                                    |
|   |   |  | ①箱を順に呈示・順にふた<br>②箱を同時に呈示・順にふた<br>③箱を順に呈示・同時にふた<br>④箱を同時に呈示・同時にふた<br>の4段階で進め、各段階で人形を入れる箱を後出しし、後からふたをする→箱を先に出し、先にふたをする。利き手側→反利き手側の順で取り組んでいく。(5)   |     |                     |      |               |                                    |

【人形並べ C】

○手本の6マスの表と同じ位置の箱に人形を入れる。



- ・児童の好きな人形（妖怪ウォッチのキャラクター）を使用する。（8、25）
- ・1つずつ箱を指さし、「ここですか？」と尋ねる。箱の真横に手本の表を呈示して確認できるようにする。（19）

| 日時                              | 学習活動  | 支援   |
|---------------------------------|---|--|
| <p>5分</p> <p>10分</p> <p>20分</p> | <p>○自分の名前カードと顔写真を取り、ホワイトボードに貼る。</p> <p>○始まりのあいさつをする。</p> <p>○本時の活動を知る。</p> <p>① なまえ</p> <p>② どこにあるかな？（中間発表／てあそび）</p> <p>③ はっぴょう</p> <p>①なまえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループのメンバーの出席確認をする。</li> <li>・名前を呼ばれたら、返事をして、名前カードを確認する。</li> <li>・全員で何人いるかを数える。</li> </ul> <p>②どこにあるかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の手本を見る。</li> <li>箱に人形とはなまるカードを隠すのを見る。</li> <li>「どーこだ？」</li> <li>箱のふたを外し、隠した人形とはなまるカードを見つける。</li> <li>人形が見つかったら、はなまるカードを各自のミニホワイトボードに貼る。</li> <li>はなまるカードをたくさん集めることを知る。</li> <li>・2グループに分かれる。</li> <li>・使いたい人形を選ぶ。</li> <li>・1人ずつ順番に課題に取り組む。</li> <li>Cは6マスの表を見て、同じ位置の箱に人形を入れる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・A、D、E：名前カードは2択で行う。（22）</li> <li>・B、C：ひらがなを並べる。（22）</li> <li>・ジェスチャーをつけて、一緒にあいさつを言うよう促す。（19）</li> <li>・活動内容を書いた文字とイラストカードをミニホワイトボードに貼って呈示する。（15）</li> <li>・名前を呼ぶ時は、児童全員の顔を見ながら呼ぶ。（呼ぶ児童だけに注目しないようにする。）</li> <li>・名前カードを間違えていたら、手本を呈示したり一文字ずつ読んだりしてヒントを出し、もう一度取り組む。（23）</li> <li>・教師の名前も呼ぶ。</li> <li>・しっかり見ることを強調して伝える。（15）</li> <li>・しっかり見ることと、はなまるカードを集めることを再度伝える。（15）</li> <li>・グループの間に衝立を立てる。（4）</li> <li>・教師は箱の呈示と記録に分かれる。</li> <li>・順番がきた児童の前に机を移動させ、見やすい位置と距離で箱を提示する。（22）</li> </ul> |

|     |  |   |
|-----|--|---|
|     | <p>③はっぴょう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ずつ前を出て、はなまるカードの数を数える。</li> </ul> <p>○終わりのあいさつをする。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・利き手でふたを取るようにする。</li> <li>・成功体験を重ねられるようにする。(24)</li> <li>・衝立を外し、集合する。</li> <li>・それぞれの良かった所や頑張っていた所を伝える。(28)</li> </ul> |
| 妥当性 | <p>単元目標</p> <p>高すぎた・<u>適当だった</u>・低すぎた</p> <p>スモールステップで成功体験を積み重ねることで、より集中して注視・追視し続けることができるようになった。個々に応じて難易度を変えることができた。</p>   |   |
|     | <p>単元・題材(教材)</p> <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単</p> <p>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・適していなかった</p> <p>キャラクター人形やはなまるカードを使うことで興味と意欲を引き出すことができた。箱を軽いふたつきのものにするので、扱いやすくなった。</p>  |   |
|     | <p>学習・活動</p> <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単</p> <p>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・適していなかった</p> <p>スモールステップで課題を進めることで、成功体験を積み重ねることができ、児童の学習への意欲と集中力が高まった。少し簡単で確実にできる段階からスタートし、ルールが分かりやすかったことが良かった。注視・追視している時や自発的に正答に向かって行動をした時に即時評価(言葉がけ)を行うことで、児童が自信を持って取り組んでいた。</p>   |   |
| 評価  | <p>目標達成度：A 達成した <u>B ほとんど達成した</u> C あまり達成できていない D 全く達成できていない</p>   |   |
|     | <p>理由</p> <p>一人一人の記憶や注意力等の実態に合わせた課題呈示ができた。しっかり注目・追視ができていながら課題を呈示し、スモールステップで成功体験を積み重ねることで、より集中して注視・追視し続けることができるようになった。Cについては、手本を確認して、箱の位置に並べることができた。間違えている場合でも、自分で確認して間違いに気づき訂正することができた。また、「しっかり見ること」「はなまるカードを集めること」という目標をはじめに伝えることで、児童も教師も目標を意識して活動に取り組むことができたと思われる。</p> <p>5名全員が揃った時に2グループに分かれてそれぞれのグループが集中できるように間に衝立を立てたことで、一人一人が課題に取り組む回数を確保でき、集中力を持続できた。また、児童の様子を見ながら活動の間に中間発表や手あそび等の時間を設けたことにより、リフレッシュして後半も集中して取り組むことができた。</p> <p>個別性が高い単元であったが、はなまるカードの数を発表して頑張りを全員で評価することで、次への意欲につながっていた。</p> <p>今後の課題としては、本単元でつけた力や取り組みが日常生活にどのように般化されるのかを意識して取り組む必要がある。</p> |   |
|     | <p>改善策</p>   |   |

【参考文献】

宮城武久(2011) 障害がある子どもの考える力を育てる基礎学習 学研教育出版

| 学部   | 小学部  | 集団構成   | 肢体障害児学級<br>(3～6年) | 授業名  | 音楽 | 指導形態         | 教 (音楽)<br>合・領・総 |
|--|--|--|-------------------|--|----|--------------|-----------------|
| 年間の指導目標  |  | いろいろな音や音楽に出会う。／いろいろな音や音楽に出会い、興味関心を広げる。<br>音色や音楽の楽しさを体で感じる／音や音楽を聴いて、自分の気持ちを表現する。(コ)<br>友だちや先生の声や動きを意識する。／友だちや先生の声を意識して、一緒に楽しむ。(仲) |                   |  |    |              |                 |
| 単元名・題材名  |  | 歌唱：発声『おおきくア』『声をだそう』 鑑賞・歌唱：『ピクニック』『ゆかいなまきば』<br>器楽：楽器セッション（個別）『一緒にならそう』『二人の音』<br>器楽：合奏『みんなで鳴らす楽器の歌』                                |                   |  |    |              |                 |
| 児童・生徒の実態   | <p>肢体不自由学級の児童で、座位保持椅子や車椅子を使用している。腕、手、指についてもコントロールするのが難しい児童がほとんどである。</p> <p>発声に関しては、声は出るが、タイミング良く、思った通りにコントロールして声を出すことが難しい児童、母音が発声できつつある児童、口形模倣ができる児童と実態が様々である。</p> <p>楽器演奏に関しては、楽器を提示すると、鳴らしたいという気持ちで手や腕を動かそうとするが、筋緊張が強くなり、時間がかかったり、失敗したりすることも多い。日常生活の中で音楽や歌を聴いて楽しむことができています。</p>  |  |                   |  |    | 学習指導要領での位置づけ |                 |
|  |  |  |                   |  |    | 教科           | 内容              |
|  | 音楽   | 1 段階(1)(2)<br>2 段階(1)<br>3 段階(1)(2)  |                   |  |    |              |                 |
| 単元の設定理由  | <p>歌唱は児童の実態から発声を主な活動とした。発声を促す曲については、個々の可能な発声や母音等の簡単な発声を促すこと、対話的なやりとりを生み出す構造を持っていること、歌詞が容易で繰り返しがあることを大切に選曲している。歌唱曲も発声を促し、季節を感じられる、馴染みのある曲を選曲している。『ピクニック』『ゆかいなまきば』は動物の鳴き声が途中で出てくることから、児童にとって分かりやすく、また声を出すポイントの曲となると考えられる。</p> <p>器楽も児童の実態から楽器セッションと自由に奏する合奏活動を主な活動とし、選曲について、曲の構造が相互でやりとりができること、名前を呼ばれた後に演奏をすること等、演奏技術にこだわらない曲を選曲している。楽器セッションは、一人一人を丁寧に見て、個々の力が発揮できるように個別の活動を行うようにしている。合奏での楽器の選択については、児童が主体的に選択できるようにしていきたいが、まずは興味を引くような楽器、児童の操作性の実態を考えて教師が楽器を選択し、提示して共にやってみることで興味、関心を持てるように導いている。</p> <p>毎時間、同じ流れ（曲順）にして、見通しを持ちやすいようにしている。特に、始まりの曲と終わりの曲は複数年続けているので、「音楽の授業の始めと終わり」を音楽で認識している。</p> <p>全ての活動で主指導と児童のやりとりを大切にして、できるだけ児童の主体的な発声や演奏を待つて次に進めるようにしている。いずれも演奏技術の習得を目指すのではなく、楽しく、やりたいと思える雰囲気作りをめざした単元を計画している。</p> <p>また、一人一人が出す声や音が明確に聴こえ、自分自身で確認でき、お互い評価し易いようにブロック全体ではなく小集団で取り組んでいる。</p> |  |                   |  |    |              |                 |
| 単元目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌にあわせて発声したり動物の鳴きまねをしたりできる。</li> <li>・音や音楽を聴き、感じたことを声や表情や身体を動かして表出できる。</li> <li>・自分の音と教師の伴奏があっていることに気がつく。</li> <li>・いろいろな操作で楽器を少しでも主体的に鳴らすことができる。</li> </ul>  |  |                   |  |    |              |                 |
| 評価の基準  |  |  |                   | 支援・手立て   |    |              |                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・口を開けようとする。口を開ける。</li> <li>・声をだす。</li> <li>・タイミング良く発声できる。</li> <li>・音のする方や楽器を演奏している人、歌っている人を注視する。</li> <li>・音・音楽が聞こえると表情が変わる。</li> <li>・手や指を少し動かして音を出す。</li> <li>・楽器を繰り返して鳴らす。</li> <li>・バチで太鼓を叩く。</li> <li>・ピアノの静止に気がつく。</li> <li>・拍節的に太鼓を打つ。</li> </ul> |  |  |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目の前で口を開けて、発声して見せる。(サブ)</li> <li>・発声が難しい児童に代替機器等を使用する。(19)</li> <li>・少しの動きで音が出る楽器を用意する。(22)</li> <li>・音が出し易いように楽器をおく距離や傾きを工夫する。(22)</li> <li>・握りやすいバチや、補助具を用意する。(22)</li> <li>・できたら即時的に褒める。(24)</li> <li>・ピアノは児童に合わせて弾く。</li> </ul> |    |              |                 |

| 日時 | 学習活動   | 支援   |
|----|--|--|
|    | <p>①はじまりのうた『ハッピーソング』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・返事の歌『ハッピートゥデイ』で返事をする。</li> </ul> <p>②『あいさつのうた』で「おはよう」と言う。</p> <p>③発声活動『大きくア』『声をだそう』で声を出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの前で発表する。</li> </ul> <p>④歌唱『ピクニック』『ゆかいなまきば』で動物のなきまねを発声する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代替機器を使って鳴き声をだす。</li> <li>・みんなの前で発表する。</li> </ul> <p>⑤一人もしくは二人で楽器セッションをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏したい楽器を選ぶ。</li> <li>・『一緒にならそう』『たいこをたたこう』『二人の音』の曲で進める。</li> </ul> <p>⑥『みんなで鳴らす楽器の歌』にあわせて楽器を自由に鳴らす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな楽器を選ぶ。</li> <li>・最初は、全員で楽器を鳴らす。</li> <li>・順番に一人ずつ名前を呼ばれたら楽器を鳴らす。</li> </ul> <p>⑦『今日は終わり』でクールダウンをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器を片付けが終わったらツリーチャイムをならし、しっかりクールダウンをする。</li> </ul> <p>⑧おわりのあいさつをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノ（主指導）を中心にして隊形を組む。</li> <li>・音楽で始めて、音楽で進める。(14)</li> <li>・やりとりをする歌（『ハッピートゥデイ』『あいさつのうた』）は主指導とのやりとりを意識させたいので、呼びかけは主指導のみで。返事は名前を呼ばれた児童もしくはその児童についているサブTと一緒に代弁する。(19)</li> <li>・教師も自然な流れの中で返事をし、モデリングとする。</li> <li>・目の前で口を開けて、発声して見せる。(サブ)</li> <li>・発声が難しい児童は、代替機器等を使用する。(19)</li> <li>・歌（『Come Come Come』）で前に出てセッションする児童の名前を呼ぶ。</li> <li>・握りやすいバチや、補助具を用意する。(22)</li> <li>・実態に応じて、楽器をおく距離や傾きを変える。(22)</li> <li>・児童が出す音に合わせて伴奏をしたり、演奏を止めると伴奏も止めたりする。</li> <li>・様子を見て即興でのやりとりも入れていく。</li> <li>・歌（『Come Come Come』）の中で褒める。(24)</li> <li>・友だちが鳴らしているときは、静かに聴くように促す。(2)</li> <li>・できるだけ、主体的に楽器を鳴らせるまで待つ。(25) (26)</li> <li>・教師もしっかり最後の音が消えるまで聴く。</li> </ul> |

《出典》

- ・『音楽療法のためのオリジナル曲集 静かな森の大きな木』生野里花、二俣泉編 春秋社 2001
- ・竹内光春『幼児と障害のある子の リズムうたあそび』ぶどう社 1992
- ・ミッシェル・リットホルズ クライヴ・ロビンス編『音楽療法のためのピアノ小品集』ヤマハ 2002
- ・『音楽療法のためのオリジナル曲集 だれかの音がする』鈴木祐仁編 春秋社 2010
- ・『Learning through Music』Barcelona Publishers 1998

|     |   |   |
|-----|---|---|
| 妥当性 | 単元目標  | 高すぎた・ <u>適当だった</u> ・低すぎた<br>教師の働きかけから、主体的に発声しようとしたり、口形模倣から母音の発声ができたりする児童がいた。日常でも自分の名前を言うようになり般化できた。音楽が聴こえてくると表情が変化したり、楽器の方を向いたりすることができた。手指を動かして主体的に楽器を鳴らし、鳴らすことができると繰り返し音を出す児童もいた。演奏技術を重視するのではなく、重度な児童に妥当な単元であった。   |
|     | 単元・題材<br>(教材)   | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> 適していなかった<br>発声が難しい児童にとって、母音や簡単な発声を促す曲や、歌詞がシンプルな曲は重度な児童にわかりやすく、発声を可能にすることができた。<br>楽器演奏では少しの動きで鳴らせる楽器をはじめ、様々な楽器を用意しているので、個々に適した楽器を選ぶことができた。歌詞もシンプルでくり返しの多い曲や、名前を呼ばれる曲は、楽器を鳴らす場面がわかり易く、楽器演奏を促し、良かった。 |
|     | 学習・活動   | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> 適していなかった<br>少人数での取組は、一人一人を丁寧に見ることができ、個々が出す声や音が聴こえやすくなった。またみんなの前で発表する機会が多くもて、活躍する場面があり良かった。ピアノの音にも注目しやすく、自分とピアノ伴奏との関係に気がつく児童もいた。   |
| 評価  | 目標達成度：A 達成した <u>B ほとんど達成した</u> C あまり達成できていない D 全く達成できていない |   |
|     | 理由  | 発声活動に関して、簡単な母音や動物の鳴き声を促す曲を選曲したので、無理なく、発声が難しい児童にもアプローチできた。楽器セッションでは、個別の活動を重視し、個々の実態にじっくり合わせることができたので、重度な児童が手指を動かして主体的に音を出したり、出そうとしたり、繰り返し音を出し続けたりできた。また主指導のピアノ伴奏とやりとりができる児童もいたことから、目標はほとんど達成できた。   |
|     | 改善策   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム打ちを目標にできる児童がいる場合には、簡単なリズム打ち課題を設定する。</li> <li>・『ハッピートゥデイ』で返事をする時、太鼓ではなく声を出すように促す。教師も自然な流れの中で返事をするように呼びかける。</li> <li>・個人セッションでは、担任教師と相談しながら楽器の配置や、児童、教師の配置を工夫し、楽器を操作しやすくピアノ伴奏を意識できるようにする。</li> </ul>               |

| 学部       | 中学部   | 集団構成  | 知的障害学級<br>1・2・3年生 | 授業名 | 保健体育 | 指導形態         | 教(保健体育)<br>合・領・総 |
|----------|---|---|-------------------|-----|------|--------------|------------------|
| 年間の指導目標  |   | <p>(1) 様々な運動経験を通して、身体を動かす楽しみや喜びを味わい、運動に対する興味・関心をひろげる。</p> <p>(2) 基本動作を身に付けるとともに、健康の保持増進、体力の向上をはかる。</p> <p>(3) 集団活動を通して、協調することの大切さや楽しさを知る。(仲)</p> <p>(4) 自分の発育・発達に関心を持ったり、健康・安全に関する基本的なことを理解したりする。</p> |                   |     |      |              |                  |
| 単元名・題材名  |   | エアロビクス、ダンス①   |                   |     |      |              |                  |
| 児童・生徒の実態 | <p>〈保健体育 エアロビ 生徒の実態 Aグループ〉<br/>基本的な運動(走、跳、投)ができる。言葉での指示が理解でき、協力して簡単な球技等を楽しむことができる。友だちとの競争を楽しんだり、目標に向かって頑張ることができる。このグループは、思春期をむかえ、ダンス等に恥ずかしさを感じたり、できることでも周りの目を気にして動きが小さくなってしまいう生徒もいる。また、経験不足から初めての事に対して苦手意識が強い生徒もいる。ボディイメージの弱さもあり、大きな動きは出来るが、細かな体の動きを意識して、じっくり伸ばしたり、力を入れたりする動き等が苦手な生徒が多い。</p> <p>〈保健体育 エアロビ 生徒の実態 Bグループ〉<br/>ダイナミックな活動を通して、身体を動かすことを楽しむことができる生徒たちである。ボディイメージをもちにくく、イメージ通りに身体を動かすことが苦手である。身体の動きに関しては、全体的に身体が硬く、バランス感覚が悪いため身体を支えることや、手足の曲げ伸ばしに課題がある。たくさんの情報が入ってくると、情報処理が難しいが、短い言葉と身振りで伝えることで、本時の目標として意識する箇所はどこなのかを理解して活動に取り組むことができる。</p> <p>〈保健体育 エアロビ 生徒の実態 Cグループ〉<br/>身体面では運動の経験の不足や麻痺などが原因で関節や筋肉が硬く、身体の動きがぎこちない生徒が多い。ダンスの一部分(腕を上下させたりその場でかけ足する等)であれば模倣できる生徒もいるが、しっかり身体を曲げたり伸ばしたりすることは難しい。音楽に合わせて身体を揺らしたりジャンプをしたりしながら楽しんで活動に取り組める生徒がいる一方、聴覚過敏から耳を指でふさいで活動する生徒もおり、様々な実態の生徒がいるグループである。</p> |   |                   |     |      | 学習指導要領での位置づけ |                  |
|          |   |   |                   |     |      | 教科           | 内容               |
|          |   |   |                   |     |      | 保健体育         | (1)(2)(3)        |
| 単元の設定理由  | <p>・教材観<br/>さまざまな実態の生徒がいる中で、全員で楽しめて一体感を持ち、身体を動かすことができるような題材を取り上げようと考え、テレビで生徒たちもよく見ている、親しみのあるアニメ番組の曲にした。この曲は、同じメロディでの繰り返しが多い。そのため、同じ動きを設定することで、分かりやすく運動量を確保できる。動きには、身体全体を使っの粗大運動を多く取り入れた。</p> <p>・指導観<br/>朝の保健体育は、3部構成になっていてラジオ体操から始まり、実態に応じて長縄跳びグループとストレッチ中心グループに分かれ、最後は全員でエアロビ(ダンス)に取り組んでいる。<br/>このエアロビ(ダンス)のねらいとしては、全員で楽しめて一体感を持ち、音源を通して身体を動かすことである。<br/>教材教具の準備としては、さまざまな実態の生徒がいる中でアニメーションと同じ振り付けだと難易度が高く全員が踊ることが難しいため、複雑な動きをできるだけ身体全体を使っの粗大運動に変えることで踊りやすくした。また、一体感をもってダンスができるよう歌詞「トントンポー」の言葉を全員で発声して、ダンスをするようにした。教材教具の工夫としては、教師の見本をビデオ撮りしてスクリーンに映し、指導できるようにした。また、全員の教師が同じ動きで踊るように映像を使って事前に教員全員でエアロビ(ダンス)の講習を行い、スクリーンに注目しづらい生徒へも、目の</p>  |   |                   |     |      |              |                  |

|  | <p>前で踊る教師を見本として、模倣することができるようにした。</p> <p>見ただけでは覚えることができなかつたり、動きの模倣が難しい生徒もいるので、エアロビ（ダンス）の前に、ポイントを絞っての部分練習を行った。曲のテンポが速い場合には、教師が生徒のできる速さに合わせて、振り付けのペースを変えて踊っている。</p> <p>教師の願いとしては、生徒がより主体的に身体を動かすことで、興味関心が広がり、今後の保健体育の活動や、生涯にわたって運動に親しむ力へとつながればと考える。</p>   |       |        |  |   |
|--|--|-------|--------|--|---|
| 単元目標   | <p>共通：音源を通して身体を動かすことを楽しむ。</p> <p>A：身体の部分（筋肉等）を意識してしっかりと動かすことができる。</p> <p>B：スクリーン又は教師の見本の動きを模倣し、身体の部分（筋肉等）を意識して動かすことができる。</p> <p>C：自分に合ったペースで身体を動かす、できる動きを少しずつ増やす。</p>  |       |        |  |   |
|  | <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">評価の基準</th> <th style="width: 50%;">支援・手立て</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>A：身体の一部を意識して動かすことができる。見本を見て、自分が動かしている身体の一部（筋肉等）が分かる。一緒にダンスをすることで、一体感や達成感を感じることができる。</p> <p>B：スクリーンまたは教師の見本の動きを模倣し、身体の一部を意識して動かすことができる。一緒にダンスをすることで、一体感や達成感を感じることができる。</p> <p>C：自分に合ったペースで身体を動かす、できる動きを少しずつ増やすことができる。一緒にダンスをすることで、一体感や達成感を感じることができる。</p> </td> <td> <p>A：筋肉や関節など、動かす部分に触れたり、言葉で説明する。ポイントを絞り、見本で身体の動きをゆっくり見せる。励ましたり、できた時には、しっかりと評価することで「できた」という達成感をもたせる。(24)</p> <p>B：部分練習で主指導の教師が意識する部分を口頭で説明する。スクリーンまたは教師が見本を提示することで、意識する部分を分かりやすくする。「トントンポー」の掛け声で大きな声が出ているときは評価することで「できた」という達成感をもたせる。(24)</p> <p>C：生徒の実態に応じて動きやペースを変え、分かりやすくモデルとして示す。「グルグルグルグル」や「トントンポー」と教師が声かけをしながら近くで一緒に踊り、どういう動きをしているのか分かりやすくする。できた時にはしっかりと評価をすることで「できた」という達成感をもたせる。(24)</p> </td> </tr> </tbody> </table> | 評価の基準 | 支援・手立て | <p>A：身体の一部を意識して動かすことができる。見本を見て、自分が動かしている身体の一部（筋肉等）が分かる。一緒にダンスをすることで、一体感や達成感を感じることができる。</p> <p>B：スクリーンまたは教師の見本の動きを模倣し、身体の一部を意識して動かすことができる。一緒にダンスをすることで、一体感や達成感を感じることができる。</p> <p>C：自分に合ったペースで身体を動かす、できる動きを少しずつ増やすことができる。一緒にダンスをすることで、一体感や達成感を感じることができる。</p> | <p>A：筋肉や関節など、動かす部分に触れたり、言葉で説明する。ポイントを絞り、見本で身体の動きをゆっくり見せる。励ましたり、できた時には、しっかりと評価することで「できた」という達成感をもたせる。(24)</p> <p>B：部分練習で主指導の教師が意識する部分を口頭で説明する。スクリーンまたは教師が見本を提示することで、意識する部分を分かりやすくする。「トントンポー」の掛け声で大きな声が出ているときは評価することで「できた」という達成感をもたせる。(24)</p> <p>C：生徒の実態に応じて動きやペースを変え、分かりやすくモデルとして示す。「グルグルグルグル」や「トントンポー」と教師が声かけをしながら近くで一緒に踊り、どういう動きをしているのか分かりやすくする。できた時にはしっかりと評価をすることで「できた」という達成感をもたせる。(24)</p> |
| 評価の基準  | 支援・手立て   |       |        |  |   |
| <p>A：身体の一部を意識して動かすことができる。見本を見て、自分が動かしている身体の一部（筋肉等）が分かる。一緒にダンスをすることで、一体感や達成感を感じることができる。</p> <p>B：スクリーンまたは教師の見本の動きを模倣し、身体の一部を意識して動かすことができる。一緒にダンスをすることで、一体感や達成感を感じることができる。</p> <p>C：自分に合ったペースで身体を動かす、できる動きを少しずつ増やすことができる。一緒にダンスをすることで、一体感や達成感を感じることができる。</p> | <p>A：筋肉や関節など、動かす部分に触れたり、言葉で説明する。ポイントを絞り、見本で身体の動きをゆっくり見せる。励ましたり、できた時には、しっかりと評価することで「できた」という達成感をもたせる。(24)</p> <p>B：部分練習で主指導の教師が意識する部分を口頭で説明する。スクリーンまたは教師が見本を提示することで、意識する部分を分かりやすくする。「トントンポー」の掛け声で大きな声が出ているときは評価することで「できた」という達成感をもたせる。(24)</p> <p>C：生徒の実態に応じて動きやペースを変え、分かりやすくモデルとして示す。「グルグルグルグル」や「トントンポー」と教師が声かけをしながら近くで一緒に踊り、どういう動きをしているのか分かりやすくする。できた時にはしっかりと評価をすることで「できた」という達成感をもたせる。(24)</p>  |       |        |  |   |

| 日時    | 学習活動  | 支援  |
|-------|---|---|
| 9:30  | <p>1 ダンスができる間隔に整列をする。</p> <p>2 ダンスのポイント練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は、どの部分を行うかプロジェクターを使って、映像と音源で確認する。</li> <li>・教師の見本を見て意識する身体の一部を確認する。</li> <li>・模倣して練習する。</li> </ul> <p>3 ダンスを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかりと身体を動かしたり、声を出したりして踊る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーンや主指導に注目できるように言葉かけを行う。(2)</li> <li>・サブの教師は生徒の実態に合わせて、意識する部位を伝え、模倣しやすくする。(22)</li> </ul>                                   |
| 10:00 | <p>4 集合し、ダンスの評価をして終わりのあいさつをする。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・盛り上がるように教師も声を出す。(8)</li> <li>・ポイント練習したところはどうか評価する。(17)</li> <li>・一人一人の頑張りを見出し、適切に賞讃のことばがけを行い、「できた」という達成感をもたせる。(24)</li> </ul> |

|                |               |   |
|----------------|---------------|---|
| 妥当性<br>(Aグループ) | 単元目標          | 高すぎた・ <u>適当だった</u> ・低すぎた<br>部分練習で見本をしっかり見て、身体の部分を意識して動かそうとすることができた生徒もいるが、大きく動けていない生徒もいる(恥ずかしさ、動きの形がイメージできていない)。部分練習をゆっくりと行うことで、見本をしっかり見て動くことができると考えるので、改善が可能と考えられる。大きな声を出す生徒や、しっかり動く生徒もおり、みんなで取り組んでいる達成感や一体感は感じられている。         |
|                | 単元・題材<br>(教材) | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> 簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> <u>適していなかった</u><br>しっかり体を動かすことで運動量を確保できている生徒もいるが、恥ずかしさから、動きが小さくなっている生徒もいた。選曲が幼いと言う生徒の意見もあった。担任から「運動量を確保することで体力作りにつながる」などねらいに基づいた声かけをすることで、少しずつ取り組めるようになっている。         |
|                | 学習・活動         | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> 簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> <u>適していなかった</u><br>中学部が全員で取り組む活動として、友達と楽しくダンスをする良い機会になっていると考えられる。グループ分けをせず、みんなで取り組むことで、頑張っている生徒もいる。楽曲や振り付けの工夫で、ダンスに恥ずかしさを感じている生徒も、身体を動かす楽しさや大切さを理解して、取り組んでいけると考えられる。 |
| 妥当性<br>(Bグループ) | 単元目標          | <u>高すぎた</u> ・ <u>適当だった</u> ・低すぎた<br>スクリーンや教師の見本を見ることで、動きを模倣できるようになった生徒もいた。動きを模倣できる生徒が増えてきたが、身体の部分(筋肉等)を意識できる生徒は少なかった。部分練習では、教師の見本を前でゆっくりと提示し、身体のどの部分(筋肉等)を意識するのか丁寧に説明を行いながら指導を行っていきたい。  |
|                | 単元・題材<br>(教材) | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> 簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> <u>適していなかった</u><br>選曲としては、生徒にとって興味のある内容であったので意欲的に活動できている生徒が多かった。一部の生徒にとっては、テンポが少し速く感じられる部分はあったが、教師と一緒に自分に合ったスピードで身体を動かすことで運動量を確保することができた。                            |
|                | 学習・活動         | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> 簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> <u>適していなかった</u><br>部分練習では、かけ声を出すことで一体感を感ぜられる場面もあった。また、繰り返し同じ動きを丁寧に指導することで、教師の見本通りに動きを模倣することができる生徒もいた。今後の練習でも、繰り返し同じ動きを練習することで、運動量の確保を行いながら、見本の動きの模倣ができるようになればと考える。   |
| 妥当性<br>(Cグループ) | 単元目標          | 高すぎた・ <u>適当だった</u> ・低すぎた<br>朝の保健体育で繰り返して取り組むことで見通しがもて、楽しんでエアロビクスに参加できてきている。すべての動きに取り組むことは難しいが、生徒の実態にあったペースでモデルを示すことで少しずつできる動きが増えてきた。  |
|                | 単元・題材<br>(教材) | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> 簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> <u>適していなかった</u><br>選曲としてはテンポが少し早い身体全体を使っての大きな運動をすることで運動量の確保という観点で教材としては適当であると考えられる。生徒の実態にあった動きやペースで繰り返し取り組むことによって1つ1つの動きを意識して取り組めるようになってきている。                        |

|       |   |
|-------|---|
| 学習・活動 | (児童生徒にとって) 難しい・ <b>適当</b> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <b>適していた</b> 適していなかった  |
|       | 音楽に合わせて身体を動かすことが好きな生徒が多く、意欲的に活動できる生徒が多かった。部分練習を教師と一緒にいき、1つ1つの動きを確認しながらエアロビクスに取り組めた。難しい動きは身体を揺らしたりジャンプしたり生徒なりの表現で全体の活動に参加することができた。 |

|    |  |
|----|--|
| 評価 | 目標達成度：A 達成した <b>Bほとんど達成した</b> Cあまり達成できていない D全く達成できていない   |
|    | <p><b>理由</b></p> <p>さまざまな実態の生徒がいる中で、概ね音源を通して身体を動かすことを楽しめていたので、目標は達成できたと言える。</p> <p>しかし、一部の生徒ができていない。理由を聞くと「選曲が幼い」という声があり、積極的に活動に取り組めなかった生徒がいた①→</p> <p>また、体育担当としてはどこにねらいを置いているか。サブの教師が担当生徒にどのようにアプローチすればよいか。などを周知してもらう必要がある②→</p>  |
|    | <p><b>改善策</b></p> <p>人権チェックリストをつけて、改善点を協議した。</p> <p>(11)→①親しみがあり、生活年齢に適した選曲をする。</p> <p>(5)(21)→②体育担当者と各担任との連携を深めることで生徒により良いアプローチができると考える。</p> <p>具体的には、<b>各担任</b></p> <p>担当生徒の実態はどこのグループに当てはまるか。<br/>そのグループの目標を把握してもらい支援の仕方を確認してもらう。</p> <p><b>体育担当</b></p> <p>体育担当とサブの教師とで支援した結果や生徒の声、教師が感じたことをやりとりすることで、アプローチの仕方の改善点など話し合い、次回に活かす。</p> |

|   |  |  |                   |     |      |              |                   |
|---|--|--|-------------------|-----|------|--------------|-------------------|
| 学部  | 中学部  | 集団構成   | 知的障害学級<br>1・2・3年生 | 授業名 | 保健体育 | 指導形態         | 教 (保健体育)<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標   |  | <p>(1) 様々な運動経験を通して、身体を動かす楽しみや喜びを味わい、運動に対する興味・関心をひろげる。</p> <p>(2) 基本動作を身に付けるとともに、健康の保持増進、体力の向上をはかる。</p> <p>(3) <u>集団活動を通して、協調することの大切さや楽しさを知る。(仲)</u></p> <p>(4) 自分の発育・発達に関心を持ったり、健康・安全に関する基本的なことを理解したりする。</p> |                   |     |      |              |                   |
| 単元名・題材名   |  | エアロビクス、ダンス②  |                   |     |      |              |                   |
| 児童・生徒の実態  | (保健体育 エアロビ 生徒の実態 Aグループ)  |  |                   |     |      | 学習指導要領での位置づけ |                   |
|   | 基本的な運動(走、跳、投)ができる。言葉での指示が理解でき、協力して簡単な球技等を楽しむことができる。友だちとの競争を楽しみ、目標に向かって頑張ることができる。このグループは、思春期をむかえ、ダンス等に恥ずかしさを感じたり、できることでも周りの目を気にしたりして動きが小さくなってしまいう生徒もいる。また、経験不足から初めての事に対して苦手意識が強い生徒もいる。ボディイメージの弱さもあり、大きな動きは出来るが、細かな体の動きを意識して、じっくり伸ばしたり、力を入れたりする動き等が苦手な生徒が多い。今回の実践を通して、大きな声を出せる生徒やしっかりと動ける生徒も出てきた。しかし、恥ずかしさがあったり、動きの形をイメージとして捉えられていない生徒もいる。部分練習を丁寧に行うことで、改善をはかっていきたい。 |  |                   |     |      | 教科           | 内容                |
|   | (保健体育 エアロビ 生徒の実態 Bグループ)  |  |                   |     |      | 保健体育         | (1)(2)(3)         |
| 単元の設定理由   | (保健体育 エアロビ 生徒の実態 Cグループ)  |  |                   |     |      |              |                   |
|   | <p>ダイナミックな活動を通して、身体を動かすことを楽しむことができる生徒たちである。ボディイメージをもちにくく、イメージ通りに身体を動かすことが苦手である。身体の動きに関しては、全体的に身体が硬く、バランス感覚が悪いため身体を支えることや、手足の曲げ伸ばしに課題がある。たくさん情報が入ってくると、情報処理が難しいが、短い言葉と身振りで伝えることで、本時の目標として意識する箇所はどこなのかを理解して活動に取り組むことができる。これまでの実践を通して、教師の見本を見て、身体の動きを模倣できる生徒も増えてきたが、身体の部分(筋肉等)を意識して活動することは難しかった。グループ内での部分練習で身体の意識する箇所を説明しながら活動を行うことで、より改善をはかっていくことが必要である。</p>         |  |                   |     |      |              |                   |
|   | <p>身体面では運動の経験の不足や麻痺などが原因で関節や筋肉が硬く、身体の動きがぎこちない生徒が多い。ダンスの一部分(腕を上下させたりその場でかけ足する等)であれば模倣できる生徒もいるが、しっかりと身体を曲げたり伸ばしたりすることは難しい。音楽に合わせて身体を揺らしたりジャンプをしたりしながら楽しんで活動に取り組める生徒がいる一方、聴覚過敏から耳を指でふさいで活動する生徒もおり、様々な実態の生徒がいるグループである。全体練習では音楽が流れている間は身体を動かすということは理解できるが、自分のペースでしっかりと動くことが難しい生徒もいた。実態に合わせたグループに分かれることで、それぞれの実態に合わせてしっかりと身体を動かし、新たな動きの獲得に繋がられるようにしていきたい。</p>            |  |                   |     |      |              |                   |
| <p>・教材観<br/>前回の反省で、選曲が幼くて踊るのが恥ずかしいという生徒の声があったので、生活年齢に適した「ロコモーション」という曲を選曲した。<br/>この曲は現在の2・3年生が朝の体育で踊ったことのある曲で、金曜日のスポクルタイムでもかかっているなじみがある。また、前回の曲と同様に同じメロディでの繰り返しが多い。そのため、同じ動きを設定することで、分かりやすく運動量を確保できる。動きには、身体全体を使っの粗大運動を多く取り入れた。1年生については、踊りを覚えやすいように見本をスクリーンで映し、それを真似できるように視覚的な支援を取り入れる。</p> <p>・指導観<br/>朝の保健体育は、3部構成になっていてラジオ体操から始まり、実態に応じて長縄跳びグループとストレッチ中心グループに分かれ、最後は全員でエアロビ(ダンス)に取り組んでいたが、じっくりエアロビの練習をしてから、それを活かして全体で踊ることができるように、週に2回30分の時間</p> |  |  |                   |     |      |              |                   |

|             |  |   |
|-------------|--|---|
|             | <p>を設け活動することとした。</p> <p>前回の良かったところで、声を出すことによって一体感をもっていたので、今回もリズムに合わせて声をだす箇所を作った。</p> <p>エアロビを全員で踊る前に、運動能力別の各グループに分かれて、ポイントの部分練習を行うようにする。曲のテンポが速い場合には、教師が生徒のできる速さに合わせて、振り付けのペースや踊り方を変えて指導する。この際に、サブの教師もグループ別に分かれてもらい、体育担当としてはどこにねらいを置いているかを明確にすることによって、前回の反省で出た「体育担当者とサブの教師との連携を深めること」について改善を図り、生徒により良いアプローチを行ないたいと考える。</p> |   |
| <b>単元目標</b> | <p>共通：音源を通して身体を動かすことを楽しむ。</p> <p>A：体づくりの大切さを理解し、身体の部分（筋肉等）を意識してしっかりと動かすことができる。</p> <p>B：教師の見本の動きを模倣し、身体の部分（筋肉等）を意識して動かすことができる。</p> <p>C：自分に合ったペースで身体を動かす、できる動きを少しずつ増やす。</p>  |   |
|             | <b>評価の基準</b>   | <b>支援・手立て</b>   |
|             | <p>A：身体の部分を意識して動かすことができる。見本を見て、自分が動かしている身体の部分（筋肉等）が分かる。声を出したり、一緒にダンスをすることで、一体感や達成感を感じることができる。</p> <p>B：教師の見本の動きを模倣し、身体の部分（筋肉等）を意識して動かすことができる。一緒にダンスをすることで、一体感や達成感を感じることができる。</p> <p>C：自分に合ったペースで身体を動かす、できる動きを少しずつ増やすことができる。一緒にダンスをすることで、一体感や達成感を感じることができる。</p>   | <p>A：筋肉や関節など、動かす部分に触れたり、言葉で説明する。ポイントを絞り、見本で身体の動きをゆっくり見せる。励ましたり、できた時には、しっかりと評価することで「できた」という達成感をもたせる。(24)</p> <p>運動の大切さなど生徒に応じて、説明する。</p> <p>B：部分練習で主指導の教師が意識する部分を口頭で説明する。教師が見本を提示することで、意識する部分を分かりやすくする。「ギュ！」の掛け声で大きな声が出ていときは評価することで「できた」という達成感をもたせる。(24)</p> <p>C：活動するグループを1、2年生と3年生に分け、教師がマンツーマンでつけるようにする。動きやペースを変え、分かりやすくモデルとして示す。教師が声かけをしながら近くで一緒に踊り、どういう動きをしているのか分かりやすくする。できた時にはしっかりと評価をすることで「できた」という達成感をもたせる。(24)</p> |

| 日時   | 学習活動   | 支援   |
|------|--|--|
| 9:10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台のスクリーン前に学年ごとに集合する。</li> <li>・始まりのあいさつをする。</li> <li>・今日の活動をパワーポイントを見て知る。</li> <li>・ラジオ体操を行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・エアロビの準備運動となることを意識して、身体を動かせるようにする。(14)</li> </ul>                                 |
| 9:15 | <p>1 スクリーンを見て動きの確認をする。</p>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は初めて取り組む曲なので、見やすい中心近くに集合する。(4)</li> <li>・スクリーンに注目できるように言葉かけを行う。(2)</li> </ul> |

|      |   |   |  |
|------|---|---|--|
| 9:20 | 2 各グループに分かれて、部分練習を行う。                         |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>各グループの体育担当の指導をもとに各担任は生徒の実態に合わせて、意識する部位を伝え、模倣しやすくする。(5)</li> </ul> |
| 9:30 | 3 各グループでエアロビを行う。<br>・しっかり身体を動かしたり、声を出したりして踊る。 |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>盛り上がるように教師も声を出す。(8)</li> </ul>                                    |
| 9:40 | 4 各グループで評価を行う。                                |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>練習したところはどうだったか評価する。(17)</li> </ul>                                |
| 9:45 | 5 スクリーン前に学年ごとに集合し、終わりのあいさつをする。                |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の頑張りを見出し、適切に賞讃のことばがけを行い、「できた」という達成感をもたせる。(24)</li> </ul>      |

|             |            |  |
|-------------|------------|--|
| 妥当性 (Aグループ) | 単元目標       | 高すぎた・ <u>適当だった</u> ・低すぎた<br>部分練習にゆっくり取り組むことで見本をしっかりと見て真似ようとする姿勢が見られた。足をしっかりと上げて歩いたり、左右のステップで体重移動に気をつけるなど、意識して動かすことが出来る生徒もいた。部分練習を行う中で、模倣の苦手な生徒については、丁寧に動きを教える教師や、全体で見本の動きをする教師と、役割分担を行いながら改善を図っていきたい。  |
|             | 単元・題材 (教材) | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>曲を「ロコローション」という英語の曲にしたことで、曲が幼いという生徒の声はなくなった。恥ずかしい気持ちがあったり、ダンスが苦手でも体育館の中で列に入り、見本を見られる生徒も出てきた。初回に学年で1度練習に取り組んだことで、スムーズに練習に入ることができた。模倣が苦手だったり、動きがぎこちない生徒、曲の動きから遅れてしまう生徒もいるので、今後も部分練習を丁寧に行って行くことが必要である。Aの中でも実態は様々である。見本の教師を見て真似ることが出来る生徒もいるが、難しい生徒には身体の動きをゆっくり見せながら伝える必要があり、個々によって指導体制を工夫することで改善出来ると考える。 |
|             | 学習・活動      | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>友達と楽しくダンスをする良い機会になっている。Aグループ全体を見て、体重移動や腕をぎゅっと引くような動きが苦手である。特にサイドステップや、レッグカールの時に体重移動をせずに動きのみを真似ている。模倣が苦手で、手足を同時に動かすのが難しい生徒については、まず足の動きを習得させたい。(サイドステップでつま先を立てる等)。また、見本の教師が大きく動いて見せる、次の動きを声や指差しで示すなど、生徒がスムーズに動けるような指導方法を工夫することが必要である。   |
|             |            |  |

|                |               |  |
|----------------|---------------|--|
| 妥当性<br>(Bグループ) | 単元目標          | <p>高すぎた・<u>適当だった</u>・低すぎた</p> <p>部分練習を丁寧に行うことで、エアロビクスの経験が少ない1年生も足のステップや手の動きを確認しながら活動することができていた。練習する回数を重ねることで上達する部分はあったが、身体の部分(筋肉等)を意識して動かすことは今回も難しかった。今後は、教師の見本の動きを模倣し、身体の動きのポイント(足を高く上げる、手を曲げずに伸ばす等)を意識して活動することを目標に活動していければと考える。</p>  |
|                | 単元・題材<br>(教材) | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単<br/>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・<u>適していなかった</u></p> <p>2、3年生の生徒にとっては今までに取り組んだことのある題材であったため、意欲的に活動できている生徒もいた。部分練習では、教師の見本に注視できないことが理由で、動きの模倣が難しい生徒がいた。今後は、写真やイラスト、足形などの視覚的教材を使用することで、身体の動きの確認や動きのポイントを意識して活動できればと考える。</p>   |
|                | 学習・活動         | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単<br/>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・<u>適していなかった</u></p> <p>教師の見本を見て、動きを模倣することができる生徒もいたが、その反面、部分練習をグループ全体(計15名)で行ったことで、教師7名で細かい動き(手を伸ばすこと、足を開くタイミング)まで確認することは難しかった。部分練習を二つのグループに分けて行うことで、マンツーマンでの指導ができるようになり、身体の動きの確認や動きのポイントを意識して活動することができるかと考える。</p>  |
| 妥当性<br>(Cグループ) | 単元目標          | <p>高すぎた・<u>適当だった</u>・低すぎた</p> <p>生徒の実態に合わせたグループで活動することで、自分のペースに合わせて動くことができている。部分練習ではマンツーマンで教師と一緒に1つ1つの動きを確認しながら活動することで少しずつではあるが、できる動きが増えてきている。しかし部分練習の動きを全体練習に結び付けることは難しく、今後は部分練習の他にストレッチや簡単なミニゲーム等を取り入れ、「音源を通して身体を動かすことを楽しむ」ための気持ちや身体の準備を行い、全体練習に繋げていけるようにしたい。</p>  |
|                | 単元・題材<br>(教材) | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単<br/>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・<u>適していなかった</u></p> <p>部分練習の活動を学年ごとに行うことで生徒に対してマンツーマンで指導することができた。それぞれの生徒の前で見本を示したり、手をとって一緒に動いたりすることで、動きの獲得に繋げることができた。視覚での手がかりが少なく生徒自信が目まぐるしかったり、何をすればよいか分かりにくかったので写真やイラストを用意したり、足形を用意するなどして活動の手がかりを増やすようにしていきたい。</p>                                     |
|                | 学習・活動         | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単<br/>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・<u>適していなかった</u></p> <p>マンツーマンでの指導ができ、新たな動きが獲得できる生徒がいる一方、学年ごとの活動であったので待ち時間ができ、運動量が少なくなった。また部分練習を全体練習に繋げて行くことが難しく、活動に見通しが持ちにくい生徒も多かった。今後は部分練習はエアロビの振り付けの中での動きの獲得にこだわらず、ストレッチやミニゲームなど全体練習にむかうための気持ちや身体の準備を大切に、共通の目標である「音源を通して身体を動かすことを楽しむ」ことにより迫っていきたい。</p> |

|            |   |
|------------|---|
| 評価 (Aグループ) | 目標達成度 : A 達成した <del>Bほとんど達成した</del> Cあまり達成できていない D全く達成できていない  |
|            | <p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の変更により、苦手意識が強かったり、曲が幼いと感じていた生徒の中で参加できる生徒が出てきた。</li> <li>(22)→部分練習を丁寧に行ったことで、動きを習得したり身体の部分を意識して動かすことが出来つつある。今後、教師間で指導方法や内容について工夫や改善が必要。</li> <li>(23)→指導体制の改善について。見本の教師・苦手な生徒を支援する教師に役割分担したことで色々な生徒に指導が行き届くようになった。今後、主・サブの連携および、体育担当以外の教師とも情報を共有しながら進めて行きたい。</li> </ul> <p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(24)→苦手意識の強い生徒への支援について。一緒に取り組む事、見られる事に対して恥ずかしさを感じる生徒については、個々の達成感を大切にしながら、環境を変えたり (クラス等)、参加の方法についても相談しながら探っていく。その一方で、身体を動かすことの大切さや、みんなで取り組む楽しさについても伝えて行く。</li> <li>(22)→部分練習の内容・方法について生徒の実態や苦手な部分を再度把握し、分かりやすい言葉かけ、動きの伝え方について担当で研修や工夫を行い、共通理解をはかる。</li> <li>・指導体制：実際の授業の中で、主・サブの役割を確認する。担当以外の教師 (クラス担任等) からも、生徒の変化や、気づいたことをその都度伝えてもらうようにする。</li> </ul> |
| 評価 (Bグループ) | 目標達成度 : A 達成した Bほとんど達成した <del>Cあまり達成できていない</del> D全く達成できていない  |
|            | <p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の説明に視覚的な支援が少なく、注目しにくい生徒が多かった。</li> <li>・部分練習では、教師が生徒の前でゆっくり見本を提示したことで、足のステップや手の動きの獲得ができた生徒もいたが、身体の部分 (筋肉等) を意識して動かすことは難しかった。</li> <li>・部分練習はグループ全体 (計15名) で行ったので教師7名で細かい動き (手を伸ばすこと、足を開くタイミング) まで確認することは難しかった。</li> </ul> <p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(22)→写真やイラストなど授業の手がかりとなる支援を増やす。</li> <li>(6)→「身体の部分 (筋肉等) を意識して動かすこと」という目標よりも、「身体の動きのポイント (足を高く上げる、手を曲げずに伸ばす等) を意識して活動する」という目標の方が、生徒の実態により迫ることができると考える。</li> <li>(4)→部分練習を二つのグループに分けて行うことで、マンツーマンでの指導ができるようになり、身体の動きの確認や動きのポイントを意識して活動できると考える。</li> </ul>   |
| 評価 (Cグループ) | 目標達成度 : A 達成した Bほとんど達成した <del>Cあまり達成できていない</del> D全く達成できていない  |
|            | <p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の説明に視覚的な支援が少なく、注目しにくい生徒が多かった。</li> <li>・教師とマンツーマンで部分練習をすることで、新たな動きを獲得できる生徒がいたが、待ち時間ができてしまった。</li> <li>・部分練習は何をしているかの見通しが持ちにくく、全体練習に繋げて行くことが難しかった。またエアロビの振り付けの中だけで動きの獲得にせまることが難しかった。</li> </ul> <p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(22)→写真やイラストなど授業の手がかりとなる支援を増やす。</li> <li>・部分練習の時間に火・水曜日に朝の保健体育の時間に行っているストレッチを取り入れる。ストレッチの中で身体をほぐしたり、気持ちを落ち着かせたりする活動をじっくりと時間をかけて行う。またミニゲームを行い運動量の確保に努める。細かな動きの部分に迫っていくことも大切ではあるが、共通の「音源を通して身体を動かすことを楽しむ」という目標の方が生徒の実態により合っており、身体をほぐし、次の活動に見通しをもつことで、全体練習で目標にしっかりと迫れるようにしていきたい。</li> </ul>   |

|   |  |   |              |   |      |              |                  |
|---|--|---|--------------|---|------|--------------|------------------|
| 学部  | 中学部  | 集団構成  | 1ブロック<br>全学年 | 授業名   | 保健体育 | 指導形態         | 教(保健体育)<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な運動経験を通して運動に対する興味・関心をひろげ、主体的に運動する。</li> <li>正しい身体の動きを身につけるとともに健康の保持増進、体力の向上を図る。</li> <li>きまりや、ルールなどを守り、友達と協力して安全に運動する。(仲)</li> </ul> |              |   |      |              |                  |
| 単元名・題材名   |  | Aグループ：ラジオ体操<br>なわとび『3分間チームジャンプ』『3分間8の字跳び』①  |              |   |      |              |                  |
| 児童・生徒の実態  | 知的障害学級の生徒で、3年生男子6名・女子1名、2年生男子2名女子1名、1年生男子2名・女子1名の生徒である。全員記録を意識して跳ぶことができる。運動が好きな生徒が多いが、運動することに苦手意識を持っていたり、できることでも自信がなくすぐに諦めてしまったりする生徒もいる。昼休憩には、それぞれが好きな運動は友達を誘ってすることができる。<br>3分間チームジャンプでは、3分間引っかかることもなく跳べることが1回だけあった。8の字跳びは、3分間跳ぶことは難しいが、自分でタイミングを計って跳べるBグループから生徒も参加する。                     |   |              |   |      | 学習指導要領での位置づけ |                  |
|   |  |   |              |   |      | 教科           | 内容               |
|   |  |   |              |   |      | 保健体育         | (1)(2)           |
| 単元の設定理由   | 中学生の時期は心肺機能が向上しやすい時期で、縄跳びは運動量も確保しつつ友達と楽しみながら取り組める活動である。ルールも至って簡単で、記録が数字で出てくるのでわかりやすい。なわとびは、タイミングよく跳ぶことでリズム感を養ったり、バランスや巧緻性といった調整力を養ったりすることができる。調整力は、あらゆる運動に取り組む上で根底となる重要な力であり、様々な運動の技術を身につける前段階として調整力を高めるために『なわとび』は有効であるため、本単元を設定した。また、友達を応援したり、協力して跳んだりすることで友達・集団を意識し、それが社会での生活にもつながると考える。 |   |              |   |      |              |                  |
| 単元目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>タイミングよく縄に入って跳ぶことができる。</li> <li>記録更新を意識して縄跳びができる。</li> <li>跳んでいる友達を応援して仲間意識を高める。</li> </ul>  |   |              |   |      |              |                  |
| 評価の基準   |  |   |              | 支援・手立て  |      |              |                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>記録を意識して跳べる。</li> <li>友達が跳んでいる時に応援できる。</li> <li>友達に続いてタイミングよく跳ぶことができる。</li> </ul> |  |   |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>今までの最高記録を提示する。(4)(14)</li> <li>跳んだ数を大きな声で数えさせる。応援するよう促す。(27)</li> <li>入るタイミングを声かけする。入るタイミングで背中を押して補助する。(24)</li> </ul> |      |              |                  |

| 日時   | 学習活動  | 支援   |
|------|---|--|
| 9:15 | <p>○はじまりのあいさつをする。</p> <p>○ラジオ体操をする。<br/>前の見本や教師の動きを模倣する。</p> <p>○3分間チームジャンプをする。<br/>友達の応援をする。</p> <p>○3分間8の字跳びをする。<br/>8の字ができる生徒はBグループから移動する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・伸ばすや曲げるなど声かけをする。(24)</li> <li>・一人で体操が難しい生徒には身体ガイドを行う。(24)</li> <li>・始めに今までの最高記録を提示する。(4)(14)</li> <li>・友達の応援や数を数えるように促す。(27)</li> <li>・リズムよく声を出してタイミングを計りやすくする。(24)</li> <li>・自分でタイミングを計って跳べない場合は背中を押す。(24)</li> </ul> |
| 9:40 | ○おわりのあいさつをする。   |  |
| 妥当性  | 単元目標  | <p>高すぎた・<u>適当だった</u>・低すぎた</p> <p>自分でタイミングをとることが難しい生徒でも押しもらって入って跳べた。記録を意識でき、跳んだ回数もわかっていた。<br/>声かけで応援できる生徒がいた。</p>   |
|      | 単元・題材<br>(教材)   | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単</p> <p>(目標を達成するのに)<u>適していた</u>・適していなかった</p> <p>時間や目標回数を設定していたので見通しを持って取り組みやすい。運動量的にも息切れをしている生徒もいて丁度よかった。</p>  |
|      | 学習・活動   | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単</p> <p>(目標を達成するのに)<u>適していた</u>・適していなかった</p> <p>2チームあり、自分のチームから跳びたいという生徒が多く意欲的に取り組んでいた。新記録を目指す生徒や自分で目標回数を決めて取り組んでいた。</p>   |
| 評価   | 目標達成度：A達成した・ <u>Bほとんど達成した</u> ・Cあまり達成できていない・D全く達成できていない   |  |
|      | 理由  | <p>新記録を目指して意欲的に取り組む生徒、新記録ではないが目標を自分で設定して跳ぶ生徒がいた。友達の応援をしている生徒と、していない生徒がいた。また、床に座ることが苦手意識のある生徒もいた。タイミングよく入ることが難しい生徒でも友達に背中を押してもらうことで、タイミングよく入って跳ぶことができた。</p>   |
|      | 改善策   | <p>人権チェックリストをつけて、改善点を協議した。</p> <p>(5)(15) →日々の回数の記録をグラフにして分かりやすく提示する。</p> <p>(22)(27) →友達の応援の仕方をサブの教師が行うことでモデリングしやすくなる。</p>  |

|   |  |      |              |   |      |      |                  |
|---|--|------|--------------|---|------|------|------------------|
| 学部  | 中学部  | 集団構成 | 1ブロック<br>全学年 | 授業名   | 保健体育 | 指導形態 | 教(保健体育)<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な運動経験を通して運動に対する興味・関心をひろげ、主体的に運動する。</li> <li>正しい身体の動きを身につけるとともに健康の保持増進、体力の向上を図る。</li> <li>きまりや、ルールなどを守り、友達と協力して安全に運動する。(仲)</li> </ul>  |      |              |   |      |      |                  |
| 単元名・題材名   | Aグループ：ラジオ体操<br>なわとび『3分間チームジャンプ』『3分間8の字跳び』②   |      |              |   |      |      |                  |
| 児童・生徒の実態  | 知的障害学級の生徒で、3年生男子6名・女子1名、2年生男子2名女子1名、1年生男子2名・女子1名の生徒である。全員記録を意識して跳ぶことができる。運動が好きな生徒が多いが、運動することに苦手意識を持っていたり、できることでも自信がなくすぐに諦めてしまったりする生徒もいる。昼休憩には、それぞれが好きな運動は友達を誘ってすることができる。<br>3分間チームジャンプでは、3分間引っかかることもなく跳べることが1回だけあった。8の字跳びは3分間跳ぶことは難しいが、自分でタイミングを計って跳べるBグループからの生徒も参加する。   |      | 学習指導要領での位置づけ |   |      |      |                  |
|   |  |      | 教科           | 内容  |      |      |                  |
|   |  |      | 保健体育 (1) (2) |   |      |      |                  |
| 単元の設定理由   | <p>中学生の時期は心肺機能が向上しやすい時期で、縄跳びは運動量も確保しつつ友達と楽しみながら取り組める活動である。ルールも至って簡単で、記録が数字で出てくるのでわかりやすい。なわとびは、タイミングよく跳ぶことでリズム感を養ったり、バランスや巧緻性といった調整力を養ったりすることができる。調整力は、あらゆる運動に取り組む上で根底となる重要な力であり、様々な運動の技術を身につける前段階として調整力を高めるために『なわとび』は有効であるため、本単元を設定した。また、友達を応援したり、協力して跳んだりすることで友達・集団を意識し、それが社会での生活にもつながると考える。</p> <p>朝の短い時間にダンスとなわとびをしており、バタバタとなってしまうので、後期からは、曜日毎にダンスとなわとびに取り組むこととした。今までは、縄を教師2名で回していたが、より人を意識してもらいたいという思いから、生徒に縄を回してもらう活動を設定した。</p> |      |              |   |      |      |                  |
| 単元目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>タイミングよく縄に入って跳ぶことができる。</li> <li>リズムよく縄を回すことができる。</li> <li>記録更新を意識して縄跳びができる。</li> <li>跳んでいる友達を応援して仲間意識を高める。</li> </ul>  |      |              |   |      |      |                  |
| 評価の基準   |  |      |              | 支援・手立て  |      |      |                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>記録を意識して跳ぶことができる。</li> <li>友達が跳んでいる時に応援できる。数を数える。</li> <li>友達に続いてタイミングよく跳べる。</li> <li>リズムよく縄を回すことができる。</li> </ul> |  |      |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>今までの最高記録を提示する。(4) (1 4)</li> <li>個人用の記録用紙を用意する。(1 4)</li> <li>跳んだ数を大きな声で数えさせることで、応援する意識を高める。(2 7)</li> <li>入るタイミングを声かけする。入るタイミングで背中を押して補助する。(2 4)</li> <li>繰り返しの練習を大切に。はじめは教師と回し、回し方のコツがつかめてきたら、友だちとペアを組む。メトロノーム等の教材を使用し、リズムを意識しやすくする。(2 4)</li> </ul> |      |      |                  |

| 日時   | 学習活動   | 支援   |
|------|--|--|
| 9:15 | ○はじまりのあいさつをする<br>○ラジオ体操をする<br>前の見本や教師の動きを模倣する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>伸ばすや曲げるなど声かけをする。(2 4)</li> <li>一人で体操が難しい生徒には身体ガイドを行う。(2 4)</li> </ul> |
| 9:20 | ○本時の活動<br>・2回8の字跳びをしてから、2回3分間ジャンプをする。          | <ul style="list-style-type: none"> <li>始めに今までの最高記録を提示する。(4) (1 4)</li> <li>友達の応援や数を数えるように促す。(2 7)</li> </ul> |

|            |   |  |
|------------|---|--|
| 9:40       | <p>○注意事項を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待っている時は三角座りをする。</li> <li>・友達の応援をする。</li> <li>・友達の回数を数える。</li> </ul> <p>○回す人を決め、3分間8の字跳びをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何回跳ぶか相談して目標を決める。</li> </ul> <p>○回す人を決め、3分間チームジャンプをする</p> <p>○記録の発表を聞く</p> <p>○おわりのあいさつをする。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムよく声を出してタイミング計りやすくする。(24)</li> <li>・跳んだ後の動きがわかるように、誘導できる位置に立っておく。(8)</li> <li>・意欲が低下しない様に励ます。(1)</li> <li>・発表する人を指名しておく。(17)(20)</li> </ul>  |
| 妥当性        | <p>単元目標</p>   | <p>高すぎた・<u>適当だった</u>・低すぎた</p> <p>記録を意識したり、「○○回跳ぶ」という目標をもったりして取り組むことができていた。しかし、最高記録が高すぎてなかなか更新に至らない。友達が跳んでいる時には数を数えている生徒や、つらそうな表情を応援することができていた。大きな声で応援することが恥ずかしい生徒には、時間を計ってもらった。友達に続いてタイミングよく入れなかったとしても1回見送って自分のタイミングで入ることができていた。友達とペアになり、息を合わせて回すことが難しい生徒がいたが、教師と回すことで上手に回すことができていた。</p> |
|            | <p>単元・題材<br/>(教材)</p>   | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単<br/>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・<u>適していなかった</u></p> <p>取組後に息が上がっている生徒が多く、運動量的にはちょうどよかった。</p>   |
|            | <p>学習・活動</p>  | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単<br/>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・<u>適していなかった</u></p> <p>前回同様意欲的に取り組んでいた。記録更新を目指す生徒が多いが記録更新は難しく、「頑張りたい」というモチベーションを維持・向上させる必要がある。</p>   |
| 評価         | <p>目標達成度：A 達成した <u>B ほとんど達成した</u> C あまり達成できていない D 全く達成できていない</p>  |  |
|            | <p>理由</p>   | <p>体力は向上していると思われるが、体力が向上したと言いきれる確証がもてない。よって、月に1度か、学期に1度でもいいので簡単な体力テストを実施していいのではないかと考える。</p> <p>生徒は取組内容もわかってできていた。しかし、待っている間のルールをしっかりと確認していなかったため、バラバラに座っていることが多かった。協調性を身につけて行くためにもルールを確認、または自分たちで話し合うことも大切だと考える。</p>   |
| <p>改善策</p> | <p>人権チェックリストを活用して、改善ポイントを協議した。</p> <p>(4) 固定グループではなく、変えたり、自分たちで考えたりする。</p> <p>(5) (22) タイミングを計りやすくするために、手拍子をいれたり、跳びやすい曲を流すことも考える。</p> <p>(6) (13) 縄を回す部分をどう評価するのか。生徒によっては教師と一緒に回して縄の回し方のコツをつかめるようにする。</p> <p>(23) 時間的なことを考えると振り返り等が難しかった為、曜日によってなわとびとエアロビの日を分けた。</p> <p>(24) 達成感是十分にももっているため、生徒が縄を回したり、新しい技に挑戦したり、跳べている人の動画を視聴させる。どの跳び方をするか、何回跳ぶかなど目標を明確にしてから始める。また、記録シートを活用する。</p> <p>【全体を通して】</p> <p>目標設定をしっかりしていくことで評価もしやすくなる。縄を回す、跳ぶ、跳んだ後の動き等、どのような目標を設定するのか考えて行く必要がある。</p> |  |

|   |  |   |              |  |      |              |                  |
|---|--|---|--------------|--|------|--------------|------------------|
| 学部  | 中学部  | 集団構成  | 1ブロック<br>全学年 | 授業名  | 保健体育 | 指導形態         | 教(保健体育)<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な運動経験を通して、身体を動かす楽しさや喜びを味わい、運動に対する興味・関心をひろげる。</li> <li>基本動作を身に付けるとともに、健康の保持増進、体力の向上をはかる。</li> <li>集団活動を通して、協調することの大切さや楽しさを知る。(仲)</li> </ul> |              |  |      |              |                  |
| 単元名・題材名   |  | Bグループ なわとび『リズムでジャンプ! 1、2、3』①  |              |  |      |              |                  |
| 児童・生徒の実態  | 本グループは、1年生男子6名、2年生男子4名、3年生男子2名の計12名で構成されている。サッカークラブに所属している生徒や休憩時間に運動場に出かけ、野球などをして遊んでいる生徒がおり、運動に対する興味・関心・意欲が高い。しかし、体力がなく長時間の運動が続かなかつたり、できないとすぐに諦めてしまったりして、粘り強く課題に向うことが難しい面もある。また、友だちと楽しく運動はしているが、身に付けたい動きや技能を友だち同士で教え合う場面は少ない。長縄での大波、小波をしたり、回っている縄をくぐり抜けたりするなど、縄跳び運動を取り組む時に必要な基礎技術は獲得している。  |   |              |  |      | 学習指導要領での位置づけ |                  |
|   | 個人では20回の連続跳びができるが、長縄跳びの回旋跳びになると、自分のリズムで跳び続けるため、集団になると息が合わず縄に引っかかってしまう。   |   |              |  |      | 教科           | 内容               |
|   |  |   |              |  |      | 保健体育         | (1)(2)           |
| 単元の設定理由   | <p>縄跳びには、たくさんの跳び方があって、様々な跳び方に挑戦したり、その種目を繰り返し取り組んだりすることによって、リズムやタイミング、バランスや巧緻性といった調整力を養うことができる。調整力はあらゆる運動に取り組む上で、根底となる重要な力であり、複雑な動きを用いるサッカーやバスケットボールなどの運動に繋げることができる。本グループの生徒は、姿勢の保持や簡単な動きは確実であるが、物を使った動作や動きに対する反応は未熟である。スポーツの専門的な技術を身につける前段階として調整力をより高めるために縄跳びは有効である。また、縄跳びは持久力を養う上で効果的であり、運動強度は持久走よりも非常に高いことが生理学的に明らかにされているため、本単元を設定した。</p> <p>指導にあたっては、一定のリズムを刻むために手拍子を用いる。集団のリズムがずれないように自分から手拍子を手がかりに修正し、友だちのリズムに合うように指導する。また、目標を低く設定し成功体験を積むことで、自分から課題に向かう力を養いたい。そして、仲間意識を育むために、まずはペア活動から始め、友だちとの取り組み成果を振り返えられるようにワークシートなどを活用する。今後、ペア活動での成功体験を積むことで、自信をつけ三人組や四人組といった集団活動に繋げていきたい。</p> |   |              |  |      |              |                  |
| 単元目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>複数組で長縄の回旋跳びができる。</li> <li>友だちの跳んでいる様子を見ながら一定のリズムで手拍子をすることができる。</li> <li>友だちと協力して目標を達成しようとする。</li> </ul>   |   |              |  |      |              |                  |
| 評価の基準   |  |   |              | 支援・手立て   |      |              |                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>合図に合わせて跳び始めることができる。</li> <li>長縄の動きに注目することができる。</li> <li>一定のリズムで長縄の回旋跳びができる。</li> <li>跳んでいる人に注目し、応援することができる。</li> <li>一定のリズムで手拍子をすることができる。</li> <li>友だちと同じ目標を持つことができる。</li> </ul> |  |   |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>跳び始めの合図を統一する。(16)</li> <li>縄が波うたないように、回転の速さを調整する。</li> <li>跳んでいる人のテンポに合わせる。(22)</li> <li>サブTは見学者に跳んでいる人に注目を促す。(4)(22)</li> <li>サブTが誘導して、手拍子を打つようにする。(4)(22)</li> <li>活動前に事前に目標を確認する。(15)</li> </ul> |      |              |                  |

|      |   |   |
|------|---|---|
| 日時   | 学習活動  | 支援  |
| 9:15 | <p>①体育館に集合する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学年、クラスに分かれて座る。</li> </ul> <p>②はじまりのあいさつをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>始まりが意識できるように、列を整えてから号令をかけるようにする。(4)(16)</li> </ul> |

|      |  |   |
|------|--|---|
| 9:18 | ③ラジオ体操<br>・体育委員が見本となる。<br>・「ラジオ体操第一」に取り組む。   | ・体育委員の見本に注目が難しい様子であれば、近くのサブTが目前で見本を見せたり、身体ガイドなどをしたりする。(16)  |
| 9:23 | ④グループでの活動<br>・長縄跳びBグループで集合する。<br>・ワークシートを基にペアを知り、本時の目標を確認する。<br>・ペアになって長縄の回旋跳びに取り組む。<br>・跳んでいる人に注目して、手拍子をする。 | ・長縄が波うたないように、回し手が呼吸を合わせ、縄に加わる張りとは回転の速さを調整する。(22)<br>・跳んでいる人のテンポに合わせてたり、回す速さ調節したり、足元で縄が地面に接するように場所を移動したりして跳びやすいように配慮する。(22)<br>・ペアが協力し合えるよう言葉がけをする。(28)<br>・一人一人の頑張りを見出し、適切に賞賛するとともに「できた」という達成感を持たせるようにする。(21)(24)<br>・サブTは指で指し示すなどして、見学者に跳んでいる人に注目させ、手拍子を促すようにする。 |
| 9:30 | ⑤目標達成度を確認する。<br>・ワークシートを基に本時の成果を全員で共有し、振り返る。   | ・生徒同士が励まし合えるように言葉がけをする。(28)<br>・成果が視覚的にわかるようなワークシートを準備する。(24)(28)   |

|     |                   |  |
|-----|-------------------|--|
| 妥当性 | 単元<br>目標          | 高すぎた・ <u>適当だった</u> ・低すぎた<br>今回は二人組で長縄の回旋跳びに取り組んだ。全体を通して、長縄をよく見てタイミングを合わせて跳ぶことができていた。また、友だちの跳んでいる様子を見て、タイミングにバラつきはあるが、手拍子をして友だちを応援することができる。   |
|     | 単元・<br>題材<br>(教材) | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>長縄跳びをした後、「疲れた」と言って座り込む生徒もいたので、運動量の確保はできていると考えられる。しかし、すぐ縄に引っ掛かってしまう生徒は運動量の確保としては乏しい。   |
|     | 学習・<br>活動         | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>跳んでいる人のテンポに合わせてたり、回す速さを調節したり、足元で縄が地面に接するように場所を移動したりして跳びやすいように配慮したため、ほとんど生徒が目標を達成することができたので、自信をもって長縄跳びに取り組むようになった。また、集団跳びに繋げるために、友だちに意識を向けることを大切に取り組んでいる。同じ目標をもつことで一生懸命に友だちを応援したり、生徒同士で教えたりする姿も見ることができた。 |

|    |   |   |
|----|---|---|
| 評価 | 目標達成度 : A 達成した <u>B ほとんど達成した</u> C あまり達成できていない D 全く達成できていない |   |
|    | 理由  | 「友だちと一緒に跳ぶ」、「友だちを応援する」と目標を明確にすることで、意識が高まり、意欲的に活動に取り組む生徒がほとんどであった。成果が視覚的にわかるようなワークシートについては、今回は活用することができなかった。今後、取り入れていきたい。  |
|    | 改善策   | 人権チェックリストをつけて、改善ポイントを協議した。<br>(18)→生徒によっては、目標とする縄跳びの回数を伝えるだけでは実感がわかなかったためワークシートを活用する。ワークシートには、視覚的に量としてわかりやすいように、跳べた回数を色付けする。見るだけで頑張りや積みあがっていることがわかり、生徒自身が即時評価できるように促す。また、生徒同士の共通理解を図る。<br>(28)→集団意識を高めるため、今後二人組や三人組など、一緒に跳んだ友だちと成果を認めあえる場面を取り入れる。<br>(4)→指導については、主指導やサブの教師の立ち位置を検討する。 |

|          |   |  |              |        |      |      |                  |
|----------|---|--|--------------|--------|------|------|------------------|
| 学部       | 中学部   | 集団構成   | 1ブロック<br>全学年 | 授業名    | 保健体育 | 指導形態 | 教(保健体育)<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な運動経験を通して、身体を動かす楽しみや喜びを味わい、運動に対する興味・関心をひろげる。</li> <li>・基本動作を身に付けるとともに、健康の保持増進、体力の向上をはかる。</li> <li>・<u>集団活動</u>を通して、<u>協調することの大切さや楽しさを知る。</u>(仲)</li> </ul> |              |        |      |      |                  |
| 単元名・題材名  |   | Bグループ なわとび『リズムでジャンプ! 1、2、3』②   |              |        |      |      |                  |
| 児童・生徒の実態 | <p>本グループは、1年生男子6名、2年生男子4名、3年生男子2名の計12名で構成されている。サッカークラブに所属している生徒や休憩時間に運動場に出かけ、野球などをして遊んでいる生徒がおり、運動に対する興味・関心・意欲が高い。しかし、体力がなく長時間の運動が続かなかつたり、できないとすぐに諦めてしまったりして、粘り強く課題に向うことが難しい面もある。また、友だちと楽しく運動はしているが、身に付けたい動きや技能を友だち同士で教え合う場面は少ない。長縄での大波、小波をしたり、回っている縄をくぐり抜いたりするなど、縄跳び運動に取り組む時に必要な基礎技術は獲得している。個人では20回の連続跳びはできるが、長縄跳びの回旋跳びになると、自分のリズムで跳び続けるため、集団になると息が合わず縄に引っかかってしまう。4月から実践している二人組の回旋跳びについては、ほとんどのペアが長縄をよく見てタイミングを合わせながら跳べるようになってきた。また、友だちの跳んでいる様子に注目することができ、手拍子をして応援する生徒が増えてきた。一定のリズムに合わせて手拍子をするにはまだ課題が残っている。</p>   |  | 学習指導要領での位置づけ |        |      |      |                  |
|          |   |  | 教科           | 内容     |      |      |                  |
|          |   |  | 保健体育         | (1)(2) |      |      |                  |
| 単元の設定理由  | <p>縄跳びには、たくさんの跳び方があって、様々な跳び方に挑戦したり、その種目を繰り返し取り組んだりすることによって、リズムやタイミング、バランスや巧緻性といった調整力を養うことができる。調整力はあらゆる運動に取り組む上で、根底となる重要な力であり、複雑な動きを用いるサッカーやバスケットボールなどの運動に繋げることができる。本グループの生徒は、姿勢の保持や簡単な動きは確実であるが、物を使った動作や動きに対する反応は難しさが見られる。スポーツの専門的な技術を身につける前段階として調整力をより高めるために縄跳びは有効である。また、縄跳びは持久力を養う上で効果的であり、運動強度は持久走よりも非常に高いことが生理学的に明らかにされているため、本単元を設定した。</p> <p>指導にあたっては、一定のリズムを刻むために手拍子を用いる。集団のリズムがずれないように自分から手拍子を手がかりに修正し、友だちのリズムに合うように指導する。また、達成可能な目標を設定し成功体験を積むことで、自分から課題に向かう力を養いたい。そして、仲間意識を育むために、まずはペア活動から始め、友だちとの取り組み成果を振り替えられるようにワークシートなどを活用する。はじめは、ペア活動での成功体験を積むことで、自信をつけ三人組や四人組といった集団活動へ段階を踏んでいきたい。</p> <p>ペア活動では、友だちとリズムを合わせて跳び続けるという成功体験を繰り返し経験することができた。しかし、体育館で複数のグループが一斉に課題に取り組んでいるため、視覚、聴覚への刺激が多く、同じグループの友だちが跳んでいる様子に注目することが難しかった。そこで次の三人組の活動では、待機している生徒が注目しやすいように、生徒が壁側で跳ぶようにする。また、跳んでいる友だちの動きにタイミングが合うように教師が手拍子を促す。そういった学習環境を整えることで、跳んでいる人、応援している人の両者に一体感が生まれ、集団意識を高めていく。また、長縄を跳び終えた後、応援してくれた友だちにハイタッチをするだけでなく、長縄を跳んだ三人組で頑張りを共有する時間を設けて、友だちと協力して目標を達成する力を養いたい。</p> <p>長縄跳びの活動だけでは集中して取り組むことが難しい生徒には、記録係の役割を設定し、授業中の離席を少なくさせたい。加えて、今回からチャレンジタイムと称し、生徒達同士で改善点について話し合う機会を設定する。このような指導を踏まえて、今後四人組へ繋げていきたい。</p> |  |              |        |      |      |                  |
| 単元目標     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数組で長縄の回旋跳びができる。</li> <li>・友だちの跳んでいる様子を見ながら一定のリズムで手拍子をすることができる。</li> <li>・友だちと協力して目標を達成しようとする。</li> </ul>   |  |              |        |      |      |                  |

| 評価の基準   | 支援・手立て   |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・合図に合わせて跳び始めることができる。</li> <li>・長縄の動きに注目することができる。</li> <li>・一定のリズムで長縄の回旋跳びができる。</li> <li>・跳んでいる人に注目し、応援することができる。</li> <li>・一定のリズムで手拍子をするすることができる。</li> <li>・友だちと同じ目標を持つことができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・跳び始めの合図を統一する。(16)</li> <li>・縄が波うたないように、回転の速さを調整する。</li> <li>・跳んでいる人のテンポに合わせる。(22)</li> <li>・サブTは見学者に跳んでいる人に注目を促す。(4)(22)</li> <li>・サブTが誘導して、手拍子を打つようにする。(4)(22)</li> <li>・活動前に事前に目標を確認する。(15)</li> </ul> |

| 日時   | 学習活動   | 支援  |
|------|--|---|
| 9:15 | ①体育館に集合する。<br>・各学年、クラスに分かれて座る。   |   |
| 9:18 | ②はじまりのあいさつをする。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・始まりが意識できるように、列を整えてから号令をかけるようにする。(4)(16)</li> <li>・体育委員の見本に注目が難しい様子であれば、近くのサブTが目前で見本を見せたり、身体ガイドなどをしたりする。(16)</li> </ul>  |
| 9:23 | ③ラジオ体操<br>・体育委員が見本となる。<br>・「ラジオ体操第一」に取り組む。   |   |
| 9:23 | ④グループでの活動<br>・長縄跳びBグループで集合する。<br>・記録係が中心となって、ワークシート①を基に三人組を知り、本時の目標を確認する。<br>・記録係が呼名をして、長縄跳びの準備をする。<br>・三人組になって長縄の回旋跳びに取り組む。<br>・跳んでいる人に注目して、手拍子をする。<br>(チャレンジタイム)<br>・自分たちで目標を決め、ワークシート②に記入する。<br>・一回目の記録を基に、再度三人組みの長縄の回旋跳びに取り組む。<br>・改善点について、三人組で話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・長縄が波うたないように、回し手が呼吸を合わせ、縄に加わる張りとは回転の速さを調整する。(22)</li> <li>・跳んでいる人のテンポに合わせてたり、回す速さ調節したり、足元で縄が地面に接するように場所を移動したりして跳びやすいように配慮する。(22)</li> <li>・ペアが協力し合えるよう言葉がけをする。(28)</li> <li>・一人一人の頑張りを見出し、適切に賞賛するとともに「できた」という達成感を持たせるようにする。(21)(24)</li> <li>・待機側の教師は指で指し示すなどして、見学者に跳んでいる人に注目させ、手拍子を促すようにする。(4)(22)</li> <li>・生徒同士が励まし合えるように見本となる言葉がけをする。(28)</li> </ul> |
| 9:40 | ⑤目標達成度を確認する。<br>・記録係が中心となって、ワークシート①②を基に本時の成果を全員で共有して振り返ることで頑張りを認めあう。<br>・次回の記録係を決める。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果が視覚的にわかるようなワークシートを準備する。(24)(28)</li> <li>・生徒の自発的な発言を促すようにする。(26)</li> </ul>   |

|     |   |  |
|-----|---|--|
| 妥当性 | 単元目標  | <p>高すぎた・<u>適当だった</u>・低すぎた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・跳び方については、自分なりのリズムになってしまっていて、それぞれ異なった跳び方をしている。しかし、多くの生徒が縄をよく見てタイミングを合わせて跳べるようになってきた。</li> <li>・教師の促しがなくても、友だちの跳んでいる様子に注目して手拍子をする生徒が増えてきた。また、「手拍子をもう少し揃えた方がいい」という改善点を述べる生徒もいた。</li> <li>・跳び終わった後、教師の促しがなくても、自ら一緒に跳んだ友だちや応援してくれた友だちにハイタッチを求めるようになった。また、チャレンジタイムを設けることで、前回の記録を更新するため、生徒同士が改善点を話し合い、目標を達成させようとしていた。</li> </ul>  |
|     | 単元・題材<br>(教材)   | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単<br/>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・適していなかった</p> <p>全員が一つの縄を見て、リズムやタイミングを合わせることで、長縄跳びの回数が増えている。また、今回は縄に引っ掛かってしまっても連続して跳ぶ練習を行なったため、運動量の確保を行なうことができた。それぞれ跳び方の姿勢にばらつきがあり、今後指導が必要である。</p>  |
|     | 学習・活動   | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単<br/>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・適していなかった</p> <p>活動内容を整理して統一することで、生徒は見通しをもって活動に取り組んでいた。生徒に「まだ跳べそう」などと対話をして、自己選択、自己決定を促すことで、活動に集中して取り組むことができた。記録係を設定しワークシートの活用することで、目標を明確にしたり、成果を振り返って共有したりすることができた。また、生徒同士がコミュニケーションを取る機会が増え、それに伴って教師の言葉がけが減り、生徒主体で活動を進められるようになってきた。活動に集中することが難しい生徒の離席の回数がほとんどなくなった。また、以前は縄に引っかかってしまうと、落ち込んで諦めてしまったり、その場から立ち去ったりして課題に向き合うことが難しかった。生徒も、記録の更新への意欲や友だちの応援を励みに、積極的に活動に取り組めるようになった。</p>  |
| 評価  | 目標達成度：A 達成した <u>B ほとんど達成した</u> C あまり達成できていない D 全く達成できていない |  |
|     | 理由  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は縄をよく見て、タイミングを合わせて跳べるようになってきた。また、友だちの跳んでいる様子に注目して手拍子をする生徒が増えてきた。そして、前回の記録を更新するため、生徒同士が改善点を話し合い、目標を達成させようとしていた。</li> <li>・リズムやタイミングを合わせることで、長縄跳びの回数が増えている。連続して跳ぶ練習を行なったため、運動量の確保を行なうことができた。</li> <li>・自己選択、自己決定を促すことで、活動に集中して取り組むことができた。記録係を設定し、ワークシートの活用することで、目標を明確にでき、成果を振り返って共有することができた。今では生徒主体で活動を進められるようになってきた。授業に入るのが難しい生徒に役割を設けることで、全員が記録更新への意欲を高め、また友だちの応援を励みに、積極的に活動に取り組めるようになった。</li> </ul> |
|     | 改善策   | <p>人権チェックリストをつけて、改善ポイントを協議した。</p> <p>(22)→跳び方にばらつきがあるので、実態を的確に分析しリズムの取り方や姿勢の修正を図る。改めて生徒に個人目標を明確に設定する。</p> <p>(6)→現時点の調整力の確認や強化のために、踏み台昇降運動やラダートレーニングなどの活動を取り入れる。</p>   |

# みんなでジャンプ！！1, 2, 3！

## めざせ！！90回！

ワークシート①



90

75

60

45

30

15



①

②

③

④

⑤



# みんなでジャンプ！！1, 2, 3！！

## チャレンジタイム！！

ワークシート②



①

②

③

④

⑤



|  |  |   |              |   |      |   |                  |
|--|--|---|--------------|---|------|---|------------------|
| 学部   | 中学部  | 集団構成  | 1ブロック<br>全学年 | 授業名   | 保健体育 | 指導形態  | ⑧(保健体育)<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な運動経験を通して運動に対する興味・関心を広げ、主体的に運動する。</li> <li>・正しい身体の動きを身につけるとともに健康の保持増進、体力の向上を図る。</li> <li>・集団活動を通して、協調することの大切さや楽しさを知る。(仲)</li> </ul> |              |   |      |   |                  |
| 単元名・題材名  |  | Cグループ なわとび①   |              |   |      |   |                  |
| 児童・生徒の実態   | <p>簡単な身体の模倣ができる生徒が多いが、中には教師の話や動きに注目することが難しい生徒もいる。</p> <p>走る、跳ぶといった基本的な動作は全員行うことができる。しかし、縄のタイミングに合わせて跳ぶとなると、ひっかかったり、縄の動きを最後まで追視することが難しいため跳べなかったりする生徒が多い。教師と一緒に跳んだり、言葉かけをすることで跳ぶことができる。</p>  |   |              |   |      | 学習指導要領での位置づけ  |                  |
|  |  |   |              |   |      | 教科  | 内容               |
|  |  |   |              |   |      | 保健体育  | (1)              |
| 単元の設定理由  | <p>なわとびを跳ぶには様々な能力が必要であるが、本単元では、調整力を培うことをねらいとする。動作のタイミングの正確性を高めるなどの調整力を本グループのなわとびで養うことができると考えられる。</p> <p>まず運動量の確保と、教師の動きに注目して取り組むという観点から、準備体操を行う。</p> <p>次に、縄に親しむために、①へび横、②へび縦 ③小波、④大波の順で、合図とともに一斉に飛び越える活動を毎時間行っている。合図を聞き跳び越える、縄に当たらないように跳んだり、跨いだりすることをねらいとしている。簡単な課題であることから、いずれの生徒も意欲的に活動することができる。また以前は縄にあたる生徒が多かったが、タイミングをよく見て、縄にあたらないように跳んだり、跨いだりする生徒も増えてきた。</p> <p>回旋跳びの前段階として、大波を1～2名程度ずつで並んで跳ぶ活動も取り入れる。少人数であることから、縄を追視したり、教師の言葉かけをよく聞いて跳んだりすることができる。また、生徒の実態に合わせて1名で取り組むなど人数を調整していくことで、生徒自身、焦らずに活動することができると考えられる。縄の揺れのリズムや自身の跳ぶタイミングをつかめるようになった後、回旋跳びを取り入れる。Bグループへの移行を目指し、両足で20回連続跳ぶことを目標に、まずは少ない回数から始め、次第に回数を増やし、指導していく。一人一人が成功体験を積み重ねることで、自分も「できる」という達成感をもたせたい。</p> |   |              |   |      |   |                  |
| 単元目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の言葉や動きに注目して、体操したり、跳んだりすることができる。</li> <li>・縄の動きをよく見て、跳び越えたり、跨いだりすることができる。</li> <li>・揺れのタイミングに合わせて跳ぶことができる。</li> <li>・友だちが跳んでいる時に数を数えたり、手拍子をする。</li> </ul>   |   |              |   |      |   |                  |
| 評価の基準  |  |   |              | 支援・手立て  |      |   |                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の動きに注目できる。</li> <li>・教師の動きを模倣することができる。</li> <li>・合図を聞き、動き出すことができる。</li> <li>・縄に当たらないように跨ぐことができる。</li> <li>・縄の動きをよく見て跳び越えることができる。</li> <li>・揺れのタイミングを見て、跳ぶことができる。</li> <li>・友だちの様子に関心をもっている。</li> </ul> |  |   |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・主指導に注目するように言葉かけをする。(22)</li> <li>・遠くの教師に注目が難しい様子であれば、身体ガイドや目の前で見本の動きをする。(22)</li> <li>・笛を使用する。(16)</li> <li>・見本を見せる。</li> <li>・難しい様子の生徒には、跳ぶタイミングで合図を出したり、一緒に跳んだりする。(22)</li> <li>・対象となる人物等を、指差しや、数を数えることで、意識しやすくする。(23)</li> </ul> |      |   |                  |
| 日時   | 学習活動   |   |              |   |      | 支援  |                  |
| 9:15   | 1 整列をする。   |   |              |   |      |   |                  |
| 9:18   | 2 ラジオ体操をする。  |   |              |   |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・主指導の動きに注目するように言葉かけをする。(22)</li> </ul> |                  |

|            |   |   |
|------------|---|---|
| 9 : 23     | <p>3 チームに分かれ、赤線の上に3年から順に並ぶ。</p> <p>4 準備体操をする。<br/>主指導の動きを模倣する。</p> <p>5 縄を一斉に跳び越える。<br/>①へび 横<br/>②へび 縦<br/>③小波<br/>④大波</p> <p>6 数人で並んで跳ぶ。<br/>座っている生徒は、友だちが跳んでいるのを応援する。</p>  | <p>・1人で体操が難しい生徒には身体ガイドを行う。(23)</p> <p>・笛の合図をよく聞くように言葉かけする。(23)</p> <p>・跳び越えにくい生徒には、教師が背中を押すことでタイミングを図ったり、一緒に飛び越えたりする。(22)</p> <p>・一人ひとりの頑張りを見出し、「できた」という達成感をもつことができるように、褒めたり、ハイタッチをしたりする(24)</p> <p>・生徒同士が励まし合えるように言葉かけをする。(28)</p> |
| 9 : 30     | 7 整列し、おわりのあいさつをする。  |   |
| 妥当性        | <p>単元目標</p>   | <p>高すぎた・<u>適当だった</u>・低すぎた</p> <p>身体ガイドを必要とする生徒は、教師と一緒に体操に取り組むことができた。また動きを見て自分で体操できている生徒もいた。<br/>縄のタイミングを見て跳んでいる生徒もいたが、一斉に跳ぶ活動では、みんなの様子を見てから少し遅れて移動し、縄に当たっている生徒もいた。</p>  |
|            | <p>単元・題材<br/>(教材)</p>   | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単<br/>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・<u>適していなかった</u></p> <p>縄をみて、タイミングを合わせて跳ぶという内容は調整力を培うのに適している。運動量の確保と自分で考えて動く活動内容をねらいとした場合、一斉跳びだけでは目標達成は難しいため、ゲーム性のあるものを取り入れる必要があると考える。</p>                               |
|            | <p>学習・活動</p>  | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単<br/>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・<u>適していなかった</u></p> <p>縄の動きを見て、タイミングを合わす内容としては適していたが、個々に寄り添った活動にはなりにくかった。一人一人が跳んでいるかどうかをよく見ることができる内容にしていく必要がある。</p>   |
| 評価         | <p>目標達成度：A達成した Bほとんど達成した <u>Cあまり達成できていない</u> D全く達成できていない</p>  |   |
|            | <p>理由</p>   | <p>タイミングを見て跳んでいる生徒とそうでない生徒がいたが、学習の中で一人ひとりに焦点を当てて指導することができなかった。また視覚的な支援もなく、主体的に活動できる取り組み内容ではなかった。</p>  |
| <p>改善策</p> | <p>ゲームやサーキットのスタイルなどを取り入れ、運動量を確保しつつ、教師の配置や跳ぶ順番などで一人ひとりの跳んでいる様子をよく見ることで、個々の課題へよりアプローチできるようにする。<br/>人権チェックリストをつけて、改善ポイントを協議した。<br/>(1 3)→授業のおおまかな流れをイラストで提示する。<br/>(1 8)(2 2)→跳ぶことを意識できるように足型等を置いたサーキットに変更する。<br/>(1 7)→振り返りチェックシートを用意し、跳んだ回数を確認する。<br/>(2 5)→サーキット内に、高さなどが選択できるようなものを用意する。<br/>(2 3)→時間の確保、サーキット内での指導など一人ひとりに焦点をあてて、取り組む。</p> |   |

|          |   |      |              |     |      |              |                   |
|----------|---|------|--------------|-----|------|--------------|-------------------|
| 学部       | 中学部   | 集団構成 | 1ブロック<br>全学年 | 授業名 | 保健体育 | 指導形態         | 教 (保健体育)<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な運動経験を通して運動に対する興味・関心を広げ、主体的に運動する。</li> <li>・正しい身体の動きを身につけるとともに健康の保持増進、体力の向上を図る。</li> <li>・集団活動を通して、協調することの大切さや楽しさを知る。(仲)</li> </ul>   |      |              |     |      |              |                   |
| 単元名・題材名  | Cグループ なわとび②   |      |              |     |      |              |                   |
| 児童・生徒の実態 | <p>教師の話や動きに注目することが難しい生徒は数名いるものの、おおよその生徒は簡単な動きの模倣をすることができる。さらに1学期からの取り組みの中で、活動の流れに見通しをもち、落ち着いて取り組むことができる生徒も増えてきた。</p> <p>走る・跳ぶといった基本的な動作は全員行うことができる。1学期当初は、縄のタイミングに合わせて跳ぶとなると、ひっかかったり、縄の動きを最後まで追視することが難しいため跳べなかったりしていた。教師と一緒に跳んだり、言葉かけをしたりすることで跳ぶことができる生徒が多かったが、長縄跳びの取り組みを継続していく中で、縄の動きをよく見て、連続して跳ぶことができるようになった生徒も増えてきた。しかし両足を揃えて跳んだり、垂直方向に跳んだりすることがまだ難しい生徒も数名いる。</p>  |      |              |     |      | 学習指導要領での位置づけ |                   |
|          |   |      |              |     |      | 教科           | 内容                |
|          |   |      |              |     |      | 保健体育         | (1)               |
| 単元の設定理由  | <p>以前は、一斉跳びに主として取り組み、短時間の中で運動量の確保に重きを置いた活動であった。しかし、短時間での一斉跳びでは、一人ひとりに焦点を当てて取り組むことが難しく、タイミング良く跳ぶ事ができていない生徒に指導することが難しかった。そこでこれまでの、なわとび・エアロビクスという2つの内容を同じ時間内で行うのではなく、曜日毎に活動を分けることにし、なわとびに必要な運動・動作に取り組む内容を含む時間を30分間取れる様に変更した。</p> <p>本グループの生徒は、笛の合図を聞いて動き出すことはできていたが、主体的に運動でき且つ運動量を確保できるように、本単元での取り組みを一斉跳びからサーキットに変更することにした。</p> <p>タイミングを見て跳んだり、跨いだりすることができる生徒も少しずつ増えてきていることから、前回から取り組んでいる、縄を使用した波をサーキットにも取り入れる。また両足跳びの準備運動として、足型に合わせて跳び進む活動も取り入れていたが、前方向に跳ぶ活動だけであったため、横方向にも跳ぶことができるような活動内容を取り入れる。さらにサーキット内に、高さが違うものを用意することで、生徒自身が選択・決定して跳ぶことができるような取り組み内容にする。</p> <p>また、前は準備運動を取り入れていたが、グループに分かれての活動前に、全体でラジオ体操に取り組んでいること、サーキットをした後に大縄をするという流れが生徒に定着してきていることを加味し、なわとびに当てる時間を確保するために省略することにした。</p> <p>サーキット内での準備運動を活かせるように前回同様、回旋跳びの前段階として、大波を1～2名程度ずつで並んで跳ぶ活動も取り入れる。生徒の実態に合わせて1名で取り組むなど人数を調整し、両足で20回連続跳べることを目標にまずは少ない回数を波から始め、次第に回数を増やし、回旋跳びへと移行するように指導していく。その際に、カードに跳んだ回数分色を塗り、跳べた回数を自身で振り返ることができるようにし、Bグループへの移行を目標にしている生徒等にも、視覚的に分かるように支援する。振り返りをする中で、たくさん跳べたという達成感や、次の跳ぶ意欲へとつなげることができると思う。</p> |      |              |     |      |              |                   |
| 単元目標     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・縄の動きをよく見て、跳び越えたり、跨いだりすることができる。</li> <li>・両足を閉じたり、開いたりして跳び進むことができる。</li> <li>・揺れのタイミングに合わせて跳ぶことができる。</li> <li>・足型に合わせ、両足を揃えて跳ぶことができる。</li> <li>・高さや跳び方を自分で選択することができる。</li> <li>・友だちの跳んでいる姿に注目することができる。</li> </ul>  |      |              |     |      |              |                   |

| 評価の基準  | 支援・手立て  |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の動きに注目する。</li> <li>・合図を聞き、動き出す。</li> <li>・揺れのタイミングを見て、跳ぶ。</li> <li>・両足を揃えたり、開いたりして一人で跳び進むことができる。</li> <li>・高さを自分で選択し、跳び越えることができる。</li> <li>・友だちの様子に関心をもつことができる。</li> <li>・自分の跳んだ回数分、色を塗ることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・主指導に注目するように言葉かけをする。(22)</li> <li>・笛を使用する。(16)</li> <li>・難しい様子の生徒には、跳ぶタイミングで合図を出したり、一緒に跳んだりする。(22)</li> <li>・足型を用意する。(13)</li> <li>・難しい様子の生徒には、足型の間隔を狭めたり、教師が手を取り一緒に跳んだりする。(22)</li> <li>・高さが違うものを用意する。(25)</li> <li>・対象となる人物等を、指差しや、数を数えることで、意識しやすくする。(23)</li> <li>・ふり返り用のチェックシートを用意する。(17)</li> </ul> |

| 日時                   | 学習活動   | 支援  |
|----------------------|--|---|
| 9:15<br>9:18<br>9:23 | 1 整列をする。<br>2 ラジオ体操をする。<br>3 チームに分かれ、赤線の上に3年から順に並ぶ。<br>4 流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">             サーキット<br/>             おおなわとび<br/>             ふりかえり           </div> 5 簡易サーキットに取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小波を跳ぶ。</li> <li>・足型に合わせて両足ジャンプをする。</li> <li>・高さの異なるものを自己選択しながら、前方向、横方向で跳び越える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・主指導の動きに注目するように言葉かけをする。(22)</li> <li>・活動内容を視覚的に提示し、流れの説明をする。(13)</li> <li>・教師が一度見本で行う。</li> <li>・跳び越えにくい生徒には、教師が背中を押すことでタイミングを図ったり、一緒に飛び越えたりするなど一人ひとりの状況に応じた支援や言葉かけを行う。(22)</li> <li>・足型を用意する。(4)</li> </ul> |
|                      | 6 数人で並んで跳ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・跳び終わった生徒は順に跳んだ回数分色を塗る。</li> <li>・座っている生徒は、友だちが跳んでいるのを応援する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で塗るのが難しい生徒には教師と一緒に塗るようにする。(17)</li> <li>・跳んでいる友だちに注目するように言葉かけをしたり、対象となる人物を指差ししたりする。(23)</li> <li>・一人ひとりの頑張りを見出し、「できた」という達成感をもつことができるように、褒めたり、ハイタッチしたりする。(24)</li> </ul>                                   |



|      |  |  |
|------|--|--|
| 9:40 | 7 整列し、おわりのあいさつをする。   | ・生徒同士が励まし合えるように見本となる言葉かけをする。(28)   |
| 妥当性  | 単元目標   | 高すぎた・ <u>適当だった</u> ・低すぎた<br>サーキットを取り入れたことで、動きの種類が増え、足型に合わせて跳ぼうとするなど、自ら調整しながら跳ぼうとする姿が見られた。また、高さを自分で選択することができた生徒もいた。さらに波では、縄の動きをよく見て跳んでいる生徒も増えてきている。しかし友だちの跳んでいる姿に注目することは、教師の言葉かけがないとまだ難しい。  |
|      | 単元・題材<br>(教材)  | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>なわとびを跳ぶ前段階として両足で跳ぶという活動を、簡易のサーキットに取り入れた。サーキット内に様々な跳び方ができるものを取り入れたことで、両足を揃えて跳ぼうとしたり、跳び越えるためのタイミングを自分で調整したりすることができる活動となった。しかし、実際に縄を跳ぶ時に、垂直方向に跳ぶことが難しい生徒がいるため、同じポイントに降り立つための練習をしたり、印を用意したりする必要がある。 |
|      | 学習・活動  | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>見通しをもって取り組むことができる生徒が増えている。またサーキット内に高さが違うS棒を用意したことで、生徒自身で選択・決定できる学習となった。また大波を跳ぶ時にカードを使うことで、跳ぶ回数を自分で考えて決めている生徒もいた。しかし動作に関しては、まだ両足を揃えて跳ぶことが出来ない生徒もいるため、サーキット内や波の活動の中で、一人ひとりに焦点を当てて指導していく必要がある。     |
| 評価   | 目標達成度：A 達成した <u>B ほとんど達成した</u> C あまり達成できていない D 全く達成できていない  |  |
|      | 理由   | 視覚的な支援を取入れたことで、見通しをもって取り組むことができる生徒が増えた。B グループへの移行のために、回数をチェックシートで振り返る活動を行うことで、意欲的に跳んだり、挑戦する回数を考えたりする生徒もいた。また一人ひとりが順番に縄を跳ぶ活動をサーキットの中に取り入れたことで、タイミングが合っていない生徒をより把握できるようになり、個々に焦点をあてて言葉かけをすることができるようになった。全体的な活動量も多く、生徒自身が選択・決定できる内容に変更することができたと考える。                       |
| 改善策  | 両足を揃えて跳ぶことが出来るようにS棒を用いて、横跳びや前跳びの活動を取り入れたが、徐々に高くしていく・ゴムを使用するなど生徒が安心感を持って跳べる道具を用意する必要がある。また大縄を跳ぶ時に、垂直に跳ぶことが難しい生徒が数名いるため、大縄を跳ぶ際に、降り立つ部分をテープ等で示すなどの支援が必要である。また、集団や友だちを意識しての活動にするために、教師の言葉かけのみならず、跳んだ回数の振り返り方法の工夫、ペアでの活動を取り入れるなど活動内容を検討していく必要もある。<br><br>人権チェックリストをつけて、改善ポイントを協議した。<br>(7)(18) →縄を垂直に跳ぶ際、降り立つ場所を印等で示す。<br>(17)(24) →振り返りチェックシートで跳んだ回数を確認後、最後に発表するようにする。 |  |

|  |   |      |                           |   |       |              |  |  |
|--|---|------|---------------------------|---|-------|--------------|--|--|
| 学部   | 中学部   | 集団構成 | 1, 2ブロック3年生<br>2グループ (5名) | 授業名   | 課題別学習 | 指導形態         | 教 ( )<br>合・領・総                         |  |
| 年間の指導目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字への関心を高めるとともに物語を聞く、理解する力を育てる。(国語的内容) (コ)</li> <li>・数の基礎的な概念がわかり、日常生活で使える力を養う。(数学的内容)</li> <li>・自分の周りに関する事象(地域、行事、自然)に興味を持つ。(社会的内容)</li> <li>・季節の植物や生物に興味を持つ。(理科的内容) (仲)</li> </ul>   |      |                           |   |       |              |  |  |
| 単元名・題材名  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・【国語】文字のプリント</li> <li>・【数学】電卓の使い方</li> <li>・【社会】近畿地方パズルをしよう</li> </ul>   |      |                           |   |       |              |  |  |
| 児童・生徒の実態   | <p>中学部では、知的学級肢体学級合同のもと、学年ごとに学習到達度を考えてグループ編成を行い学習を進めている。このグループの5名は、3歳～5歳の発達段階の生徒の集団である。このグループには話し言葉が豊富で自分の気持ちを言葉で表現し友だちと楽しく会話ができる生徒から、自分から進んで発言するのが苦手教師の手助けが必要であったり、普段の学習場所とは異なる環境や関わりが少ない教師とは会話が進まず、思いをなかなか伝えられない生徒がいる。20までの数字が数えられる生徒から100まで確実に数えられかつ繰り上がりの計算も可能な生徒とやや習熟度の幅はあるが、ボウリングゲームで倒したピンを数える活動を行うことで数への関心は持っている。ボウリングの準備など今から行う学習に対しての見通しを持つことができ、友だちと協力して準備を手伝っている場面も見られる。また、欠席している友だちを気遣い、一緒に学習したいという仲間意識が備わっている集団でもある。</p>  |      |                           |   |       | 学習指導要領での位置づけ |  |  |
|  |   |      |                           |   |       | 教科           | 内容                                     |  |
|  |   |      |                           |   |       | 国語           | 小学部2段階(4)<br>小学部3段階(3)<br>中学部(1)(2)(3) |  |
|  |   |      |                           |   |       | 数学           | 中学部段階(1)(2)(3)(4)                      |  |
|  |   |      |                           |   |       | 社会           | 中学部段階(5)                               |  |
| 理科   | 中学部段階(3)  |      |                           |   |       |              |  |  |
| 単元の設定理由  | <p>このグループの生徒は、自分を取り巻く様々な事象について、興味を持ち知りたいと思う気持ちをたくさん抱えている。課題別学習では、「国語」、「数学」、「社会」、「理科」の教科学習に取り組んでいる。学習では、ミニホワイトボードを用いて、カードを使って貼りつけて自分の考えを発表することで、自分の考えをフィードバックしつつ、友だちの考えを聞くという形式で行っている。電卓を使うことで、複数の買い物をして正確な金額がわかり、必要なお金の支払いができることを学び、自分でできる日常生活の幅が広がれることを目指し単元を設定した。この学習が修学旅行での買い物につながればと願っている。近畿地方の学習では、特産物や有名なキャラクター等を知ること自分たちの住んでいる和歌山県をより身近に感じるきっかけになればと考えて設定した。また近畿地方の県、府をパズルにすることで、楽しく学習に向かうことができればと考えた。教科学習を行う中で、文字(ひらがな、カタカナ、漢字)や数の習得は自分のできることを増やし、物語を理解する力を育てることは、友だちとの会話を楽しむ中で相手の言葉を理解し、相手と協調できる力につながっていくと考えている。また、自分の周りにあるさまざまな事象に興味を持つことは、「あっちよりこっち」「こっちをもっとやりたい」という自己決定できる自我を増やし、生活の幅の広がりにつながっていくと期待している。</p> |      |                           |   |       |              |  |  |
| 単元目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字に関心を持ち、見本を見て正確に文字を書くことができる。</li> <li>・電卓を使って金銭の計算ができる。</li> <li>・和歌山県を始めとした近畿地方に関心を持つ。</li> </ul>   |      |                           |   |       |              |  |  |
| 評価の基準  |   |      |                           | 支援・手立て  |       |              |  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿地方のパズルを完成させて、府県名を貼る。</li> <li>・電卓を正確に扱える。</li> </ul> |   |      |                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・見本となる大型パズルを準備して、和歌山県を基準としてパズルを合わせさせる。(22)</li> <li>・電卓で打つ数字を声に出して言って確認させる。(24)</li> </ul> |       |              |  |  |

| 日時             | 学習活動   | 支援   |
|----------------|--|--|
| 10:40          | ○3年3組に集合。あいさつ。<br>「出席調べ」<br>・写真カードと、名前（漢字にふりがな付き）を選び、黒板に貼る。  | ・授業の始まりを意識できるように行う。(10)  |
| 10:45          | ○本時の取り組みを知る。<br>1、名前プリント<br>2、計算機の使い方<br>3、近畿地方パズル   | ・ホワイトボードに書いて説明する。(15)  |
| 10:50          | ○プリント学習に取り組む<br>・名前プリント  | ・生徒の実態を考えて、名前プリントはひらがな、漢字と複数種類を準備する。(5)  |
| 11:00          | (休憩 5分)  |  |
| 11:05          | ○計算機の使い方<br>・自分の買いたい買い物カードを2つ選び、ホワイトボードに貼りに行く<br>・ホワイトボードを見ながら、自分のミニボードからカードを探し、机の上に置く<br>・カードを見ながら、電卓を使って計算する<br>・計算結果を確認する | ・声に出して発表して値段を確認する。(26)<br>・予めミニボードに縮小した品物カードを貼っておく。(18)<br>・生徒のペースを考えながら計算機を使わせる。(20)                  |
| 11:30          | (休憩 5分)  |  |
| 11:35          | ○近畿地方パズル<br>・ホワイトボードを見て、近畿地方（*三重県を含めています）を確認する<br>・ホワイトボードを見ながら、近畿の各府県のパズルを作っていく   | ・予め近畿地方の地図（三重県を含めている）を貼っておく。(14)<br>・ミニボードには、県、府の区分を描いた近畿地方の地図を貼っておく。(22)<br>・目安になるように県、府は色分けしておく。(22) |
| 11:45<br>11:50 |   | ・生徒によっては、教師と一緒にパズルを作っていく。(22)<br>・出来上がったパズルを確認する<br>・終わりを意識できるように行う。(10)                               |
|                | ○まとめ<br>○終わりの挨拶  |  |

|     |               |  |
|-----|---------------|--|
| 妥当性 | 単元目標          | 高すぎた・ <u>適当だった</u> ・低すぎた<br>社会は近畿地方パズルを使って自分で操作することで県名を覚えてきている。数学は位の違いに注目することで百の位ならOK、千の位になるとアウトということが理解できつつある。  |
|     | 単元・題材<br>(教材) | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>社会は手元で操作できる近畿地方パズルにより、県名や県のキャラクターなどを理解できるようになってきた。<br>数学は計算機の使用により、3つの買い物の合計を出せるようになっている。 |
|     | 学習・活動         | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) 適していた・ <u>適していなかった</u><br>社会と数学を同じ時間内で取り組むことで、個別学習がメインになってしまい、個人の学力にせまれているが、全体での学習の共有が時間内にできなかった。                   |
| 評価  | 目標達成度         | A 達成した <u>B ほとんど達成した</u> C あまり達成できていない D 全く達成できていない  |
|     | 理由            | 個別学習により、社会は近畿地方パズルを手元で操作することで近畿地方の形や県名を理解できつつある。数学は計算機の使用により3つの買い物の合計が出せるようになっている。   |
|     | 改善策           | 人権チェックリストをつけて、改善ポイントを協議した。<br>(17)→振り返りの時間を設けて、学習のがんばりを共有しあう。<br>(27)→個に迫る個別学習の時間と、全体で学習を共有しあいお互いを認め合う時間の確保が必要である。<br>(6)→時間に教科を複数入れずに、じっくりひとつの教科に取り組む。          |

|          |  |   |                           |     |       |              |   |
|----------|--|---|---------------------------|-----|-------|--------------|---|
| 学部       | 中学部  | 集団構成  | 1, 2ブロック3年生<br>2グループ (5名) | 授業名 | 課題別学習 | 指導形態         | 教 (国・数)<br>合・領・総                            |
| 年間の指導目標  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字への関心を高めるとともに物語を聞く、理解する力を育てる。(国語的内容) (コ)</li> <li>・数の基礎的な概念がわかり、日常生活で使える力を養う。(数学的内容)</li> <li>・自分の周りに関する事象 (地域、行事、自然) に興味を持つ。(社会的 content)</li> <li>・季節の植物や生物に興味を持つ。(理科的内容) (仲)</li> </ul> |                           |     |       |              |   |
| 単元名・題材名  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・【国語】文字のプリント。</li> <li>・【数学】電卓を使って予算内で買い物をしよう。</li> </ul>  |                           |     |       |              |   |
| 児童・生徒の実態 | <p>中学部では、知的障害学級、肢体不自由学級合同のもと学年ごとに学習到達度を考えたグループ編成を行い、学習を進めている。今回のグループは、3歳～5歳の発達段階にある5名の生徒達である。このグループの生徒達は、話し言葉が豊富、自分の気持ちを言葉で表現し友だちと楽しく会話ができるとともに、欠席している友だちを気遣い一緒に学習したいという仲間意識をもっている。</p> <p>数学の学習では、20までの数字が数えられる生徒から100まで確実に数えられ、かつ繰り上がりの計算ができる生徒とやや習得度の幅はあるが、ボウリングゲームで倒したピンを数える活動を進めると数への関心がとても高いことが見出された。ゲーム形式の学習には興味関心が強く、積極的に学習に取り組もうとする姿やボウリングの準備で、友だちと声をかけ合いながら準備を手伝う場面も見られた。2学期になり、友だちの学習の様子を見て、「自分も頑張ろう、自分もできるようになりたい」という気持ちが広がり、より積極的に授業に取り組む姿が見られるようになってきた。</p>  |   |                           |     |       | 学習指導要領での位置づけ |   |
|          |  |   |                           |     |       | 教科           | 内容  |
|          |  |   |                           |     |       | 国語           | 小学部2段階 (4)<br>小学部3段階 (3)<br>中学部 (1) (2) (3) |
|          |  |   |                           |     |       | 数学           | 小学部3段階 (1) (4)<br>中学部 (1) (4)               |
|          |  |   |                           |     |       | 社会           | 中学部 (5)                                     |
|          |  |   |                           |     |       | 理科           | 中学部 (4)                                     |
|          |  |   |                           |     |       | 生活           | 小学部生活2段階(9)<br>小学部生活3段階(9) (10)             |
| 単元の設定理由  | <p>このグループの生徒は、自分を取り巻く様々な事象について、興味関心が高く意欲的に学習することができる。課題別学習では、「国語」、「数学」、「社会」、「理科」の教科学習に取り組んでいる。ミニホワイトボードの活用 (自分の考えを複数のカードから選択して、各自のミニホワイトボードに貼っていく学習) は、考えをフィードバックすることに有効だと考えた。文字 (ひらがな、カタカナ、漢字) や数の概念を習得することは自分のできることを増やし、また物語を理解する力を育てることは、友だちとの会話を楽しむ中で相手の言葉を理解し、相手と協調できる力につながっていくと考えている。また、自分の周りにある様々な事象に興味を持つことで、「あっちよりこっち」「こっちをもっとやりたい」という自己決定できる自我を高め、生活の幅が広がるのではないかと期待している。</p> <p>数学では、2つの数字の「多い・少ない」を比較する学習として「数字並べゲーム」と「数字バトル」に取り組んだ。「数字並べ」で順序数を学習し、「数字バトル」で教師の書いた数字より大きな数字や小さな数字を考える学習を行った。数字バトルでは、生徒の習得度に合わせて1桁の数字や2桁の数字の中で、または「6, 7, 8, 9」の数字を使わない等の条件を設定した。これらの学習は数の基礎的な概念の習得を目指した。</p> <p>数種類の品の合計を計算機を使って計算し、予算内 (1000円より少ない) の買い物をする学習は、自分で買い物ができるとい日常生活を広げることを目指し設定した。4つのマスに合計金額を書くことで、「百の位 (3桁まで)」の買い物はOK、「千の位 (4桁まで)」の買い物はアウトというように、1000円より少ないということを視覚から確認させた。</p> |   |                           |     |       |              |   |
| 単元目標     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字に関心を持ち、見本を見て正確に文字を書くことができる。</li> <li>・金銭の計算で、電卓を使って予算内 (1000円) で買い物ができる力をつける。</li> </ul>   |   |                           |     |       |              |   |

| 評価の基準   | 支援・手立て  |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの数字の「多い・少ない」の比較ができたか</li> <li>・電卓を正しく使うことができたか。</li> <li>・2つまたは3つの商品の合計を計算することができたか。</li> <li>・1000円より少ない金額で買い物をすることができたか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数字並べの学習表を見て、視覚的に数の大小を理解できるようにする。(22)</li> <li>・使いやすい大きな電卓を使う。(8)</li> <li>・電卓で打つ数字は声を出して言うことで確認させる。(22)</li> <li>・電卓で計算した数を4つのマスの中を書くことで、1000円より少ないか多いか確認させる。(9)</li> </ul> |

| 日時    | 学習活動   | 支援  |
|-------|--|---|
| 10:40 | <p>○始まりのあいさつ。<br/>3年3組に集合。あいさつ。<br/>「出席調べ」。<br/>写真カードと、名前(漢字にふりがな付き)を選び、黒板に貼る。</p> <p>導入 ○本時の取り組みを知る。<br/>1、プリント学習。<br/>2、数学ゲーム。<br/>3、電卓の使い方。<br/>4、買い物学習。(1000円で買い物)</p> <p>展開 ○プリント学習。<br/>①名前プリント。<br/>②順序数のプリント。<br/>○数学ゲーム<br/>①数字並べゲーム。(順序数の並び)<br/>順序数で空いてるマスに入る数字を記入する。<br/>②数字バトル。<br/>先生が書いた数字より大きい数字または小さな数字をミニカードに書くことができれば勝ち。</p> <p>○電卓の使い方。<br/>①机に品物カードを並べる。<br/>②その中から3つの品物を選びミニボードに並べる。<br/>③電卓を使って計算をして答えをボードに書く。<br/>④答えができれば手を挙げて教師に伝える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の始まりを意識できるように行う。(10)</li> <li>・集中して取り組むことができるように活動内容を示す。(15)</li> <li>・ひらがなプリントと漢字プリントを用意し、選択できるようにする。(5)</li> <li>・数字並べの学習表を参照させる。(22)</li> <li>・実態に応じてバトルの条件を変える。(22)</li> <li>・品物の写真カードを選択できるように自己選択・自己決定の機会を設定する。(25)</li> <li>・品物の写真カードをミニボードに貼り、計算しやすいようにする。(22)</li> <li>・机上巡視して、誤り箇所があれば確認させる。(23)</li> </ul> |
|       |   <p>○買い物学習。(1000円より少ない買い物)</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1000円より少ない金額の買</li> </ul>   |

|                         |   |  |
|-------------------------|---|--|
| <p>まとめ</p> <p>11:50</p> | <p>①机に品物カードを並べる。<br/>         ②電卓で計算しながら1000円より少ない金額に収まる品物を選び、ミニボードに並べる。<br/>         ③答えをミニボードに書く。<br/>         ④黒板に選んだ品物を貼り、計算結果をマスの中に書く。<br/>         ⑤答えを発表して、友達に正誤を聞く。<br/>         ＊順番に買い物学習の活動を行う。</p> <p>○まとめ<br/>         本時の学習で頑張ったことを発表する。</p> <p>○終わりのあいさつ。</p> | <p>い物ができているかを、4つのマスの中に書いてマスがすべて埋まっているかどうかで気付かせる。(24)</p> <p>・がんばったことを発表できる環境を作る。(17)</p> <p>・終わりを意識できるように行う。(10)</p>   |
| <p>妥当性</p>              | <p>単元目標</p>   | <p>高すぎた・<u>適当だった</u>・低すぎた</p> <p>・文字の練習として、友だちの名前を書いた名前プリントを用意したので、親しみを持って活動を進めていた。<br/>         ・計算機を使つての計算は、ほぼ正確に計算できるようになった。</p>  |
|                         | <p>単元・題材<br/>(教材)</p>   | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単<br/>         (目標を達成するのに) <u>適していた</u>・適していなかった</p> <p>・実態に合わせて、名前プリントを数種類用意した。友だちの名前の姓は開けていて、ホワイトボードの名前カードを見ながら写す、名前だけを書いたプリントを写す、姓名を書いたプリントを写す、書き順が定まっていない生徒には書き順の番号を書いた名前プリントを写すというように実態に合わせたプリントを用意した。<br/>         ・計算機の使用に慣れることは日常生活でも活用できる1つと考えている。<br/>         ・買い物学習は修学旅行に合わせて取り組めた。</p> |
|                         | <p>学習・活動</p>  | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単<br/>         (目標を達成するのに) <u>適していた</u>・適していなかった</p> <p>・友だちの名前を書くことで漢字や文字に興味関心を持った。<br/>         ・ゲーム形式の数の学習(数字並べゲームや数字バトル)は、積極的に取り組んでいた。<br/>         ・買い物学習で、1000円より少ない金額となる商品を自分でいろいろな組み合わせを考えて計算機で計算したり、4つの品で1000円より少ない金額を考えようとして、生徒自身が自ら学習を進めていた。</p>   |
| <p>評価</p>               | <p>目標達成度：A 達成した B ほとんど達成した C あまり達成できていない D 全く達成できていない<br/>         文字の練習…B ほとんど達成した 計算機を使つての計算… B ほとんど達成した<br/>         数の概念…C あまり達成できていない</p>  |  |
|                         | <p>理由</p>   | <p>・実態に合った文字プリントを用意することで興味関心を持って文字を書くことができた。<br/>         ・日常生活の幅を広げる学習の1つとして計算機を使う買い物学習を設定したが、計算機の使い方は理解できていた。<br/>         ・数字の概念はまだ定着していないので引き続き取り組む必要がある。1桁の数字はほぼ理解できているが、2桁の数字での大小比較はまだ不確実であった。</p>   |
|                         | <p>改善策</p>  | <p>・数の概念の学習に関して<br/>         チェックリスト(6) 順序数を理解することで数の大小を理解できるようにする。<br/>         ・計算機を使った計算の指導と数の理解のための指導の関連<br/>         →計算機の学習を生かして、生徒によっては繰り上がりのある加法ができるように数の合成分解(5の補数、10の補数)と合わせて、2桁の数の数唱や順序数の理解を深めていくことが重要である。</p>   |

|  |   |      |      |   |    |              |                   |
|--|---|------|------|---|----|--------------|-------------------|
| 学部   | 高等部   | 集団構成 | 1～3年 | 授業名   | 国語 | 指導形態         | (教) 国語 )<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標  | 国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めると共に思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を養う。<br>(コ)   |      |      |   |    |              |                   |
| 単元名・題材名  | 「伝え合う」<br>(1) 説明文『すがたをかえる大豆』を通して<br>(2) 夏休みの日記の発表 (3) 読み聞かせを通して (4) 冬休みの思い出の発表  |      |      |   |    |              |                   |
| 児童・生徒の実態   | 習熟度別にグループ分けしているうちで、14グループ中6グループにあたる生徒9名が対象である。1名は、不登校の生徒である。国語科における発達段階は小学校2年生程度である。現在は小学校3年生程度の教材を工夫しながら使用している。漢字表記を減らし、文章を短くすると、抵抗なく取り組める。自分の意見を相手に伝えたり、同世代の仲間と意見を交換したり、人前で発表する経験を重ねる機会を十分に持たずにきた生徒が多い。そのためか普通の授業でも積極的に意見交換をしにくい。自信がないのか授業に参加することや話すことに抵抗のある生徒もいる。話す気持ちがあっても、素直に話すことができない様子も見られる。   |      |      |   |    | 学習指導要領での位置づけ |                   |
|  |   |      |      |   |    | 教科           | 内容                |
|  |   |      |      |   |    | 国語           | 2段階 (2)           |
| 単元の設定理由  | 高等部の国語科では、生徒が人とかかわりの中で、人の話を理解するとともに、人と会話することなどにより、相手と自分の気持ちや意思を「伝え合う」ことを通して、人との親交を深め、豊かで自立的な生活が営める能力や態度を育てることを目標としている。「伝え合う」ための素地として、まずは「話す」経験を積むことが大切だと考える。そこで、話す活動の場を設定するため、1学期は説明文『すがたをかえる大豆』の学習後に、わかったことや感想を発表する学習を取り入れた。この説明文は、生徒が意外性を感じ、興味をもって学習できる内容である。よって、発言を引き出しやすく、自分なりの言葉でまとめやすい教材である。2学期は夏休みの思い出を発表する学習を設定した。宿題として取り組んできた日記の中から発表したいものを自分で選んだ。1学期には、話しづらかった生徒も楽しかった思い出なら誰かに聞いてほしいので積極的に取り組めるのではないかと考えた。次に、一人一人が気に入った本を読み聞かせし、その感想を発表する学習を行った。これまでより生徒にとっては難しい課題となった。3学期は1、2学期の経験を踏まえながら冬休みの思い出を発表し1年間の学習の集大成としたい。毎回、発表の順番を話し合って決めている。自分たちだけで話し合うことには慣れていないため、初めは戸惑い、中々話し合いが進まなかった。指導では、「安心して話せる雰囲気作り」に配慮し、話す前の準備を一人一人の実態に応じてその都度しっかり行い、自信をもって話せるようにしていきたい。 |      |      |   |    |              |                   |
| 単元目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ わかったことや感想を話すことができる。</li> <li>・ 自分の気持ちを相手に伝えることができる。</li> <li>・ 尋ねたり、応答したり、グループで話し合ったりして考えをまとめることができる。</li> </ul>   |      |      |   |    |              |                   |
| 評価の基準  |   |      |      | 支援・手立て  |    |              |                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の気持ちや感想等を文章にして、相手に伝えることができる。</li> <li>・ 説明したいことを文章にして、相手に伝えることができる。</li> <li>・ 尋ねたり応答したりしながら、話し合いを進めることができる。</li> <li>・ 相手の顔を見て聞くことができる。</li> </ul> |   |      |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表することを事前に伝える。(15)</li> <li>・ 文章を書くポイントを確認する。(22)</li> <li>・ 本人の意見を受け入れて意欲を引き出す。(25)</li> <li>・ 文章を教師と確認し、自信をもって発表できるようにする。(21)</li> <li>・ 聞き手に対し、話し手への注目を促すことで、話しやすい雰囲気づくりをする。(2, 27)</li> <li>・ 考えがまとまらない場合は、考えを導くことができるような設問を与えて、少しずつ考えられるようにする。(23)</li> </ul> |    |              |                   |

| 日時     | 学習活動  | 支援   |
|--------|---|--|
| 1 限    | <p><b>説明文『すがたをかえる大豆』を通して</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ方を全員で確認した後、各自でまとめる。</li> <li>・発表の仕方を確認する。</li> <li>・発表の順番を話し合う。</li> <li>・発表      ・発表の振り返り</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を意識し、見通しがもてるように話をする。(15)</li> <li>・順番を自分たちで決めるように促し、時間を確保する。(25, 26)</li> <li>・話が進まない時は助言する。(22)</li> <li>・到達度を評価し励ます。(17)</li> </ul>  |
| 2～4 限  | <p><b>夏休みの日記の発表</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○発表する内容の確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日記を選ぶ。・発表の目標を考える。・練習をする。</li> </ul> </li> <li>○発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の順番を話し合う。</li> <li>・発表 目標の発表→発表→2人以上から意見をもらう→答える→教師からの評価を聞く</li> <li>・感想を書く。</li> </ul> </li> <li>○発表の振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表時のビデオを見て振り返りをする。</li> </ul> </li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を意識し、見通しがもてるように話をする。(15)</li> <li>・一度に伝えることは3個まで。(16)</li> <li>・理解度を確認しつつ進める。(22)</li> <li>・自信をもって答えられるように記入していることや発表したことを活かすように配慮する。(20)</li> <li>・ワークシートを工夫する。(19)</li> <li>・話しやすい雰囲気を作る。(1)</li> <li>・生徒同士で話し合う場面を設定しできるだけ教師は介入しない。(27)</li> <li>・到達度を評価して励ます。(17)</li> </ul>   |
| 5～13 限 | <p><b>読み聞かせを通して</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○お気に入りの本を選ぶ。</li> <li>○読み聞かせの練習をする。</li> <li>○1回目の読み聞かせの発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の順番を話し合う。      ・発表</li> <li>・評価を聞く。      ・本時の振り返り</li> </ul> </li> <li>○読み聞かせの感想の発表</li> <li>○友達からの評価を聞く。</li> <li>○次の読み聞かせの目標を決める。</li> <li>○2回目の読み聞かせの発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の順番を話し合う。      ・発表</li> </ul> </li> <li>○読み聞かせ後の感想の発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオを見て読み聞かせの振り返りをする。</li> <li>・感想を書く。・発表の順番の話し合い</li> <li>・感想の発表      ・評価を聞く。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を意識し、見通しがもてるようにする。(15)</li> <li>・ビデオ撮影をして、読み聞かせの様子を振り返りやすくする。(13)</li> <li>・生徒の実態に応じたワークシートを用意する。(19)</li> <li>・話しやすい雰囲気を作る。(1)</li> <li>・全員が話せる時間を確保する。(20, 26)</li> <li>・生徒同士で話し合う場面を設定し、できるだけ教師は介入しない。(27)</li> <li>・話し手を見て、聞くことができるように座席を工夫する。(2, 4)</li> <li>・本時の目標を振り返り、評価を伝える。(21)</li> <li>・伝え合えたか評価する。(17)</li> </ul> |
| 14 限   | <p><b>冬休みの思い出の発表</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○発表する内容の確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日記を選ぶ。・発表の目標を考える。・練習をする。</li> </ul> </li> <li>○発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の順番を話し合う。</li> <li>・発表 目標の発表→発表→2人以上から意見をもらう→答える→教師からの評価を聞く</li> <li>・感想を書く。</li> </ul> </li> <li>○発表の振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオを見て振り返る。</li> </ul> </li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2種類のワークシートを用意し、自分で選ばせる。(19, 25)</li> <li>・話しやすい雰囲気を作る。(1)</li> <li>・座席を工夫し、板書が見やすいように小さいホワイトボードを用意する。(2, 4)</li> <li>・生徒同士で話し合う場面を設定し、できるだけ教師は介入しない。(27)</li> <li>・到達度を評価し、自信をもたせる。(17)</li> </ul>   |

|     |   |  |
|-----|---|--|
| 妥当性 | 単元目標  | 高すぎた・ <u>適当だった</u> ・低すぎた<br>実態にばらつきがあるので、個々の目標を毎回確認しながら授業をするように意識しておく。学習の目標やねらい等を生徒と共有するため、ワークシートに書いて生徒と共に確認する。  |
|     | 単元・題材<br>(教材)   | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>『すがたをかえる大豆』でわかったことや感想を発表する学習では、説明文の内容が身近だったため、読み取り学習も興味をもって取り組んだ。そのため、その後の取組でもあまり抵抗なく発表することができた。「夏休みの日記の発表」は、前回に比べてどの生徒も意欲が増しているように感じられた。「読み聞かせを通して」では、日頃から図書に親しみのない生徒が多く、苦手だと感じる生徒もいた。題材によって生徒が難しいと感じるものもあったが、少し難しくても、教師の励ましによって頑張ろうとしている姿が見られたのでよかった。   |
|     | 学習・活動   | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>『すがたをかえる大豆』では発表する内容を事前に書いておくことで、円滑に発表できた生徒がいたが、書くのに時間がかかった生徒がいた。今回は苦手な生徒が取り組みやすいように選択肢を用意する。意見を聞いて、自分の考えを述べるのは限られた生徒だったので、一人一人が自分の考えを述べられるようにゆっくり待つようにする。「夏休みの日記の発表」では自分が決めた発表時の目標を気にかけて話しながら話してきていて、一人一人の成長を感じた。「読み聞かせを通して」では前回、ワークシートを書くことに時間がかかった生徒のために、選択肢を用意したが、今までのものと違ったことで戸惑い、逆に中々取り組めなかった。今までのものも見通しがもてるようになってきていたのかもしれないので、2種類を用意し選べるようにした。話し合い活動を輪になってすることで、話し手の顔を見ながら聞けるようになってきたが、教師が板書をしたら、そちらの方ばかり見てしまい、視線を合わせようとしなかった。教師も輪の中に入るなど、さらに配慮が必要だった。教科学習で友達から共感してもらって経験をあまりしてこなかった生徒達である。今年度の取組で、発表の内容や態度を評価し合う活動を行ったところ、認めてもらってうれしそうな顔をする生徒が多くいた。それが自信になり次への意欲になると考える。そこで「冬休みの思い出」の発表では、ワークシートを準備し、さらによかった点を見つけやすくした。 |
|     | 理由  | これまでの取組では事前にまとめたことは各自発表できるが、声が小さい、相手を見ていない等一人一人に課題があった。発表を聞いた後で意見を言うのは限られた生徒だった。考えはあっても言葉にできなかつたり、まとめられなかつたりした生徒に対して適切な支援を繰り返すと、だんだん自信をもって言えるようになってきた。元々、話す経験の少ない生徒達だったので、いろいろな題材を通して経験を積み、教師や友達から少しずつ認めてもらったのが効果的だった。特に友達から認めてもらった時はとてもよい表情を見せていた。  |
| 評価  | 目標達成度：A 達成した B <u>ほとんど達成した</u> C あまり達成できていない D 全く達成できていない |  |
|     | 改善策   | 教師からの意見の促しや手がかりの出し方、出てきた意見を生かす言葉かけは十分だったと思うので、もう少し意見が出るまで待ったり、まとめ役ができる生徒にまかせてみたりするのはどうか。また、席を円形にし、教師もその中に入ることで互いの顔を見ることができるようにし、意見交換が活発になるような雰囲気作りをしていく。   |

< 改善したワークシートの例 >

改善



| 名前 | 絵本 | 読み聞かせの感想 |
|----|----|----------|
|    |    |          |
|    |    |          |
|    |    |          |
|    |    |          |
|    |    |          |
|    |    |          |
|    |    |          |
|    |    |          |
|    |    |          |
|    |    |          |

3 友だちの読み聞かせの感想を書きましょう。

・読み聞かせの方法について(声の大きさ) (本の見せ方)

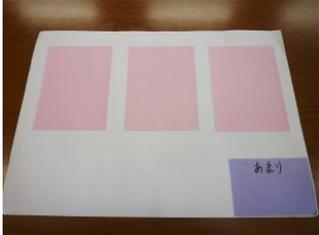
| 名前 | 絵本 | 読み聞かせの感想                                    |
|----|----|---|
|    |    | ・声の大きさは ( )<br>・しせいは ( )<br>・相手の顔を ( )<br>・ |
|    |    | ・声の大きさは ( )<br>・しせいは ( )<br>・相手の顔を ( )<br>・ |
|    |    | ・声の大きさは ( )<br>・しせいは ( )<br>・相手の顔を ( )<br>・ |
|    |    | ・声の大きさは ( )<br>・しせいは ( )<br>・相手の顔を ( )<br>・ |
|    |    | ・声の大きさは ( )<br>・しせいは ( )<br>・相手の顔を ( )<br>・ |
|    |    | ・声の大きさは ( )<br>・しせいは ( )<br>・相手の顔を ( )<br>・ |
|    |    | ・声の大きさは ( )<br>・しせいは ( )<br>・相手の顔を ( )<br>・ |
|    |    | ・声の大きさは ( )<br>・しせいは ( )<br>・相手の顔を ( )<br>・ |
|    |    | ・声の大きさは ( )<br>・しせいは ( )<br>・相手の顔を ( )<br>・ |
|    |    | ・声の大きさは ( )<br>・しせいは ( )<br>・相手の顔を ( )<br>・ |

3 友だちの読み聞かせの感想を書く。

・読み聞かせの方法について(声の大きさ) (しせい) (相手の顔を見る)



|   |  |  |      |  |    |              |                  |
|---|--|--|------|--|----|--------------|------------------|
| 学部  | 高等部  | 集団構成   | 1～3年 | 授業名  | 数学 | 指導形態         | 教(数学)<br>合・領・総   |
| 年間の指導目標   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数量、お金、時刻などの基礎的なことを理解し、生活の中でそれらを活用していく能力と態度を育てる。</li> <li>・具体的、体験的な学習を通して、数学に対する興味と関心をもつ心を育てる。</li> </ul> |      |  |    |              |                  |
| 単元名・題材名   |  | 「分数・わり算(分ける)」<br>～簡単な分数(1/2、1/4、1/8等)を学び、ものを人数分に分けよう～  |      |  |    |              |                  |
| 児童・生徒の実態  | 対象生徒は、習熟度別にグループ分けしているうちで、14グループ中8Gにあたり、小学校2年生の内容を学習するグループである。(国数が同じグループ)グループは9名である。<br>本グループの生徒は、100までの数唱や物を数えることができる。全員一桁の足し算は指を使わずできる。一桁の引き算は、確実ではないが全員できる。ただし、半数が指を使ったり、○を書いたりして答える。九九は、半数ができるが、概念が分からず暗記に頼っている生徒もいる。生活に必要な数量の処理(等分する)や計算については、難しい生徒が多い。具体物を使った学習など、体験的な学習には全員積極的に取り組むことができる。   |  |      |  |    | 学習指導要領での位置づけ |                  |
|   |  |  |      |  |    | 教科           | 内容               |
|   |  |  |      |  |    | 数学           | 1段階(1)<br>2段階(1) |
| 単元の設定理由   | 本グループでは、数の意味や表し方について理解し、数を用いる能力を伸ばしたいと考える。1/2、1/4など日常生活でよく使う分数を取り上げ、等分してできる大きさは分数を用いて表すことができるということを理解してほしい。また、分数の意味を理解する上で基となる素地的な学習として、身近なものを“等しく分ける”ことにも取り組む。彼らの興味・関心に合った身近な物を教材として取り上げ、“等しく分ける”場面を設定することで、学習する目的や必要性を理解し、生活に生かせる力を身につけたい。また、授業で大切にしたいことは、自分で選択することや仲間と学び合う機会を持つこと、自分の学習を振り返り、自己評価をし、次の目的を見いだすことである。学習したことをもとに新たな問題に取り組み、わかったという実感をもつようにすることで、彼らの意欲も高めていきたい。 |  |      |  |    |              |                  |
| 単元目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を分ける活動を通して、等分してできる大きさの表し方を知り、簡単な分数について理解することができる。</li> <li>・等分してできる部分の大きさを、分数を用いて表すことができる。</li> <li>・複数の物を人数分に分けることができる。</li> </ul>   |  |      |  |    |              |                  |
| 評価の基準   |  |  |      | 支援・手立て   |    |              |                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲よく分けることの意味を考えながら、折り紙やテープを等分することができる。</li> <li>・二等分した大きさの1つ分が二分の1、四等分した大きさの1つ分が四分の1と分かる。</li> <li>・分数を使うと等分した大きさが表せることが分かる。</li> <li>・複数の基石や身の回りの具体物を人数分に分けることができる。あまりを見つけることができる。</li> <li>・ペアになる友達を選び、問題を出し合い、生徒同士が学び合うことができる。</li> </ul> |  |  |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物(折り紙やテープ)の操作を通して等分することを体験していく。(8, 14, 20, 24, 26)</li> <li>・具体物の操作と、<math>1/2 + 1/2 = 2/2 = 1</math>の計算式とを合わせて学ぶことで、分数の意味や表し方を理解しやすくする。(8, 24)</li> <li>・分けて置くシートを準備する。(あまりを置く場所も表示)(8, 20, 24, 26)</li> <li>・生徒同士が学び合えるように、環境や教材を整える。(25, 26, 27, 28)</li> </ul> |    |              |                  |

| 日時    | 学習活動  | 支援   |
|-------|---|--|
| 1限    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・折り紙を2つの同じ大きさに分ける。4つの同じ大きさに分ける。(なかよく分ける)</li> <li>・分数の表し方を知る。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・折り紙を折ったり切ったりする活動から興味・関心を高める。(8, 14, 20, 24, 26)</li> </ul>   |
| 2限    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・円を二等分、四等分にする。元の大きさの何分の1を取り出す。</li> <li>・分数の書き方を知る。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・等分した物を使い、元の大きさの、何分の1を取り出す活動で理解を深める。全員の机の上に教材を準備する。(8, 20, 24, 26)</li> </ul>   |
| 3～5限  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・円を八等分する。元の大きさの何分の何を取り出す。(二等分、四等分、八等分)</li> <li>・<math>1/2 + 1/2 = 2/2 = 1</math>の計算の意味を知る。</li> <li>・分数を書く。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2等分した具体物を用い、合わせると元の大きさ(1つ)になることを示し、理解を深める。(8, 24)</li> </ul>   |
| 6～8限  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の基石を一人分、二人分、三人分、四人分に分ける。分けた基石から、一人分の数を答える。</li> <li>・複数の基石を人数分に分けたときにでるあまりを答える。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人数分に分けやすくするため、分けて置くシートを使用。(8, 20, 24, 26)</li> <li>・あまりの基石を置く場所を表示する。(8, 20, 24, 26)</li> </ul>  |
|       | <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人組になり、一人が何人分に分けるかの問題を考え出題し、もう一人が答え、ミニホワイトボードに答えを書く。答え合わせは、問題を出した者がする。(基石を使用)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒同士が学び合う場面を設ける。(25, 27, 28)</li> <li>・生徒と一緒にペアを組みたい相手を選ぶ。(25, 27)</li> <li>・問題、答えを書き入れるミニホワイトボードを使用する。(26, 27)</li> </ul>   |
| 9～10限 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人組になり、一人が何を何人分に分けるかの問題を考え出題し、もう一人が答え、ミニホワイトボードに答えを書く。答え合わせは、問題を出した者がする。(色々な具体物を使用)<br/>(ミニホワイトボード)</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りにある具体物を用意し、出題者が選択できるようにする。(8, 25)</li> </ul>   |
|       | <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>人で分ける。</p> <p>1人分は？</p> <p>2人分は？</p> <p>あまりは？</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士が学び合う場面を設ける。(25, 27, 28)</li> <li>・生徒と一緒にペアを組みたい相手を選ぶ。(25, 27)</li> <li>・問題、答えを書き入れるミニホワイトボードを使用する。(26, 27)</li> <li>・答えが正解の場合は、出題者が拍手する。不正解の場合は、どこが間違っているのかを出題者が伝える。(26, 27, 28)</li> </ul> |

|            |   |  |  |     |   |           |   |  |  |       |   |  |   |
|------------|---|--|--|-----|---|-----------|---|--|--|-------|---|--|---|
| <p>毎時</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>今日の授業目標を知る。(板書) (15, 18)・・・授業開始時</li> <li>各自の振り返りノートに今日の目標カードを貼る。(15, 18)・・・授業開始時</li> <li>振り返りの時間で、各自の振り返りノートの今日の目標ごとに自分で評価を行い、達成できていた場合は、丸シールを貼る。(17, 24)</li> </ul> <p>(振り返りノート)</p>  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>9月30日(水)</p> <p>授業のふりかえり</p> <p>①1人分はどれだけか分かった。</p> <p>②2人分はどれだけかわかった。</p> <p>③友達と問題を出し合い、答えることができた。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>次回の授業の初めに、配られた振り返りノートを見る。前回の目標、評価(教師からのコメント)を読む。(17, 24)</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>目標(板書)は、授業の終了まで消さない。(15, 18)</li> <li>振り返りノート(15, 18)</li> <li>本時の目標を読み返して各自が評価を行う。(24)</li> </ul><br><ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りノートを回収し、次回まで評価のコメントを記入する。(17, 24)</li> </ul> |  |     |   |           |   |  |  |       |   |  |   |
| <p>妥当性</p> | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">単元目標</td> <td>高すぎた・<b>適当だった</b>・低すぎた</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実生活につながる目標であったため、学習する目的や必要性を理解しながら学習に取り組み、目標が達成できた。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">単元・題材(教材)</td> <td>(児童生徒にとって) 難しい・<b>適当</b>・簡単<br/>(目標を達成するのに) <b>適していた</b>・適していなかった</td> </tr> <tr> <td></td> <td>身の回りにある物を教材として使用することで、興味・関心をもって取り組めた。机上に全員分の教材を用意したことで、待ち時間を減らし、学習の機会を保障できた。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">学習・活動</td> <td>(児童生徒にとって) 難しい・<b>適当</b>・簡単<br/>(目標を達成するのに) <b>適していた</b>・適していなかった</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2人組で問題を出し合う場面では、問題を出した方が少しヒントを伝えるなど生徒同士で話し合いながら活動することができていた。また、誰とペアになるか自分で選択することができ、楽しく学習できた。</td> </tr> </table> | 単元目標   | 高すぎた・ <b>適当だった</b> ・低すぎた   |     | 実生活につながる目標であったため、学習する目的や必要性を理解しながら学習に取り組み、目標が達成できた。   | 単元・題材(教材) | (児童生徒にとって) 難しい・ <b>適当</b> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <b>適していた</b> ・適していなかった |  | 身の回りにある物を教材として使用することで、興味・関心をもって取り組めた。机上に全員分の教材を用意したことで、待ち時間を減らし、学習の機会を保障できた。 | 学習・活動 | (児童生徒にとって) 難しい・ <b>適当</b> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <b>適していた</b> ・適していなかった |  | 2人組で問題を出し合う場面では、問題を出した方が少しヒントを伝えるなど生徒同士で話し合いながら活動することができていた。また、誰とペアになるか自分で選択することができ、楽しく学習できた。 |
| 単元目標       | 高すぎた・ <b>適当だった</b> ・低すぎた  |  |  |     |   |           |   |  |  |       |   |  |   |
|            | 実生活につながる目標であったため、学習する目的や必要性を理解しながら学習に取り組み、目標が達成できた。   |  |  |     |   |           |   |  |  |       |   |  |   |
| 単元・題材(教材)  | (児童生徒にとって) 難しい・ <b>適当</b> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <b>適していた</b> ・適していなかった   |  |  |     |   |           |   |  |  |       |   |  |   |
|            | 身の回りにある物を教材として使用することで、興味・関心をもって取り組めた。机上に全員分の教材を用意したことで、待ち時間を減らし、学習の機会を保障できた。  |  |  |     |   |           |   |  |  |       |   |  |   |
| 学習・活動      | (児童生徒にとって) 難しい・ <b>適当</b> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <b>適していた</b> ・適していなかった   |  |  |     |   |           |   |  |  |       |   |  |   |
|            | 2人組で問題を出し合う場面では、問題を出した方が少しヒントを伝えるなど生徒同士で話し合いながら活動することができていた。また、誰とペアになるか自分で選択することができ、楽しく学習できた。   |  |  |     |   |           |   |  |  |       |   |  |   |
| <p>評価</p>  | <p>目標達成度：<b>A達成した</b> Bほとんど達成した Cあまり達成できていない D全く達成できていない</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">理由</td> <td>授業の最初に学習の目標や意味を提示し伝えることで、生徒が学習の目標を理解した上で授業に取り組むことができた。何人分に分けるかの学習では、2人組で問題を出し合う場面を設定したことで、生徒同士が話し合い学び合うことができよかった。振り返りノートを活用することで、生徒が「わかった」「できた」という実感をもつことができた。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">改善策</td> <td>今回、全員同じ振り返りノートを活用したが、生徒の実態に応じて自分の感想を書けるスペースを作るなど、個々に応じた振り返りノートの必要性を感じた。お互いに問題を出し合うペア学習は、生徒同士が学び合い、お互いの良さを認め合う活動として有効であった。</td> </tr> </table>  | 理由   | 授業の最初に学習の目標や意味を提示し伝えることで、生徒が学習の目標を理解した上で授業に取り組むことができた。何人分に分けるかの学習では、2人組で問題を出し合う場面を設定したことで、生徒同士が話し合い学び合うことができよかった。振り返りノートを活用することで、生徒が「わかった」「できた」という実感をもつことができた。 | 改善策 | 今回、全員同じ振り返りノートを活用したが、生徒の実態に応じて自分の感想を書けるスペースを作るなど、個々に応じた振り返りノートの必要性を感じた。お互いに問題を出し合うペア学習は、生徒同士が学び合い、お互いの良さを認め合う活動として有効であった。 |           |   |  |  |       |   |  |   |
| 理由         | 授業の最初に学習の目標や意味を提示し伝えることで、生徒が学習の目標を理解した上で授業に取り組むことができた。何人分に分けるかの学習では、2人組で問題を出し合う場面を設定したことで、生徒同士が話し合い学び合うことができよかった。振り返りノートを活用することで、生徒が「わかった」「できた」という実感をもつことができた。  |  |  |     |   |           |   |  |  |       |   |  |   |
| 改善策        | 今回、全員同じ振り返りノートを活用したが、生徒の実態に応じて自分の感想を書けるスペースを作るなど、個々に応じた振り返りノートの必要性を感じた。お互いに問題を出し合うペア学習は、生徒同士が学び合い、お互いの良さを認め合う活動として有効であった。   |  |  |     |   |           |   |  |  |       |   |  |   |

|   |  |      |      |   |    |              |                |
|---|--|------|------|---|----|--------------|----------------|
| 学部  | 高等部  | 集団構成 | 1～3年 | 授業名   | 理科 | 指導形態         | 教(理科)<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標   | 自然の事物、現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行う。<br>科学的に探究する能力の基礎と態度を育てる。<br>自然の事物、現象についての理解を深め、科学的な見方、考え方を養う。   |      |      |   |    |              |                |
| 単元名・題材名   | 「音」 第一次「音源(1時間)」、第二次「振動を伝えるもの(1時間)」<br>第三次「音の伝わる速さ(1時間)」   |      |      |   |    |              |                |
| 児童・生徒の実態  | 本グループは知的障害の生徒1年生から3年生で構成された縦割りグループで、12グループ中1グループにあたる。中学校の理科との関連を十分考慮した学習で構成された単元を学習している。実験に関しては教師が支援しながら行うことで興味をもって取りかかることができる。観察する能力はあり、実験前と実験後に変化した点をほぼ全員、的確に見出すことができている。実験について文章で表すことは今後の課題となっている。実験前の仮説を発表する時は他の意見に左右されることなく、全員が自分の意見を発表できている。実験後、「では、こうなれば、どうなるだろう?」と言うような探究する力が少しずつ備わってきた。   |      |      |   |    | 学習指導要領での位置づけ |                |
|   |  |      |      |   |    | 教科           | 内容             |
|   |  |      |      |   |    | 理科           | 2段階(4)         |
| 単元の設定理由   | この単元は、観察・実験を通して、身近な物理現象「音」に対する興味・関心を高め、これらの現象を日常生活と関連づけて科学的な見方や考え方を養うことをねらいとしている。中学校のカリキュラムに準じ、中学校の指導要領の「音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じ空気中などを伝わること」を受け、本単元を設定した。<br>音という目に見えない物を単元に扱うため、なるべく音を視覚化できるような教材を準備する。(例えば、音源の授業であれば、振動が観察しやすい楽器を用意する。音叉について振動は見えないが、水面に近づけることで振動を視覚化する。)また、実験を行う場合は、テーマを明確にすること、何がどうなって、どう変化するのかということ等、順序立てをわかりやすくするために実験シートへ記入するようにする。また、その順序立てが定着するように全ての実験で同じシートを使用する。 |      |      |   |    |              |                |
| 単元目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じることを見出す。</li> <li>音は空気中を伝わることを理解する。</li> <li>音源の振動が耳に伝わる時、時間をかけて伝わり聞こえることを知る。</li> </ul>   |      |      |   |    |              |                |
| 評価の基準   |  |      |      | 支援・手立て  |    |              |                |
| 第一次「音源」<br>(自然現象への知識・理解) 音を出している物体は振動していることを理解する。<br>(自然現象への関心・意欲・態度) 音を出している物体の近くに行き観察しようとする。いろいろな楽器で確かめたい等の意見を出すことができる。<br>(科学的な思考) 振動が見えにくい楽器についても振動していると見出すことができる。<br>(観察・実験の技能・表現) 実験シートに書く内容を言葉にすることができる。 |  |      |      | ・音を出したときに振動が目に見えてわかりやすい楽器で実験を行う。(14)<br>・様々な種類の楽器、ポータブルスピーカー等を準備する。(8)<br>・音叉で音を出した後、水面に近づける。(8)<br>・授業後、実験シートを見て授業を振り返られるように、生徒の言葉を拾いつつ、教師がホワイトボードに実験結果をまとめ、シートに書き記しやすくする。(13, 17) |    |              |                |
| 第二次「振動を伝えるもの」(本時)<br>(自然現象への知識・理解) 耳の構造を知り、聞こえるとはどういうことかを知る。<br>(自然現象への関心・意欲・態度) 実験前、実験後の変化に興味をもつことができる。<br>(科学的な思考) 空気が音を伝えることを見出すことができる。<br>(観察・実験の技能・表現) 実験シートに書く内容を言葉にすることができる。                             |  |      |      | ・PCで耳の構造を見ながら、生活年齢、実態を考慮した説明を行う。(14)<br>・実験前、実験後の様子を分かりやすく提示する。(4, 20)  |    |              |                |

|  |  |
|--|--|
| <p>第三次「音の伝わる速さ・まとめ」<br/> <b>(自然現象への知識・理解)</b> これまで学習した内容を思い出し、まとめプリントに記入できる。<br/> <b>(科学的な思考)</b> 音源の振動が耳に伝わるまで時間がかかることを見出す。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の言葉を拾いながらまとめプリントに記入を促す。(17, 24)</li> <li>大太鼓を使った実験を行う(8)</li> </ul> |
|--|--|

| 日時 | 学習活動  | 支援   |
|----|---|--|
| 1限 | <p>音源</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音を発する物(太鼓、ギター、鈴、スピーカー、音叉など)を鳴らし、その物自体がどうなっているのかを観察し、実験シートに記入する。</li> <li>音源が音を発する時には、必ず振動するという点について説明を聞き、実験シートにまとめる。</li> </ul> <p>&lt;実験シート&gt;</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>音を出した時に振動が目に見えてわかりやすい楽器から実験する。(14)</li> <li>様々な種類の楽器、ポータブルスピーカー等を準備する。(8)</li> <li>音叉で音を出した後、水面に近づける。(8)</li> <li>授業後、実験シートを見て授業を振り返られるように、生徒の言葉を拾いつつ、教師がホワイトボードに実験結果をまとめ、シートに書き記しやすくする。(13, 17)</li> </ul> |

|   |            |  |           |  |            |  |            |  |           |  |   |             |  |               |  |
|---|------------|--|-----------|--|------------|--|------------|--|-----------|--|---|-------------|--|---------------|--|
| <p style="text-align: center;"><b>実験シート</b>      名前(      )</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20%;"><b>実験名</b></td><td></td></tr> <tr><td><b>日付</b></td><td></td></tr> <tr><td><b>準備物</b></td><td></td></tr> <tr><td><b>実験図</b></td><td></td></tr> <tr><td><b>予想</b></td><td></td></tr> </table> | <b>実験名</b> |  | <b>日付</b> |  | <b>準備物</b> |  | <b>実験図</b> |  | <b>予想</b> |  | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;"><b>実験結果</b></td> <td></td> </tr> <tr> <td><b>実験を終えて</b></td> <td></td> </tr> </table> | <b>実験結果</b> |  | <b>実験を終えて</b> |  |
| <b>実験名</b>  |            |  |           |  |            |  |            |  |           |  |   |             |  |               |  |
| <b>日付</b>   |            |  |           |  |            |  |            |  |           |  |   |             |  |               |  |
| <b>準備物</b>  |            |  |           |  |            |  |            |  |           |  |   |             |  |               |  |
| <b>実験図</b>  |            |  |           |  |            |  |            |  |           |  |   |             |  |               |  |
| <b>予想</b>   |            |  |           |  |            |  |            |  |           |  |   |             |  |               |  |
| <b>実験結果</b>   |            |  |           |  |            |  |            |  |           |  |   |             |  |               |  |
| <b>実験を終えて</b>   |            |  |           |  |            |  |            |  |           |  |   |             |  |               |  |

|    |   |  |
|----|---|--|
| 2限 | <p>振動を伝えるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耳の構造について教師の説明を聞く。</li> <li>真空状態のビンの中で鈴が鳴るのか予想し、実験する。</li> <li>太鼓を鳴らし、その前に置いてあるろうそくの火の変化について観察する。</li> <li>実験シートにまとめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>音が聞こえるメカニズムについてPCの映像を使い説明する。(14)</li> <li>鈴の実験は一人ひとりにビンを渡し、実際に確かめる。(20)</li> <li>太鼓の実験については全員が見えるように配慮する。(4)</li> </ul> |
|----|---|--|

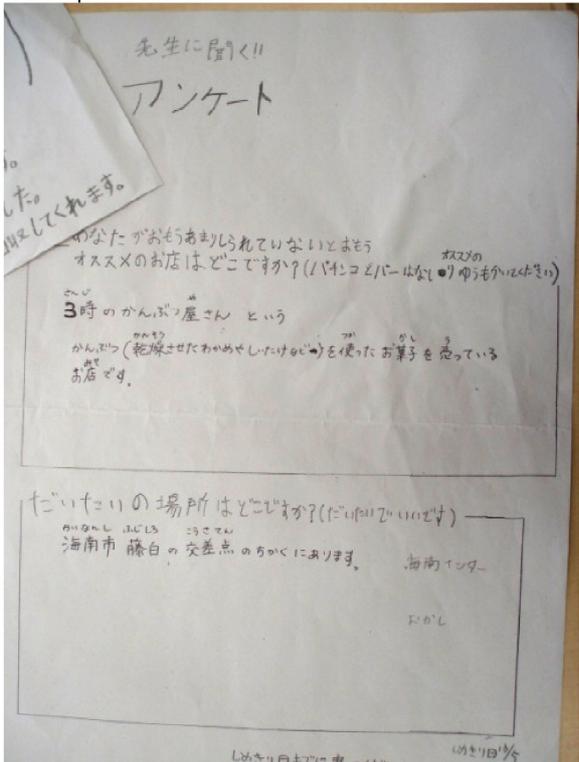
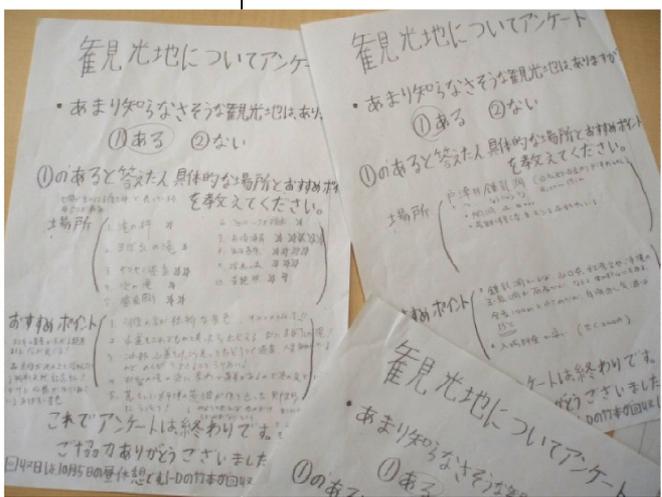
|     |  |  |
|-----|--|--|
| 3限  | <p>音の伝わる速さ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習した内容を思い出し、まとめプリントに記入する。</li> <li>・離れたところから太鼓を鳴らし、聞こえるまで時間がかかることを知る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の言葉を拾いながらまとめプリントに記入を促す。(17, 24)</li> <li>・授業後も自分で復習できるようなプリントを準備する。(22)</li> <li>・ストップウォッチを用いて時間差を視覚化する。(8)</li> </ul>                         |
| 妥当性 | <p>単元目標</p>  | <p>高すぎた・<u>適当だった</u>・低すぎた</p> <p>第一次で音の正体が振動であることを見出すことができ、第二次以降の実験では振動という言葉を用いて、実験予想することができていた。</p>   |
|     | <p>単元・題材<br/>(教材)</p>  | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単</p> <p>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・<u>適していなかった</u></p> <p>身近な自然現象を用いたことで普段の生活を思い出し、実験を予想したり、実験結果に納得したりすることができていた。その後の確認テストでは単元で学習した内容の箇所は全員、おおよそ正解できていた。</p> |
|     | <p>学習・活動</p>   | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単</p> <p>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・<u>適していなかった</u></p> <p>生徒実験ではなく教師実験を実施したため、観察すべきものを理解しやすかったようである。実験シートにも自分の考えや教師の説明を取り入れての考察を自分なりに書くことができていた。</p>         |
| 評価  | <p>目標達成度</p>   | <p>A 達成した <u>B ほとんど達成した</u> C あまり達成できていない D 全く達成できていない</p>   |
|     | <p>理由</p>  | <p>生徒のそれぞれの仮説発表や確認テストの点数等を見る限り、おおよそ本単元の目標は達成しているように思う。</p>   |
|     | <p>改善策</p>   | <p>集団で講義式の授業を日々行っている生徒なので、普通学校の評価の観点をそれぞれの活動について明確にし、一つずつ評価をすることで生徒の支援に繋がるのではないかと考える。</p>  |

|   |   |  |      |   |    |              |                |
|---|---|--|------|---|----|--------------|----------------|
| 学部  | 高等部   | 集団構成   | 1～3年 | 授業名   | 社会 | 指導形態         | ⑧(社会)<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>和歌山県の地形や市町村、産業や特産品、交通網などを知る。</li> <li>日本のいろいろな地域の自然や生活の様子を知る。</li> <li>世界の主な国や生活の様子について関心をもつ。(人)</li> </ul> |      |   |    |              |                |
| 単元名・題材名   |   | 和歌山県の産業(農業、漁業、林業)  |      |   |    |              |                |
| 児童・生徒の実態  | <p>高等部では習熟度別にグループ分けしており、対象は理社12グループ中8グループの生徒である。国・数では、概ね、小学校1～2年生の内容を基本に授業を組み立てている。写真やイラストを見て、その内容が何かを書く設問は、ほぼ全員が、何らかの答えを書くことができる。</p> <p>四月より地図(和歌山市・和歌山県)を見る学習を繰り返してきたので、簡単な地図で、地名や施設を見つけることにも慣れてきている。和歌山県の観光パンフレットを見た時には、とても興味をもち、行ったことのある場所や知っている名産品などを次々と話していたので、見て分かる情報のある教材を有効に用いれば、意欲的に学習に向かうことができると考えている。文章を理解し、考えたり、気付いたりしたことを文章で書くことは難しい生徒が多い。</p> |  |      |   |    | 学習指導要領での位置づけ |                |
|   |   |  |      |   |    | 教科           | 内容             |
|   |   |  |      |   |    | 社会           | 2段階(5)         |
| 単元の設定理由   | <p>自分の住んでいる身近な社会についての学習をすることは、今後の日常生活を、個々のレベルで少しでも充実できる土台になると考えている。今までに自分が見聞きして知っていることを改めて学習場面の中で反復することや新しい事柄でも繰り返し学ぶことで、知識として定着できたり、次の学びへの意欲を高めたりすることができることを期待している。授業の場面では、簡単なワークシートを活用し、イラストや写真の内容について答える形で学習を進めている。同じパターンを繰り返すことで、課題の分かりやすさを重視し、自分から進められるようにもなってほしい。また、映像や実物の商品の活用、地図で場所(地名)の確認の繰り返しや単語シールを貼る等の活動的な内容も取り入れて、意欲的に学習に向かえるように工夫していきたい。</p>    |  |      |   |    |              |                |
| 単元目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>和歌山県の産業について関心をもつ。</li> <li>地図を見ることに慣れる。</li> <li>産業に関する設問に答えたり、自分の考えを発表したりする。</li> </ul>   |  |      |   |    |              |                |
| 評価の基準   |   |  |      | 支援・手立て  |    |              |                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>県内の市を複数答えることができる。</li> <li>ワークシートの設問に答えを書くことができる。</li> <li>自分の答えを発表することができる。</li> <li>映像や実物を見て、思ったことを発表できる。</li> <li>地図上で方角を意識しながら地名を見つけられる。</li> <li>他の生徒の発表をきちんと聞くことができる。</li> </ul> |   |  |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>写真やイラストを中心にした設問を取り入れる。(8, 14, 24, 26)</li> <li>全員が自分の答えを発表する場面を設定する。(19, 20, 21)</li> <li>個々に応じたヒントや答えの書き方の工夫をする。(8, 16, 22, 24, 26)</li> <li>発表した生徒の内容を繰り返したり、他の生徒にその意見を確かめたりして、お互いの学び合いにつなげる。(25, 26, 28)</li> </ul> |    |              |                |

| 日時                                  | 学習活動  | 支援   |
|-------------------------------------|---|--|
| <p>1～3限</p> <p>4～6限</p> <p>7～8限</p> | <p>■和歌山県の産業</p> <p>①農業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○紀北地方の農業 柿、桃、</li> <li>○紀中地方の農業 みかん</li> <li>○紀南地方の農業 野菜や花の栽培</li> </ul>  <p>・ワークシートの設問に答える。</p> <p>・実際の農産品に触れる。(スターチス、山椒の実等)</p> <p>・和歌山県の地図を参照し、地名や位置、方角を確認する。</p> <p>②漁業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の内容で、港や漁について振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・加太漁港 ・地図上の位置 (シールを貼る)</li> <li>・加工品 (わかめ等)</li> </ul> </li> <li>○雑賀崎漁港・箕島漁港・勝浦漁港 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図で場所を確認する。(漁港名のシールを貼る)</li> <li>・ワークシートの設問に答える。</li> <li>・釜揚げしらすの実物を見て感想を発表する。</li> </ul> </li> </ul>  <p>③鯛の養殖について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文を読みながら、<input type="text"/> に単語を書き入れる。</li> <li>・三つの短文を組み合わせて、養殖の説明文を作る。</li> </ul> <p>④林業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○林業の仕事内容について <ul style="list-style-type: none"> <li>・植林、木材の切り出し、間伐作業、木材加工品</li> </ul> </li> <li>○和歌山の特産品 備長炭について <ul style="list-style-type: none"> <li>・備長炭と普通の炭を比べてみよう</li> <li>実物に触れながら、特徴や違いについてワークシートに記入する。</li> </ul> </li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートは写真を多く用いて、イメージをもちやすいようにする。(8, 14, 24, 26)</li> <li>・席順にワークシートの説明文を読んだり、答えを発表したりして、全員が発言する場面を設ける。(19, 20, 28)</li> <li>・実物も用いて、実感しながら学習できるようにする。(8, 24)</li> <li>・簡単な復習 (地図上の北と南、紀北地方と紀南地方、九つの市 地名等) を繰り返し学習の定着を図る。(17, 22, 23)</li> <li>・答えを書きにくい生徒には、なぞり書きや文字シールを貼る支援をする。(22, 24)</li> <li>・シールを貼ったり、地名にマーカーを引いたりする活動的な内容で意欲を高めるようにする。(24, 26,)</li> <li>・文章を考える際は、ヒントになる助詞を示す。(22, 24, 26)</li> <li>・自分で読み返せば解答できるように、ワークシートの説明文に答えを記入しておく。(14, 22, 24, 26)</li> <li>・自分で見て感じたり、考えたりしたことを書くように支援する。(22, 24)</li> </ul> |

|     |   |   |
|-----|---|---|
| 妥当性 | 単元目標  | 高すぎた・ <b>適当だった</b> ・低すぎた<br><ul style="list-style-type: none"> <li>生活経験の中で知っている事柄（地名や観光地、農産物等）も多く、それらと関連付けながら学習を進めることができた。</li> <li>反復的な学習をすることで新しい内容も覚えることができていた。</li> </ul>   |
|     | 単元・題材<br>(教材)   | (児童生徒にとって) 難しい・ <b>適当</b> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <b>適していた</b> ・適していなかった<br><ul style="list-style-type: none"> <li>個々にワークシートを用いたことで、興味をもって取り組むことができていた。</li> <li>写真やイラスト、映像の活用も、学習内容への意欲を高めるのに役立った。</li> </ul>   |
|     | 学習・活動   | (児童生徒にとって) 難しい・ <b>適当</b> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <b>適していた</b> ・適していなかった<br><ul style="list-style-type: none"> <li>同じような学習パターン（ワークシート→和歌山県の地図で位置を確かめる）で進めたので、生徒には取り組みやすかった。</li> <li>漁港名のシールは小さくて貼りにくかったが、よく集中して地図を見て貼る場所を探ることができていた。</li> <li>説明文の中に、設問の答えがあることが分かってくると、自分からそのプリントを出し、繰り返し文を読んで答えを見つけられるようになっていった。</li> <li>あまり発表できなかった生徒が、手を上げて答えを発表できる場面が増えていった。</li> </ul> |
| 評価  | 目標達成度：A 達成した <b>(B)</b> ほとんど達成した C あまり達成できていない D 全く達成できていない |   |
|     | 理由  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートに記入する活動が定着し、自分で考えて答えを書けるようになっていく。分からないときは教師や他の生徒に尋ねることも増えていった。</li> <li>地図を見ることにも慣れ、集中し、また楽しみながら地名を探ることができていた。</li> <li>生徒がもっと意見や考えを発表できる場面や質問の仕方を工夫した方がよい。</li> <li>生徒同士で学び合ったり、考え合ったりする活動を設定した方がよい。</li> </ul>   |
|     | 改善策   | <ul style="list-style-type: none"> <li>例えば「今日の質問コーナー・どちらだと思えますか？」といった形で、全員が答えを選ぶとか、一人一問ずつ答える場面等を毎回の授業に取り入れるようにする。</li> <li>備長炭の特徴を考える場面では、2グループに分かれて、それぞれが意見を発表するようにしてもよかった。</li> <li>数名のグループで活動する場面を設定する。<br/>⇒次時の単元「都道府県調べ」でグループワークを設定する。</li> <li>日本の各地方ごとに県名を調べるようにする。</li> </ul>   |

|   |   |  |    |   |               |      |               |
|---|---|--|----|---|---------------|------|---------------|
| 学部  | 高等部   | 集団構成   | 1年 | 授業名   | 総合的な<br>学習の時間 | 指導形態 | 教( )<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標   |   | <p>・人、地域、自然との関わりの中で、コミュニケーション能力を高めるとともに、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育む。(コ・自)</p> <p>・人、地域、自然との関わりの中で、学び方やものの考え方を身に付け、課題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育み、自己の在り方生き方を考える。(自)</p> <p>・各教科等で身に付けた知識や技能等を、学習や生活において活かしていこうとする態度や能力を育む。</p> |    |   |               |      |               |
| 単元名・題材名   |   | 「和歌山」：和歌山自慢  |    |   |               |      |               |
| 児童・生徒の実態  | <p>知的障害学級の生徒と肢体不自由普通学級の生徒で構成されている。自分の意見を自主的に発表できる雰囲気が出ていて、口々に発言する生徒もいる。また、自分からは発言できない生徒も教師からの問いかけには答えることができる。活動に対する姿勢は意欲的である。ほとんどの生徒がパソコンを使って調べることができるが、書かれている内容を写すだけで内容を理解することや必要な部分を抜き出すことは難しい。初め、自分は自分という雰囲気であったが、月日が経つにつれ休憩時間に友達と話をする姿が見られるようになってきた。また、話し合いをする時に教師が話すきっかけをつくらないと話し始めることができなかつたが、自分たちで話し合いを進めようとする様子がみられるようになってきている。</p> |  |    |   |               |      |               |
| 単元の設定理由   | <p>高等部では3年間の教育指導計画を作成し、それに準じて教育年間指導計画を作成している。3年生での修学旅行を見据えて、2年生では「沖縄」、1年生では「和歌山」という単元が設定されている。1年生では自分たちが住んでいる和歌山の特産物や郷土料理、観光地を知ることによって自分の住んでいる地域に興味・関心を持ち、さらに自分たちと違った文化である「沖縄」を知ることによって他の県にも興味・関心を広げてほしい。</p>   |  |    |   |               |      |               |
| 単元目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの住んでいる地域を調べることで、興味・関心をもつ。</li> <li>・自分の考えや意見をはっきりと伝えることができる。</li> <li>・人に伝わるように、情報をまとめたり、伝えたりすることができる。</li> </ul>   |  |    |   |               |      |               |
| 評価の基準   |   |  |    | 支援・手立て  |               |      |               |
| <p>「知られていない和歌山」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を収集することができる。</li> <li>・意欲的に調べることができる。</li> <li>・自分の意見を発表することができる。</li> <li>・相手にわかりやすい字を書くことができる。</li> <li>・相手にわかりやすいレイアウトを考える。</li> <li>・相手が聞き取りやすい話し方で発表することができる。</li> <li>・発表するときの姿勢や模造紙の見せ方などを意識することができる。</li> </ul> |   |  |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が調べたいテーマを設定する。(14)</li> <li>・話し合いをしやすいメンバーでグループをつくる。(1)</li> <li>・グループ内でリーダーや役割分担を決める取り組みをする。(25)</li> <li>・発表用の見本を提示し、イメージをもちやすくする。(13)</li> <li>・発表後に振り返りの時間をもつ。(17, 21, 28)</li> </ul> |               |      |               |

| 日時 | 学習活動  | 支援  |
|----|---|---|
|    | <p>「知られていない和歌山」<br/>(1/7)</p> <p>①和歌山の観光地や特産物など、「和歌山と言えば!!!」のものを考える。</p> <p>②調べ学習をするためのグループやテーマを決める。</p> <p>(2/7)</p> <p>①パソコン以外での調べ方を考える。</p> <p>②アンケート用紙を作り始める。</p> <p>(3/7)</p> <p>①アンケート用紙を完成させる。</p> | <p>イメージできるような言葉かけをする。(14)</p> <p>グループがなかなか決まらない場合は決める方法をいくつか提案する。(23)</p> <p>今まで自分たちが書いたことのあるアンケートを参考にする。(23)</p> <p>自分たちで考えることができるように、質問があれば答える程度にする。(26, 27)</p> <p>作業が進まない場合は、他のグループを参考にするように促す。(26, 28)</p> |
|    |    |   |

②アンケート用紙を配布する。

(4/7)

①回収したアンケート結果をまとめる。

②アンケート結果をパソコンで調べる。

(5/7)

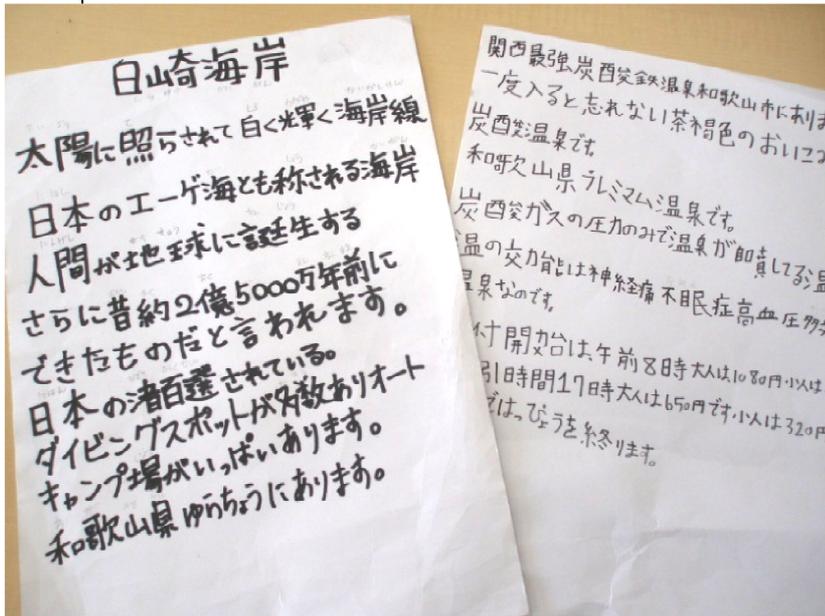
①今日の内容や目標を確認する。  
・パソコンで調べ学習の続きをする。

②グループに分かれて調べ学習の続きをする。

(6/7)

①リーダーは集合し、発表の順番を決める。

②順番に発表し、お互いに評価をつける。



(7/7)

①撮影した自分たちの発表の様子を見る。

②自分以外の人の評価を聞いたり、先輩が発表している動画を見たりして次回の発表で気をつけることを考える。

アンケートの回収が確実にできるように徹底する。(18)

グループ全員で役割を分担し、自分たちで調べていけるように見守る。(25, 27)

今回どこまでやり遂げるかを各グループ、各自考える。(15, 18)

グループ全員で役割を分担し、自分たちで調べていけるように見守る。(25, 27)

じっくりと考えるために発表が終わった時点で評価する時間を毎回とる。(17)

発表後に振り返りの時間をもつためにビデオ撮影をする。(17, 21, 28)

模造紙の書き方や提示の仕方、発表の仕方などを自分たちと比べられるように言葉かけをする。(19, 26, 28)

|     |               |   |
|-----|---------------|---|
| 妥当性 | 単元目標          | 高すぎた・ <u>適当だった</u> ・低すぎた<br>あまり知られていないことを調べることで新しい発見もあり、意欲的に調べることができた。また、教師におススメの観光地や特産物、お店などのアンケートをとったことで興味をもって調べることができた。繰り返し取り組むことで、グループ内で自分の意見を言うことができるようになってきた。調べた内容をまとめたり、発表したりすることはポイントを伝えることで考えて取り組むことができた。          |
|     | 単元・題材<br>(教材) | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>自分たちの住んでいる地域のことなので、興味をもって取り組むことができた。   |
|     | 学習・活動         | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>1人1台iPadを使うことで、役割分担して調べることができた。2つのグループに分けることで、話をしやすい雰囲気になった。パソコンを使う以外にも教師にアンケートを取り、どんなものがあるかを調査する活動を取り入れた。好きな教師のおススメということもあり、楽しみながら意欲的に取り組むことができた。   |
|     | 評価            | 目標達成度：A 達成した B <u>ほとんど達成した</u> C あまり達成できていない D 全く達成できていない   |
|     | 理由            | 自分たちの調べたいことや教師に聞いたことなどを題材にすることで興味をもち、主体的に取り組むことができた。自分の言いたいことを相手に伝えることはできるようになってきたが、相手の意見を聞くことが難しいという課題も見えてきた。調べた情報をまとめることは難しい生徒が多く、内容を写すだけで調べたことを理解することまで取り組むことができなかった。発表では、声の大きさ、話すスピードも今後意識していくことが必要である。                 |
|     | 改善策           | 授業の最初に毎時間、話を聞くときのルールを確認するようにすることでお互いに意見を言い合えるようにしていく。まずは全体、次に個人でルールを確認し、意識して相手の意見を聞くことができるようにしていく。情報をまとめることはどの部分が必要な内容なのかを視覚的にわかりやすくし、たくさんある文章の中から抜き出せるようにしていく。発表の方法などは友だち同士で聞き合い、お互いに良いところや悪いところを指摘しながら何度も繰り返し練習する時間を設定する。 |

|  |   |      |              |   |      |              |                  |
|--|---|------|--------------|---|------|--------------|------------------|
| 学部   | 愛徳<br>小学部   | 集団構成 | 小学部<br>3・4年生 | 授業名   | 図画工作 | 指導形態         | 教(図画工作)<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。</li> <li>・材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。</li> <li>・身近にある作品などから、よさや面白さを感じ取るようにする。</li> </ul>                      |      |              |   |      |              |                  |
| 単元名・題材名  | アートたんけんたい   |      |              |   |      |              |                  |
| 児童・生徒の実態   | <p>対象である児童は、小学部普通学級3年生1名と4年生1名である。2名は愛徳整枝園に入園し、ペルテス病の治療や訓練を受けながら、学校生活を送っている。ペルテス病に罹患以前は、それぞれ居住地域の小学校に通学しており、愛徳分教室に於いても小学校の教科書に沿って学習を進めている。図画工作については、『図画工作3・4年生上・下』の教科書を使用し、3年生と4年生と一緒に学習している。2名とも図画工作を好み、意欲的に取り組んでいる。</p> |      |              |   |      | 学習指導要領での位置づけ |                  |
|  |   |      |              |   |      | 教科           | 内容               |
|  |   |      |              |   |      | 図画工作         | 鑑賞               |
| 単元の設定理由  | <p>デジタルカメラは、撮り直しや撮影したものをその場で確認でき、身近な環境に興味をもったり、身の回りにあるものの面白さを発見したりするのに適している。また、季節的に屋外での活動に適しており、色彩的な発見も期待できると考えた。</p>   |      |              |   |      |              |                  |
| 単元目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な環境に興味をもち、そこから形や色の面白さやよさを見つけ出す。</li> <li>・友達を見つけ出した形や色の面白さやよさを味わうことができる。</li> </ul>   |      |              |   |      |              |                  |
| 評価の基準  |   |      |              | 支援・手立て  |      |              |                  |
| <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;<br/>身の回りにある形や色の面白さを発見することができる。<br/>【A：よくできる B：できる C：がんばろう】</p>               |   |      |              | <p>授業の導入時に教科書を示すことで、活動への関心や見通しを与える。(14)</p>                                       |      |              |                  |
| <p>&lt;発想や構想の能力&gt;<br/>様々な形や色を発見するように見る距離や角度など、景色や対象物の見方を工夫できる。<br/>【A：よくできる B：できる C：がんばろう】</p> |   |      |              | <p>身の回りを見るときに、漠然と見るのではなく、近づいて見たり、遠くから見たり、角度を変えて見たり、重ねて見たりなど、見方の工夫について伝える。(15)</p> |      |              |                  |
| <p>&lt;創造的な技能&gt;<br/>形や色の面白さがよく表れるような写真の写し方ができる。<br/>【A：よくできる B：できる C：がんばろう】</p>                |   |      |              | <p>デジタルカメラは撮影したものをその場で確認できること、何度も撮り直しができることを説明する。(16)</p>                         |      |              |                  |
| <p>&lt;鑑賞の能力&gt;<br/>見つけたものの形や色、組み合わせの面白さなどを感じ取れる。<br/>【A：よくできる B：できる C：がんばろう】</p>               |   |      |              | <p>児童が記録したものを表示するように伝え、その面白さやよさを共有する。(28)</p>                                     |      |              |                  |

| 日時              | 学習活動  | 支援   |
|-----------------|---|--|
| 12:50<br>(導入)   | (2時間枠)<br>●教科書などを見て、身の回りに存在する面白い形や色について興味をもつ。<br>・漠然と見るのではなく、見方を変えることの工夫について、写真からヒントを得る。                              | ●教科書の写真や教師が撮影した写真を提示し、普段見慣れている風景のなかに、面白い形や色が隠れているかもしれないことを示唆する。(14)  |
| 13:10<br>(展開)   | ●身の回りにある自然や人工物などの見方を工夫し面白い形や色を見つけて写真を撮る。<br>・ゆっくり歩きながら探す。<br>・光の当たり方に気を付けて撮影する。<br>・デジタルカメラのプレビュー機能を用いて、確認しながら撮影を進める。 | ●いつもと違う見方をして、面白い形や色のものを探しに行くよう提案する。(15)<br>●デジタルカメラをそれぞれに渡し、操作の仕方を確認する。また、その場で撮影したものを確認できること、撮り直しができることも説明する。(16)<br>●近づいて見たり、離れて見たり、角度を変えて見たりすることで、いつもと違った見え方をすることを伝える。(16) |
| 13:55<br>(振り返り) | ●見つけた状況を思い出しながら、発表の準備をする。   | ●「いつ、どこで見つけたか」「どうして面白いと思ったのか」「どうしたら他の人に面白さが分かってもらえるか」等、発表をする際の項目を提案する。(16)   |
| 14:15           | ●見つけたものを発表し合い、そのよさや面白さを味わう。   | ●友達が見つけてきたもののよさや面白さを示し、自宅の回りにも面白い形や色をしたものがあるかもしれないことを示唆する。(28)   |
| 妥当性             | 単元目標  | 高すぎた・ <u>適当だった</u> ・低すぎた<br>児童の学年から考えて妥当である。   |
|                 | 単元・題材<br>(教材)   | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>教師が例を提示し説明することで、単元の意味を理解し児童の興味をひくことにつながったと考えられる。  |
|                 | 学習・活動   | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>児童の学習能力や行動能力に照らしても妥当な学習内容であり、最後まで興味をもって学習活動ができたのではないかと考える。  |
| 評価              | 目標達成度   | A 達成した <u>Bほとんど達成した</u> C あまり達成できていない D 全く達成できていない   |
|                 | 理由  | 児童は身近な環境に興味をもち、そこから面白さやよさを見つけ出すことができた。しかし、関心が主に形について向いていた。環境的に穏やかな色合いが多く、印象的な色について見つけにくい状況であったことが考えられる。  |
|                 | 改善策   | 児童に課題を出すときに、「形について面白いと思ったものを2点以上」「色について面白いと思ったものを2点以上」など、形と色、それぞれについて意識をもって探すような言葉かけをする。   |

|  |  |  |              |  |      |      |                  |    |
|--|--|--|--------------|--|------|------|------------------|----|
| 学部   | 愛徳<br>小学部  | 集団構成   | 小学部<br>3・4年生 | 授業名  | 図画工作 | 指導形態 | 教(図画工作)<br>合・領・総 |    |
| 年間の指導目標  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。</li> <li>・材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。</li> <li>・身近にある作品などから、よさや面白さを感じ取るようにする。</li> </ul> |              |  |      |      |                  |    |
| 単元名・題材名  |  | はんをつかって  |              |  |      |      |                  |    |
| 児童・生徒の実態   | <p>対象である児童は、小学部普通学級3年生1名と4年生1名である。2名は愛徳整肢園に入園し、ペルテス病の治療や訓練を受けながら、学校生活を送っている。ペルテス病に罹患以前は、それぞれ居住地の小学校に通学しており、愛徳分教室に於いても小学校の教科書に沿って学習を進めている。図画工作については、『図画工作3・4年生上・下』の教科書を使用し、3年生と4年生と一緒に学習している。2名とも図画工作を好み、意欲的に取り組んでいる。</p> |  |              |  |      |      | 学習指導要領での位置づけ     |    |
|  |  |  |              |  |      |      | 教科               | 内容 |
|  | 図画工作   | 表現   |              |  |      |      |                  |    |
| 単元の設定理由  | <p>前年度、スチレンボードを利用して凹版画の制作を経験しているので、版を作ること、刷る際のインクの付け方、バレンの使い方など、ある程度イメージをもちながら活動が進められると考えた。今年度は、凸版画である紙版画についても紙の他、身近にあるビニールの緩衝材などいろいろな材料を使いながら、更に多様な楽しい表現が期待できると考えた。</p>   |  |              |  |      |      |                  |    |
| 単元目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな材料を版に使い、表したいことを効果的に表す。</li> <li>・同じ版を、刷る場所を変えて複数回刷ったり、インクの色を変えたりして表す。</li> </ul>  |  |              |  |      |      |                  |    |
| 評価の基準  |  |  |              | 支援・手立て   |      |      |                  |    |
| <p>&lt;関心・意欲・態度&gt;<br/>紙版をつくったり、刷ったりする活動に興味をもち、進んで取り組める。<br/>【A:よくできる B:できる C:がんばろう】</p>  |  |  |              | <p>紙版画に表す楽しさを感じ取れるように、教科書に掲載されている児童作品などを示す。(14)</p>              |      |      |                  |    |
| <p>&lt;発想や構想の能力&gt;<br/>表すものを想像し、使う材料やいろいろな表し方を考えられる。<br/>【A:よくできる B:できる C:がんばろう】</p>      |  |  |              | <p>刷ったときの様子をイメージできるように、版に使ういろいろな材料を提供する。(15)</p>                 |      |      |                  |    |
| <p>&lt;創造的な技能&gt;<br/>材料を生かして版をつくり、刷り方を工夫して表すことができる。<br/>【A:よくできる B:できる C:がんばろう】</p>       |  |  |              | <p>自分の表したい内容に合わせて下絵を考へること、版の材料を選ぶこと、版の置き方、刷り方などの見本を提示する。(16)</p> |      |      |                  |    |
| <p>&lt;鑑賞の能力&gt;<br/>友達と作品を見せあい、形の組み合わせや、版のよさなどを捉えることができる。<br/>【A:よくできる B:できる C:がんばろう】</p> |  |  |              | <p>工夫した点に注目できるよう、刷りあがった作品を展示し、鑑賞できる場を設定する。(28)</p>               |      |      |                  |    |

| 日時                       | 学習活動   | 支援   |
|--------------------------|--|--|
| 12:50<br>(導入)            | (2時間枠：2/4)<br>●教科書などを見て、材料を生かした版のつくり方や、様々な刷り方を知る。  | ●今まで経験した版画を思い出すように、教科書の作例を見ながら、紙版画に表したいことを考えるよう示唆する。(14)   |
| 13:10<br>(展開)            | ●制作の手順を見て、活動の見通しをもつ。<br>●表したい内容を決め、紙版を作る。          | ●制作の手順を提示する。(15)<br>●版の作り方を説明する。(16)<br>【版の作り方の工夫】<br>①アイディアスケッチなど、大きく下絵を描く。<br>②紙やその他の材料を表現したいものに合わせ、切ったりちぎったりする。<br>③のりや接着剤など、貼る材料に応じて台紙に貼る。 |
| 14:05<br>(振り返り)<br>14:15 | ●できあがった版を見て、次回、刷ることを知る。                            | ●できあがった版を見せあう場面を設定する。(28)  |
| 12:50<br>(導入)            | (2時間枠：4/4)<br>●制作の手順を見て、活動の見通しをもつ。<br>●刷り方を工夫して刷る。 | ●刷り方を説明する。(16)<br>【刷り方の工夫】<br>①版にインクを付けて刷る。<br>②色を変えて刷る。<br>③刷りたい場所を考えて刷る。<br>④作品にスタンプングを加え、描画材で描き加えてもよいことを知らせる。                               |
| 13:10<br>(展開)            | ●他の描画材で描き加えたり、スタンプングを加えたりする。                       | ④作品にスタンプングを加え、描画材で描き加えてもよいことを知らせる。   |
| 14:05<br>(振り返り)          | ●工夫した点を話し合う。<br>よさや面白さを味わう。                        | ●刷りがあがった作品を展示し、友達と見合ったりする場を設定し、工夫されている点や面白かった点を発表するように促す。(28)  |
| 14:15                    | ●使用したローラーやトレイなどを片付ける。                              | ●用具ごとに汚れをとり、片付ける方法を伝える。(16)  |
| 妥当性                      | 単元目標   | 高すぎた・ <u>適当だった</u> 低すぎた<br>児童の学年から考えて妥当であった。   |
|                          | 単元・題材<br>(教材)                                      | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> 簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> 適していなかった<br>教師が例を提示し説明することで、児童が目標を理解し題材に興味をもって取り組めたと考えられる。                            |
|                          | 学習・活動  | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> 簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> 適していなかった<br>児童の学習能力や行動能力に照らしても妥当な学習内容であり、最後まで興味をもって学習活動ができたのではないかと考える。                |
| 評価                       | 目標達成度  | <u>A 達成した</u> B ほとんど達成した C あまり達成できていない D 全く達成できていない  |
|                          | 理由   | いろいろな材料を版に使い、表したいことを効果的に表すことができていた。<br>同じ版を、刷る場所を変えて複数回刷ったり、インクの色を変えたりできた。   |
|                          | 改善策  | さらに刷り方の工夫として、ローラーにインクを一度に複数色付けて刷るなどを考えさせてもよかった。  |

|  |   |  |              |  |      |      |                   |
|--|---|--|--------------|--|------|------|-------------------|
| 学部   | 愛徳<br>小学部   | 集団構成   | 小学部<br>3・4年生 | 授業名  | 図画工作 | 指導形態 | ⑧ (図画工作)<br>合・領・総 |
| 年間の指導目標  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。</li> <li>・材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。</li> <li>・身近にある作品などから、よさや面白さを感じ取るようにする。</li> </ul> |              |  |      |      |                   |
| 単元名・題材名  |   | ねん土マイタウン   |              |  |      |      |                   |
| 児童・生徒の実態   | 対象である児童は、小学部普通学級3年生1名と4年生1名である。2名は愛徳整肢園に入園し、ペルテス病の治療や訓練を受けながら、学校生活を送っている。ペルテス病に罹患以前は、それぞれ居住地の小学校に通学しており、愛徳分教室に於いても小学校の教科書に沿って学習を進めている。図画工作については、『図画工作3・4年生上・下』の教科書を使用し、3年生と4年生と一緒に学習している。2名とも図画工作を好み、意欲的に取り組んでいる。 |  |              |  |      |      |                   |
|  | 学習指導要領での位置づけ  |  |              |  |      |      |                   |
|  | 教科  | 内容   |              |  |      |      |                   |
|  | 図画工作  | 表現   |              |  |      |      |                   |
| 単元の設定期理由   | 粘土は手や指の感覚を十分に働かせてかかわれる素材である。これまでも粘土に親しんできたが、丸めたり伸ばしたりつまんだり等、基本的な技法を基に面白い形を見つけながら、楽しく想像を広げることを目指したい。更に友達の表現の面白さを感じ取り、自分の表現に生かせるようにしていきたいと考えた。  |  |              |  |      |      |                   |
| 単元目標   | ・自分の住んでみたい街について想像を広げながら、粘土の形や形の組み合わせを工夫してつくる。   |  |              |  |      |      |                   |
| 評価の基準  |   |  |              | 支援・手立て   |      |      |                   |
| <関心・意欲・態度><br>自分の気持ちを込めた楽しい街を想像し、粘土で表そうと取り組める。<br>【A：よくできる B：できる C：がんばろう】                |   |  |              | 美しい街並みや特徴的な建物などの写真等資料を用意して、楽しい街のイメージをもち活動への意欲を高める。(14)         |      |      |                   |
| <発想や構想の能力><br>表したい街の様子が表れるように、組み合せた形の面白さを生かして建物などの形や配置を考えられる。<br>【A：よくできる B：できる C：がんばろう】 |   |  |              | 粘土でつくった面白い形やその組み合わせの面白さから、建物や街の様子について発想を広げられるよう助言する。(15)       |      |      |                   |
| <創造的な技能><br>自分のイメージに合わせ、粘土の加工や接合の方法などを工夫できる。<br>【A：よくできる B：できる C：がんばろう】                  |   |  |              | 粘土を丸めたりのばしたりして、粘土を触りながら形の面白さに気付かせ、つくりたいものを具体化するための方法を助言する。(16) |      |      |                   |
| <鑑賞の能力><br>できた街の中の様子について話し合い、表現のよさをとらえられる。<br>【A：よくできる B：できる C：がんばろう】                    |   |  |              | できた街の中を散歩するつもりで作品を鑑賞し、面白いところについて発表を促す。(28)                     |      |      |                   |

| 日時              | 学習活動  | 支援   |
|-----------------|---|--|
| 12:50<br>(導入)   | (2時間枠)<br>●自分なりの『マイタウン』への思いをふくらませる。<br><br>●制作の手順を見て、活動の見通しをもつ。   | ●日本や世界の美しい街並みや特徴的な建物などの写真、教科書掲載の写真等を見せ、想像を広げられるようにする。(14)<br>●制作の手順を提示する。<br>教師自ら粘土を触りながら、面白い形を見つける様子を提示し、形からも面白いところを見つけ、意識できるように助言する。(14)   |
| 13:10<br>(展開)   | ●粘土を丸めたりのぼしたりして、面白い形を作ったり見つけたりする。<br><br>●できた形を基にしたり、組み合わせたりして、街にあると楽しい建物などをつくる。<br>●自分と友達の街を道でつないだり、街を合体させたりして、大きな街をつくる。 | ●粘土あそびの中で体験した形づくり(丸める、板に伸ばす、ひも状にする、穴を開ける、角を出すなど)を確認し、それらの技法を基にして建物等の形づくりができるように助言する。(15)<br>●形を組み合わせる際、しっかりと接合することを指導する。接合する時に爪楊枝や竹串等で補強する方法も指導する。(16)<br>●街と街を道でつないだり合体させたりして、自分の街の外側を想像させる言葉かけをする。(16) |
| 14:05<br>(振り返り) | ●できた街を友達と一緒に見合い、良さや面白さを感じ取る。  | ●できあがった作品について説明する場面を設定する。(28)  |
| 14:15           | ●使用した用具等を片付ける。  | ●使った用具を洗い、残った紙粘土は乾燥しないようビニール袋に入れ保管することを伝える。(28)  |
| 妥当性             | 単元目標  | 高すぎた・ <u>適当だった</u> ・低すぎた<br>児童の学年から考えて妥当である。   |
|                 | 単元・題材<br>(教材)   | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>粘土は手や指の感覚を十分に働かせてかかわれる素材であり、基本的な技法を基に面白い形を見つけながら、楽しく想像を広げ制作できた。   |
|                 | 学習・活動   | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>想像を広げながら粘土の形や形の組み合わせを工夫してつくることができた。   |
| 評価              | 目標達成度   | A 達成した B <u>ほとんど達成した</u> C あまり達成できていない D 全く達成できていない  |
|                 | 理由  | 児童はそれぞれに試行錯誤をしながら工夫して制作することができた。しかし使用した粘土の特性として、細く垂直に立たせることが困難であったので改善を要する。  |
|                 | 改善策   | 児童の自由な発想を期待して紙粘土のみで制作したが、様々な形のペットボトル等の芯材を利用して制作することも考えられる。また、先にパーツを制作し粘土が乾燥した後、ボンド等で接着し組み立てる方法も提案できる。  |

|  |   |      |                   |   |               |      |               |
|--|---|------|-------------------|---|---------------|------|---------------|
| 学部   | 愛徳<br>小学部   | 集団構成 | 肢体不自由重複学級<br>4・5年 | 授業名   | 表現活動<br>[えがく] | 指導形態 | 教( )<br>④・領・総 |
| 年間の指導目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな素材の感触を受け止め、表情に表したり声に出したりする。</li> <li>・自分から素材にかかわろうとし、触ったりつかんだり動かしたりする。</li> <li>・音や映像を見ることで感覚の幅を広げる。</li> </ul>  |      |                   |   |               |      |               |
| 単元名・題材名  | モダンテクニックを体験しよう [スパッターリング、ドリッピング]  |      |                   |   |               |      |               |
| 児童・生徒の実態   | <p>対象児は、肢体不自由と知的障害を併せ持ち、実態は多様で幅広い。手指については、まひや不随意運動、欠損があるなど、動きに制限があり、コントロールも難しい場合が多い。描く活動では、今までぬたくりなど感触遊びをしながら、感触や色を楽しむ活動に取り組んできた。また、筆等を使うときには、自ら持って線や点などを描ける児童もいるが、手指を補うための補助具をつけたり、握るのが難しいため教師が手を添えたりするなどの支援が要る児童もいる。中には、筆を手を持つことができても、口へ持っていく児童もいるので、配慮が必要である。色を選ぶ活動では、指差しや、指差しが難しい児童についても色や絵の具を見て色の名称を伝えると視線の動きや表情で選ぶことができている。また、それぞれに好みの色がある。視覚的に見えにくい児童も同様の方法で伝えると口を動かすなどして、選べることが多い。他の活動でも、友達の様子を感じてやりたい気持ちを伝えたり、できた作品を見たときに喜んだりする様子が見られる。</p>  |      | 学習指導要領での位置づけ      |   |               |      |               |
|  |   |      | 教科                | 内容  |               |      |               |
|  |   |      | 図画工作              | 1段階(1)  |               |      |               |
|  |   |      | 自立活動              |   |               |      |               |
| 単元の設定理由  | <p>スパッターリングの絵画技法は、従来、絵の具を細かな目の網に塗りそれをブラシでこする、あるいは目の細かな網に絵の具をつけたブラシでこすることで、小さな粒子として絵の具を飛ばす手法である。今回取り組むスパッターリングでは、ハンドスプレーを使用する。ハンドスプレーは、握る(押す)だけで絵の具をまき散らし、容易に描けると考えた。また、握った(押した)ときの「シュー」という音がおもしろく、描いたときの変化に気付きやすい。画用紙に描かれる絵の具の軌跡や模様の変化、カラフルな色を見て楽しむことができる活動であり、その色彩の世界は児童の感覚や表現を豊かにすると考えた。また、握り(押し)にくい児童用に、ハンドスプレーのハンドルに棒をつけ、押しやすい工夫もした。ドリッピングは、絵の具を数滴画用紙に落とし、その絵の具にエアを送り、描く活動である。今回はエアを送る道具にハンドスプレーを使用した。エアを送ることで変化する模様(軌跡)を見て、楽しんでほしい。ハンドスプレーを握る(押す)という活動を通して、描く喜び、手を使う喜びを感じ、手を活用する意識を高めたいと考えた。</p> |      |                   |   |               |      |               |
| 単元目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で絵の具や画用紙を選び、着色される様子を見て表情に表す。</li> <li>・活動に関心をもち、ハンドスプレーを教師と一緒に握る(押す)などし、画用紙に描く。</li> </ul>  |      |                   |   |               |      |               |
| 評価の基準  |   |      |                   | 支援・手立て  |               |      |               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプレーの音に気付いて、表情を変える。</li> <li>・スプレーの音に聞き入る。</li> <li>・着色される様子に気付いて、見る。</li> <li>・着色される様子を見て、表情に変化が見られる。</li> </ul>  |   |      |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプレーを握る(押す)ときに言葉かけをする。(15)</li> <li>・表情や視線をよく観察する。(19、21)</li> <li>・対象物を見えやすい位置に提示する。(24)</li> <li>・見えやすい姿勢を作る。(22)</li> </ul>  |               |      |               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・スプレーのボタンを一緒に握る(押す)。</li> <li>・スプレーのボタンの場所を示すと、押すことができる。</li> <li>・スプレーのボタンを押す場所が分かり、少し手指を介助すると押せる。</li> <li>・着色される様子を見ながら、一緒に持ったスプレーを動かそうとする。</li> </ul> |   |      |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・握る(押す)ときに言葉かけをする。(15)</li> <li>・触りやすい位置にスプレーを置く。(22)</li> <li>・軽い力で押せる補助具を用意する。(22)</li> <li>・自発的な動きを待つ。(24、25、26)</li> <li>・着色部が見えやすいようにし、着色しながら、動かしたり止めたりする。(24)</li> </ul> |               |      |               |

| 日時                 | 学習活動  | 支援  |
|--------------------|---|---|
| 全6回<br>始めに<br>(毎回) | <p>(毎回2時間枠)</p> <p>○始まりの挨拶をする。</p> <p>○本時の学習内容の説明を聞く。</p> <p>1) ふれあいたいそう「ふわふわ」をする。</p> <p>2) モダンテクニックを体験する。</p> <p>○ふれあいたいそう「ふわふわ」をする。</p> <p>・曲に合わせて、教師と一緒に手の体操をする。</p> <p>①手をつつむ・あたためる、②手をなぞる、③指をひらく、④指をまわす、⑤手をこする・たたく、⑥手首をまわす、⑦手でふれる・かんじる等</p> <p>○モダンテクニックを体験する。</p> <p>・一人ずつ順番に活動する。</p> <p>・友達の活動を見る。</p>   | <p>☆児童の様子を確認する。(19)</p> <p>☆テレビで説明する。(14、15)</p> <p>☆見えやすい位置に集まる。(4)</p> <p>☆児童の様子を見ながら、無理なく、手の体操を行い、手を使うことを意識付ける。(14)</p> <p>☆ふれあいたいそう「ふあふあ」:筑波大学附属桐が丘養護学校教材参考</p> <p>☆ハンドスプレー等で絵の具が飛び散るので新聞紙を敷いたりスモックを着たりする。</p> <p>☆友達の活動の様子が見えやすいように座る。(2)</p> <p>☆色を選ぶときは、見えやすい位置に提示し、2択、または、3択から選ぶようにする(視線の動きを観察する)。(19、25、26)</p>  |
| 第1次<br>～<br>第5次    | <p>○スパッタリングをする。</p> <p>・スプレーの容器に絵の具を入れる。</p> <p>・容器を振って混ぜる。</p> <p>・ハンドスプレーの空気を教師と一緒に圧縮する。</p> <p>・使う色を選択する。</p> <p>・ハンドスプレーを教師と一緒に握ったり、押したりして、絵の具を画用紙に吹きつける。</p> <p>・吹き付けられた模様を見る。</p> <p>○ドリッピングをする。</p> <p>・ペットボトルに絵の具を入れて混ぜる。</p> <p>・好きな色を選ぶ。</p> <p>・画用紙に絵の具を垂らす。</p> <p>・ハンドスプレーで空気を送り、絵の具が流れていく様子を見る。</p> | <p>○スパッタリング</p> <p>☆入れやすい、振りやすいように手や容器を介助する。(22)</p> <p>☆主体的にハンドスプレーを使えるように、棒をつけたり、手首を介助したりする。(22)</p> <p>☆絵の具が出てくることが期待できるよう、「1、2の3」の掛け声で伝える。(14)</p> <p>☆画用紙を見えやすい位置に提示する。(15)</p> <p>○ドリッピング</p> <p>☆入れやすい、振りやすいように手や容器を介助する。(22)</p> <p>☆ペットボトルに入った絵の具を見えやすい位置に提示する。(14)</p> <p>☆小さな穴を開けたペットボトルの蓋に入れ替える。</p> <p>☆ペットボトルに手を添え、液を落としやすいように介助する。(22)</p> <p>☆できるだけ児童の動きに合わせる。<br/>(24、25、26)</p> <p>☆画用紙を見えやすい位置に提示する。(24)</p> |
| 第6次                | <p>○スパッタリングをする。</p> <p>・使う色を選択する。</p> <p>・スプレーで段ボールに貼り付けた模造紙にダイナミックに吹きつける。</p> <p>・繰り返し数回取り組む。</p> <p>・他の児童の活動の様子を見る。</p>   | <p>☆吹きつける場所が見えやすいように段ボールを立てて、置く。(24)</p> <p>☆児童の動きに合わせて、スプレーを動かす。(22)</p> <p>☆ダイナミックに描けるようにする。</p> <p>☆見えやすい位置に座る。(4)</p>   |

|             |   |   |
|-------------|---|---|
| 終わり<br>(毎回) | ○手をきれいにする。<br>○今日の取組 (作品)、頑張ったことを発表する。<br>○終わりの挨拶をする。     | ☆作品を見る、頑張ったことを教師が伝える。<br>(17、28)  |
| 妥当性         | 単元<br>目標  | 高すぎた・ <u>適当だった</u> ・低すぎた<br>・児童の実態から見て、おおむね適当だった。   |
|             | 単元・<br>題材<br>(教材)   | (児童生徒にとって) <u>難しい</u> 適当・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>・ふれあいたいそう「ふあふあ」は、手を使う準備体操として適している。<br>・ハンドスプレーの活動は初めてだったが、興味・関心を示す児童が多く意欲的に取り組める教材だった。<br>・絵の具が飛び出すときの「シュー」という音を聞いて表情を変えたり、音がすることで着色部分に注目したりしやすい教材だった。<br>・目標には、『教師と一緒に握る (押す) などし、画用紙に描く』とあり、一緒に操作することで絵の具が飛び出すときの感触を感じたり、描いたりはできているが、児童が自ら手を使うという活動としては難しい教材だった。   |
|             | 学習<br>活動  | (児童生徒にとって) 難しい・ <u>適当</u> ・簡単<br>(目標を達成するのに) <u>適していた</u> ・適していなかった<br>・ハンドスプレーから絵の具が出るのを見て、期待し意欲的に取り組めた。<br>・ハンドスプレーをしたり、絵の具を垂らしたりしたときは、絵の具によって生じる軌跡に興味・関心をもってよく見ることができた。<br>・一人ずつ順番に取り組んだので、友達がする様子から見通しがもて、活動を期待していた。しかし、待ち時間が多くなり、個々の活動時間としては少なかった。   |
| 評価          | 目標達成度：A 達成した <u>B ほとんど達成した</u> C あまり達成できていない D 全く達成できていない |   |
|             | 理由  | <ul style="list-style-type: none"> <li>絵の具の選択は、それぞれの方法で表現し、選択することができた。</li> <li>画用紙に着色される様子をよく見ている児童が多く、教師と一緒にハンドスプレーを操作したときに出る音にも興味をもち、表情に表す児童もいた。</li> <li>第6次の活動では、模造紙に描かれる様子を見て、スプレーを持つ手を自ら動かす児童もいた。</li> <li>児童が自ら手を使うという活動としては難しい教材だった。</li> <li>待ち時間が多くなった。</li> <li>個々の活動量が少なかった。</li> <li>最後に作品の紹介はしているが、できあがった作品を活動のすぐ後に見せて評価した方がよい。</li> </ul>   |
|             | 改善策   | (教材)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>感触遊びの経験をさらに積み、握るなど手指を使う活動をしっかりする。(待ち時間)</li> <li>待ち時間を少なくするために、課題別のグループに分かれる。(4)<br/>(個々の活動時間の改善策) →第6次に改善</li> <li>1回の授業の中に2つの活動を入れるより1つの活動をじっくりと取り組む。<br/>(15、18、22、23、24)</li> <li>活動を1回で終わらずに複数回取り組む。(6、15)</li> <li>小さい画用紙ではなく、壁面に色をつけるなど、もっとダイナミックな活動にする。(24)<br/>(評価、振り返り)</li> <li>自分の作品は、活動の直後に見る。→見えやすい位置に置くなどして見る時間を確保する。<br/>(17)</li> </ul> |

|  |  |  |                   |   |               |              |                   |
|--|--|--|-------------------|---|---------------|--------------|-------------------|
| 学部   | 愛徳<br>小学部  | 集団構成   | 肢体不自由重<br>複学級4・5年 | 授業名   | 表現活動<br>(えがく) | 指導形態         | 教( )<br>合・領・総     |
| 年間の指導目標  |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな素材の感触を受け止め、表情に表したり声を出したりする。</li> <li>・自分から素材にかかわろうとし、触ったりつかんだり動かしたりする。</li> <li>・音や映像を見ることで感覚の幅を広げる。</li> </ul> |                   |   |               |              |                   |
| 単元名・題材名  |  | 感触遊び「スライムを触って遊ぼう」  |                   |   |               |              |                   |
| 児童・生徒の実態   | <p>対象児は、肢体不自由と知的障害を併せ持ち、実態は多様で幅広い。様々な素材に触れる経験が少なく、初めての物に触れるのが苦手であったり、それぞれに苦手な感触の物があつたりする。動きに制限があり、手のひらや指先を上手に使用せず力の加減も難しく、触る、掴む、捏ねる、丸めるなどの操作の面でも課題がある。また、手を口に入れたり、物を口に入れたりして、感触を確かめることが多く、手で素材をしっかり触って感触を味わったり、触っている物を目で捉え手元を見ながら活動したりすることが課題の児童もいる。感触遊びを大切に組み込む段階で、教師が支援しながら、遊びを引き出す段階の児童が多数である。</p>  |  |                   |   |               | 学習指導要領での位置づけ |                   |
|  |  |  |                   |   |               | 教科           | 内容                |
|  |  |  |                   |   |               | 図画工作         | 1段階(1)<br>1段階(2)  |
|  |  |  |                   |   |               | 生活           | 1段階(3)<br>いろいろな遊び |
| 単元の設定理由  | <p>スライムは感触遊びでも定番の素材である。スライムは手のひらにのせておくとゆっくりと垂れ落ち、またプルンと塊になり、液体の性質である粘性と固体の性質である弾性の両方を併せ持っている。調合する分量によって硬さや手触りに変化をもたせることが可能である。色もつけやすく、色をつけることで視覚的にも分かりやすくなり、複数の色を用意することで選択する機会ももてる。触るのが苦手な児童に対しても、スライムが垂れたり伸びたりする様子は視覚的に面白く、興味をもたせやすい。また、手にくっつきにくく、触り心地のよい硬さから触れることで、スライムの感触を受け入れやすくなる。手に把握するのが弱い児童に対しては、スライムは少しの力で変化する素材であり触りやすい。いろいろな硬さのスライムに触れることで、違いを感じ、感覚の受容の幅を広げていってほしいと考えた。</p> |  |                   |   |               |              |                   |
| 単元目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・素材の感触や素材の感触の違いを感じて、表情や身振りなどで表現する。</li> <li>・スライムに自らかかわり、触ったり、掴んだりする。</li> </ul>  |  |                   |   |               |              |                   |
| 評価の基準  |  |  |                   | 支援・手立て  |               |              |                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・素材に触れていることに気付き、目を動かす。</li> <li>・素材に触れて、不快な表情や心地よい表情を出す。</li> <li>・素材に触れて、手を引っ込める、手を伸ばして触ろうとするなど、快・不快を示す。</li> <li>・素材の違いを感じて、目を動かす。</li> <li>・素材の感触の違いを感じて、表情を変える。</li> <li>・素材の感触の違いを感じて、手を引っ込める、または、触ろうとする動きが出るなど、触り方が変わる。</li> <li>・スライムを見て、興味をもつ(追視、注視が出る)。</li> </ul> |  |  |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・触りやすい姿勢を作る。(22)</li> <li>・一緒に手に触れたり、握ったりする。(22)</li> <li>・表情や触っている様子をよく観察する。(19、21)</li> <li>・感触の違う物を用意し、順に触るようにする。</li> <li>・感触の違う物に触れたときの表情や触り方を観察し、言葉で返す。(24)</li> <li>・自らの動きが出るのを待つ。(24、25、26)</li> <li>・目の前でスライムを垂らして示し、様子を観察する。(14、15、21)</li> <li>・児童が触りやすいように肘や手を介助する。(22)</li> <li>・自らの動きが出るのを待つ。(24、25、26)</li> <li>・掴んだり千切ったりして見本を示す。(14、15、18)</li> <li>・触っている物を視線の高さに持っていく。(22)</li> <li>・見えやすい姿勢を作る。(22)</li> <li>・スライムを児童の手に垂らして、注意を引く。(14、24)</li> <li>・口に入れないように、見守る。</li> </ul> |               |              |                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と一緒に触る。</li> <li>・感触を感じ、手を動かす。</li> <li>・積極的に触り、掴んだり、千切ったりする。</li> </ul>   |  |  |                   |   |               |              |                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の手元を見て、しっかり触る。</li> </ul>  |  |  |                   |   |               |              |                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で工夫した触り方ができる。</li> </ul>   |  |  |                   |   |               |              |                   |

| 日時                 | 学習活動  | 支援  |
|--------------------|---|---|
| 全5回<br>始めに<br>(毎回) | <p>(毎回2時間枠)</p> <p>○始まりの挨拶をする。<br/>○本時の学習内容の説明を聞く。<br/>1) ふれあいたいそう「ふあふあ」をする。<br/>2) スライムで遊ぶ。</p> <p>○ふれあいたいそう「ふあふあ」をする。<br/>・曲に合わせて、教師と一緒に手の体操をする。<br/>①手をつつむ・あたためる、②手をなぞる<br/>③指をひらく、④指をまわす、<br/>⑤手をこする・たたく、<br/>⑥手首をまわす、⑦手でふれる・かんじる等<br/>○スライムを使って遊ぶ。<br/>・実態に応じたグループに分かれる。</p> | <p>☆児童の様子を観察する。(19)</p> <p>☆2)のスライムについては実物を提示する。<br/>(14)</p> <p>☆児童の様子を見ながら、無理なく、手の体操を行い、手を使うことを意識付ける。(14)</p> <p>☆ふれあいたいそう「ふわふわ」:筑波大学附属桐が丘養護学校教材参考</p> <p>☆課題に合ったグループに分かれる。(4)</p> <p>☆口に入れないように気をつける。<br/>☆触りやすい姿勢をとる。(22)</p>   |
| 第1次                | <p>1) スライムを触ってみよう<br/>・見本を見る。</p> <p>・色のついたスライムから、好きな色のスライムを選ぶ。<br/>・教師と一緒に触る。<br/>・自分から触る。<br/>・教師と一緒に捏ねたり伸ばしたり垂らしたりする。<br/>・友達と色を交換して、混ぜる、捏ねる。<br/>・色の変化を目で見て楽しむ。</p>   | <p>1) スライムを触ってみよう<br/>☆教師が見本を示し、興味をもつようにする。<br/>(14、15、18)</p> <p>☆触り心地のよい、三色(赤、青、黄)のスライムを用意する。(25)</p> <p>☆視線や表情をよく観察する。(19、21、26)</p> <p>☆できるだけ自分の動きが出て、触れるように個々の実態に応じて支援する。(5、20、22)</p> <p>☆見えやすい位置で操作できるようにする。<br/>(4、24)</p>  |
| 第2次                | <p>2) いろいろな硬さのスライムを触ろう<br/>・見本を見る。</p> <p>・色・硬さなど好きな色のスライムを2種類選ぶ。<br/>・1つずつ、教師と一緒に触る。<br/>・自分から触る。<br/>・もう1方の感触のスライムも体験する。<br/>・教師と一緒に捏ねたり伸ばしたり垂らしたりする。<br/>・好きな方を選ぶ。</p>   | <p>2) いろいろな硬さのスライムを触ろう<br/>☆教師が見本を示し、興味をもつようにする。<br/>(14、15、18)</p> <p>☆いろいろな色・硬さのスライムを用意する。<br/>(25)</p> <p>☆視線や表情をよく観察する。(19、21、26)</p> <p>☆できるだけ自分の動きが出て、触れるように個々の実態に応じて支援する。(5、20、22)</p> <p>☆見えやすい位置で操作できるようにする。<br/>(4、24)</p> <p>☆表情をよく観察し、言葉かけをする。<br/>(19、21、24)</p> |
| 第3次                | <p>3) スライムの感触の変化を感じよう<br/>・見本を見る。</p> <p>・好きな色のスライムを選ぶ。</p> <p>・教師と一緒に、または、自分でスライムを触る。<br/>・スライムにお湯を加える。<br/>・スライムとお湯を混ぜ、スライムの変化を味わう。</p>   | <p>3) スライムの感触の変化を感じよう<br/>☆教師が見本を示し、興味をもつようにする。<br/>(14、15、18)</p> <p>☆少し弾力のある三色(赤、緑、黄)のスライムを用意する。(25)</p> <p>☆視線や表情をよく観察する。(19、21、26)</p> <p>☆できるだけ自分の動きが出て、触れるように個々の実態に応じて支援する。(5、20、22)</p> <p>☆見えやすい位置で操作できるようにする。<br/>(4、24)</p>   |

|             |   |   |
|-------------|---|---|
| 第4次<br>第5次  | <p>4) スライムを作って触ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見本を見る。</li> <li>・作りたいスライムの色を決める。</li> <li>・教師と一緒にスライムを調合し、混ぜる。</li> </ul> <p>①水のりを触る。</p> <p>②水のりと色のついたぬるま湯を混ぜる。</p> <p>③飽和ほう砂水溶液を入れて、混ぜる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できあがったスライムをみんなに見せる。</li> <li>・スライムを友達と交換する。</li> </ul> | <p>4) スライムを作って触ろう</p> <p>☆教師が見本を示し、興味をもつようにする。<br/>(14、15、18)</p> <p>☆色水の入ったペットボトルの中から好きな色を選ぶようにする。(25、26)</p> <p>☆視線や表情をよく観察する。(19、21、26)</p> <p>☆材料を紙コップに入れて、用意する。(24)</p> <p>☆それぞれの材料に触れるようにする。(24)</p> <p>☆できるだけ自分の動きが出て、触れるように個々の実態に応じて支援する。(5、20、22)</p> <p>☆見えやすい位置で操作できるようにする。<br/>(4、24)</p> |
| 終わり<br>(毎回) | <ul style="list-style-type: none"> <li>○手をきれいにする。</li> <li>○今日の取組、頑張ったことを発表する。</li> <li>○終わりの挨拶をする。</li> </ul>  | <p>☆すぐに手をきれいにできるよう、ぬれタオル、桶などを用意しておく。</p> <p>☆できたスライムを紹介する。(17、28)</p>   |

|     |                   |  |
|-----|-------------------|--|
| 妥当性 | 単元<br>目標          | <p>高すぎた・<u>適当だった</u>・低すぎた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態から見て、適当だった。</li> </ul>   |
|     | 単元・<br>題材<br>(教材) | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単<br/>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・適していなかった</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいたいそう「ふわふわ」は手を使う準備体操として適している。</li> <li>・以前に取り組んだことのある教材ではあったが、興味・関心をもって取り組むことができた。以前と触り方に変化が見られ、感触が苦手だった児童も少しずつ触れるようになってきた。</li> <li>・それぞれのペースに合ったかわりができ、積極的に取り組める題材であった。</li> </ul>   |
|     | 学習<br>活動          | <p>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単<br/>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・適していなかった</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の配置に配慮し、グループ分けをして取り組んだため、しっかりと素材にかかわる時間がもてた。待ち時間を少なくできた。</li> <li>・3の活動では、途中でお湯を加えたときぬるっとした感触に変化することをそれぞれしっかりと感じ、表情に表すことができた。</li> <li>・4の活動では、水のりの感触、それに水を加えたときの感触、また、ほう砂水を加えたときの感触、それぞれに変化があり、感触の違いを感じることができた。</li> <li>・感触が好きな児童も苦手な児童も、それぞれのペースで個々に応じたかわりができた。感触が好きな児童は、自らダイナミックにかかわることができた。</li> </ul> |
| 評価  | 目標達成度             | <p>目標達成度：A 達成した <u>B ほとんど達成した</u> C あまり達成できていない D 全く達成できていない</p>   |
|     | 理由                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料を混ぜ合わせて作ったり、お湯を加えたりすることで感触に変化ができ、その違いを感じ表情に表したりする児童が多かった。</li> <li>・見本を示すことで活動に期待をもち、真似るような動きが出たり、自分で触り方を工夫したりする様子も見られた。感触遊びが苦手な児童についても、興味を引き出すことができ、一緒に触っているうちに自ら触ることができるようになってきた。</li> <li>・口へ持って行く児童については、手で遮るなど配慮をしながら取り組むことで、口へ持って行くことが減り、しっかりと手で触り、感触を味わえた。</li> <li>・それぞれのグループでは活動しながら個々に評価を返しているが、活動途中で、全体に紹介する場面をもてなかった。</li> </ul>   |
|     | 改善策               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・主指導が活動の途中で全体に紹介するなど一人一人にスポットを当て見せ場を作れるようにする。(20、28)</li> </ul>   |

|   |   |  |                   |  |               |              |                   |
|---|---|--|-------------------|--|---------------|--------------|-------------------|
| 学部  | 愛徳<br>小学部   | 集団構成   | 肢体不自由重複学級<br>4・5年 | 授業名  | 表現活動<br>(えがく) | 指導形態         | 教( )<br>舎・領・総     |
| 年間の指導目標   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな素材の感触を受け止め、表情に表したり声を出したりする。</li> <li>・自分から素材にかかわろうとし、触ったりつかんだり動かしたりする。</li> <li>・音や映像を見ることで感覚の幅を広げる。</li> </ul> |                   |  |               |              |                   |
| 単元名・題材名   |   | 感触遊び「綿花・羊毛フェルトを触って遊ぼう」   |                   |  |               |              |                   |
| 児童・生徒の実態  | <p>対象児は、肢体不自由と知的障害を併せ持ち、実態は多様で幅広い。様々な素材に触れる経験が少なく、初めての物に触れるのが苦手であったり、それぞれに苦手な感触の物があったりする。動きに制限があり、手のひらや指先を上手に使いえず力の加減も難しく、触る、掴む、捏ねる、丸めるなどの操作の面でも課題がある。また、手を口に入れたり、物を口に入れたりして、感触を確かめることが多く、手で素材をしっかりと触って感触を味わったり、触っている物を目で捉え手元を見ながら活動したりすることが課題の児童もいる。感触遊びを大切に組み込む段階で、教師が支援しながら、遊びを引き出す段階の児童が多数である。</p>  |  |                   |  |               | 学習指導要領での位置づけ |                   |
|   |   |  |                   |  |               | 教科           | 内容                |
|   |   |  |                   |  |               | 図画工作         | 1段階(1)<br>1段階(2)  |
|   |   |  |                   |  |               | 生活           | 1段階(3)<br>いろいろな遊び |
| 自立活動  |   |  |                   |  |               |              |                   |
| 単元の設定理由   | <p>様々な素材に触れる経験が少なく、初めての物にも触れるのが苦手な児童が多いので、手指を使っていろいろな素材の感触を感じる活動を多く経験してほしいと考えた。今回はふわふわ・ざらざら・柔らかい・硬いなどの感触を感じられる素材として、児童が普段触ることの少ない羊毛フェルト・綿花・毛糸・フェルトボール・スポンジなどを用意した。また、より『五感』で感じられるように、ココア・カレーやバニラエッセンスなどの香りを添加した。</p> <p>羊毛フェルトや綿は比較的触り心地がよく、手指で簡単にほぐれやすく、千切りやすい。また、握るとまとまる素材である。これらの点で、触るのが苦手な児童も感触を受け入れやすく、指先の操作を課題とする児童にとっても手指を使うのに適していると考えた。更に羊毛フェルトは石けん水(湯)を加えると感触が変わり、まとまりやすくなる特性をもっている。他にもいろいろな素材の毛糸やスポンジなどにも触れることで、素材の違いや変化を感じ受け入れ積極的に触れたり、表情に表したりできるよう期待している。</p> <p>このように、様々な素材に触る経験をすることで過敏が軽減し、触れる物が増え、手指を使って自分から素材にかかわっていけるようになってほしいと願っている。</p> |  |                   |  |               |              |                   |
| 目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな素材の感触を感じ、表情や身振りなどで表現する。</li> <li>・素材に興味をもち、自ら触ったり、掴んだり、千切ったりする。</li> <li>・材料の感触を味わいながら、教師と一緒にクリスマスリースに飾りをつける。</li> </ul>   |  |                   |  |               |              |                   |
| 評価の基準   |   |  |                   | 支援・手立て   |               |              |                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・素材に触れていることに気付き、目を動かす。</li> <li>・素材に触れて、快・不快の表情を出す。</li> <li>・素材に触れて、手を動かし触ろうとする。</li> <li>・素材の感触の違いを感じて、表情を変える。</li> <li>・素材の感触の違いを感じて、触り方が変わる。</li> </ul>            |   |  |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・触りやすい姿勢を作る。(22)</li> <li>・一緒に手に触れたり、握ったりする。(22)</li> <li>・表情や触っている様子をよく観察する。(19,21)</li> <li>・感触の違う素材を用意し、順に触るようにする。</li> <li>・別の素材に触れたときの表情や触り方を観察する。(21)</li> </ul>                          |               |              |                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・羊毛フェルト等を見て、興味をもつ(追視、注視が出る)。</li> <li>・教師と一緒に触る。</li> <li>・感触を感じ、手を動かす。</li> <li>・積極的に触り、掴んだり、千切ったりする。</li> <li>・自分の手元を見て、しっかり触る。</li> <li>・自分で工夫した触り方ができる。</li> </ul> |   |  |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・掴んだり千切ったりして見本を示す。(14,15,18)</li> <li>・児童が触りやすいように肘、手を介助する。(22)</li> <li>・自らの動きが出るのを待つ。(24,25,26)</li> <li>・触っている物を視線の高さに持っていく。(22)</li> <li>・見えやすい姿勢を作る。(22)</li> </ul>                        |               |              |                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と一緒に触り、感触を感じ、表情に表す。</li> <li>・積極的に触り、握ったり、引っ張ったりする。</li> <li>・教師と一緒に毛糸をリースに巻き付ける。</li> <li>・毛糸を掴んで引っ張ろうとする。</li> <li>・フェルトボールの色を選び、教師と一緒に貼り付ける。</li> </ul>          |   |  |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・見本を示し、イメージをできるようにする。(14,15,18)</li> <li>・見えやすい位置で操作できるようにする。(22)</li> <li>・引っ張る毛糸の先を掴みやすい位置に提示する。(22)</li> <li>・フェルトボールを選びやすいように提示する。(22)</li> <li>・貼る位置を一緒に選び、上から押さえるように貼り付ける。(22)</li> </ul> |               |              |                   |

| 日時                 | 学習活動   | 支援   |
|--------------------|--|--|
| 全3回<br>始めに<br>(毎回) | <p>(毎回2時間枠)</p> <p>○始まりの挨拶をする。</p> <p>○本時の学習内容の説明を聞く。</p> <p>1) ふれあいたいそう「ふわふわ」をする。</p> <p>2) 羊毛フェルト、綿、毛糸で遊ぶ。</p> <p>○ふれあいたいそう「ふあふあ」をする。</p> <p>・曲に合わせて、教師と一緒に手の体操をする。</p> <p>①手をつつむ・あたためる、②手をなぞる、③指をひらく、④指まわし、⑤手をこする・たたく、⑥手首をまわす、⑦手でふれる・かんじる等</p> <p>○羊毛フェルト、綿、毛糸を使って遊ぶ。</p> <p>・実態に応じたグループに分かれる。</p>  | <p>☆児童の様子を観察する。(19)</p> <p>☆羊毛フェルト、綿、毛糸の実物を提示する。(14)</p> <p>☆児童の様子を見ながら、無理なく手の体操を行い、これから手を使うこと意識付ける。(14)</p> <p>☆ふれあいたいそう「ふわふわ」:筑波大学附属桐が丘養護学校教材参考</p> <p>☆課題に合ったグループに分かれる。(4)</p> <p>☆口に入れないように気をつける。</p> <p>☆活動の途中で、全体に様子を伝える。(20)</p>  |
| 第1次<br>第2次         | <p>1)羊毛フェルト、綿、毛糸等を触ってみよう</p> <p>・教師の見本(触る、千切る等)を見る。</p> <p>・羊毛フェルト、綿花、毛糸、スポンジなどを触って、感触の違いを体験する。</p> <p>・羊毛フェルトを触って、教師と一緒にほぐし、手指で触れたり、握ったり、千切ったりする。</p> <p>・羊毛フェルトにつける色、または、香りを選ぶ。</p> <p>・羊毛フェルトに絵の具、香りを入れて、混ぜる。</p> <p>・羊毛フェルトに石けん水を入れて、触る。</p> <p>・羊毛フェルトを水で洗う。</p> <p>・羊毛フェルトを握ってまとめ、ガチャポンのカプセルに入れ、手に持って振ったり、洗面器に入れて転がしたりする。または、タオルで水気を取る。乾かす。</p> <p>・ミニペットボトルにフェルトボールや色のついた羊毛フェルトを入れて飾りを作る。</p> | <p>1)羊毛フェルト、綿、毛糸等を触ってみよう</p> <p>☆教師が見本を示し、興味をもつようにする。(14、15、18)</p> <p>☆触りやすい姿勢を作る。(22)</p> <p>☆視線や表情をよく観察する。(19、21、26)</p> <p>☆触りにくい場合は、一緒に触ったり、握ったりする。(22、23、24)</p> <p>☆自ら触りやすいように肘等を介助する。(22)</p> <p>☆できるだけ自分の動きが出て、触れるように個々の実態に応じて支援する。(5、20、22)</p> <p>☆児童によっては、マジックテープのフック面のついた補助具で羊毛フェルトを引っかけほぐす。(22)</p> <p>☆絵の具を見えやすい位置に示す。バニラ、カレー、ココアの香りを順にかぐ。(8)</p> <p>☆視線や表情を観察し、選ぶ。(19、25、26)</p> <p>☆児童によって、水の量を加減する。(22)</p> <p>☆見えやすい位置で操作できるようにする。(4、24)</p> <p>☆児童の動きに合わせて支援する。(22)</p> <p>☆入れたいフェルトボールや羊毛フェルトを選べるように提示する。視線や表情を観察する。(19、25、26)</p> <p>☆児童が入れやすいように介助する。(22)</p> |
| 第3次                | <p>2)クリスマスリースに飾ろう</p> <p>・教師の見本(触る、千切るなど)を見る。</p>  | <p>2)クリスマスリースに飾ろう</p> <p>☆教師が見本を示し、興味をもつようにする。(14、15、18)</p>   |

|         |   |  |
|---------|---|--|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>羊毛フェルト、綿花、毛糸、スポンジなどを触って、感触の違いを体験する。</li> <li>クリスマスリースの作り方を見る。</li> <li>毛糸の感触を味わいながら、リースの土台に毛糸を巻き付ける。</li> <li>前回作った羊毛フェルトの塊や、綿、フェルトボールなどを教師と一緒にリースにつける。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>☆触りやすい姿勢を作る。(22)</li> <li>☆視線や表情をよく観察する。(19、21、26)</li> <li>☆触りやすいように肘等を介助する。(22)</li> <li>☆教師が作り方の見本を示す。(14、15、18)</li> <li>☆できるだけ自分の動きが出て、触れるように個々の実態に応じて支援する。(20、22、24)</li> <li>☆見えやすい位置で操作できるようにする。(4、24)</li> <li>☆児童の動きに合わせて支援する。(22)</li> </ul> |
| 終わり(毎回) | <ul style="list-style-type: none"> <li>○手をきれいにする。</li> <li>○今日の取組、頑張ったことを発表する。</li> <li>○終わりの挨拶をする。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>☆すぐに手をきれいにできるよう、ぬれタオル、桶などを用意しておく。</li> <li>☆できた作品を紹介する。(17、28)</li> </ul>   |

|     |           |   |
|-----|-----------|---|
| 妥当性 | 単元目標      | 高すぎた・ <u>適当だった</u> ・低すぎた  |
|     | 単元・題材(教材) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態から見て、<u>適当だった</u>。</li> <li>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単</li> <li>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・適していなかった</li> <li>・ふれあいあいそう「ふわふわ」は、手を使う準備体操に適している。</li> <li>・新しい取組だったが、興味・関心をもって取り組むことができた。</li> </ul>  |
|     | 学習活動      | <ul style="list-style-type: none"> <li>(児童生徒にとって) 難しい・<u>適当</u>・簡単</li> <li>(目標を達成するのに) <u>適していた</u>・適していなかった</li> <li>・児童の配置に配慮し、グループ分けをして取り組んだため、しっかりと素材にかかわる時間がもてた。待ち時間を少なくできた。</li> <li>・千切る活動では、裂けていく感触を感じたり、その様子に注目したりできた。</li> <li>・羊毛フェルトに石けん水(湯)を加えたときの感触に変化を感じ、表情に表したり、触り方に変化が見られたりした。</li> <li>・複数の素材を用意したので、感触の違いを感じて次々と触ったり、触るのが苦手な児童も好みの素材を見つけたりすることができた。</li> <li>・少量ではあったが、栽培した綿花に触れることができ、手芸用の化繊の綿との違いを感じることができた。</li> <li>・素材に香りをつけることでより興味を引くことができ、積極的に触ることができた。</li> <li>・羊毛フェルトを千切る時、できるだけ自分の力でできるようにと、マジックテープのフック面で引っかけられる補助具を用意していたが、実際にはあまり活用できず、教師と一緒に握ってほぐしたり、千切ったりした。教師と一緒に直接触る方が感触をしっかりと感じることもできた。</li> </ul> |
| 評価  | 目標達成度     | A達成した・ <u>Bほとんど達成した</u> ・Cあまり達成できていない・D全く達成できていない   |
|     | 理由        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・見本を示すことで活動に期待をもち、真似るような動きが出たり、自分で触り方を工夫したりする様子も見られた。感触遊びが苦手な児童についても、興味を引き出すことができた。一緒に触っているうちに、自ら触ることができるようになってきた。</li> <li>・様々な感触遊びを繰り返し経験しているので、新しい素材に対しても自らかかわっていける児童が増えてきた。</li> <li>・口へ持って行く児童については、手で遮るなど配慮をしながら取り組むことで、口へ持って行くことが減り、しっかりと手で触り、感触を味わえた。</li> <li>・1回の授業に取り組む内容が多く、児童のペースに合わせてじっくり取り組んだので授業の終わりが遅くなった。(10)</li> </ul>   |
|     | 改善策       | ・活動内容を精選し、時間配分を考える。(10)   |

# 寄宿舎の生活教育について

## ～生活をとおして自立を考える～

### 1. はじめに

寄宿舎は、寝泊りを含む生活の場である。その中での生活とは、合宿やキャンプのように楽しい事が次々に用意された非日常ではなく、食事や睡眠を軸として日々淡々と繰り返される日常の生活である。

寄宿舎での生活をより楽しく充実したものにするためには「自分で考えて行動する力」が求められる。これまで家庭の中で、「してもらおう」が当然のような受身的な生活をしてきた生徒たちにとって、それはとても難しい課題となる。しかし、寄宿舎には相談できる指導員や友だちがいる。考える時間もたくさんある。自分の生活をつくり出す力を身につけることは、自分が生活の主体者になることでもあり、そして、それは自立への大切な第一歩となる。

以下に、寄宿舎を「社会参加と自立を支援する」ための場として位置づけることの大切さを報告する。

### 2. 入舎理由から見る子どもの様子

寄宿舎への入舎理由を見ると、第一には「自立のため」となっており、次に「社会性の獲得」となっている。

また、自立のための理由の中には「親離れ、子離れが難しい」と感じている保護者も多く、寄宿舎に入ることにより、身辺自立の側面だけでなく、精神的な自立の獲得を願うという声も多い。

また、家庭を取り巻く状況が入舎の希望につながっている場合もある。

### 3. 自立について（寄宿舎の生活教育として）

主体性や自己の確立という点で弱さのある青年期の生徒にとって、親元から離れて、寄宿舎の規則正しい生活、同年代の友だちや異年齢集団や指導員との関わりの中での、主体的な生活経験は、子ども達にとって大きな意味をもつ。

寄宿舎教育のひとつの目標でもある「自立」について以下に述べる。

自立に関する3つの要素（自立は以下の3つの要素で構成されるものと考えられる。）

#### ・身辺自立

寄宿舎の日課に沿った規則正しい生活を送ることで、「食事」「睡眠」「排泄」などの健康の保持に関する生活のリズムや生活習慣を身につけることができる。

また、「衣服の着脱」「清潔な保持」などの日常生活に必要な基本的な生活習慣の確立が期待できる。

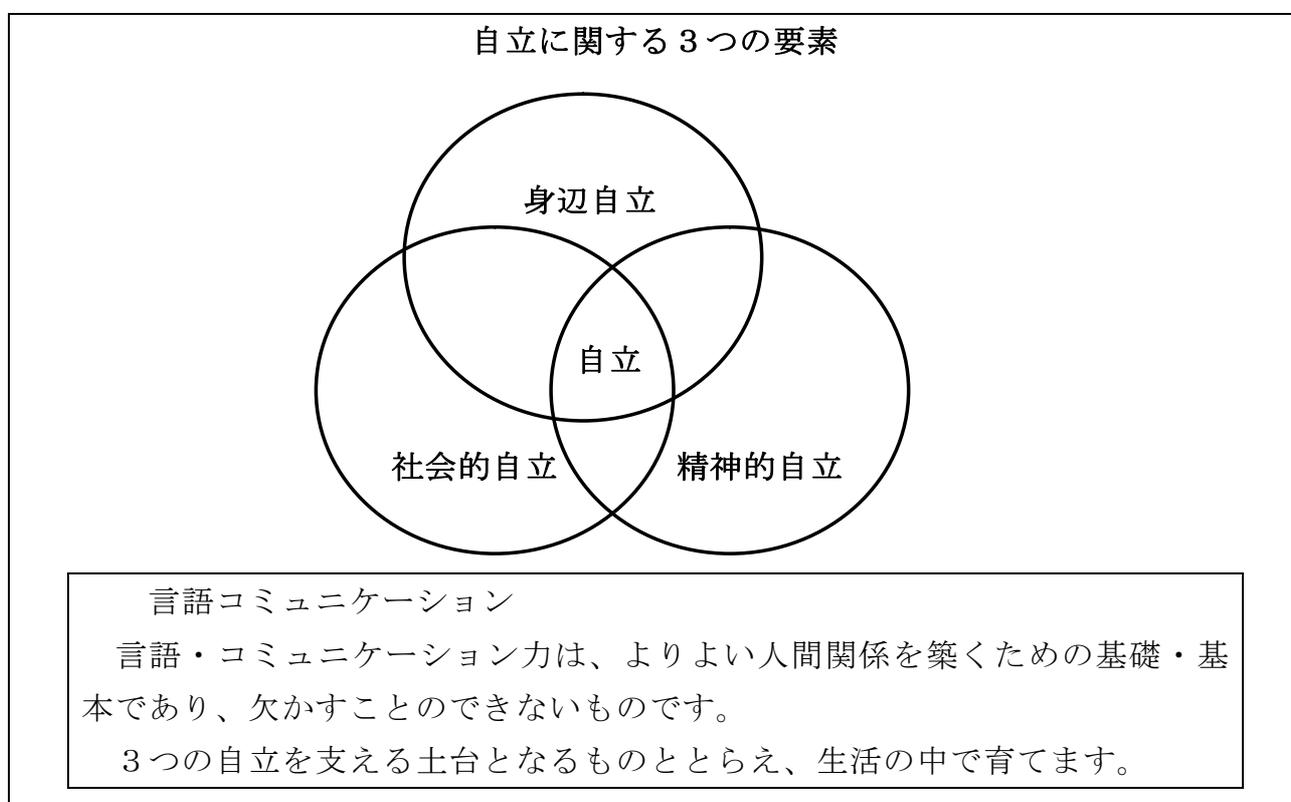
#### ・社会的自立

集団生活を通して仲間と一緒に規則正しい生活を送ることにより、社会性を身につけるための基礎的な力、例えば、整理整頓、掃除、時間管理、ルールとマナーなどを身に付けることができる。

#### ・精神的自立

豊かな人間関係の中で、生活の質を高め、興味・関心を広げ、やってみたいことを選ぶ（自己選択）、自分で決めること（自己決定）ができる力を育てることができる。

自己選択、自己決定をくり返すことで「充実感、満足感、成就感」が得られ、生きる意欲、働く意欲につながるものと考えられる。



## 4. 実践報告

### N君の実践

(1) 障害名：広汎性発達障害

(2) 保護者の願い

- ・ 普段の生活の中で自立できるようになって欲しい。
- ・ 家族以外の人との関わりが持てるようになって欲しい。
- ・ 集団生活の中で規則正しいマナーを身につけて欲しい。

### (3) 寄宿舎生活での目標の設定

中学校当時不登校になり、地域の障害児学級に入級し、紀北支援学校高等部に入学してきた。また、入学前は、友だちとの会話や積極的な交流もなかった。入舎当時は指導員に関わりをもってほしくて、物を隠したりする幼い面が見られた。

また、ほかの舎生とコミュニケーションが取れず、誰に対しても「相談」を持ち掛け、家庭から離れて生活する「寂しさ」を紛らわせていた。何をするのにも自信がなく、情緒不安定になることもあり、指導員に寄り添ってほしいと願う場面が多かった。

寄宿舎では、自分に自信や誇りが持てないN君の目標を、「周りの様子を見て行動する力をつける」「自分で出来る事を増やす」として、あらためて「自分作りの時期」として指導していくこととした。

### (4) 寄宿舎生活する上で支援してきたこと

寄宿舎での生活は「食べる、寝る、友達と過ごす」を基本として、他の人と良好で安心できる関係を育てていくことにある。その中で、N君の主張を受け止めて、N君自身が、自らの生活をつくり出せることを大切にして支援を行うこととした。

これまでは、「悩みの相談」という形での指導員との関わりが多かったが、会話をする際には「テーマ」（彼の好きな趣味の話「サイクリング」「旅行」の話が中心）を決めて自分が話したいことを整理して、相手に伝えることができるよう指導してきた。そのことで、場や相手の状況に応じて主体的なコミュニケーションが可能になると考えた。

また、一人で過ごすことが苦手なN君に寄宿舎でリラックスする時間を作るために、ウォークマンで音楽を聴いたり、本を読んだりして過ごすことを勧め、他の人と一緒に生活していく上で、自分がやりたいこと同様に相手もやりたいことがあり、それをお互い尊重しあうことが重要であることの理解を促した。

### (5) まとめ

上記のような取組により、少しずつであるが、他舎生との会話も楽しめるようになり、音楽を聞いて楽しむ時間もつくるできるようになってきた。

また、舎室の掃除、舎生との自由遊び、まわりの様子を見て日課に沿って生活することができるようになってきた。

安心して自分が出せる、受けて止めてくれる生活の中で、人への信頼、人とのやりとりから自身を深め、「自立への備え」をつくる機会となっている。

今後、さらに友だち関係を広め、寄宿舎生活を豊かに送れる様に支援していきたい。

## 5. まとめ

寄宿舎は保護者から離れて自分で生活するところである。これまで「自立を意識する場」としての寄宿舎の役割について述べてきた。

現在、22名の舎生が在舎しているが、障害の多様化に伴い、集団としての取組の難しさが浮

き彫りになっている。このため、様々な面で工夫し、自立に向けての必要な力を身に付けるために次のような取組を進めている。

まず、舎生の実態を正確に把握し、指導員が共通認識を持って、一貫した指導を行なうために自立実態調査表（資料1）を作成した。調査票を活用し、指導に生かすことで「睡眠」「排泄」「食事」など生活リズムや「衣服の着脱」「清潔の保持」などの基本的な生活習慣の獲得が少しずつできるようになることが期待できる。

また、生活の流れをつかむために、各所に日課表を掲示し（資料2）、次の行動がわかりやすいようにしている。それでもわかりにくい舎生には、個人用のホワイトボードに、より細かな日課を書き出し、一つひとつ説明をしている。

その他に、集団生活に必要なマナーを身につけるために、トイレのスリッパを整頓する方法や（資料3）、手の洗い方をイラスト化（資料4）して掲示している。

自由時間のパソコンの利用方法や使用する順番、使用時間をわかりやすくするためのホワイトボードやタイマーを活用し（資料5）、決まりやルールを守ることの大切さを育てている。利用時間をこれまでよりも長くすることで、日課による不公平が生じないようにもしている。

さらに、自分でできることを増やすために、一人ひとりにかごを用意し入浴準備や衣服を整理できるようにしている。（資料6）

このような生活の中で、一人ひとりの進捗スピードは違えども、舎生は少しずつ成長の歩みをすすめている。行きつ戻りつを繰り返しながら、着実に自立に向かっていていると考える。

保護者からは子どもが寄宿舍に入って「表情にはりが出てきた」「何となくしっかりしてきた」という声を聞く。また、家に帰って来たときも「ご飯を食べてからお風呂に入る」など、自発的に予定を立て、ほとんど母親任せだった「衣類をたたむ」「お手伝いをする」をするようになったとも聞くようになった。

今後、ますます障害の多様化が予想されるが、一人ひとりにあった生活教育を考え、実践することにより子どもたちの自立を促していきたいと考える。

併せて、保護者や全ての教職員とより一層連携し、「寄宿舍のある学校の魅力」を発信していきたい。

資料

にっかひょう

|              |  |
|--------------|--|
| きしょう         |  |
| はいぜん         |  |
| ちょうしょく       |  |
| とうこう じゅんぴ    |  |
| とうこう         |  |
| すいようび げこう    |  |
| げつ、もくようび げこう |  |
| かようび げこう     |  |
| ↓            |  |
| にゅうよく        |  |
| じゅうじかん       |  |
| はいぜん         |  |
| ゆうしょく        |  |
| ごちそうさま       |  |
| にゅうよく、じゅうじかん |  |
| おやつ          |  |
| しゅうしんじゅんぴ    |  |
| しょうとう        |  |

日課表

|       |                         |
|-------|-------------------------|
| 7:15  | 起床                      |
| 7:50  | 配膳                      |
| 8:00  | 朝食                      |
| 8:30  | 登校準備                    |
| 8:50  | 登校                      |
| 14:10 | (水)下校                   |
| 15:00 | (月)(木)下校                |
| 15:40 | (火)下校                   |
| ↓     | 入浴、自由時間<br>(個々に応じて掃除時間) |
| 16:50 | 配膳                      |
| 17:00 | 夕食                      |
| 17:40 | 夕食ごちそうさま                |
| 17:45 | 入浴、自由時間                 |
| 20:00 | おやつ                     |
| 21:00 | 就寝準備                    |
| 22:00 | 消灯                      |

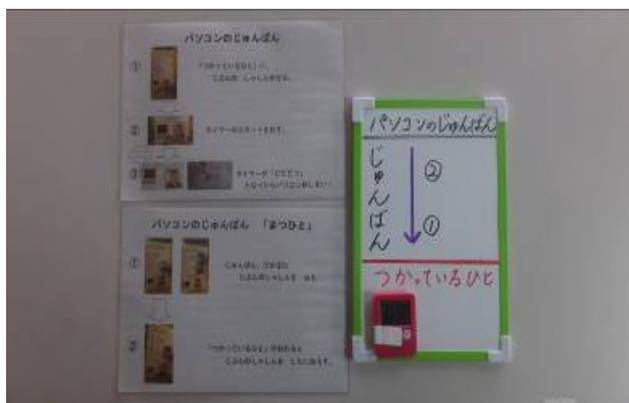
資料 2



資料 3



資料 4



資料 5



資料 6

# 紀北支援学校寄宿舎 生活自立実態調査表（資料1）

年 舎生氏名 ( )

記入者氏名 ( ) 平成27年度 月作成

|                             |        |
|-----------------------------|--------|
| 自立:5                        | 部分支援:2 |
| 判断基準 要確認:4(自分でおこなうがその後確認必要) | 全面支援:1 |
| 要言葉かけ:3(行動を起こす前に言葉かけが必要)    |        |

| 項目     | チェック項目       | 実態 | 備考 |
|--------|--------------|----|----|
| 睡眠     | 寝付き          |    |    |
|        | 目覚め          |    |    |
| 排泄     | 夜尿           |    |    |
|        | 排尿           |    |    |
|        | 排便           |    |    |
|        | 拭き取り         |    |    |
|        | 生理の手当        |    |    |
| 食事     | 食べ方          |    |    |
|        | 食器の片付け       |    |    |
|        | 偏食           |    |    |
| 入浴     | 身体洗い         |    |    |
|        | 洗髪           |    |    |
|        | 自分の入浴準備      |    |    |
| 身なり    | 前後・表裏の確認     |    |    |
|        | ボタンかけ        |    |    |
|        | 服装の整え        |    |    |
|        | 靴の履きかた       |    |    |
| 持ち物の管理 | 自他の区別        |    |    |
|        | 衣類を脱いだ後始末    |    |    |
|        | 整理整頓         |    |    |
|        | 履き物揃え        |    |    |
| 安全     | 急な飛び出し       |    |    |
|        | パニック         |    |    |
|        | 自傷           |    |    |
|        | 他傷           |    |    |
| 意思伝達   | 言語           |    |    |
|        | 理解           |    |    |
|        | 自分の意思伝達      |    |    |
| 生活     | 時計が読めるか      |    |    |
|        | 日課が把握出来ているか  |    |    |
|        | 日課通り生活出来ているか |    |    |

## おわりに

本校の学校教育方針に「子どもを中心とした教育を創造する」という一節があります。ここ数年取り組んでいる研究は、正にこれを達成すべく取り組んでいるのだという思いを持っています。「自立活動の時間における指導」の研究では「子どもの実態把握をすること」からスタートしました。子どもの「今」をしっかりと見つめ、客観性をもってできること、できそうなこと、課題等を見極める。そして実生活や将来像を思い描きながら目標を立て、実践につなげました。本年の研究では、「人権」というキーワードから「子ども一人一人を大切にすることの重要性を確認しました。そして、それが授業で生きてくるのだということに気付きました。寄宿舎でも、一人一人の実態から自立に向けての取組を続けています。

スーパーバイザーとして、本校の研究に関わってくださる武田鉄郎先生からは、「子ども達が自ら学び始めようとする手伝いをするのが教師の仕事である」と教えていただきました。教育の主体は、教師でもなく、教授法でもなく、子どもであるということです。私たちは、より良い教育をするために、子どもをみることが大切なのです。

紀北支援学校では、「子どもを中心とした教育を創造する」ことを目指して、今後も「子ども」から始まる授業づくりや実践の研究に取り組んでいきたいと思えます。